

最上紅花史料
II

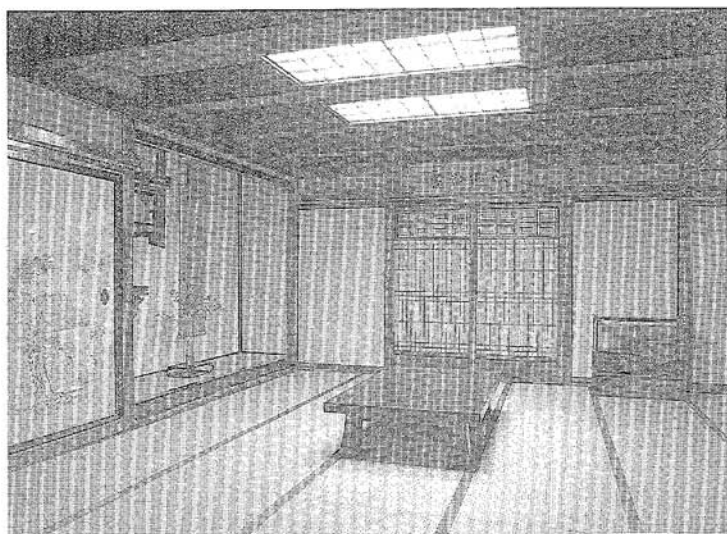
山形大学附属図書館
(中央図書館)



1195003335



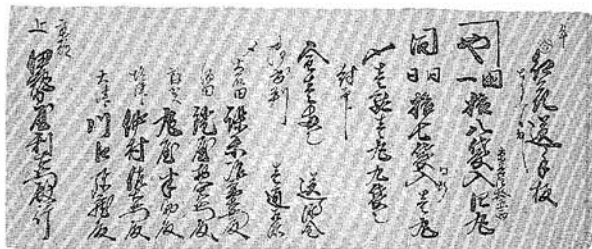
紅花資料館（旧堀米四郎兵衛家）



藏座敷（同上の内部）



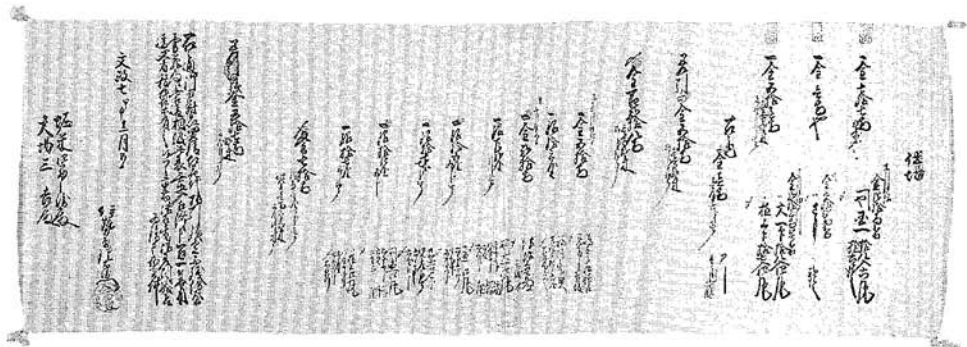
萬指引帳表紙
(堀米家文書 16)



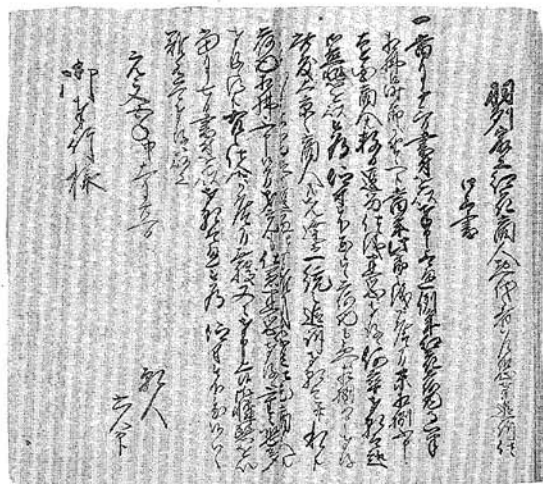
紅花送手板 (同左の内容・堀米家文書 16)



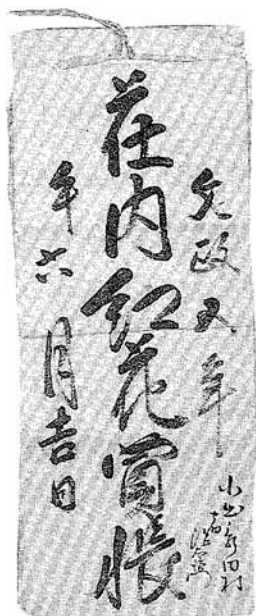
書簡 (堀米家文書 93)



紅花仕切 (堀米家文書 47)



紅花願扣書表紙(左)とその内容(上)
(楨家文書 2)



庄内紅花買帳表紙(右)
とその内容(上)
(宇野家文書 11)

序

河北町長 矢作武雄

河北町では、昭和三十七年、他に先んじて『河北町の歴史・上巻』を発刊したのち、町誌編纂委員会のお力により、あいついで中・下巻を刊行し、年表の発行をもつて、町史四部作が見事に完結しました。この著作は各界より高い評価を得て再版されていることは、まことに喜ばしく町民あげて大きな拍手を送るものであります。平成にはいるや、河北町誌編纂史料として『大町念仏講帳』『最上紅花史料Ⅰ』を発刊し、このたび引き続き『最上紅花史料Ⅱ』が発行されましたことは、まことに喜びにたえません。

河北地区は最上紅花の産地として全国的に有名であり、干花は舟運によつて京坂地方に直送され、上方との交易はこの地方の文化の向上発展に貢献してきたのでした。河北町が伝統と文化を重視した特色ある町おこしの先導的自治体に指定されたのは、先人のためまざる努力の賜であつたのです。本町は今、「べに花の里」として紅花を中心にして全国各地域間の交流を進めております。徳島県の藍住町や埼玉県の桶川市、宮城県の村田町との交流などがそのあらわれです。

このねらいを達成するためには、何といつても紅花についての先覚的研究が必要です。ここに、町内に所蔵されている紅花関係史料をまとめ、『最上紅花史料Ⅱ』として発刊できたことは、町の発展のためにきわめて貴重な業績であります。この史料集が町内のみならず、全国の紅花研究に活用され、さらにこれを通して地域間の交流がはかられるよう祈つてやみません。

最後に、日夜をわかたず古文書の解説にあたられた榎委員長はじめ委員各位に対し、心から感謝申し上げますとともに、秘蔵の文書を文化向上のために提供してくださった方々に厚く御礼申し上げます。私たちはこの史料集を町の誇りとして、さらに町の発展に力を尽くすことを約束して、発刊のごあいさつといたします。

発刊にあたって

河北町誌編纂委員長

榎

清哉

本県の内陸地方は近世初期から特産の紅花を生産してきました。この地方から出る紅花は「最上紅花」と呼ばれ、その生産量は一口に「最上千駄」（一駄は千紅花三三貫目）といわれ、そのうち約三〇パーセント位は河北地区から生産されました。河北地区ではその干花を上方に送り、その売上代金で古着・茶・その他生活必需品を購入し、高い文化水準を維持してきました。

河北町は昭和五十五年「紅花」を町の花と定め、平成二年十月自治省からリーディング・プロジェクト地区の一つに指定され、伝統文化を重んじ、特色ある町づくりの先導的自治体として、「べに花の里づくり」をテーマにして町づくり事業に取り組んで来ました。河北町にとっては「紅花の研究」は重要な課題であり、平成五年二月に、今田信一前町誌編纂委員長から、河北町に寄贈された「藻鯨亭（前委員長の書齋名）文庫」の中にある紅花関係の全史料を印刷して、「最上紅花史料Ⅰ」として発刊いたしました。

今回、第一集に引続いて町内に所蔵されているそれ以外の紅花関係史料を取りまとめ、「最上紅花史料Ⅱ」として発刊することにいたしました。この度掲載したのは町内の堀米四郎兵衛家・今田修家・榎真司家・宇野常義家・逸見彦次家・逸見良一家のものです。次に所蔵者について簡単に説明してみます。

堀米四郎兵衛家は河北町沢畑の豪農で九代当主康太郎は大正後期に東京に移り、その屋敷・邸宅・文書・家財等一切が河北町に寄贈され、その邸宅は昭和五十九年から「紅花資料館」として一般に公開されています。堀米家では近世末期には松橋村（幕領）の名主を勤めながら紅花を出荷しており、本誌に掲載した関係資料は一八八点に及んでいます。そのうち「萬指引帳」には文政五年（一八二二）から嘉永元年（一八四八）までのうち、一〇年間の「紅花送手板」六八件がのつており、最もまとまった史料です。

今田修家は河北町田井にあり、代々「弥兵衛」を名のり、近世を通じ田井村の名主を勤めてきた旧家です。所蔵文書は五、三〇〇点以上にのぼり、その中には明和・安永・天明期（二七六四〜一七八八）に、京都の商人と紅花・米・大小豆等の取引きをした商業関係文書が残っており、本誌にはそのうち一二五点を掲載しました。田井村は最上川沿いにあることもあり、資金を紅花の取引きに投資したものとされます。

榎真司家は河北町谷地新町にあり、代々「久右衛門」を名のり、旧新町村の文書を所蔵しています。谷地の紅花商人榎藤左衛門家（和泉屋を名のる）と縁戚関係にあり、「和泉屋」と書いた帳簿もあります。掲載した点数は少ないが、そのうち貴重なものは「元文五年 紅花願控書」です。その内容は「山形県史資料篇一八」にも掲載されていますが、谷地・寒河江の紅花商人が京都の稻荷講（紅花問屋・紅染屋十四軒の同業組合）の不正を京都二条役所に訴える迄の経緯や、その後の経過を詳細に記録したものです。最上紅花の生産・販売関係を考えるうえで貴重な資料です。

宇野常義家は河北町沢畑にあり、代々「与蔵」を名のり、谷地の紅花商人榎藤左衛門の手代を勤め、近世末期には藤左衛門に代り、実質的にその商取引に当たってきた旧家です。そのような関係から藤左衛門との差引勘定書などがあります。この地方の紅花商人は、紅花以外に米・青芋・大豆・小豆等も取扱ったので、その経営形態を見るために、

紅花に関する内容だけでなく、冊子全体を掲載したものもあります。中にはふすまの下張りをはがしたものであるもので、前後の欠けたものや、欠字の多い史料も含まれています。

逸見彦次家は河北町白山堂にあり、逸見庄左衛門家の古い分家で代々「庄蔵」を名のり、組頭を勤めるかたわら油のほか生活必需品の商取引も行っていました。先代は俳人逸見竹石（本名武）で、河北町誌編纂委員を勤め、その間古い史料の収集に当たってきました。本誌に掲載したのはそのうち紅花に関係するものだけであり、そのうち一・二は部厚な横帳から、必要な部分を抜き書きしたもの、三の和田兵左衛門家の書簡は額の裏張りをはがしたもので、一部不明な部分があります。

逸見良一家は河北町中島にあり、代々「伊左衛門」を名のり、西里村中島組名主を勤めてきた家柄で、京都へ紅花を出荷してきた旧家です。掲載した史料はふすまの裏張りをはがしたもので、現物は河北町立中央図書館に保管されています。

河北町誌編纂委員会としては紅花関係史料を収集し、最上紅花の研究をとおして他地域との交流をはかりたいと考え、取りあえず地元に残存されている史料をまとめたいと思います、この度第一集に続いて第二集を発刊いたしました。このあと引き続き第三集・第四集を発行する計画で、これまでの史料集をご利用いただくとともに、今後の史料収集にご協力くださるようお願い申し上げます。

凡 例

一、本書には河北町内の堀米四郎兵衛・今田修・榎真司・宇野常義・逸見彦次・逸見良一の各家の紅花関係史料三三九点を収録した。

一、これらの史料は現在、堀米・逸見(良)両家のものは河北町立中央図書館が、その外のものには各家が所蔵しており、それぞれ『山形県史料所在目録』第一〜六集の形で、目録が発刊されている。

したがって、史料の配列はこれらの目録に拠り、家毎に、編年体を原則とした。

なお、目録と本書の標題を可能な限り一致させようとしたが、必ずしもそうならないものもあった。

一、史料の収録にあたっては、できるだけ原文の形にしようとしてあるが、読者の便宜を考え次の諸点に留意した。

- (一) 漢字の字体は当用漢字を原則としたが、メ(貫)など異体字の中にはそのまま用いたものもある。
- (二) 変体かなはそのまま用いた。
- (三) 平出・闕字並びに本文途中の割印・認印などは省略した。
- (四) 破損・摩耗・虫食いなどにより判読不能な箇所は、□・□・□・□などで示し、(虫)などと注記した。
- (五) 表紙・封書・貼紙・朱書などは「」によつて示し、それぞれ()に注記した。
- (六) 文意の通じない箇所や宛字には(ママ)、疑問の箇所には(カ)と注記した。
- (七) 史料の形態は特に示さなかったが、冊子については(横帳)などと標題の下に注記した。

目次

堀米四郎兵衛家文書

一 金銀差引目録 (文化元年)	三	一二 書簡 (紅花景況・相場他) (文政五年)	二〇
二 紅花仕切 (文化元年)	四	一三一 書簡 (為替手形差下し) (文政五年)	二三
三 塗物荷物請取覚 (文化十年)	四	一三二 書簡 (仕切書) (文政五年)	二三
四 萬手控帳 (横帳) (文化十二年)	五	一四 繰綿運賃 (文政六年)	二三
五 (紅花代金貸付に付) 一札之事 (文化十二年)	一二	一五一 書簡 (紅花景況・相場) (文政六年)	二五
六 (紅花代金滯出入に付) 願上書 (文政二年)	一二	一五二 書簡 (追伸・紅花出荷他) (文政六年)	二六
七一 書簡 (渡金の催促) (文政五年)	一四	一五三 相場書 (文政六年)	二七
七二 書簡 (追伸) (文政五年)	一四	一五四 相場書 (文政六年)	二八
七三 覚 (取扱金預りに付) (文政五年)	一四	一六 万指引帳 (横帳) (文政五年)	二九
八 書簡 (入舟案内他) (文政五年)	一五	一七 紅花仕切 (文政五年)	九四
九 書簡 (渡金滯に付) (文政五年)	一五	一八 書簡 (為替金に付) (文政五年)	九五
一〇 書簡 (紅花仕切殘金) (文政五年)	一六	一九 覚 (請取証)	九七
一一 書簡 (荷物積送他) (文政五年)	一七	二〇 覚 (手拭積下し) (文政五年)	九七
	一八	二一 覚 (天草積下し) (文政五年)	九八
	一九	二二 紅花仕切 (文政五年)	九八

- 五二 覚（紅花仕切）（文政八年） 一四二 六五 紅花引当金借用証文（文政十三年） 二二四
- 五三 差出申引實金日延願證文之事（文政八年） 一四二 六六一 書簡（紅花作付状況に付） 二二五
- 五四 指入申一札之事（代金用捨に付） 一四三 六六一二 書簡（為替金不渡り他に付） 二二六
- 五五 大幅帳抄（横帳）（文政十年） 一四四 六六一三 相庭書 二二七
- 五六 覚（紅花仕切） 一五九 六七 書簡（紅花代金にて古手買入に付） 二二八
- 五七 万書出覚帳（横帳）（文政十一年） 一六〇 六八 書簡（紅花仕切金利息に付） 二二九
- 五八 書簡（紅花代金為替手形下しに付） 二〇三 六九 書簡（紅花気配並びに仕切書に付） 二二九
- （文政十四年） 七〇 覚（請取書） 二二〇
- 五九 書簡（京都より手形入に付）（文政十四年） 二〇四 七一 覚（紅花荷物蔵入書） 二二一
- 六〇 書簡（注文品船積他に付）（文政十四年） 二〇五 七二 覚（紅花荷物蔵入書） 二二一
- 六一 一 書簡（紅花代金勘定に付）（文政八年） 二〇七 七三 書簡（代金支払延引取調べに付）（文政九年） 二二三
- 六一 二 御心得書 二〇九 七四 一 覚（紅花代金勘定に付）（文政八年） 二二三
- 六一 三 書簡（紅花仕切残金に付） 二〇九 七四 二 書簡（紅花代金勘定に付） 二三五
- 六二 書簡（酒田湊入津通知並びに相場書） 二二〇 七五 書簡（沢雨紅花又為替取組みに付） 二三六
- 六三 一 書簡（紅花代残金渡しに付） 二二一 七六 書簡（紅花絵符・送手板に付） 二三七
- 六三 二 書簡（紅花代残金渡しに付） 二二二 七七 書簡（上京御尋に付） 二二八
- 六三 三 書簡（追伸） 二二三 七八 書簡（為替金持參に付） 二二九
- 六四 書簡（紅花値段下落に付） 二二三 七九 書簡（紅花仕切差引書に付） 二三〇

八〇 諸品控帳 (横帳)	二三一	九二 紅花仕切書	二四八
八一 書簡 (紅花荷物大石田蔵入に付)	二三七	九三 書簡 (紅花相場に付)	二四九
八二 紅花送り状	二三八		
八三 覚 (蠟請取書)	二三八		
八四 青芋四駄請取手形	二三九		
八五 覚 (着物地等仕切)	二三九		
八六一 覚 (諸品勘定)	二四一	一 紅花仕切 (宝曆六年)	二五三
八六二 覚 (売上代金受取)	二四一	二一 紅花惣仕切目録 (明和二年)	二五三
八六三 覚 (仕立賃金請取)	二四二	二二 紅花仕切 (明和二年)	二五六
八六四 覚 (差引勘定)	二四二	三 (京都紅花問屋に付) 一札 (明和二年)	二五七
八六五 覚 (代金受取、入帳依頼)	二四三	四 覚 (令印紅花運賃指し勘定) (明和二年)	二六〇
八六六 覚 (賄代調書)	二四三	五 紅花惣仕切目録 (明和四年)	二六一
八七 書簡 (差引勘定に付)	二四四	六 紅花仕切 (明和四年)	二六一
八八 紅花仕切	二四四	七 紅花惣仕切目録 (明和四年)	二六三
八九一 覚 (諸品勘定)	二四五	八 紅花惣仕切目録 (明和四年)	二六三
八九二 覚 (戌亥年分勘定相済)	二四六	九 (紅花売代金に付) 返答書 (明和四年)	二六四
九〇 書簡 (注文品代金・紅花値段に付)	二四六	一〇 一 (惣七紅花売付け一件に付) 願上書	
九一 書簡 (年賀・紅花相場に付)	二四七	(明和五年)	二六七

今田修家文書

一〇一二	(惣七紅花売付け一件に付)	訴訟書	二八三
	(明和五年)		
一〇一三	(惣七紅花売付け一件に付き)	願上書	二八四
	(明和五年)		
一一	覚(紅花売口銭等勘定申立)	(明和五年)	二八五
一二	紅花仕切	(明和八年)	二八六
一三	(紅花代金横取に付)	願上書(明和五年)	二八七
一四	(紅花代金横取二付)	一札之事	二八八
	(明和五年)		
一五	紅花代金指引帳(横帳)	(明和五年)	二八九
一六	(惣七紅花代金横取に付)	内濟証文	二九〇
	(明和五年)		
一七	(惣七紅花代金横取に付)	内濟証文	二九一
	(明和五年)		
一八	書簡(受取証文返却に付)	(明和五年)	二九二
一九	書簡(受取証文返却に付)	(明和五年)	二九三
二〇	(惣七紅花代金横取に付)	濟口証文	二九四
	(明和五年)		
二二	紅花代金差引覚	(明和六年)	二九七
二二	(紅花仕入代金年賦)	一札(明和七年)	二九八
二三	紅花代金御取替目録覚	(明和八年)	二九九
二四	紅花仕切	(明和八年)	三〇〇
二五	覚(紅花仕切)	(明和九年)	三〇一
二六	紅花仕切	(安永二年)	三〇二
二七	覚(紅花仕切)	(安永五年)	三〇三
二八	覚(紅花代金請取)	(安永八年)	三〇四
二九	令諸色御買物目録(横帳)	(安永九年)	三〇五
三〇	令諸色売目録	(天明元年)	三〇六
三一	令印紅花差引覚	(天明四年)	三〇七
三二	巳紅花仕入覚帳(横帳)	(天明五年)	三〇八
三三	令諸色売目録(横帳)	(天明八年)	三〇九
三四	紅花代金差引目録	(寛政元年)	三一〇
三五	干紅花仕入覚帳(横帳)	(寛政元年)	三一五
三六	(紅花代金差引)	目録覚(寛政元年)	三一六
三七	紅花仕切	(寛政元年)	三一七
三八	紅花代金差引之覚	(寛政元年)	三一八

三九	御壳仕切事 (寛政元年)	三二八	五七	覚 (干花代金請取)	三七〇
四〇	紅花仕切 (寛政二年)	三二九	五八	覚 (紅花代金受取)	三七〇
四一	生花仕入帳 (横帳) (文化十二年)	三三〇	五九	覚 (紅花手打金受取)	三七一
四二	(紅花荷通判に付) 願書 (慶応元年)	三五八	六〇	覚 (干花代金請取)	三七一
四三	当寅生花帳 (横帳) (慶応二年)	三五九	六一	覚 (令印紅花大石田蔵入)	三七一
四四	覚 (紅花仕入金請取)	三六二	六二	覚 (紅花袋入請取)	三七二
四五	覚 (令印紅花大石田蔵入)	三六三	六三	覚 (紅花荷繼立)	三七二
四六	覚 (紅花代金請取)	三六三	六四	覚 (紅花荷物大石田蔵入)	三七三
四七	覚 (紅花代金請取)	三六三	六五	覚 (紅花代金差引)	三七三
四八	覚 (紅花代金請取)	三六四	六六	令印紅花代金差引覚	三七四
四九	覚 (紅花晒蠟取立錢請取)	三六四	六七	生花代金指引覚	三七六
五〇	覚 (令印紅花大石田蔵入)	三六五	六八	書簡 (紅花作況等に付)	三七七
五一	金錢指引勘定	三六五	六九	書簡 (紅花買入代金前払に付)	三七九
五二	覚 (紅花仕入代金請取)	三六六	七〇	書簡 (紅花荷物と手板表の相違に付)	三八〇
五三	覚 (紅花送手板)	三六六	七一	覚 (令印御取替の目録)	三八一
五四	覚 (令印紅花大石田蔵入)	三六八	七二	覚 (令印紅花大石田蔵入)	三八三
五五	覚 (紅花代金差引勘定)	三六八	七三	覚 (中野惣七様へ御取替目録)	三八三
五六	覚 (令印紅花大石田蔵入)	三七〇	七四	覚 (令印紅花大石田蔵入)	三八六

- 七五 覚(大石田より為登荷) 三八六 八七 書簡(紅花荷物大石田蔵入) 四〇〇
 七六 覚(令印紅花大石田蔵入) 三八七 八八 覚(令印紅花酒田船積通知) 四〇〇
 七七 書簡(惣七紅花代金滞の書付相渡に付) 三八七 八九 書簡(紅花代金出入に付) 四〇一
 七八 紅花代金差引勘定覚 三八八 九〇 書簡(紅花代金出入に付) 四〇二
 七九 一 書簡(年賀) 三八九 九〇 一 書簡(紅花代金出入に付) 四〇三
 七九 二 書簡(紅花三駄通判願) 三九〇 九一 覚(令印紅花大石田蔵入) 四〇五
 八〇 書簡(年賀、紅花景況) 三九〇 九二 覚(干紅花代金請取) 四〇五
 八一 書簡(紅花勘定仕切違い) 三九二 九三 書簡(令印紅花酒田船積通知) 四〇五
 八二 一 書簡(紅花相場等) 三九三 九四 覚(紅花代金請取) 四〇六
 八二 二 書簡(紅花買入に付) 三九三 九五 一 書簡(紅花売買に付) 四〇七
 八二 三 書簡(紅花売買に付) 三九四 九六 覚(紅花代金不払いに付) 四〇七
 八三 一 書簡(紅花不景気に付) 三九四 九六 覚(紅花代金請取) 四〇八
 八三 二 書簡(紅花代金送金に付) 三九五 九七 一 書簡(紅花売買に付) 四〇八
 八三 三 書簡(紅花不景気に付) 三九六 九七 二 書簡(紅花代金差下しに付) 四〇九
 八四 一 覚(紅花仕入錢請取) 三九六 九七 三 書簡(紅花不景気に付) 四〇九
 八四 二 覚(紅花仕入錢請取) 三九七 九七 四 書簡(紅花売払い代金に付) 四一〇
 八五 書簡(惣七荷物盗まれに付) 三九七 九八 書簡(敦賀着紅花の看板に付) 四一一
 八六 書簡(紅染屋との訴訟一件裁許に付) 三九八 九九 覚(令印紅花酒田船積通知) 四一一

一〇〇	書簡 (紅花敦賀到着通知外)	四二二
一〇一	書簡 (大坂伊勢屋出し荷不着通知外)	四二三
一〇二	一 書簡 (荷物間違ひ積下しに付)	四二四
一〇二	二 書簡 (紅花売捌ぎに付)	四二四
一〇二	三 書簡 (紅花代金送り状)	四二四
一〇三	覚 (紅花代金差引勘定)	四二五
一〇四	覚 (紅花代金請取)	四二七
一〇五	書簡 (紅花上着蔵入)	四二七
一〇六	差引書覚 (紅花代金)	四一九
一〇七	紅花代金覚	四一九
一〇八	残り花覚	四二〇
一〇九	相場書	四二一

禎真司家文書

一	紅花早損歩付帳 (横帳) (享保十八年)	四二七
二	紅花願控書 (縦帳) (元文五年)	四二八

宇野常義家文書

三	京都紅花問屋相手取、紅花売買吟味方願 (宝曆三年)	四五二
四	紅花代金支払之事 (宝曆五年)	四五六
五	京都紅花問屋並びに仕方書写 (宝曆十一年)	四五六
六	当村産物取調帳 (明治五年)	四六〇
七	書簡 (紅花売買に付)	四八七
八	覚 (当村産物取調)	四八九
一	萬店下覚帳 (横帳) (天明四年)	四九九
二	紅花買仕切 (文化十一年)	五三六
三	覚 (金子受取手形) (文化十四年)	五四〇
四	紅花引当金滞一件 (文政二年)	五四〇
五	品代金滞一件 濟口証文 (文政二年)	五四二
六	為登紅花代金覚 (文政三年)	五四三

七	借用金証文(文政三年)	五四八	二五	覚(送り金預り証)	五八九
八	紅花代金借用書(文政三年)	五四八	二六	覚(駄賃受取書)	五九〇
九	諸差引書出帳(横帳)(文政五年)	五四九	二七	覚(駄賃渡方願)	五九〇
一〇	引合勘定帳(横帳)(文政五年)	五五六	二八	紅花代金を替証文	五九〇
一一	荘内紅花買帳(横帳)(文政五年)	五六四	二九	覚(紅花役永外預証)	五九一
一二	諸指引帳(横帳)(文政六年)	五七〇	三〇	書簡(為登金外諸連絡)	五九一
一三	紅花仕切(嘉永四年)	五七五	三一	覚(紅花指引殘金受取書)	五九二
一四	紅花仕切(嘉永四年)	五七六	三二	覚(紅花代金受取書)	五九三
一五	紅花仕切(嘉永四年)	五七七	三三	覚(受取書)	五九三
一六	紅花仕切(嘉永四年)	五七八	三四	書簡(送金等諸連絡)	五九三
一七	為登紅花覚(文政三年)	五七八	三五	覚(干花代金請取書)	五九五
一八	紅花目錄	五八四	三六	覚(紅花代金請取書)	五九五
一九	輕荷目錄	五八六	三七	書簡(紅花不捌困惑之事)	五九五
二〇	書簡(代金渡方依頼)	五八七	三八	紅花壳勘定覚(横帳)	五九六
二一	覚(受取書)	五八八	三九	差引覚	六〇〇
二二	覚(紅花代金受取書)	五八八	四〇	紅花買・荷造控(横帳)	六〇〇
二三	覚(紅花代金受取書)	五八八	四一	上方仕入紅花	六〇三
二四	覚(駄賃受取書)	五八九	四二	覚(紅花代金受取)	六〇五

四三	覚(紅花荷造)	六〇五	六一	書簡(紅花荷到着之事)	六二〇
四四	書簡(紅花取引之事)	六〇六	六二	書簡(紅花売付之事)	六二一
四五	書簡(紅花相場)	六〇六	六三	覚(紅花荷敦賀到着之事)	六二二
四六	諸相場	六〇七	六四	書簡(紅花相庭之事)	六二二
四七	書簡(紅花相場)	六〇九	六五	紅花送状	六二三
四八	書簡(紅花等取引之事)	六一〇	六六	書簡(紅花取引之事)	六二四
四九	書簡(紅花相場等之事)	六一一	六七	書簡(紅花取引之事)	六二六
五〇	書簡(紅花取引之事)	六一一	六八	紅花荷物送状	六二六
五一	書簡(紅花取引之事)	六二二	六九	紅花積附覚	六二七
五二	書簡(諸相場之事)	六二三	七〇	紅花積附送状	六二七
五三	書簡(紅花相場之事)	六二四	七一	紅花送状	六二八
五四	書簡(紅花取引之事)	六二五	七二	紅花送状	六二八
五五	書簡(紅花成育相庭之事)	六二五			
五六	書簡(紅花注文書)	六二六			
五七	紅花積附覚	六二七			
五八	書簡(紅花為替登候事)	六二八			
五九	書簡(紅花等取引之事)	六二八	一	天保九年 大福帳(横帳)	六三一
六〇	書簡(紅花入船之事)	六二〇	二	天保十一年 大福帳(横帳)	六三二

逸見彦次家文書

三 書簡(紅花外作物景況、相場)

六三四

逸見良一家文書

一 相場書

六四三

二 書簡(紅花仕切添書)

六四三

三 書簡(仕切添書・相場)

六四四

四 書簡(仕切添書)

六四五

五 書簡(紅花景況)

六四六

六 覚(紅花蔵入)

六四六

七 覚(紅花蔵入)

六四七

八 書簡(紅花敦賀入津)

六四八

九 書簡(紅花到着)

六四八

一〇 書簡(商用に付)

六四九

一一 書簡(紅花景気外)

六四九

一二 書簡(紅花景況、相場)

六五〇

一三 書簡(紅花景況、相場)

六五一

堀米四郎兵衛家文書

(河北町立中央図書館蔵)

一 金銀差引目録

(封書上書)

九月八日

市村屋
弥三郎

羽州谷地
堀米四郎兵衛様
仕入要用 自京

金銀差引目録

五月卅日

一、金四拾四兩貳歩貳朱

紅花仕切表

六匁五分六厘

貳朱判

内渡シ方

九月四日

一、金五拾兩也

下し金

歩判

一、金四兩貳歩也

右九ヶ月分利足

一、銀拾貳匁四分

御手板不足かし

一、銀四匁五分

貳朱判

歩判

打

メ金五拾四兩貳歩ト

銀拾七匁也

差引

金九兩三歩貳朱ト

銀拾匁三分四厘

此金貳朱ト

貳匁九分四厘

合金拾兩ト

貳匁九分四厘

不足かし ㊦

右之通御座候、御引合御覽被遊可被下候、以上

市村屋

弥三郎

㊦

文化元年

子五月卅日

堀米四郎兵衛様

式分式朱

差引二入

式朱判

六匁五分六厘

二 紅花仕切

仕切

五月卅日

一、金四拾六兩

金三拾兩かへ

利大仕印紅花

壹分式朱也

十六入 五丸と

拾三貫

六百目也

老駄式拾九袋

六分也

金拾壹兩かへ

同チリ花五袋

六匁五分六厘

ノ

三 塗物荷物請取覚

覚

一、塗物荷物

品々入五箇

右之通壳拂代金不残相渡、此表無出入相濟申候、
万一算用違或ハ拔貫違花等有之候ハ、御互ニ重而
御差引可被下候、為後日仍而如件

市村屋弥三郎



文化元年甲子五月卅日

堀米四郎兵衛殿

此金拾兩貳分ト

錢拾貳メ五百文カヘ

内金四兩也 為手附金相渡シ

殘金六兩貳分ト

錢拾貳メ五百文

右者此度貴殿方ニ塗物荷物買請、為手附金書面之通り相渡シ、右荷物不殘請取申処実正ニ御座候、尤殘金六兩貳分ト錢十貳メ五百文、當暮迄ニ不殘御勘定相立可申上候、万一勘定方延引ニ相成候ハ、加判之私シ引受弁金を以少茂無差支相濟可申候、為念一札如件

酒田荷物買主

文化十四年

後藤傳七 爪印

九月廿二日

加判

押判屋周治

直筆印形

堀米四郎兵衛殿

四 萬手控帳 (横帳)

(表紙)

文化十二年

萬手控帳

亥四月吉日

酒田

後藤伝七 殿

〃 押判屋周次殿

買主 請人

西九月廿二日

一、金拾兩貳分ト

錢拾貳メ五百文

塗物六箇

内

金貳分也 四郎北利助買物代 受取

金三兩也 其後傳七殿を直受取

金三兩貳分 受取

是江四兩之請取ニ注文表仕置

残而七兩ト 全不足かし

拾貳メ五百文

西十一月廿八日

外ニ 金貳兩壹メ六百文 黒椀四十人分

是ハ押判屋周次殿上ケ利左エ門持

不足

金拾壹兩ト五百文 全クかし

酒田

伝七殿分

今印 分

一、拾貳メ文

成四月廿二日
同五月十八日迄ニ
廿四分

但シ右日數之内壹晩行不申候

同四月小ノ月也、メ二日引残り左ニ

猶又入湯行之節、伝七殿

周次殿兩人立会夜美ニ而

五百文ニ相定入湯仕候

一、金壹分也

浴衣壹つ

但しほり

手拭壹つ

手さし壹つ

金壹分ト

拾貳メ文

外ニ

花紙代勝手次第

成九月廿八日立合改 大久保
一、金貳拾壹兩三分 利左衛門

八百五文

酒田勘定残りかし

新庄

吉左衛門殿分

一、金四両ト四匁 酉十二月改

内式両卷分 酉十二月廿一日

与吉受取

注文相返ス帰ル

残而金卷両三分ト四匁 不足

尾花沢

一、金貳両卷分貳朱ト 清兵衛殿

四百三拾四文

土屋忠兵衛様方

成九月廿三日改不足

一、金卷両三分ト 永拾四匁八分三厘

成九月廿三日

一、金卷両ト 永八匁三分三厘

(五メ貳百匁 四八かへ)

同日 一、金三分ト 永五匁七分五厘

(四メ貳百匁 五式かへ)

同日 一、金貳分也

(さらし式メ匁 兩二四かへ)

成十月三日

一、金卷両ト 永四匁貳分五厘

(四メ九百匁 四七かへ)

同日

一、金卷両ト 永九匁

(五メ四百五拾匁 五かへ)

成十月十七日

一、金三分ト 永拾貳匁

(四メ三百五拾匁 五かへ)

同日

一、金三分ト 永拾八匁

(四メ六百五拾匁 五かへ)

金八両ト

永貳拾貳匁分八厘

浅吉仕入分

押判屋立替

一、いか拾三連ん

成九月廿二日着

代

十連ん三十五文かへ
三連ん三十八文かへ

一、数のこ式舂

同断

代

壹升

九十文かへ

一、からかい四懸ケ

同断

代

壹懸ケ九十文かへ

一、蠟燭台拾丁

同断

代

百文かへ

メ

酒田と賃銭内拂濟

外二諸懸り

一、金三分ト

三百七拾五文

右口せん
目早拂

一、三百四拾文

儀
小口蕤共

メテ

一、四百文

荷蕤拾枚

一、四百八拾五文

なわ

一、五百文

荷造り賃

メ金三歩ト式メ百文

此永三拾匁也

合而金百拾三両式分ト

永百匁也

此上り

但シ壹駄ニ付

金四拾式両式分式朱

丁銀七匁三分九厘

メ籠

拾七入 五丸

此駄壹駄三分式厘八壹式五

②雨
揃拾七入 拾丸

此駄式駄六分五厘六式五

代金百拾式両式分也

代金五拾五兩三分ト

永三匁壹分貳厘五

外ニ諸懸リ

一、金壹分貳朱
兩ニ五十文懸リ
右口せん
百五拾四文
目早拂

一、百七拾文
俵
小口薙共
ノテ

一、貳百文
荷蓮五枚

一、貳百五拾文
なわ

一、貳百五拾文
荷造ちん

ノ金壹分貳朱

老メ三拾四文

此永十四匁七分七厘

合テ

金五拾六兩壹分ト

永五匁三分九厘五毛

此上リ壹駄ニ付

金四拾貳兩壹分貳朱ト

丁銀壹匁壹分壹厘

代金ノ金百六拾九兩三分

永拾匁三分九厘五

外ニ

金三兩貳分
送り添金

貳メ八百文
大石田迄
駄ちん

四百五拾文
右
荷送りちん

小遣い共ニ

惣

ノ金百七拾三兩三分

四百五拾七文

成六月十一日

内金五拾兩也
永田治右衛門殿

請取

ノ七月五日

又金五拾兩也
押判屋周治殿より

受取

押判屋四郎平殿

為替荷物

引残而金七拾三両三分

四百五拾七文

外二

金壹分 添金書間違

金七拾四兩卜

四百五拾七文

内

金七拾三両三分卜

四百五拾七文

戌八月四日榎藤左衛門殿より請取

残而金壹分也 不足

かし

司 沢
兩 拾六入 四丸

代金三拾七兩貳分也

外二諸懸り
一、金壹歩
右口せん
目單拂

百貳拾五文

一、百四拾文

俵
小口延 〆テ

一、百六拾文

荷筵四枚

一、貳百文

なわ

一、貳百文

荷造ちん

金壹分卜

八百廿五文

合而

金三拾七兩三歩卜

八百廿五文

外二

八百文 大石田迄

駄ちん

百五拾文 荷造ちん

拾五文 小遣共二

〆金三拾八両也

外ニ金壹両也 送り添金

御出判壹通

惣〆金三拾九両也

内金六両也 戌春酒田江
下り節請取

引残而金三拾三両也 かし

外ニ金壹両貳分 海上請合金

永拾五匁

金壹兩ト

永廿三匁七分五厘

七月より九月迄
〆三ヶ月利

惣〆金三拾五兩三分貳朱

永壹匁貳分五厘 全クかし

大石田

寺崎作右衛門

右手板貳通ニ而 押判屋四郎平

七月十日出し 丸屋 半助

仲村佐右衛門

白銀 陸助

大坂

近江屋安治郎殿 行

覚

一、四月十五日晩 大石田泊り

一、同 十六十七十八 舟ニ泊り

一、同 十九より廿四日迄〆六晩

袋小路仁兵衛泊り

一、四月廿五日より六月十五日迄

メ五拾日 伝七泊リ

処江五メ文 亭主江渡し

三百文 かゝ殿ニ渡し

貳百文 娘ニ渡し

此訳

来子年卯年四ヶ年賦

但壹ヶ年金五両 永貳拾壹匁七分宛

右者此度年濟御願申入候処御承知被下忝奉存候、然上者定通年々急度返済可致候、若当人如何様之義有之候共、加判引受返済可致候、為後証加判を以仍而如件

文化十二年亥年六月

加判

押判屋四郎平印

山田与右衛門印

最上沢畑村

堀米四郎兵衛殿

五 (紅花代金貸付に付) 一札之事

一札之事

一、金三拾五兩三步貳朱

紅花貸附表

永壹目貳分五厘

内 金五兩

此度相渡申候

金拾兩

鯨七樽代金

永壹匁九分三厘 但壹兩ニ付拾ニメ目替

小以メ金拾五兩永壹目九分三厘

引残テ金貳拾兩三步 永拾壹匁八分貳厘

六 (紅花代金滯出入に付) 願上書

(端裏書)

「紅花荷物被銜取候出入」

乍恐以書付奉願上候

池田仙九郎御代官所

羽州村山郡谷地松橋村

訴訟人

四郎兵衛

一、紅花代金滯候出入

酒井佐右衛門尉様御領

同州酒田三ノ丁

相手 押判屋四郎平

同加判 山田与右衛門

右訴訟人四郎兵衛乍恐奉申上候趣意者、去ル文化十一年
戌六月中、相手四郎平儀最上紅花袴駄上方為登仕度由二
而、同人当地江罷越紅花荷為替取組之儀私方江達々頼入
候二付、私し目利仕紅花買入、四郎平与差金六兩請取立
合改諸掛都合取調、殘金三拾五兩三分式朱ト永壹匁式分
五厘私之方与差金致為替取組候二付、諸勘定書直ニ相渡
送手板荷符板共私シ名前ニ仕、大坂近江屋安治郎方江差
向遣シ候、尤大坂着之上紅花相拂、仕切之節者前書殘金

為替出候分者、大坂表与直々私し方江差下し仕切過金之
儀者、則押判屋四郎平方江仕切勘定書一同相渡可申様对
談取極メ、荷印司^{雨沢}紅花拾六袋入四箇附袴駄為差登申候
処、右紅花荷物着舟届茂延引仕候而、急速文通ヲ以大坂
表相糺候処、右紅花之儀者酒田押判屋四郎平与阿州宮嶋
萬屋治兵衛方江又為替取組候哉ニ而、則送り手板荷符板
共萬屋治兵衛名前ニ而着荷仕候二付、右紅花代仕切金者
不殘同人江相渡候趣返翰^書至來仕候
依之酒田湊ニ罷下り四郎平方江掛合相糺候処、同人方二
而送り手板荷符板共ニ引取、萬屋治兵衛方江売渡シ申候
始末、依之同人相糺候処買請候義聊相違無之趣、左候得
ハ全謀計之致方甚以不屈ニ奉存、其節出訴をも可仕之処、
御上様ニ御苦勞奉懸候義恐入、猶又其節酒田堀端伝七並
ニ最上谷地藤助兩人立入彼是申詫、為替金之内当金拾五
兩相渡シ、殘金式拾兩三分式朱ト永壹匁式分五厘之処、
去ル子与当卯迄四ヶ年賦壹ヶ年ニ金五兩ト永何かし宛相
濟元金濟ニ致具候様、四郎平者勿論立入人一同再応相頼
申候二付、聊相違も有之間敷相心得格別之致勘弁、任其

意当金並二年濟證文受取帰村仕候、然ル処去ル子春約速
通之返金差滞候間、私召遣之者催促ニ差遣候処、其節加
判与右衛門立入金孝而相渡し、殘金之儀ハ暮迄貸延呉候
様相頼、其後一円相濟不申候ニ付、丑四月又々催促差遣
候処、無益之永逗留為致一向相濟不申、其上不取締成申
訳而已ニ而迷惑至極仕候、右一件之儀ハ元来四郎平方ニ
而筋違横道之致方、其上愚身之私しと見掠手濟金茂押領
可仕工ミと奉存候

此段等閑ニ差置候而者、外之諸差引ニも相拘り甚以歎ケ
敷奉存候間、無據不奉願恐をも今般御訴訟奉申上候

右之越被為聞召訊相手名前之もの御召出御糺明之上、殘
金拾九兩三分ト永拾老匆八分式厘不殘濟方被抑付被下置
度御慈悲奉願上候、猶御尋之儀者乍恐口上ヲ以可奉申上
候、以上

松橋村

訴訟人

四郎兵衛

㊦

(文政二年)
卯閏四月

名主十郎左衛門酒田出役ニ付

組頭

藤吉

㊦

寒河江

御役所

酒田湊御出役

河野儀重郎様

七一 書簡 (渡金の催促)

一筆啓上仕候、春寒難退御座候時分、その表御家内様御
揃弥御勇健可被遊御座、珍重之御儀奉存候、随而当方無
異儀相暮乍憚御休意思召被成候、然者当地柴崎屋宗右エ
門殿を渡金式拾兩也、極月晦日渡りニ御座候故、精々懸
合申候処、何角不都合之様子ニ而相渡り不申、乍去呉々
御頼置御下候儀ニ御座候故、日二兩三度斗ツ、催促仕候
得共、何分不廻り之儀申立相渡し呉不申、何とも貴家様

へ申分無之心配仕故、どふか此頃ニ而者分発も被致之様
子ニ御座候、扱々困入申候事ニ御座候、下店方も精々懸
合可申候得共、右之振合ニ御座候故、一応此儀奉申上候、
何卒御国方も殿敷御懸合可然与奉存候、先者右之段申
上度如此御座候、尚期重便之時候、恐惶謹言

綿屋勇藏 ㊦

(文政五年)
二月二日

万三

庄七

堀米四郎兵衛様

大葉三吉様

貴下

二相成候而金子相渡不申、仍而其儘ニ而御出立ニ御座候、
委細之儀御同人様御承知ニ御座候間、否哉早速御状御出
し被下度奉頼候、以上

六月十五日

錦屋勇藏

堀米四郎兵衛様

七―三 覚 (取扱金預りに付)

覚

一、金四両也

右者堀米四郎兵衛殿へ之御金廿兩之取扱金髓ニ預り申候、
追而右同人不承知ニ候て、返却可仕候、以上

錦屋勇藏

七―二 書簡 (追伸)

追啓奉申上候、本文相認メ候得とも源右衛門様御出立掛

貴下との

八 書簡（入舟案内他）

〔封書上書〕

〔羽州最上谷地沢畑

堀米四郎兵衛様 從源助

方京都

入舟御案内

〔封書裏書〕

嶋屋便を以一筆啓上仕候、追々暖氣ニ相成候処、其貴地御全家様益御勇健ニ可被遊御座大慶之到ニ奉存候、当方無異儀罷有候、乍憚御安慮可被成下候、然者其御地も正月二日出御祝金追啓も順着忝拜見仕候、去穂中も追々御上京被遊候御支配人様方御道中御無難ニ而、追々御帰国被遊候趣被仰下度悦不過之奉存候、乍併毎々取紛罷有候而、仍之御会釈も不申候処、此度御時宜しニ御挨拶被仰下何とも痛入赤面仕候、乍憚御一統様へ宜御断被仰上被下度奉頼上候

一、去穂中御出荷御案内被仰下候御印紅華、道囲ニ相成

候御荷物、此度敦賀表方入舟仕候趣キ申来候処、則左ニ

や 飛切 五丸

丸屋半助殿方迄

右之通海上無難ニ入津仕候条御目前着岸仕候、尤近々上着之節相改蔵入可仕候、且亦売方之儀者、無如才相働出情可仕候得ども、兼而御支配才三郎様御指図二者、五拾兩以上ニ相働売附可仕候様、若また五拾兩餘ニ相揃不申候ハ、売方差控置可申候様被仰置候、然ル処当時之氣配ニ而者何共五拾兩之儀無覚束奉存候、何分近々上着仕候ハ、売場相働キ出情可仕候、甚直段行違ニ御座候ハ、売方差扣置可申候間、此段宜御承引被成下、思召之儀も御座候ハ、早々被仰遣被下度奉希候

一、爰許紅華之儀、旧臘押詰り嶋屋持も廻り奥仙紅華、追々上り込ミ存之外越年残荷も余計ニ御座候処、何分早春以来ハ紅流もの大不揃ニテ別而迷惑てりふんにも高直ニも御座候故、一円引合ニ相成不申候趣ニ而、紅華潰れ方至而無数ニ御座候故、今ニ希事相始り不申覚ニ仕候、仍之自然与氣配も不宜、殊ニ壹軒沽却ニ付弥氣配不宜、

既ニ当節前之処旧冬相場と五七両も下直ニ候ハ、少々
買人も可有之体ニ御座候得ども、是迄者いまだ売人も無
之候得共、節後今ニ至り買人も無之、猶亦此度匱上りも
相応ニ荷数有之、且また春出し御荷物追々御案内申来候
得者、此後之処如何可參候哉難計、何分奥仙花・最上華
而已多分ニ御座候得者、甚心配罷有候、何卒都合よく売
方出来候様偏ニ奉願上候

一、拙家仕入紅華御注文申上候様被仰下、毎々御厚情之
御義千万忝仕合ニ奉存候、乍併私方ハ格別之仕入も不仕
漸々老駄式駄程誠々迄ニ頼遣候事も御座候得共、殊ニ聊
之事ニ御座候、別而今年ハ前文之仕合ニ御座候得者、当
時聊も望無御座候間御断申上候、若また此後宜景氣も出
候ハ、御頼申上候事も難計其節ハ宜被頼可申上候、又
者右御報旁不取敢入舟之趣申上度如此ニ御座候、尚期後
便之時候、恐惶謹言

(文政五年)
六月十二日

伊勢屋源助 ㊦

源八

堀米四郎兵衛様

貴下

金七
貞七

九 書簡(渡金滞に付)

(封書上書)

一、羽州最上沢畑

(封書裏書)

一、三月廿二日出

堀米四郎兵衛様参る

錦屋勇蔵

急要用

二月十一日出し貴札相達し忝拝見仕、先以暖和之砌御座
候処、其御表御家内様御揃、弥御勇健可被遊御座珍重之
御儀奉存候、随当方無異儀罷有候、乍惶御休意思召被下
候

一、二月二日出を以柴宗殿渡り金之儀、委細奉申上候処、定而御披見可被下与忝奉存候、其後日々駈合仕候得共、頓与埒明不申何共込り入申候、乍去此頃漸々諸道具共壳拂被申候処、式ツ半カ三分通位ニ相成不申候、外之懸合衆中も此頃組合衆中ニ御座候、扱々込り入申候事ニ御座候

右之次第ニ御座候故、尊家様分如何取計ひ可申哉、外算ニも御承知被遊候哉、何卒急々御報被下度奉願上候、扱々不怪事出来何共御氣之毒仕候、先かし右様奉申上候得とも、分発之処最卒度宜敷可相成哉、無女才引合申故候、右之賃金も定宜鋪御承引被遊可申候、先々右之段申上度尚期重便之時候、恐惶謹言

(文政五年)
三月廿二日

錦屋勇藏

万藏

庄七

堀米四郎兵衛様

貴下

一〇 書簡(紅花仕切殘金)

(封書上書)
「最上沢畑

(封書裏書)
「三月廿九日

堀米四郎兵衛様 從京都 柴崎屋宗右衛門

要用

毛吉田

(端裏書)
「堀米様」

一筆啓上仕候、先以春暖御座候之義、其御地御家内様御揃愈御壯健被遊御座珍重奉賀候、誠ニ其後者久々書状ヲ以申上候儀も無筆大ニ御無沙汰、背本意ニ春迄病氣ニ而兎角氣分不勝御用捨被遊可被下候

秋中御仕切仕候紅花殘金貳拾両、綿屋勇藏殿へ御差函通御渡可申上候、紅屋にて懸方敷口間違当惑罷有候、全体拙店近来損毛打続、甚手元不操合方差当才覚融通も可致様手段無御座必死と難渋仕候、依之外御懸り合え御座候

御方様へも御願申上候而取調仕候処、能々差詰申候儀故、諸道具不残売拂多少御用捨ニ預リ度近来申上承候へとも、右之仕合ニ御座候間、暫時御猶餘被成下度、取調候而ヨリ跡御歎キ可申上候間、何分宜敷御聞濟被成下候様奉存上候、何卒御一統様御聞濟被遊被下候ハ、割合ヲ以御納金被成下候様偏ニ奉願上候、委細跡便り万々可申上候、右ニテ早速可申上処、不快故及延引ニ候条、真平御用捨被遊可被下候、恐慌謹言

(文政五年)

三月廿九日

柴崎屋宗右衛門

堀米四郎兵衛様

大場 三 吉様

貴下

一一 書簡(荷物積送他)

(封書上書)

「羽州谷地川端

堀米四郎兵衛様従大坂

(封書裏書)

「四月四日

近江屋

安治郎

用要書

(端裏書)

「や サマ」

一筆啓上仕候、追日薄暑ニ御ざ候所、先以御家内様御揃益御壮健ニ可被遊候由奉珍重候、隨而当方無異罷在候、乍憚御安意思召可被下候、然而從爰許三月八日出候以御買物、不残つみ入並ニ仕切書等御案内申上候得者、定而相達も御披見可被下候、其節差引等あらく之所御案内申上候、御承知可被下候、且又二月十二日出シヲ以、旧

臘中御預ケ申上候古手代御見合ニ付御返濟可申上候様被

仰下、則東根早坂徳兵衛殿向為替取組手形御下し申上候、

定而御引合御請取被下度奉存候、御請取被下候、御勝手

御沙汰可被下奉頼上候

一、当春ツミ入申上候品々此節近く酒田入津可仕哉ニ奉

存候、何卒御利分相成可申様奉頼上候、御引合ニも相成

由にて、早々御注文可被下候様奉頼上候

一、此度奥山新三郎様も書状仕候ニ付、尚両問屋御達し

被下度奉頼上候

一、紅花栢庭之儀先状申上候後、追々不振にて望人無数、

此節にてハ旧冬方四五両かた引後申候、御勤弁被下候へ

ハいつれ新花買出ニ随ひ高下可仕候、何卒当年新花御差

向被下候様奉頼上候、且又くり綿高直ニ御座候、則左之

通

大坂上訳 四メ六百匁

④ 四メ九百匁

⑤ 五メ式百匁

右之通御座候、御勤考可被下候、まつハ右之段早々案内

申上度如斯御座候、恐惶謹言

近江屋安次郎 印

(文政五年)
四月四日

堀米四郎兵衛様

伊八

御店中 様

一一 書簡(紅花景況・相場他)

(封書上書)
「最上沢畑

堀米四郎兵衛様

(封書裏書)
「四月十七日

柴崎宗右衛門

と京都

「楯岡へ向

」

要用

(端裏書)

「堀米様」

嶋屋屋便ヲ以一筆啓上仕候、薄暑ニ御座候処、其御地御

揃弥御壯健被遊御座珍重奉賀候、然者先状奉申上候私義
 身上近年打続損毛御座候上懸方間違必死ニ差詰候処、格
 別之仰山之金高二も無御座候間、何卒相続仕度は迄融通
 致被具候先々江頼込候処、仲ヶ間内ニ同様沽却不致候仁
 御座候故欤、約束仕候先も無化ニ被断融通才覚出来不申、
 差当難渋仕候間諸色壳拂分散利濟之儀、御一統様へ御敷
 申上候処、格別御了簡被成下御聞濟ミ被成下、御地御在
 京御藤主様当地仲ヶ間、荒々片付申候、甚以御無体ニ御
 座候得共、御一統様御聞濟被下候割ヲ以御了簡被成下候
 様、偏ニ奉願上候、

割合左之通

当時御附金

式步通差入

拾ヶ年賦

残四步通

出世一札

残四步通

右之通ニ御座候、何卒甚御無体之儀ニ御座候得共、御得
 心被成下候様偏ニ奉願上候、尚又榎岡吉内氏へ取扱之儀
 頼遣候間、同人罷登り委細御願可申上宜敷御承知被遊可
 申候、此後商内取続仕候ハ、昼夜無油断出情御高恩之

程亡却不仕、夫々御損毛無之様、皆納仕度心願仕候、偏
 ニ御憐愍之思召御聞濟被成下度奉希上候

一、当地紅花之儀外々より可被申上御承知可申候、昨年
 已来前代未聞安直出来候儀者、元来不景氣ニ而不捌之処
 へ荷数多分とり込申候故、当春に開春とり入込申候而、
 当時残荷も六百駄余ニ相聞申候、尤早場過に時附不多候
 而春寒少々痛出来候所、先頃より雨勝大ニ見事ニ生立候
 段申来候、則當時相庭左之通相聞申候

最上 上々 三拾兩位
 悪もの 拾貳三兩位

南仙 同断 三拾七八兩

奥仙 同断 廿八九兩

早場 同断 廿六七兩五

水戸 同断 拾八九兩位
 三拾兩前後 四拾兩前後
 四拾二兩 四拾三兩
 三拾貳三兩位

右之通ニ相聞申候、御考勘御掛引可被遊候、何れ残荷も
 餘慶旁当新花餘程下直ニ而御座候而者、御引合も六ヶ數
 奉存候、先者右佗御敷之段奉申上度如此ニ御座候、恐惶
 謹言

柴崎宗右衛門

印

〔印〕
〔文政五年〕
四月十七日

堀米四郎兵衛様

御店家中

一三一 書簡〔為替手形差下し〕

〔封書上書〕

〔羽州最上谷地沢畑

〔封書裏書〕

〔卯月十日夜

堀米四郎兵衛様取扱

近江屋

安治郎

為替手形入急用

〔端裏書〕
〔やサマ〕

一筆啓上仕候、向暖ニ御座候得共、先以其地御家内様御
揃益御壯健可被遊御座候、珍重不斜奉存候、随而下店無

異儀罷有申候、乍憚御安意被下候、然ハ此店方過ル四日
出ヲ以諸用申上候得者、追而相達し御扱可被成下与忝奉
存候

一、尚此度東根早坂氏方来状仕候処、二月十二日出ニ取
組手形差下申候、金子とふか不渡之趣キ申参り、扱々御
氣毒奉存候、尚又右為替取組申候書状右延着之趣、此度
山形山村屋方申参り、尚又貴家様へ相届申候処、右延引
ニ付賃錢も相渡り不申候段申参り、扱々右延引儀ニ驚き
入申候、早速飛脚方吟味申遣候間、何方ニ而相滞申候と
申儀相分不申候間、はせ川又々御申請仕候、扱右為替不
渡りニ付、定而貴家様ニも御案内可被仰下与被存候所、
未夕御左右も不申出候、仍て此度又々山形表ニ受取金御
座候間、為替取組則左之通

金五拾兩也

山かた

高田忠蔵殿候渡り

但し五月晦日限

右之通取組手形差下し候条、限日御受取可被下候、扱々
先達而之為替間違大ニ御氣毒仕候、尚此度之分ハ無相違

相渡申候間、左様被思召被下候

一、貴地紅花草生追々成長可仕与奉存候、何卒尚此後無難取入相成候様奉希上候、猶当新花御荷物も多分御差向被下候様奉希上候、格別出情御仕切可申上候

一、くつ綿之儀其後さして相変不申候、尤五四時坂上屋四メ六百文迄(德)四メ五百文崩ニ御座候、御勘考御願可被下候、まづは右申上度為替請状迄ニ御座候、早々如斯御座候、恐惶謹言

(文政五年)
卯月廿四日

近江屋安次郎 印

源兵衛

猪八

堀米四郎兵衛様

御店中様

一三一二 書簡 (仕切書)

一御多用の中恐入奉存候得とも、仕切書老通西屋幸六様迄、無御失念早速御出走被下候様偏ニ奉希上候、くれぐれも早々御達可被下候、尚御願上度御座候

(文政五年)
卯月廿四日

近江屋

安次郎

堀米四郎兵衛様

一四 繰綿運賃

運賃

五六酒田運ちん

一、八拾四匁

き 繰綿

拾五本

貳口

右水揚運ちん

一、三匁

八拾七匁

此金壹兩一步卜

七匁

六四

右之通御座候、御引合被下候

近江屋安次郎

印

(文政六年)
未五月十四日

堀米四郎兵衛様

奥山才三郎様

運賃付

甲

一、五匁六分

鹿杉子壹箇

酒田運賃

一、五匁六分

京口物代

一、四分

水上たちん

貳箇分

銀拾壹匁七分

此金貳朱卜

三匁六分

六四

右之通御座候、御引合被下候

近江屋安次郎

印

五月十四日

堀米四郎兵衛様

奥山才三郎様

一五一 書簡（紅花景況・相場）

〔封書上書〕

〔羽州最上谷地沢畑 方大坂〕

〔封書裏書〕
〔近江屋〕

堀米四郎兵衛様

「 安治郎」

〔端裏書〕
〔やさま〕

一筆啓上仕候、甚暑之節二御座候得共、先以御家内様御
揃益御安康可被遊御座珍重之御儀ニ奉存候、随而下店無
異罷有候、御休意可被下候、然らハ此元方差便御出荷御
頼申上候得とも、定而相逢候ハ、披見可被成下与奉存候
一、其御地紅花之義、此節追々咲出し可申与奉存候、何
卒潤雨上出来仕候様奉祈上候、尚又不相變御差荷沢山ニ
被仰付可被下候、出精早速御仕切可申上候、且又当地之
義ハ近国西国すじ惣（原）てり花ニ相成候得共、水早庭未夕（相）
肖々迄相分り不申、勿論最仙様子窺ひ居候而、未夕紅屋

手出し不仕、双方対陣のミ奉存候、此後最仙吉凶相分り
申候ハ、入乱花、西国ク合戦相始り可申与奉存候、ま事（原）
二今年ハ源平共甚懸引六ヶ敷年柄ト奉存候、よろしく御
懸引可被成下候

一、麦粉之義てり込ミ強御座候而、日痛之所も多く出来
仕候、何卒一潤ひ奉祈上候、且又別紙相庭出入御覽申候
間、御引合之品何成共御差向可被下候、相働早々御仕切
可申上候、先ハ右御出荷御頼暑中御見舞奉申候、如斯御
座候、恐々謹言

近江屋

（文政六年）

六月十四日

安次郎

㊦

源兵衛

伊八

堀米四郎兵衛様

貴下

一五―二 書簡(追俣・紅花出荷他)

(端裏書)
「や サマ」

別啓上仕候、本紙を以紅花御出荷之儀御頼申上候、定而相達し御披見可被成候与忝く存候

一、四月廿四日出し右金五拾兩、山形高田忠蔵殿へ為替取組申候、定而相達し御披見可被下候、山形山村は五月廿二日出賣家様之状一兩日中ニ幸便ニ相達し可下候由、若哉幸便無之節者手形入ニ付、態飛脚にて相送り可申由申參候ニ付、先にお悦仕候、則高田氏儀五月晦日ニ無相違相渡可申候段御請状参り申候間、此段御安心可被下候、尤差引書五月十四日出ヲ以差下し申候、是亦御入手御引合被下候哉被存候、若間違等も有之候ハ、早々被仰付可被下候、其節運賃書付忘仕候ニ付、此度入封いたし申上候、御入手可被下候

一、当春中御らん入申上候くり綿等、定而能々此節御売方被成候与御同悦ニ奉存候、山形も安綿不足よし引入御高値ニ相聞得、大悦ニ奉存候、当地綿作合御痛にて高直ニ御座候由、未夕御持合被成候て、矢張御引合可被成候、乍併御利運ニ御座候、一先御売可被成跡御註文可被成候、当年ハ古手御下し不申上尚大義也、残念ニ御座候、何卒当冬方古手御取組被成下候様奉頼上候、まづは右之段早々如此御座候、恐惶謹言

(文政六年)
六月十四日

近江屋

安次郎

印

源兵衛

伊 八

堀米四郎兵衛様

貴下

一五十三 相場書

相庭

- 一、筑前米 五十八匁式分
- 一、肥後米 六十匁式分
- 一、中国米 五十八匁式分
- 一、加賀米 五十五匁三分
- 一、岡大豆 五十七匁五分
- 一、水あふら 式百四十一匁
- 一、種白絞 式百六十一匁
- 一、荏油 三百廿匁
- 一、繰綿汲上

庄キ

- 一、丹州金
- 一、庄内米斗 五十式三匁
- 一、最上大豆 四十七匁
- 一、同 小豆 四十七八匁

一、同 荏草 六十老匁

一、同 菜種 五十七八匁

一、薩摩塩 〇〇斤 六メ八百匁

一、長州同 藏五メ四百匁
ワキ六メ匁

一、嶋原同 六匁式百匁

一、地口同斤 二白老匁三分
一白老匁三分

一、出嶋白砂糖 九匁六七分

一、太白同 七八匁ろ
十八九匁

一、御物黒同斤 九匁式分ろ

一、大しま同 十四匁二三分
九匁五分ろ

一、本大ワウ 十四匁三四分
廿五匁

一、金 六十四匁四五分
九匁三分

六月左三

近江屋安次郎

一五十四 相場書

(前切)

- 一、沢 瀉 壹匁三四分
 - 一、真榭摩 三分五厘
 - 一、青木香 壹匁七分
 - 一、節人參 壹匁貳分
 - 一、真口苓 貳匁七分
 - 一、粒半夏 壹匁七分
 - 一、真防風 九分五厘
 - 一、白焙硝 三匁七分
 - 一、同上々 四匁三分
- ノ 貳百五拾目斤ニ付
- 一、真細辛 壹匁七分
 - 一、大黃連 貳拾貳三匁
 - 一、細黃連 十七八匁
 - 一、まわた 貳拾四五匁

ノ 貳百目斤ニ付

- 一、小人參 拾五六匁五十七八匁
 - 一、仙台川芎 貳匁四五分
 - 一、実蓮肉 六分五厘
 - 一、湯乃花 四分五厘
- ノ 百八拾目斤ニ付
- 一、もぐさ 五六匁五十三四匁
 - 一、ぜんまひ 貳拾四五匁五三拾貳三匁
 - 一、紫 根 壹拾壹匁
 - 一、いわう 壹匁貳分
- ノ 壹百目斤ニ付
- 一、秋田鉛 貳百七八拾匁
 - 一、津軽同 貳百五拾八匁
 - 一、仙台同 同断
- ノ 唐目百斤ニ付

(以下切)

一六 万指引帳 (横帳)

(表紙) 文政五年

万指引帳

午六月吉日

午紅花送手板

六月二十九日出し

京着四拾兩也

高 水 割 拾六袋入 四丸

四箇附沓駄也

封印

金三分也 道添金

御出判 沓通相添

大石田 榎本 巳刀吉殿

酒田 鑑屋窓右衛門殿

敦賀 丸屋半 助殿

塩津 仲村佐右衛門殿

大津 白銀屋 陸助殿

京富小路蛸薬師

上 渡会屋宗治郎殿行

榎岡 吉田屋藤兵衛殿出し

午紅花送手板

六月廿九日出し

高 水 割 拾七袋入 四丸 京着三拾八兩貳分

沓駄四袋也

封印

金三分也 道添金

御出判 沓通相添

大石田 榎本 勇 吉殿

酒田 本間 幸四郎殿

敦賀 田保孫右衛門殿

塩津 仲村佐右衛門殿

大津 川口 弥 藏殿

東洞院姉小路

上 綿屋勇藏殿行

橿岡 吉田屋藤兵衛殿出し

午紅花送手板

六月廿九日出し

京着三拾八両式分

沢紅 拾六袋入 貳丸

京着四拾兩

高水 拾六袋入 壹丸

京着四拾兩

同同 拾七袋入 壹丸

老駄 壹袋也

金三歩也 送り添金

御出判 老通相添

大石田 榎本 勇 吉殿

酒田 鏡屋惣右衛門殿

敦賀 丸屋 半 助殿

塩津 仲村佐右衛門殿

大津 白銀屋 陸助殿

大坂鳴町

上 嶋屋清兵衛殿行

橿岡 吉田屋藤兵衛殿出し

午紅花送手板

七月十一日出し

一 拾八袋入 四丸 京着四拾五兩

同同 拾七袋入 壹丸

同断

〆 壹駄壹丸九袋也

封印

金壹両也

送り添金

御出判

壹通相添

〆 大石田 設楽治郎右衛門殿

酒田 鑑屋 惣右衛門殿

敦賀 丸屋 半助殿

塩津 仲村 佐右衛門殿

大津 川口 弥藏殿

京都

上 伊勢屋利右衛門殿行

午紅花送手板

午七月四日出し

京着四拾七両也

〆 仕 拾七袋入 八丸

〆 式駄八袋也

封印

金壹両貳分也

送り添金

御出判

壹通相添

〆 大石田 設楽治郎右衛門殿

酒田 根上 善平殿

敦賀 田保 孫右衛門殿

塩津 仲村 佐右衛門殿

大津 白銀屋 陸助殿

京都

上 伊勢屋源助殿行

手板貳通二而

午紅花送り手板

七月四日出し

京着四拾貳両貳分

〔や〕ヒト 拾八袋入 五丸

〆 壹駄壹丸 拾袋也

封印

金壹両也 送り添金

御出判 壹通相添

〆 大石田 設楽治郎右衛門殿

酒田 大沼 平 八殿

敦賀 丸屋 半 助殿

塩津 仲村 佐右衛門殿

大津 川口 弥 藏殿

京都

上 伊勢屋利右衛門殿行

〆 壹駄四袋也

封印

金三步也 送り添金

御出判 壹通相添

〆 大石田 設楽治郎右衛門殿

酒田 鎧屋 惣右衛門殿

敦賀 丸屋 半 助殿

塩津 仲村 佐右衛門殿

大津 白銀屋 陸 助殿

京都

上 近江屋佐助殿行

午紅花送り手板

七月四日出し

〔や〕極天 拾七袋入 四丸 京着四拾貳両貳分

午紅花送り手板

七月四日出し

〔や〕紅 拾六袋入 貳丸 京着四拾兩也 内貳百六拾匁袋 壹ッ入

封印

金壹步貳朱也 送り添金

御出判 老通相添

大石田 設樂治郎右衛門殿

酒田 本間 幸四郎殿

敦賀 田保 孫右衛門殿

塩津 仲村 佐右衛門殿

大津 川口 弥 藏殿

大坂

上 近江屋安治郎殿行

○為替手形入東根早坂徳兵衛方へ五拾両也、晦日切二而

然ル所御地未二月十二日出し、三月晦日着取、山形茂

八殿江賃錢貳百五拾文出し不申、右賃錢大坂近安方へ

御受取可申様申愈し候、甚夕延着也

○然ル所右金早坂氏へ相渡不申候二付、未四月十二日出

才三郎上名前二而山村屋二出し、尤右相渡り不申候事、

並ニ右早坂為替入書状延着旁二付、ちん錢相濟シ不申候事、其外諸用色々申愈し候、右為替手形封シ入相返ス

○四月廿四日出し書状五月廿五日相達し申候、然ル所山形山村屋氏江右五十文賃錢相渡し申候、尤山形高田忠藏殿江為替手形入内二、谷地西幸殿江仕切入書状入、則五月廿六日二遣し賃百文西幸へ受取相渡し

紅花荷物送手板

和吉 京着二十九兩 貳拾袋入 貳丸

同紅梅 京着三十拾六兩 拾九袋入 貳丸

同同 右同断 合拾九袋入 壹丸

内二兩吉三袋入

老駄片馬 老袋也

封印

一、金貳分貳朱也 紅梅三丸添金

一、金壹分貳朱也 兩吉貳丸添金

金壹兩也 手板貳通三而

御出判 壹通相添

午七月廿五日出し

大石田 設樂治郎右衛門殿

酒田 本間 幸四郎殿

敦賀 丸屋 半助殿

塩津 仲村 佐右衛門殿

大津 白銀屋 陸助殿

京都

村山屋半四郎殿行

吉田村 奥山才三郎荷主

紅花荷物送り手板

飛切 京着四十四兩貳分上り
拾八袋入 三丸

同同 同断
拾七袋入 壹丸

同同 同断
拾六袋入 壹丸

壹駄壹丸七袋也

封印

金壹兩也 送り添金

御出判 壹通相添

大石田 設樂治郎右衛門殿

酒田 根上 善平殿

敦賀 丸屋 半助殿

塩津 仲村 佐右衛門殿

大津 川口 弥藏殿

京都

伊勢屋源助殿行

午七月廿六日出し

未十二月二日出し、同廿四日着

一、金四拾三兩貳朱ト

銀老刃六分九厘

七百元 福嶋と山形迄之賃

四百文 山形と当地迄之賃

〆老メ百文

右者京都伊勢屋源助殿下り金子、山形西山庄七殿を請取

申込、如此御座候、以上

未十一月晦日切、三拾貳兩かへ

改済

御出判 壱通相添

〆 大石田 設楽治郎右衛門殿

酒田 根上善平殿

敦賀 丸屋半助殿

塩津 仲村 佐右衛門殿

大津 川口 弥蔵殿

京都

上 伊勢屋源助殿行

午七月廿六日出し

紅花荷物送り手板

京着四十四兩貳分上り

〆 飛切 拾八袋入 四丸

〆 壱駄八袋也

封印

金三步也 送り添金

紅花荷物送り手板

京着四十四兩貳分上り

〆 飛切 拾八袋入 四丸

〆 壱駄八袋也

封印

金三步也 送り添金

御出判 壱通相添

大石田 設楽治郎右衛門殿

酒田 鎧屋 惣右衛門殿

敦賀 田保 孫右衛門殿

塩津 仲村 佐右衛門殿

大津 白銀屋 陸 助殿

京都

上 若山屋喜右衛門殿行

午七月廿六日出し

紅花荷物送り手板

極上 拾七袋入 八丸 京着四十三兩上り

封印 貳駄八袋也

封印

金壹両貳分也 送り添金

御出判 老通相添

大石田 設楽治郎右衛門殿

酒田 大沼 平 八殿

敦賀 田保 孫右衛門殿

塩津 仲村屋佐右衛門殿

塩津 白銀屋 陸 助殿

京都

上 伊勢屋利右衛門殿行

午七月廿六日出し

紅花荷物送り手板

極上 拾七袋入 六丸 京着四十三兩上り

封印 壹駄片荷六袋也

封印

金壹両貳朱也 送り添金

御出判 老通相添

大石田 設楽治郎右衛門殿

酒田 鎧屋 惣右衛門殿

敦賀 丸屋半 助殿
塩津 仲村 佐右衛門殿
大津 川口 弥 藏殿
京都

上 綿屋勇藏殿行

午七月廿五日出し

塩津 仲村 佐右衛門殿
大津 川口 弥 藏殿
京都
上 渡会屋宗治郎殿行
午七月廿六日出し

紅花荷物送り手板

極上 京着四拾三兩上り
拾七袋入 四丸

封印 老駄四袋也

金三步也 送り添金

御出判 老通相添

大石田 設楽治郎右衛門殿

酒田 根上善 平殿

敦賀 田保 孫右衛門殿

午十月五日出し

午十月廿七日出し

一、金四百兩也 但し封印儘二而

福嶋此地迄ちん金三分也払

右者京都伊勢屋利右衛門殿下し金子、隨に受取申候、以上

福嶋 飛脚 吉兵衛殿

嶋屋佐右衛門殿 同 長 吉殿

内訳

金百兩也 伊勢源殿分

才金五拾兩也 上村半殿分

金四拾兩也 近佐殿分

金四拾兩也 吉田勘右衛門分

金三拾兩也 渡宗殿分

金百四拾兩也 伊勢利殿分

元二合

(別紙)

一、金三步也 伊勢屋理右衛門殿方金四百兩之分

右之通貫銀髓ニ受取申候、以上

午十月廿四日

嶋屋清右衛門

印

堀米四郎兵衛様

午十一月十二日出し

同 廿九日着

一、金百兩也

但し式分判ニ而

福嶋方此地迄金卷分ト三百文

右者京若喜殿方下し金、山形山口屋甚蔵殿方相届ク

午十一月廿九日

飛脚

山形永助殿

午十一月廿日出し

午十二月廿一日着

一、金九拾兩也

但し封印儘ニ而

右ハ京都伊勢屋利右衛門殿方、京都ニ而三吉・喜内請取

午十二月廿三日

一、金五兩式分式朱ト

喜内・三吉方受取

壹匁五分五厘

右同断

一、金五拾兩也

右者大坂為替金髓ニ受取申候、尤近江屋安次郎殿分

未四月廿四日出し

同六月四日着受取

四郎兵衛

山形七日町

高田弓太郎様

未合判分

紅花送手板

未年分

国判仕 紅花拾八袋入 四丸
京着五拾三兩かへ

〆 壹駄八袋也

封印

一、仕入 九拾八袋分
国一 仁平次分
吉田

金三分也 送添金也

御出判 壹通相添

一、同同 式拾六袋
同同 かなや 四郎兵衛分

大石田 設樂治郎右衛門殿

正し式百七拾匁

酒田 燈屋 惣右衛門殿

一、上 中合卷袋正し百四拾匁 同 四郎兵衛分

敦賀 丸屋 半助殿

右三口半花都合卷袋二仕

塩津 仲村 佐右衛門殿

〆 上 中合印式袋二仕

大津 川口 弥藏殿

〆 百式拾六袋也

但し拾八袋入 七丸二仕ル

京都 伊勢屋利右衛門殿行

未七月十三日

京都 伊勢屋利右衛門殿行

未十二月二日出し

未十二月廿七日着 金子受取ハ大一印之座ニ上ル

国一七丸之内、五丸現印四十兩かへニ参ル

京都

伊勢屋利右衛門殿行

金貳分也

大石田^ら先添金

御出判

彦通相添

未^三判分

七月十三日出し

紅花荷物送手板

国^一判仕 紅花拾八袋入 貳丸 京着五十三兩かへ

未十二月廿七日着

同^一同 合拾八袋入 壹丸 同断

一、金五拾兩也 受取

同^一同 内ニ上中合印 貳袋入

外ニ書状彦通相添

添金 封印 三箇六袋也

福嶋屋佐右衛門殿^ら受取

大石田 設楽治郎右衛門殿

ちん貳朱卜五百文

酒田 根上 文 藏殿

未十二月二日出し

敦賀 田保 孫右衛門殿

御飛脚 富吉

塩津 仲村 佐右衛門殿

金次郎

大津 白銀屋 陸 助殿

申正月五日出し

一、金貳拾兩也 外ニ書状彦通

ちん三百文 相渡し

京都 右衛門殿下し金子、山形佐治吉左衛門殿と相届

ク

申二月六日着

京都

大津 川口 弥藏殿

綿屋勇藏殿行

右壳附左二出し

未^〇分

紅花荷物送手板

十一月晦日切

済

〇ト

紅花拾七袋入 式丸
京着五拾式兩かへ

トヒ 三拾九兩かへ

四箇附 片馬式袋

封印

金壹分式朱 送添金

未^〇分

紅花荷物送手板

御出判 壹通相添

大石田 設樂治郎右衛門殿

〇ト

紅花拾七袋入 壹丸
京着五拾式兩かへ

酒田 本間 幸四郎殿

同同

合拾八袋入 壹丸
同断

敦賀 丸屋 半助殿

塩津 仲村 佐右衛門殿

内二〇雨吉印 九袋入

四箇附 片馬三袋也

封印

金巻分式朱也 送添金

御出判 壺通相添

大石田 設楽治郎右衛門殿

酒田 大沼平八殿

敦賀 田保 孫右衛門殿

塩津 仲村 佐右衛門殿

大津 白銀屋 陸助殿

京都

綿屋勇藏殿行

未十二月六日出し 金子之儀ハ惣雨印之座ニ上ル

同月廿七日着

トヒ印 六十袋也 ト一八各三十八両かへ

惣雨印 壺駄八袋 ト一八各三十三両かへ

雨吉印 九袋 ト一八各三十両かへ

十一月晦日切売附

濟

未浅吉為替元組

未七月十三日

一、紅花 九拾八袋ト九拾両

此引實金六拾両也

内

金三兩也

海上請合

金三兩也

未七月分ハ十月迄、四ヶ月分利

足

壺メ百廿五文

沢畑ハ大石田迄送り實

三匁

御出判料

代三百三十文

三百文

荷送り實

三百文

蕙六枚代

三百文

大なわ六巴代

百八拾文 花筵四枚、菰六枚、すりなわ六巴

代

未七月二日

此り 式百九拾四文 未六月卷ケ月分

百文

酒代、飯代、原表代

六メ文

古米四表代

金壹両貳分也

大石田先添金

未七月五日

金五兩ト拾メ文

未六月九日渡し

三メ文

古米貳表代

此り 六百四拾文 未六月卷ケ月分

金七兩也

未七月五日渡し

未六月九日

七百文

染下巻反代

金五兩也

未七月十一日渡し

金五兩ト貳拾メ文 未六月十八日渡し

未十二月十六日改

金六兩卷分ト

去午ノ御年賣金

此り 七百九拾文 未六月卷ケ月分

七十九文

未六月十八日

四メ五百文

古米三表代

右ハ去午ノ小前方御年賣、並仁平次方御年賣共、但し名細書相渡し

金拾兩也

未七月廿二日渡し

メ金五拾八兩三分ト

此り 九百八拾卷文 未六月卷ケ月分

五拾四メ百拾九文

未六月廿三日

四メ五百文

古米三表代

合而金六拾七兩也

此金八兩三分也

金三兩也

未六月廿九日渡し

かし

右江上方仕切入 但し四拾両かへ

金六拾壹兩壹分貳朱也

差引而

金五兩貳分貳朱也 不足

申此り 金五分卜丁五匁六分

元利

ノ金六兩壹分

丁銀拾三匁壹分

酉十月廿三日済

ノ 皆済

未才三郎為替取組

未七月十三日

一、紅花 六拾袋也

此為替金三拾三兩也

内

金壹兩貳分卜

海上請合

九百八拾壹文

金壹兩貳分卜

未七月と十月迄

九百八拾壹文

ノ四ヶ月分利足

六百五十文

沢畑と大石田迄送り賃

貳百六文

御出判料

金壹兩也

大石田にて送り添金

貳百文

荷送り賃

貳百文

蕨四枚代

貳百文

大なわ四巴代

百貳拾文

すりなわ・こも・花蕨代

六拾七文

酒代・飯代・原表代

両かへ壹メ六百四十文

拾メ文

未六月五日渡し

此り百五拾文 未六月壹ヶ月分

未六月八日

金三兩壹分貳朱也

天草貳本代、新左衛門と渡り

此り三百三拾壹文 未六月壹ヶ月分

金五兩ト五メ文 未六月廿二日渡し

此り五百六拾五文 未六月壹ヶ月分

金五兩也 未六月廿四日渡し

此り四百九拾文 未六月壹ヶ月分

金拾兩也 未七月十二日渡し

金三兩也 未七月十四日直渡し

金三拾三兩壹分貳朱ト

四百六拾壹文

かし、先仕切ニ出ス

引而金三拾五兩貳分貳朱也

内

一、金三拾三兩壹分貳朱ト

四百六十壹文

一、金三分ト

銀五匁六厘貳毛

一、銀三匁五分四厘

一、同六匁八分四厘

一、同八匁三分

小以金三拾四兩貳分ト

五百九十七文

差引金壹兩ト

貳百廿八文

此分未ノ書出帳ニ上ル

申七月廿八日改

濟

仕切控

未十一月晦日切

一、金三拾六兩貳分ト 三十九兩替也

銀三匁七分五厘 利ト印拾七入三丸九袋

内金三分貳朱ト 一口錢引

銀三匁七分五厘

為替貸附金也

廿兩壹分わり

未十一・十二貳ヶ月分

利

手板添金不足

上方より福嶋迄下しちん

福しまる当地迄着ちん

過

未三吉為替元組

未七月十三日

一、紅花九袋

此為替金五兩也

内

金巻分也

海上請合

金巻分也

未七月より十月迄、 \times 四ヶ月分利

百弍十文

沢畑より大石田迄送りちん

三十巻文

御出判料

九百弍拾文

大石田先送ちん

七百五文

荷造大なわ、荷蕙代

十五文

すりなわ、花蕙、飯代、酒代

金弍兩也

六月廿二日渡し

此り百九拾七文

未六月巻ケ月分

兩かへ巻 \times 六百四十文

金弍兩ト拾メ文

未六月廿日渡し

此り三百四十七文

六月巻ケ月分

未七月八日改

入巻 \times 三百九拾弍文 生花代差引、過錢預り

此分未書出帳上ル

百弍拾八文 手板不足

\times 金六兩巻分ト

三百五拾巻文

かし、先江出ス、仕切表

仕切控

一、金四兩巻分ト

未十一月晦日切

三十巻兩かへ

銀六匁五分五厘 ㊦雨吉印九袋

内弍朱ト九分四厘 ト一口銭引

引金四兩弍朱ト

銀五匁六分弍厘

内

一、金六兩巻分ト

為替貸附金也

三百五十巻文

一、銀五匁六分弍厘五毛 廿兩巻分ノわり

壹両壹分ノ利、未七月迄十二月迄六ヶ
月分

一、貳朱也

金五両ノ利、未十一・十

二式ヶ月分

一、銀八分壹厘

上方と福嶋迄下しちん

一、同九分八厘

福嶋と当着ちん

小以金六両貳分ト

三百四十壹文

差引金貳両壹分ト

不足かし

五百四十八文

此分未ノ書出帳ニ上ル

申七月廿八日改

未(分)

紅花荷物送手板

飛雨 京着五拾貳両かへ
紅花拾六袋入 貳丸

同同 合拾六袋入 同断 壹丸

内二舎印式袋入 (分)

四箇付 三丸

封印

金貳分式朱 大石田先添金

御出判 壹通相添

大石田 設染次郎右衛門殿

酒田 本間 幸四郎殿

敦賀 田保 孫右衛門殿

塩津 仲村 佐右衛門殿

大津 川口 弥 蔵殿

京都

近江屋佐助殿行

七月廿日出し

(分)

飛雨貳丸十四袋 未十二月晦日切、申正月二日着

①分 但し四十壹両かへ

舎貳袋也 右同断

但し三十五両かへ

右金左二控

済

未久之助為替取組

一、紅花四拾六袋也

外ニ①分貳袋造合

四拾八袋也

此為替金貳拾八両也

内

金壹兩壹分卜 海上金

丁銀九匁

金壹兩壹分卜 未七月より十月迄

丁銀九匁 四ヶ月利足

銀壹匁五分 御出判料

金五両也 未六月八日渡ス

此り銀四匁五分 六月壹ヶ月分

金貳両也 未六月廿一日渡

此り銀壹匁八分 六月壹ヶ月分

金三両也 未六月廿三日渡ス

此り銀貳匁七分 六月壹ヶ月分

金三両也 未七月十九日渡ス

金貳両也 未七月廿一日渡ス

金八両也 未七月廿四日渡ス

金貳両也 未七月廿八日渡ス

金貳拾七兩三分貳朱卜

六匁

かし

此分先仕切表ニ出ス

仕切控

未十二月晦日切

四十壹兩替也

一、金貳拾九兩壹分貳朱ト [判]飛雨印拾六入貳丸

銀五匁六分貳厘 拾四袋

一、金壹兩ト 三十五兩かへ

銀五匁六分貳厘 同さし 貳袋

〆金三拾兩貳分ト 〆拾六入三丸

銀三匁七分四厘

内

一、金貳拾七兩三分貳朱ト 為替貸附金

銀六匁

一、同壹分ト 未十一月壹ヶ月分利

銀六匁 廿兩壹分ノわり

一、同貳分ト 上方利足廿五兩壹分わり

銀三匁六分 未ノ十一・十二貳ヶ月分

立替分

一、銀拾壹匁壹分 手板添金不足

一、同四匁六分八厘 上方方福しま迄下しちん

一、同六匁九分貳厘 福しま方当地迄着ちん

小以〆金貳拾九兩壹分ト

銀八分

差引金壹兩壹分ト 過

銀貳匁九分四厘

此分未ノ書出帳ニ上ル

申七月廿八日改

〆 濟

未位三七〇

紅花荷物送手板

〆大 京着三拾六兩かへ

〆一 紅花拾八袋入 四丸

〆四箇附壹駄八袋也

封印

金三分貳朱也 大石田先添金

御出判 壹通相添

〆大石田 設楽治郎右衛門殿

酒田 鏡屋 惣右衛門殿
敦賀 丸屋 半助殿
未七月廿六日出し

塩津 仲村 佐右衛門殿
大津 川口 弥蔵殿

京都

上 伊勢屋利右衛門殿行

未紅花荷物送手板

〔判〕紅梅 京着三拾四両かへ
紅花拾八袋入 四丸

四箇附忝駄八袋也

封印

金三分式朱也 大石田先添金

御出判 忝通相添

大石田 設楽治郎右衛門殿

酒田 根上文 蔵殿

京都

上 若山屋喜右衛門殿行

未七月廿六日出し

未紅花荷物送り手板

〔判〕惣雨 京着三拾七両かへ
拾七袋入 八丸

四箇附忝式拾八袋也

封印

金壹兩三分也 大石田先添金

御出判 忝通相添

大石田 設楽治郎右衛門殿

酒田 本間 幸四郎殿

敦賀 田保 孫右衛門殿

塩津 仲村 佐右衛門殿
大津 白銀屋 陸 助殿

京都

伊勢屋源助殿行

未七月廿六日出し

申四月晦日切 忝拾八兩かへ

申五月十一日出し

一、金五拾八兩三分ト 外ニ書状老通

銀老匁式分四厘

ちん 忝朱ト忝百文

右京都伊勢源殿任切金、福嶋屋佐右衛門殿ト髓ニ受取申

候 飛脚 松之助殿

申五月廿四日

可決

未紅花荷物送り手板

京着三拾七兩かへ
雨 拾八袋入 四丸

四箇附 忝駄八袋也

封印

金三分式朱也 大石田先添金

御出判 忝通相添

大石田 設楽治郎右衛門殿

酒田 大沼 平 八殿

敦賀 丸屋 半 助殿

塩津 仲村 佐右衛門殿

大津 白銀屋 陸 助殿

京都

綿屋勇藏殿行

未七月廿六日出し

十一月晦日切 三十四兩かへ

福嶋ト此地迄金老分ト三百文払

未十二月廿七日着

一、金七拾六兩ト 改請取

錢七百四拾四文

外ニ書状相添 未十二月二日出し

右綿勇殿下り金子、嶋屋佐衛門殿も相届ク

御飛脚 富 吉

金治郎

ノ 濟

未紅花荷物送り手板

ノ 極 京着二十五両式分かへ
拾七袋入 四丸

ノ 四箇附 老駄四袋也

封印

金三分式朱也 大石田先添金

御出判 老通相添

ノ 大石田 設樂治郎右衛門殿

酒田 鏡屋 惣右衛門殿

敦賀 丸 屋 半 助殿

塩津 仲村 佐右衛門殿

大津 川 口 弥 蔵殿

京都

近江屋佐助殿行

未七月廿六日出し

太極上十四入四丸

未十二月晦日切、三十三両かへ

一、金五拾兩也 改受取

外ニ書状老通相添

福嶋も当地江ちん式朱ト三百文私

右ハ京都近江屋佐助殿下り金子、慥ニ受取申候、以上

未十一月五日出し

同十二月四日着

飛脚 林 蔵様
十次郎様

申正月五日出し

一、金拾四両也 外ニ書状壹通

ちん五百文 福嶋を当地迄分相払

右ハ京都近佐殿下リ金子、福嶋佐右衛門殿と相届ク

申二月六日着

飛脚 和 助殿

留 吉殿

相済

御出判 壹通相添

大石田 設楽治郎右衛門殿

酒田 根上文 蔵殿

敦賀 丸屋半 助殿

塩津 仲村 佐右衛門殿

大津 川口 弥 蔵殿

京都

上 伊勢屋利右衛門殿行

未七月廿六日出し

位三六式

未紅花荷物送り手板

京着三拾五両式分かへ

利極 拾七袋入 四丸

四箇附 壹駄四袋也

封印

金三分式朱也

大石田先添金

未紅花荷物送り手板

京着三十八両かへ

利玉 拾七袋入 貳丸

同 拾八袋入 貳丸

同 同断

封印

四箇附 壹駄六袋也

金三分貳朱也

大石田先添金

御出判

老通相添

大石田 設楽治郎右衛門殿

酒田 本 間 幸四郎殿

敦賀 田保 孫右衛門殿

塩津 仲村 佐右衛門殿

大津 白銀屋 陸 助殿

京都

村山屋半四郎殿行

未七月廿六日出し

右申正月晦日切売附參ル

三拾貳両かへ

覚

一、金三拾両也 封印儘ニ而

外ニ書状老通相添

福嶋を当地迄ちん貳朱相渡候

右者京都柴崎宗右衛門殿下り金子、十月十一日出し十一

月十六日相達慥ニ受取申候

未十一月十六日

福嶋印

嶋屋佐右衛門を

飛脚 和十郎殿

覚

申正月晦日切売附

一、金三兩貳分貳朱也 仕切金

外ニ書状老通相添

右者京都柴崎宗右衛門殿を仕切金、榎岡吉田勘右衛門殿

を受取申候

申二月八日出し

同四月五日着 甚夕延着

濟

未紅花荷物送り手板

雨 京着三拾貳両かへ
大 貳拾袋入 貳丸

四箇附 片馬八袋也

封印

金貳歩也

大石田先添金

御出判

老通相添

大石田 設楽治郎右衛門殿

酒田 大沼 平 八殿

敦賀 丸屋 半 助殿

塩津 仲村 佐右衛門殿

大津 川口 弥 藏殿

大坂

近江屋安次郎殿行

未七月廿六日出し

未五月十四日書

一、金貳朱ト

去午紅花代下し由

丁銀貳分三厘

差引過金かし

一、金壹分ト

五十兩分五月壹ヶ月分

永拾匁

七朱利足

未十月四日出

福嶋を当地迄五百文相渡ス

一、金拾五兩也

外ニ書状老通

右者福嶋京屋弥兵衛殿を相届ク

未十月廿二日八ツ時着

紅花荷物送手板

雨 京着三拾六両かへ

貳拾三袋入 貳丸

内ニ合印老丸之内ニ、上々ちり花壹袋入

四箇附 片馬拾四袋也

封印

金貳分也

大石田先添金

御出判

老通相添

大石田

設楽次郎右衛門殿

酒田 本間 幸四郎殿

敦賀 田保 孫右衛門殿

塩津 仲村 佐右衛門殿

大津 川口 弥 蔵殿

京都

綿屋勇蔵殿行

八月六日出し

(貼紙)

覚

一、金三両老步式朱

五拾八文

右者破船諸掛金槌ニ請取申所美正ニ御座候、以上

未十月十一日

仲間飛脚

市三郎

堀米四郎兵衛殿

一、永拾四匁四分四厘

右者破船紅花式丸敦賀迄運ちん立かへ分、槌ニ受取申候、

以上

本間 幸四郎

申五月晦日切、正味式拾四両かへ参ル

五月十二日出、六月十二日着

申五月晦日出し

一、金拾四両式朱ト

六匁壹分

福嶋ちん四百文 相渡し

右者京都綿屋勇蔵殿に仕切金、嶋屋佐右衛門殿に相届ク

飛脚 甚次郎殿

嘉 吉殿

申五月晦日切

式十五両かへ

済

申紅花荷物送手板

申紅梅 京着三拾四兩上り 拾七袋入 四丸

但し四箇附 壹駄四袋也

封印

一、金三分也 送添金也

一、御出判 壹通相添

大石田 設楽次郎右衛門殿

七月廿一日 酒田 本間 幸四郎殿

敦賀 丸屋半 助殿

塩津 仲村佐右衛門殿

大津 川口弥 蔵殿

京都

上 近江屋佐助殿行

中間物 四

申十月七日出し

一、金六拾兩也 外二書状壹通

ちん金壹分式朱ト

三百文

外二四十五兩村半分下り 飛脚嘉吉殿 壹人
兩人ト右ちん二而則先ニ出ス

右者近佐殿下り金子、嶋屋佐右衛門殿ト相届ク

申十一月五日着

申紅花荷物送手板

申紅梅 京着三拾三兩上り 拾八袋入 四丸

但し四箇附 壹駄八袋也

封印

一、金三分也 送添金

一、御出判 壹通相添

大石田 設楽次郎右衛門殿

酒田 本間 幸四郎殿

敦賀 丸屋半 助殿

右者大坂近安殿下り金子、山形山村屋茂八殿と相届ク

閏八月廿二日出し

山形飛脚

大坂

九月十九日

平吉殿

上 近江屋安次郎殿行

ちん七百六拾文

相払

中間物 三九

(別紙)

覚

一、金貳拾五両也 大坂 近安殿代

添状老通

五
紅

拾六袋入

四丸

福嶋方御地迄 七百六拾文

但し四箇附 老駄也

右之通昨日着仕候間、御届ケ申上候、御改御受取可被下

候、尤實錢御渡し可被下候、以上

申九月十九日

山村屋茂八

沢畑 堀米四郎兵衛殿

大石田

設楽次郎右衛門殿

一、金貳拾五両也

封印二而

外ニ書状老通相添

敦賀

田保 孫右衛門殿

酒田

根上 善平殿

塩津

仲村 佐右衛門殿

大津

白銀屋 陸助殿

京都

上 村山屋半四郎殿

中間物 四巻

申十月十一日出し

一、金四拾五兩也 外ニ書状老通

ちん金巻分式朱ト三百文

近佐殿分共ニ右ちんニ而相下リ、則近佐長面(巻)に印

福嶋 飛脚嘉吉殿

右者京都村山屋半四郎殿より下リ金子、嶋屋佐右衛門殿より

届ク

申十一月五日着

封印

一、金三分也 大石田先添金

一、御出判 老通相添

大石田 設楽治郎右衛門殿

酒田 根 上 善 平殿

敦賀 田保 孫右衛門殿

塩津 仲村 佐右衛門殿

大津 白銀屋 陸 助殿

京都

上 伊勢屋利右衛門殿行

中間物 三九

申紅花荷物送手板

大 京着二十四兩上リ

拾七袋入 老丸

極上 京着二十四兩上リ 拾七袋入 四丸 但し四箇附 老駄四袋也

同同 拾八袋入 壹丸

四箇附 片馬三袋也

封印

一、金貳分也 送添金

一、御出判 壹通相添

大石田 設樂治郎右衛門殿

酒田 根上 善平殿

敦賀 田保 孫右衛門殿

塩津 仲村 佐右衛門殿

大津 白銀屋 陸助殿

大坂

上 嶋屋清兵衛殿行

中間物 三六

申紅花荷物送手板

京着三十六兩上り

引仕 拾八袋入 八丸

四箇附 貳駄壹丸

封印

一、金壹兩三分也 送添金

一、御出判 壹通相添

大石田 設樂治郎右衛門殿

酒田 本間 幸四郎殿

敦賀 田保 孫右衛門殿

塩津 仲村 佐右衛門殿

大津 白銀屋 陸助殿

京都

上 綿屋勇藏殿行

中間物 四四

此ちん金壹兩貳分貳朱卜、福嶋を当地迄四百八拾六文

一、金三百兩也 申十二月二日出し

此ちん金壹兩也、右同断

一、金百兩也 申十二月五日出し

金四百兩也 封印儘二而

外二書状式通相添

右者京都綿屋勇藏殿と下り金子、福嶋佐右衛門殿と相届

ク

申極月廿七日着

福嶋飛脚 林 藏殿

銀兵衛殿

堀米四郎兵衛様

嶋屋佐右衛門 ㊦

申紅花荷物送手板

可仕 入 京着二十六兩上り 拾八袋入 八丸

四箇附 式駄巻丸

封印

一、金巻兩三分也 送添金

一、御出判 巻通相添

一、金巻兩式分式朱ト 綿勇様と金三百兩也

四百八十六文 書状

一、金巻歩也 右同 金百兩也

金巻兩式分式朱ト

四百八十六文

右之通り質銀髓ニ受取申候、以上

十二月廿三日

京都

上 伊勢屋源助殿行

大石田 設業次郎右衛門殿

酒田 大 沼 平 八殿

敦賀 丸 屋 半 助殿

塩津 仲村 佐右衛門殿

大津 川 口 弥 藏殿

中間物 四四

〔別紙〕

覚

一、三百文 金拾五兩也

書状彦通

一、貳百文 右福嶋ら山形迄之届實

山形ら御当地迄ちん受取申候

右之通髓二御受取申候、尤山形ら之届ちんも、先払二御

座候間、御払可被下候、以上

未十月廿日

京屋弥兵衛 印

谷地 堀米四郎兵衛殿

〔別紙〕

覚

一、金拾四兩也 京都近江屋佐助殿ら

此實五百文

右者福嶋ら当所迄實錢、髓二受取申候

二月六日 鳴屋飛脚 利助

富吉 印

四郎兵衛様

内楯 三吉殿為替取組

舎極 紅花拾七入 但し權作仕入 四丸

若山殿喜右衛門殿行

此為替金貳拾五兩也

此海上請合金壹兩壹分也

此利金三分ト拾彦匁貳分五厘

閏八月ら十月迄ら三ヶ月分

合金貳拾七兩ト かし

丁銀拾壹匁五分五厘

但し十一月より利付、是ハ為替かし分

此り三兩式分ト

拾四匁式歩五厘

申十一月より西九月迄、 \times 十匁ヶ月分

外ニ別格証文かし付分

西八月廿三日改

内格付

金三拾三兩也 同人直かし

但し閏八月より利付分

但し為替なし、証文かし之分

此り五兩三分ト壹匁五分

申閏八月より西九月迄、 \times 十四ヶ月分

申十月七日

酉

入金三拾兩也 喜内受取

右ハ若山喜右衛門殿下り金二見トル分

此り四兩式分、申十月より西九月迄十二ヶ月分

西八月三日
入金三兩也

直請取

彼是差引過金等ニ而

此り四匁五分、酉八・九 \times 二ヶ月分

酉九月五日

入金五兩也 直請取 但金錢ニ而

此り三匁七分五厘

酉九月壹ヶ月分

右差引而

金式拾七兩三匁七分五厘 不足

此錢四百十式文

外ニ金式兩ト壹 \times 式百八十八文

当座長かし

\times 金式拾九兩壹 \times 七百文

内壹 \times 七百四十文

当座長かし、酒三度から表共引

引残り金式拾九兩之内 不足

四十文返り

内金式拾壹兩式分 只今受取

金七兩壹分壹 \times 六百十文

此分土蔵不残、並ニ此方ニ而預り置候

しんちゅう、かなく共買受代二而済

酉十月七日晚立合済

則差引書相渡し

右為替証文相返ス

京都

上 伊勢屋利右衛門殿行

四五

申荷物送手板

利国 京着三十七兩上り
拾六袋入 四丸

四箇附 壹駄也

封印

一、金三分也 送添金

一、御出判 彦通相添

大石田 設楽次郎右衛門殿

七月廿六日 酒田 本間 幸四郎殿
出し

敦賀 丸屋 半助殿

塩津 仲村 佐右衛門殿

大津 川口 弥藏殿

申荷物送手板

利飛切 京着二十三兩上り
拾七入 四丸

壹駄 四袋也

封印

一、金三分也 送添金

一、御出判 彦通相添

大石田 設楽次郎右衛門殿

酒田 本間 幸四郎殿

敦賀 丸屋 半助殿

塩津 仲村 佐右衛門殿

大津 川口 弥藏殿

京都

上 伊勢屋源助殿行

四

申荷物送手板

京着三十四兩上り

玉 錦 拾六入 四丸

四箇附 沓駄也

封印

一、金三分也

送添金

一、御出判

沓通相添

大石田 設楽治郎右衛門殿

酒田 根上 善兵衛殿

敦賀 田保 孫右衛門殿

塩津 仲村 佐右衛門殿

大津 川口 弥助殿

京都

上 若山屋喜右衛門殿行

四沓

申荷物送手板

京着三十三兩上り

本 紅 拾七入 四丸

沓駄 四袋也

封印

一、金三分也

送添金也

一、御出判

沓通相添

大石田 設楽次郎右衛門殿

酒田 根上 善平殿

敦賀 田保 孫右衛門殿

塩津 仲村 佐右衛門殿

大津 白銀屋 陸助殿

京都

上 村山屋半四郎殿行

四

申荷物送手板

丸
紅 京着三十五兩上り
拾六入 四丸

四箇附 壹駄也

封印

一、金三分也 送添金

一、御出判 壹通相添

大石田 設楽次郎右衛門殿

酒田 大沼 平 八殿

敦賀 田保 孫右衛門殿

塩津 仲村 佐右衛門殿

大津 白銀屋 陸 助殿

京都

上 近江屋佐助殿行

四式

申荷物送手板

雨
摘 京着三十三兩上式分上り
拾九入 貳丸

片馬 六袋也

封印

一、金貳分也 送添金

一、御出判 壹通相添

大石田 設楽次郎右衛門殿

酒田 大沼 平 八殿

敦賀 丸屋 半 助殿

塩津 仲村 佐右衛門殿

大津 白銀屋 陸 助殿

大坂

上 嶋屋清兵衛殿行

四

長瀬東屋御中間分

一、紅花 九駄壹丸三袋也

代金三百九兩卷分ト

錢卷×三百六拾四文

但し紅花代諸懸リ京都送添金共ニ

此分式ツ判 ナ 兩入

金百五拾四兩式分式朱ト

錢六百八拾式文 宛

東屋御手干分

一、三百拾袋 三百式拾五匁

此駄四駄三丸六袋ト

正ミ三百式拾五匁

此分四駄八分五厘三九〇 手折

代金百六拾兩ト

永拾七匁八分七厘

三拾三兩かへ

内

金百五拾四兩式分式朱ト

錢六百八拾式文

右中間乗金ニ而相渡ス

又金五兩卷分式朱ト

錢四百九拾七文

右者正金ニ而此度相渡ス

元ニ合 紅花代相濟

申七月廿三日

一、金五拾四兩式分也

右乗合紅花引当質シ

金式拾兩ニ卷分利かし、卷ケ月ニ

但し証文預リ置

申八月一日

一、金八拾五兩也

源藏殿御兩人ニ渡ス

右乗合紅花引質質シ

利足之儀ハ右同断証文預リ置

長瀬 庄六

使源藏渡ス

西荷物送手板

仕入

紅花拾七入 四丸

四箇附 壹駄四袋

封印

一、金三分式朱也 送添金

一、御出判 彦通相添

大石田 設楽次郎右衛門殿

酒田 大沼 平 八殿

敦賀 丸屋 半 助殿

塩津 中村 佐右衛門殿

大津 白銀屋 陸 助殿

京都

伊勢屋源助殿行

西七月十二日出し

戊正月五日出し

一、金四拾五両式朱卜

外二書状彦通

銀三匁六分式厘

福嶋より当地迄賃金壹分也払

右八京都伊勢源殿より下し金子、山形山村屋茂八殿より相届

ク

戌二月一日着 山村屋悴

平吉殿

一、彦 濟

東根三沢氏立合濟

(別紙)

一、金四拾五両式朱卜

彦通

銀三匁六分八厘

堀米四郎兵衛

添状彦通

福しまり当地迄 京都

金彦歩也

伊勢屋源助殿

西荷物送手板

口紅 拾八袋入 三丸

同同 拾九袋入 壹丸

四箇附 壹駄九袋也

封印

一、金三分貳朱也 送添金

一、御出判 壹通相添

大石田 設樂次郎右衛門殿

酒田 根上 善兵衛殿

敦賀 田保 孫右衛門殿

塩津 仲村 佐右衛門殿

大津 川口 弥藏殿

京都

近江屋佐助殿行

七月十二日出し

三沢氏立合相濟

酉荷物送手板

一 式拾袋入 八丸

四箇附 貳駄片馬

封印

一、金壹兩三分也 送添金

一、御出判 壹通相添

大石田 設樂次郎右衛門殿

酒田 本間 幸四郎殿

敦賀 丸屋 半助殿

塩津 仲村 佐右衛門殿

大津 川口 弥藏殿

京都

近江屋佐助殿行

酉七月十二日出し

酉九月二日出し

一、金六拾兩也 外ニ書状志通

右者近屋佐助殿下り金子、嶋屋佐右衛門殿を相届ク

福嶋^〆当地迄

式朱卜五百文相払

酉九月廿五日着

飛脚 幸吉殿

三沢氏立合相済

一、御出判

壹通相添

〆大石田 設楽次郎右衛門殿

右之賃銀髓ニ受取申候、已上

酉九月廿三日 鳴屋佐右衛門

堀米四郎兵衛殿

印

(別紙) 覚

一、式朱卜

近江や佐助殿^〆

五百文

金六拾兩入二有之

〆片馬三袋也

〆雨

紅花貳拾袋入

三丸

〆雨

合紅花拾九袋入

壹丸

内二雨吉印 四袋入

〆壹駄拾五袋入

封印

一、金壹兩貳分也 大石田先添金

亥年分

紅花荷物送手板

〆雨

紅花拾八袋入

壹丸

〆雨

紅花拾七袋入

壹丸

大石田 設楽治郎右衛門殿

亥七月 九日出し

酒田 根上 善兵衛殿

敦賀 田保 孫右衛門殿

塩津 仲村 佐右衛門殿

大津 川口 弥 蔵殿

京都

綿屋勇藏殿行

亥紅花荷物送手板

一、金壹兩貳分也 送添金

外二御出判 彦通相添

封印

大石田 設楽治郎右衛門殿

酒田 本間 幸四郎殿

敦賀 丸屋 半助殿

塩津 仲村 佐右衛門殿

大津 川口 弥藏殿

京都

伊勢屋源助殿行

亥七月十日出し

亥紅花荷物送手板

一、金壹兩貳分也 送添金

外二御出判 彦通相添

封印

大石田 設楽治郎右衛門殿

酒田 大沼 平八殿

敦賀 田保 孫右衛門殿

塩津 仲村 佐右衛門殿

大津 川口 弥藏殿

京都

伊勢屋利右衛門殿

亥七月十日

亥紅花荷物送手板

貳拾袋入 五丸

亥七月十日

亥七月十日

亥紅花荷物送手板

貳拾袋入 五丸

亥七月十日

亥紅花荷物送手板

亥七月十日

亥紅花荷物送手板

亥七月十日

〆 沓駄片馬四袋也

封印

一、金沓兩式朱也 送添金

外二御出判 沓通相添

〆 大石田 設樂治郎右衛門殿

酒田 根上 文 藏殿

敦賀 丸屋 半 助殿

塩津 仲村 佐右衛門殿

大津 川口 弥 藏殿

京都

綿屋勇藏殿行

亥七月十日出し

亥八月二日

右添金之内沓分也 設樂と帰ル

〆 沓駄片馬四袋也

封印

一、金沓兩式朱也 送添金

外二御出判 沓通相添

大石田 設樂治郎右衛門殿

酒田 本間 幸四郎殿

敦賀 田保 孫右衛門殿

塩津 仲村 佐右衛門殿

大津 川口 弥 藏殿

京都

若山屋喜右衛門殿行

亥七月十日出し

亥紅花荷物送手板

亥十月八日出、現金三十六兩

〆 高尾

亥紅花荷物送手板 亥十月八日出、現金三十六兩

右同断

〆 七ト

亥紅花荷物送手板 亥十月八日出、現金三十六兩

同同 貳拾貳袋入 壹丸

片馬拾三袋也

封印

一、金貳分也 送添金也

外二御出判 壹通相添

大石田 設樂治郎右衛門殿

酒田 大沼 平 八殿

敦賀 丸屋 半 助殿

塩津 仲村 佐右衛門殿

大津 川口 弥 藏殿

大坂

嶋屋清兵衛殿

亥七月十日出し

笹川久之助殿為替取組

一、紅花 拾八袋入 壹丸

一、同 拾七袋入 壹丸

紅花 三拾五袋也

此引質金拾六兩貳分也

かし

内

金三分卜四匁五分 海上

金三分卜四匁五分 七月より十月迄、四ヶ月分

金八兩也 花場渡し

銀七匁貳分 閏六月壹ヶ月分利

金貳兩也 七月二日渡し

金拾壹兩三分卜

壹匁貳分

差引而金四兩貳分貳朱卜

六匁三分 渡ス

亥七月十日改取組

吉田浅吉殿為替取組

一、紅花 貳拾袋入 三丸

一、同 拾九袋入 壹丸

金拾四兩三分ト

紅花壹駄拾五袋也

三十五文

渡ス

此引質金三拾五兩也

亥七月十日改相組

かし

内

金壹兩三分也

海上金

京都より下り金

金壹兩三分也

七月より十月迄

亥十月十二日出し

京都

入金貳拾五兩也 綿屋勇藏殿下り金子

金拾兩也

花場渡し

福嶋ちん金三朱也

銀九匁

閏六月壹ヶ月分利

京屋弥兵衛殿より相届ク

代九百九十文

拾メ文

花場渡し

亥十一月二日出、同廿二日着
入金四百貳拾五兩也

京都 綿屋勇藏殿より下り金子

百五十文

酉六月壹ヶ月分利

京都嶋屋佐右衛門殿より届ク

三百七拾五文

生酒五升代

飛脚

吉兵衛殿

金五兩也

亥七月八日渡し

新六殿

金貳拾兩ト

老メ六百拾五文

差引而

子年紅花荷物送手板

京都

引仕
入 紅花拾七入 貳丸

近江屋佐助殿行

引同
同 拾八入 壹丸

内ニ舎印八袋 三百目入

右三吉分送添金、並ニ出判袋繩筵其外一式、此方ニ而立替仕切勘定之節取べし

右ハ三吉殿分

残り四拾三袋也

子十二月七日出し

右ハ四郎兵衛分

一、金四拾貳両三分卜

三丸四袋也

六匁九分三厘

封印

山形村井清七殿江為替ニ而下ル

一、金貳分貳朱 大石田先送添金

右者天童佐藤喜兵衛様方受取

一、御出判壹通 相添也

丑二月廿日

大石田 設樂治郎右衛門

酒田 本 間 幸四郎

丑二月十二日 貫津 庄次郎 弘

敦賀 田保 孫右衛門

為替状ちん 弘

塩津 仲村 佐右衛門

丑二月廿八日

大津 塩屋 佐右衛門

三吉殿立合相濟

丑年八月十七日出し
紅花荷物送手板

㊦倚印 拾八袋入 四丸

同吉印 拾八袋入 四丸

㊦ 八丸

封印

金壹兩貳分也 送り添金

御出判 壹通 相添

㊦大石田 設楽治郎右衛門殿

酒田 鑑屋 惣右衛門殿

敦賀 田保 孫右衛門殿

塩津 中村 佐右衛門殿

大津 塩屋 佐右衛門殿

京都

伊勢屋源助殿行

丑年紅花荷物送手板

㊦登印 拾八袋入 四丸

同成印 拾八袋入 貳丸

同同印 拾七袋入 貳丸

㊦ 八丸

封印

金壹兩貳分也 送添金

御出判 壹通相添

㊦大石田 設楽次郎右衛門殿

酒田 本間 幸四郎殿

敦賀 丸屋 半助殿

塩津 仲村 佐右衛門殿

大津 塩屋 佐右衛門殿

京都

伊勢屋源助殿行

丑年紅花荷物送手板

㊦平印 拾六袋入 貳丸

同同印 拾七袋入 貳丸

同弥印 拾八袋入 三丸

同同印 拾九袋入 貳丸

九丸

封印

金壹兩三分也 送添金

御出判 老通相添

大石田 設業治郎右衛門殿

酒田 大沼 平 八殿

敦賀 田保 孫右衛門殿

塩津 仲村 佐右衛門殿

大津 塩屋 佐右衛門殿

京都

伊勢屋源助殿行

丑年分

紅花荷物送手板

丁印 拾九袋入 四丸

同同印 貳拾袋入 貳丸

六丸

封印

金壹兩貳朱也 送添金

御出判 老通相添

大石田 設業次郎右衛門殿

酒田 本間 幸四郎殿

敦賀 田保 孫右衛門殿

塩津 仲村 佐右衛門殿

大津 塩屋 佐右衛門殿

京都

伊勢屋源助殿行

丑年紅花荷物送手板

堀印 拾八袋入 三丸

同同印 拾九袋入 壹丸

同羽印 拾八袋入 壹丸

同同印 拾九袋入 三丸

八丸

封印

金壹兩貳分也 送添金

御出判 老通相添

大石田 設染治郎右衛門殿

酒田 根 上 善 平殿

敦賀 丸 屋 半 助殿

塩津 仲村 佐右衛門殿

大津 塩屋 佐右衛門殿

京都

伊勢屋源助殿行

山形佐治吉^(マツ)左右衛門様御分
控
上方為登紅花荷為替分

一、紅花 拾六袋入 貳丸

一、同 拾七袋入 四丸

一、同 拾八袋入 貳拾壹丸

一、同 拾九袋入 拾丸

一、同 貳拾袋入 貳丸

三拾九丸 但し七百八袋

此駄 拾壹駄四袋也

此為替金三百三拾五兩也

月壹割五分 貸附

但し丑十一月迄ノ利足相濟、九・十・十一ノ三ヶ

月分

海陸其外何事諸難此方差構無御座候、以上

右者为替取組任御差圖、京都伊勢屋源助殿ニ為差登申候、尤右荷物二付、海陸之難其外問屋漬、何様之諸難出来候共、此方ニ而ハ何之差構無御座候、依之海上其外諸難之受合金受取不申候、然ル上者右金三百三拾五兩、当丑十一月晦日切無相違御返済可被成、約定相違無御座候、以上

外二

金百五拾兩也 当丑正月証文ニ而貸付分

是ハ為替ニ入不申候

此利金拾六兩貳分也

但當丑正月ノ同十一月迄

ノ十一ヶ月分、月壹割也

惣ノ金五百壹兩貳分也

内金壹兩貳分 今般受取

引残而金五百兩也

右之通り為替金並ニ當正月貸附金共、書面之通り、都

合金五百兩也、御約束之通り當丑十一月晦日切、無相

違御返済可被成候、然ル上者右紅花無難ニ京着仕候

ハ、於其地少茂無相違相渡し可申候、以上

沢畑村 堀米四郎兵衛

文政十二年

丑八月廿日

佐治吉左衛門殿

同 三之助殿

覚

金五百兩之内

一、金四百九拾七兩

壹分貳朱也

福嶋方当地迄ちん

金壹兩貳分也

下しちん

金壹分貳朱也

雪中まし

ノ金壹兩三分貳朱也

相渡し

右十一月四日出し

同十一月廿九日着

右者京都伊勢屋源助殿ノ下り金子、福嶋京屋弥兵衛殿ノ

相届ク、慥ニ受取申候

御飛脚 久八殿

同 文治殿

丑十二月六日

○金四兩貳分也

山形佐治吉左衛門様方

文吉兵衛持帰ル

○印

金五百壹兩三分式朱也 請取

此表無出入相濟申候、以上

一、金九拾兩也 丑八月中紅花引質

かし付金也

一、金壹兩壹分ト 右九拾兩之利足

六匁 八月壹ヶ月分

一、七百文 花筵五拾枚

一、百文 すりなわ壹速

一、四百七拾文 たわら四十七表

一、七拾文 らうそく七丁

一、六百九拾五文 花袋 三十

一、百文 荷すミ

一、百文 谷地ニ而三之助様ニかし

一、貳百七拾三文 荷付板三十九枚

一、拾九匁五分 御出判

一、八百文 荷才料大石田行式人

一、貳百文 なわ筵ノたちん立替

一、五十文 紙代

一、金壹兩貳分也 為替書付之面端金ノ分

金五百拾九兩貳朱ト

佐治吉左衛門様

差引之控

一、金拾五兩ト 紅花荷為替貸附金

四匁五分 三百三拾五兩ノ利足也

但し当丑九・十・十一ノ三ヶ月分、月割五分定

一、金三百六拾六兩也 丑七月中紅花引当

貸附金也

一、金拾兩三分式朱ト 右三百六拾六兩利足へ

六匁三分 当丑七・八ノ貳ヶ月分

一、金三拾四兩也 丑七月中紅花引質

かし付金也

一、金貳分ト 右三拾四兩ノ利足

六分 八月壹ヶ月分

丁銀三拾六匁九分

三×五百五拾八文

此金壹兩貳朱卜

三百拾四文

合而金五百貳拾兩壹分卜

三百拾四文

兩かへ卷×五百九十文

内

金三百三拾五兩也 紅花荷為替貸附金也

金三拾兩也 丑八月十五日正金受取

金四拾兩也 紅花六拾八袋引質

貸附金也

金四拾五兩也 当八月晦日切無利足かし

×金四百五拾兩也

差引而

金七拾兩壹分卜 今般受取

三百拾四文

右之通り差引殘金七拾兩壹分三百拾四文受取申処、如此

御座候、以上

沢畑村 四郎兵衛

文政十二年丑八月廿日

山形 吉左衛門殿

天保五年午七月十八日出シ

紅花荷物送手板控

一^国入^入 紅花拾八袋入 六丸

内二正ミ貳百五拾匁袋 壹袋入

但し壹駄片馬拾壹袋

正ミ貳百五拾匁

封印

金壹兩貳分也 添金

外二御出判 壹通

大石田 富樫 久兵衛

酒田 大沼 平八

敦賀 田保孫右衛門

塩津 中村佐右衛門

大津 若狭屋六兵衛

京都

近江屋佐助殿行

右国一印拾八袋入六丸、未五月晦日切ニ売附手紙同五月十三日出し、同六月十六日与藏方与相届ク

利

右仕切金七拾九両三分式朱也

外④金拾六両壹分式朱也 榎藤分入

合金九拾六両壹分也

此賃金壹分三朱也 福嶋方当地迄ちん

右者京都近江屋佐助殿下金、今般髓ニ請取申処実正ニ御座候、以上

四郎兵衛

天保六年未閏七月廿日着

但し同七月廿二日出し

福嶋御飛脚 嘉兵衛殿

同 徳兵衛殿

京屋弥兵衛殿

(別紙) 覚

下り金高 初七月廿二日御出
一、金九拾六両壹分也 閏七月廿日着

此賃銀貳拾六匁貳分五厘

福嶋方当地迄賃銀也

掛目安

壹分二付六八式

右ノ内訳

未閏七月廿一日吉兵衛ニ持せる

金拾六両壹分式朱 藤左右門分

此切六拾五切半

此賃銀四匁四分六厘七毛

外二百文 御届賃

金七拾九兩三分式朱 四郎兵衛分

此切三百拾九切半

此質銀貳拾壹匁七分八厘九

質銀貳拾六匁貳分五厘

嶋方当地迄之質銀四匁四分六厘七毛、外二百文相渡申候、
為念受取書如此ニ御座候、以上

未閏七月廿一日 榎藤左衛門

④

堀米四郎兵衛殿

未閏七月廿一日

一、金拾六兩壹分貳式朱也 榎藤殿ニ遣し

右吉兵衛ヲ以差遣し、外ニ書状老通相添

但し福嶋方当地迄ちん割

丁銀四匁四分六厘七毛

外ニ錢百文 沢畑方御届質

○紅花荷物送手板控

一 拾七入 四丸

同 拾六入 壹丸

同 極上八袋 拾六入 壹丸

八丸

封印 銘々三ヶ所

一、金壹兩貳式步也 大石田より添金

手板式通

大石田 富樫 久兵衛殿

酒田 大沼 平八殿

敦賀 田保孫右衛門殿

(別紙) 覚

一、金拾六兩壹分貳式朱

外ニ添書状 老通

右者京都近江屋佐助殿方之下り金、慥ニ受取申候、尤福

塩津 中村佐右衛門殿

大津 油屋 作兵衛殿

京都

伊勢屋理右衛門殿行

兵七殿

専助殿

栄助殿

弘化四年未七月
○紅花荷物送手板控

同国 拾七袋入 四丸

同仕 拾七袋入 式丸

同仕 拾六袋入 式丸

同仕入八袋 極上八袋 拾六袋入 壹丸

八丸

封印 銘々三ヶ所

一、金壹兩貳歩也 大石田より添金

手板式通 相添

大石田 富樫 久兵衛殿

酒田 大沼 平八殿

敦賀 田保孫右衛門殿

塩津 中村佐右衛門殿

大津 油屋 作兵衛殿

京都

伊勢屋理右衛門殿行

兵七殿

専助殿

栄助殿

弘化七月十七日出し

未紅花荷物送手板

京着四十疋両

引仕 拾七袋入 四丸

同仕入九袋 極上八袋 拾七袋入 壹丸

五丸 壹駄貳拾壹袋

封印 銘々三ヶ所

一、金三分 大石田より添金

御出判 壹通

同文体

最上沢畑荷主

未七月十七日 堀米四郎兵衛

大石田 富樫 久兵衛殿

酒田 大沼 平八殿

敦賀 田保孫右衛門殿

塩津 中村佐右衛門殿

大津 油屋 作兵衛殿

伊勢屋理右衛門殿

兵七殿

専助殿

栄助殿

紅花送状

引 拾七入 貳駄壹丸

増九袋

一、壹メ八百文 添銭

手通 貳通

御出判 壹通

右之通大石田江差下し申候間、着之砌御改御請取早々先
き江御送届ケ可被下候、尤駄賃之義者、右添銭之内より
御請取可被下候、為其送状依而如件

未七月

沢畑荷主 堀米四郎兵衛

御出判 壹通

野田宿

金三分也 大石田より添金

六田宿

同文体 手板式枚

楯岡宿

最上沢畑荷主

土生田宿

堀米四郎兵衛

㊦

大石田

大石田 富樫 久兵衛殿

富樫久兵衛殿行

酒田 大沼平八殿

敦賀 田保孫右衛門殿

塩津 中村佐右衛門殿

大津 油屋 作兵衛殿

京都

伊勢屋源助殿行

弘四年八月九日出し
未紅花荷物送手板

一、雨 拾九袋入

京着三十五両かへ
壹丸

一、雨 拾六袋
上々 三袋 雨 拾九袋入 壹丸

一、同飛 拾九袋入 同 式丸

雨 壹駄拾貳袋

封印 銘々三ヶ所

(別紙) 覚

雨 紅花十九入 壹丸

同 雨吉十六 同合十九入 壹丸
上々三

伊勢源殿行

添金壹歩貳朱

同飛 同 十九入 貳丸

同切 同人殿行

添金壹歩貳朱

合四箇

送板 貳通

添金 三步

御出判壹通

酒田大沼向

外ニ添状 壹通

右之通健ニ受取申候、以上

大石田 富樫久兵衛 印

未八月九日

沢畑 堀米四郎兵衛殿

(別紙)

「御才料帰リニ付一筆啓上仕候、秋冷罷成候所、御家内様益御勇健ニ被遊御座、珍重之御儀ニ奉存候、然ハ先達而御差向被成下候、紅花、積送り左ニ申上候

紅花 四丸

いせ利殿行

添金付

同仕入 極上 五丸

同人行

同断

合九箇 送り手板貳通

添金付

七月廿一日 当所 長八船

右之通積送り申候

此度四箇御差向被成下候分、早々積送り候様可仕候、直様川船所積船奉願上候、以上

富樫久兵衛 印

八月九日

堀米四郎兵衛様

日限り野村や殿分ニ、表や庄右衛門殿方江此手形引替御
渡可被下候、為念手形如件

弘化四未年

羽州最上沢畑

十月

四郎兵衛

印

封印

最上沢畑荷主堀米四郎兵衛

吉雨 大極上最上紅花正 五百目袋拾九入

京都

伊勢屋源助殿行

是八荷封板控

次印 伊勢や利右衛門殿
同印 伊勢や源助殿

右同替共笹川宇兵衛殿ニ御頼申上候ニ付、写相渡ス

未十一月廿八日

野村屋文蔵分為替取組

金百両也

伊勢利

金四拾両也

伊勢源

又

右者当地野村や文蔵殿方、姫路表屋庄右衛門殿方江古

手代金を差登候金子有之候ニ付、当地ニおゐて為替取組、

右野村や書面之金請取候間、則金(空白)来ル十月晦

支配笹川左衛門申三月二日切

悴宇八 金四十兩かへ

仕入 拾七入四丸 九袋

同 金貳拾かへ

同極上

八袋

伊勢利江売ル

又

同 金三拾九両かへ

一 国 拾七入 四丸

布彦江売ル

同 金三拾両かへ

一 雨吉 十九入 式丸

十六入

片馬三袋

同 金拾九両かへ

同上々 三袋

一 伊勢や(ママ)江売ル

申三月三日切、金式十五両かへ

一 飛切 十九入 式丸

近伊江売ル

右之通仕切持参いたし候

嘉永元七月廿二日出し

申紅花送手板

京着四拾式両

一 国 拾八袋入 式丸

一 国 拾七袋入 式丸

同断

一 卷駄六袋

封印 銘々三ヶ所

御出判 卷通

金三分也 大石田と漆金

文体

最上沢畑荷主

堀米四郎兵衛

印

大石田 富樫 久兵衛殿

酒田 大沼平 八殿

敦賀 田保孫右衛門殿

塩津 中村佐右衛門殿

大津 油屋 作兵衛殿

京都

伊勢屋源助殿行

申七月廿二日出し
紅花荷物送手板

吉 京着四拾壹兩
拾七袋入 三丸

トヒ四三拾三兩かへ、同断

吉 京着二拾九兩
拾八袋入 壹丸

紅 京着二拾九兩
貳拾袋入 壹丸

老駄貳拾五袋

封印 銘々三ヶ所

御出判 壹通

金三分貳朱也 大石田より添金

文体 手板貳枚

最上沢畑荷主

堀米四郎兵衛 ㊦

大石田 富樫 久兵衛殿

酒田 大沼平八殿

敦賀 田保孫右衛門殿

塩津 中村佐右衛門殿

大津 油屋 作兵衛殿

京都御池通東洞院西に入

美濃屋忠右衛門殿行

申七月廿二日出し

京着四拾五兩

仕 拾八袋入 貳丸

同断

仕 拾九袋入 貳丸

老駄十袋

封印 銘々三ヶ所

御出判 壹通

金三分 大石田より添金

文体

最上沢畑荷主

堀米四郎兵衛

堀米四郎兵衛 ㊦

大石田 富樫 久兵衛殿

酒田 大沼 平八殿

敦賀 田保孫右衛門殿

塩津 中村佐右衛門殿

大津 油屋 作兵衛殿

京都

伊勢屋利右衛門殿行

四箇

伊勢源殿行

添金三步

同吉 同 十七入 三丸

美濃忠殿行

添金式步

同吉紅 十四 合十八入 壹丸

同紅 紅花 式十入 壹丸

美濃忠殿行

添金壹步式朱

合拾三箇

送り状四通

添金式兩壹步式朱

御出判三通

酒田大沼向

右之通髓ニ受取申候、以上

富樫久兵衛 ㊤

(別紙)

寛

利仕入 紅花 十八入 式丸

同同 同 十九入 式丸

四箇

伊勢利殿行

添金三步

同国 同 十八入 式丸

同同 同 十七入 式丸

申七月廿二日

堀米四郎兵衛殿

申七月廿四日出し

紅花送手板

京着四拾貳両也

吉田

拾八入 壹丸

正ミ外百七拾八匁入相添

封印 三ヶ所

御出判 壹通

金壹分也 大石田より添金

ノ

最上沢畑荷主

堀米四郎兵衛 印

大石田 富樫 久兵衛殿

酒田 大沼 平八殿

敦賀 田保孫右衛門殿

塩津 中村佐右衛門殿

大津 油屋 作兵衛殿

京都

伊勢屋利右衛門殿

申七月廿三日出し

申八月一日出し

紅花送手板

京着四十七兩替

新田 拾八入 三丸

同

新田 拾七入 壹丸

ノ 壹駄七袋

封印 銘々三ヶ所

御出判 壹通

金三分 大石田より添金

文体

最上沢畑荷主

堀米四郎兵衛 ㊦

大石田 富樫 久兵衛殿

酒田 大沼 平 八殿

敦賀 田保孫右衛門殿

塩津 中村佐右衛門殿

大津 油屋 作兵衛殿

京都

伊勢屋理右衛門殿行

申八月一日出し
紅花送手板

京着三十九兩

引仕
入 拾八袋入 貳丸

同

引仕
入 拾七袋入 壹丸

同、直三十兩

引仕
玉紅 拾四 合拾七袋入 壹丸

外二仕入正味百四拾五匁入

啓駄六袋 正三百四十五匁入

封印 銘々三ヶ所

御出判 壹通

金三分 大石田方添金

文体

沢畑荷主

堀米四郎兵衛 ㊦

大石田 富樫 久兵衛殿

酒田 大沼 平 八殿

敦賀 田保孫右衛門殿

塩津 中村佐右衛門殿

大津 油屋 作兵衛殿

京都

西村屋清九郎殿行

右之紅花不残与蔵江相頼遣入、依而控相渡候

嘉永元年申九月廿三日

一七 紅花仕切

仕切

一、金百拾貳兩

貳步貳朱也

霜月晦日限り歩引

右之内

一、金壹兩貳朱卜

銀七厘也

金五拾三兩替

利仕入紅花拾七入八丸

貳駄八袋

御相對を以

右金高老朱引

一、金壹兩卜

銀七匁九分

一、銀三匁

八分貳百文

一、銀六匁也

一、銀六匁八分

一、銀貳匁

貳分貳百文

一、銀六匁也

一、銀六匁八分

一、銀三匁

四分貳百文

一、銀六匁也

一、銀六匁八分

十月三日

一、金百兩也

相渡入

一、金壹兩也

右三ヶ月分利足

同 殘金分

老ヶ月利息早引

仕入印四丸

御手板不足敦賀払

同 塩津払

同 大津払

仕入印四丸

御手板不足敦賀払

同 塩津払

同 大津払

飛切印四丸

御手板不足敦賀払

同 塩津払

同 大津払

伊勢屋利右工門殿へ

合

尊日要用

引残り

金八両貳歩ト

銀五匁壹分七厘也

(文政五年)
九月十七日

近江屋林兵衛

右之通御支配奥山才三郎殿へ御相談を以買請仕、則口金指引残此度御同人へ相渡し、此表無出入相濟申候、万一抜袋違算亦是算用違有之候ハ、重指引可仕候間、後日仍而仍マシ而如件

文政五年午霜月二日

伊勢屋源助

印

堀米四郎兵衛殿

一八 書簡 (為替金に付)

(封書上書)

「左畑(マシ)

堀米四郎兵衛様

於山形

尚々唯今於当地金子御渡しの上ハ、右代之金十二月卅日於京都御貫ひ申上候事なれハ、あり合二而も宜敷候、御返し方被為有度何分奉願上候

一筆啓上仕候、時分柄冷氣相増候得芳、先以其御地御尊家様、為御揃御壯健ニ可被遊候段、奉珍賀候、随而当方代店無失儀罷在候条、乍憚台御安意思召可被下置候、然者毎々不相替御用向沢山被仰付下置、千万難有御厚礼奉申上候、尚又御登用之御中へ代店後三郎度々推参仕、種々御厚情御引立被下置、是又千万難有仕合奉存候、又候此間推参仕、緩々御役帛台相成、其上御掛金被下置、難有頂戴、慥ニ入帳仕候、右御厚礼奉申上候、乍憚台皆々様方へも、宜敷御伝言奉願上候

一、此間後三郎参上之砌、上方為替金之儀被仰下、委細

承知奉畏入候、依而後三郎今日□人ニ差置候

堀米御主人様

一、京地当月卅日代店內金子入用無御座、依而其

上

節当地ニ而御渡し申上候而、右代金於京都十一月卅日か十二月卅日御貰らひ申上度候、左候得共当

返々も身分相応之御用向、何成共被仰付度奉願上候、以上

月半月十二月迄日合頂戴仕度候、夫も御尊家様ニ而、右金子御返し方も被為有候ハ、右之段御願申上度候

夫共此節御返し方被為有、十一月卅日京地ニ而御貰ひ申上候而、右代金於当地右為替受取案内申上

追啓奉申上候、此間後三郎戻候砌ハ、御丁寧奉存候、御算着被成下、難有拜見御細文之趣奉恐入候、右之御礼奉申上候

候、次方十二月廿三四日頃、於宿元御渡し被申度候、尤も金高之儀ハ何れ而も宜儀候

委細之儀者後三郎申送候而、宜敷御聞取替為御取組被成下度奉願上候、尤も代店喜平・後三郎兩人、明十八日出立仕候、上方筋御用向も被為有候ハ、何成共無御遠慮被仰付可被下候、先者右之段、為御報旁々為替用向御願奉申上儀迄、如此御座候、恐々謹言

九月十七日

近江屋林兵衛

喜兵衛

一、先達而中ハたま〜当地へ御尊来、一寸御立寄被成下候得共、弥々以何之御構も申上不奉而、甚夕以御龜末之至、尚又先日御内方様上山御入湯御出之節とても、右同様御龜末今更後悔仕候、その上者御戻り候も、是非〜御立寄被成下候事ト折角御待申受候処、山道通り候而直様御帰毛御様子弥々以、たま〜御事に御尊来被成下候、甚夕以御龜末之至、残念至極に奉存候、何卒此後ゆる〜御遊旁々御尊来之程奉待上候、先者右之□旁々御申訳迄早々如此御座候、已上

九月十七日

近江屋林兵衛

文政五年十二月

堀御旦那様上

喜兵衛

堀米四郎兵衛様

同 才三郎様

一九 覚 (請取証)

覚

十一月二日

一、金拾九兩三步式朱卜

嶋屋清兵殿方

九分四厘

請取

内金拾兩也

板垣忠兵衛殿相渡

差引殘金九兩三步式朱卜

九分四厘預り

右之通御座候、差引殘金之義来未正月迄預り置申候処夷

正也、尤来春古手代ニ相渡申上迄、七朱利足相加へ差引

可仕候、為其書附仍而如件

近江屋安次郎

印

二〇 覚 (手拭積下し)

覚

一、絞手拭取合

巻箇

直段五式方六〇迄ニ而

但し内雲州白木綿也

巻拾反

直段五六位

右之通来未正月巻番船積入差下し可申候、仕金之儀ハ、

此亦御手合紅花仕切金ニ而差引可仕候、尤過不足之処甚

三郎可申上候、已上

近江屋安次郎

印

(文政五年九)

午十月廿三日

堀米才三郎様

二三 紅花仕切

仕切

金四拾八兩壹歩ト

五匁六分式厘

内金壹歩式朱ト

六匁四分五厘

金壹歩式朱ト

六匁貳分式厘

金四拾兩也

金壹歩式朱ト

壹匁五分

金壹歩ト

金四拾壹兩壹歩式朱ト

十五匁四分式厘

二一 覚 (天草積下し)

覚

一、天草 五箇

右之通来正月壹番船積入差出し可申候、尤仕切金之儀紅

花代預り金ニ而差引可仕候、已上

近江屋安次郎 印

(文政五年九)

午十月廿三日

堀米才三郎様

四拾五匁式歩がへ

利極天印 十七入四丸

壹駄四袋

部引

壹ヶ月利足

伊勢屋理右工門殿

相渡ス

壹ヶ月利足

手板不足

此金巻歩下四分式厘

さし引金六両式歩式朱卜

五匁式分

右之通相對を以買受代金不殘相渡し、此表無出入相濟申

候、万一箇荷之内、抜袋違花又者算用違有之候ハ、重

而御差引可仕候、為後日依而如件

文政五年歲十月卅日

近江屋佐助 印

堀米四郎兵衛殿

御支配才三郎殿

十一月限歩引

三拾巻袋下

式百六拾匁袋 一

内金式朱卜四匁八分八厘

巻歩引

正味金式拾兩巻歩式朱卜

六匁式分二厘也

内金式朱卜

添金不足

巻匁分五厘

固俣代大阪迄太質

右之通以相對買請申候処美正也、尤仕切金之儀者、才三郎様御差函之通請払可仕候上ハ、万一違花目欠等御座候節ハ、重而御差引可被成下候、為後日仕切一札仍而如件

文政五年十月
(五年)

近江屋安次郎 印

二二二 紅花仕切

紅花仕切書

堀米四郎兵衛様

同 才三郎様

金四拾式兩替

一匁紅 十六入式丸

一、金式拾兩式歩式朱卜
三匁六分也

内式百六十匁入 巻

二三一二 紅花仕切写

仕切書之写

内 筐 紅 十六入式丸

内式百六拾匁入 壹

ノ 三十一袋ト式百六十匁 一

十一月晦日限歩引

金四拾貳兩替

代金貳拾兩貳歩貳朱ト三匁六分

内金貳朱ト四匁八分八厘 壹部引

正味金廿兩壹歩貳朱ト

六匁貳分貳厘

内

一、金貳朱ト壹匁壹分五厘 添金不足取替

さし引殘金貳拾兩壹歩ト五匁〇七厘 (ママ)

右之通貫請申候、御引合可被成下候、已上

近江屋安次郎

(文政五年)
十一月廿二日

堀米四郎兵衛様

差 引 覚

十一月二日
一、金拾九兩三步貳朱ト

嶋清殿方受取

九分四厘

内金拾兩

板垣忠左エ門殿相渡

引ノ金九兩三步貳朱ト

過上

九分四厘

一、金貳拾兩壹歩ト

引ノ筐紅仕切金

五匁〇七厘

右ハ木綿代金外ニ古手屋渡シ金ニ相成申候

十一月廿二日

近江屋安次郎

堀米四郎兵衛殿

内

一、金三兩三歩と

部引

七分五厘

引而金三百七拾貳兩貳歩と

銀四匁四分

二四 紅花仕切

仕切

右之通御相對を以買請、紅花代金別紙差引不殘相加へ、此表無出入相濟申候、万一算用違又者拔袋等有之候ハ、重而御互ニ御差引可被成候、為後日之仍而如件

文政五壬午十月晦日

伊勢屋利右工門

印

一、金百四拾六兩三歩と

十一月晦日限
金五拾貳兩貳分替

和雨トヒ印拾八入五丸

五匁分五厘

同国一印 拾八入四丸

拾七入壹丸

又

一、金貳百貳拾九兩

同、金四拾八兩替

同極上印 拾七入拾八丸

貳歩也

又

又金三百七拾六兩壹歩と

銀五匁分五厘

二五 紅花仕切

仕切

十一月晦日限

一、金百八兩

金四拾八兩かへ

利飛切印

式駄拾六

右之内

一、金老兩

御相對を以

四匁八分

老部通割引

一、金老兩

右殘金

四匁老步

老ヶ月分利足

一、銀拾六匁

右之荷物四丸

五分

駄運賃夫々へ払

十一月二日

一、金百兩

鳴屋飛脚ヲ以
差下し

一、銀拾九匁

右金子福嶋迄

下し太ちん

一、金百貳兩

一、銀四拾四匁四分貳厘

此金貳步貳朱

六匁九分貳厘

合金百貳兩貳步貳朱

銀六匁九分貳厘

差引金五兩老步

銀五分八厘

才三郎様へ相渡し

右之通ニ御座候、以上

若喜

二六 操綿仕切

操綿仕切覚

但し拾老メ八百匁入

京口^{丹州}

印 大黒造拾五本
本上札入

値段五貫五百匁替

此綿百七拾七貫匁

代銀三貫貳百拾八匁老分八厘

一、百三拾貳匁五分 荷物入用

一、拾六匁五分 大坂迄出し

銀三貫三百六拾七匁分八厘

(文政五年)
午十一月五日

紺屋喜三郎 (印)

奥山屋才三郎様

(印文、城州八幡、操綿仕切
紺喜)

十月二日 吉田
一、金四拾兩也 勘右衛門殿と

三日 伊勢屋
一、金百兩也 源助殿と

四日 近江屋
一、金四拾兩也 佐助殿と

同日 渡会屋
一、金三拾兩也 惣治郎殿と受取

五日 村山屋
一、金五拾兩也 半四郎殿と

此り金五兩貳朱と 十、十一、貳ケ月り足戻し
銀八匁九分 四匁五分

二七 金銀差引覚 (横帳)

銀六百三拾七兩貳步貳朱と

(端裏書) (伊勢屋理右衛門)
御印金銀差引覚 伊理

金銀差引覚

一、金三百七拾貳兩貳步 十一月限
別紙仕切、高

銀四匁四分

右之内

十月五日 一、歩金四百兩也

此り金八兩也 十月、十一月
貳ケ月り足

一、金三拾兩貳朱と

拾六匁七分

鳴屋飛脚ヲ以差下し渡
半月り足手板不足
御印引当金
渡宗殿へ相渡

此り金壹歩貳朱と

十月半^ら十一月
壹ヶ月半り

四匁六分一厘

一、銀百匁也

十月五日
金四百兩
福しま迄下し實

百匁
口拾五匁
百五匁替

一、銀拾五匁

六分八厘

〔判〕国一印手板不足
七匁一分八厘塩津
八匁五分 大ツ

一、銀拾四匁

八分七厘

同ト七印五丸
六匁三分七厘
八匁五分

一、銀三拾匁

壹分六厘

同極上印八丸
四匁五分六厘ツルカ
拾貳匁 塩津
拾三匁六分 大ツ

一、金五拾兩也

此度

奥山才三郎殿へ相渡

但し十一月晦日限

大坂近江屋安治郎殿渡

し、請合手形にて渡ス

金四百八拾八兩貳歩

銀百八拾貳匁貳厘

此金三兩と貳匁九厘

差引殘金百四拾六匁貳朱と

六匁八分八厘

右之通所々出入惣差引殘金書面之通髓ニ御預申上候処実
正也、当月晦日渡り金子一集ニ致し、嶋屋飛脚ヲ以不殘
御国元へ差下し可申上候、然ル上者此表無出入相濟申候、
万一算用違^{（マヤ）}拔等有之候ハ、重而御互ニ御差引可申候、
為後日之依而如件

文政五年
壬午

十一月五日

伊勢屋理右衛門 ㊦

(印文、庚寅七月改△一伊理)

堀米四郎兵衛殿

御在京御支配

奥山才三郎 殿

二八 覺(代金受取)

覺

一、金貳兩卜

銀四匁七分八厘

右者鈴木伝吉様御注文代金之内慥ニ請取申候、以上

(文政五年)

午十一月七日

近江屋安治郎 印

堀米才三郎様

二九 書簡(御注文古手之儀に付)

(封書上書)

「奥州最上

十一月七日

堀米四郎兵衛様 与大坂 近江屋安次郎

要用書

才三郎様御下向ニ付一筆啓上仕候、先以其御地御家内様御揃益御壯建ニ可被成候段、奉珍重存候、先達而御注文来春古手之儀、此度才三郎様御相談之上、金百兩分古手差下し可申候、依而左之通内金請取申候

金五拾兩也

十一月晦日限

京伊勢屋理右衛門殿方

請取手形ニ而

右之通髓ニ請取別紙ニ書附差上申候、御入手可被成候、

来三月中古手仕切書之内差引ニ相出し可被下候、尤御店

与古手代金百兩分差下可申候間、差引不足ニ相成申候、

殘金御取替ニ相成申候分ハ新花御為登被下候迄芫割利足

ニ而御勘定可被下候段、御相對ニ御座候間、此段御承知

可被下候、只今才三郎様御出立ニ付、用向斗相認申上、

委細ハ飛脚便ヲ以清申上候、余ハ右御同人様も御承知可

被成下候、取込早々如此御座候、恐惶謹言

近江安次郎

(文政五年)
十一月七日

源兵衛

伊八

堀米四郎兵衛様

尚々、此度才三郎様くり綿御買入被成候間、右くり綿十

五本来春芫番船ニ御つミ入可申上候、尤綿仕入金之儀、

御預り金内追而差引御案内可申上候、以上

一、店衆様

三〇 覺 (繰綿代金請取)

覺

一、金四拾兩也

右ハ繰綿代金之内十一月晦日限伊勢屋理右衛門殿渡手

形髓ニ請取申候、已上

近江屋安次郎

㊦

(文政五年)

午十一月八日

奥山才三郎様

三一 金銀差引覚

金銀差引覚

一、金百四拾六兩貳朱 十一月晦日渡分

六匁八分八厘 差引殘金預り

右之内

十一月七日 一、金四拾九兩壹歩

壹匁七分八厘

三メ三百六拾七匁分八厘
内金四兩才三郎様と
御渡し分引

引のこり六三式替

金相庭

総屋喜三郎殿渡

此り金貳朱

当月半引分

七匁貳分七厘

り足引

一、金三歩

杉代

四百廿文

万寿寺丹七殿へ
渡ス分

此銀三匁七分八厘

一、金壹歩

御相対此度殘金

早渡り足引

金五拾兩壹歩貳朱

拾貳匁八分三厘

此金貳朱

五匁三分三厘

差引殘金九拾五兩貳歩貳朱

壹匁五分五厘

右之通差引殘金、此度於当所不殘相渡、此表無出入相濟
申候、万一算用違等有之候ハ、重而御互ニ御差引可申
候、為後日之依而如件

文政五壬午

十一月廿四日

伊勢屋理右衛門

印

堀米四郎兵衛殿

喜内殿

宇野三吉殿

三二 覚 (繰綿仕切)

覚

京口き焼印 十一貫八百匁入

大黒造繰綿十五本

本上札入
綿目百七拾七貫目

直段五貫五百匁

内金四兩 手金
請取

右之通以相對売付申候、追而本仕切之節差引可仕候

文政五

壬午十一月廿六日

近江屋安次郎 印

奥山才三郎様

三三 覚 (古手注文代金に付)

覚

一、金五拾兩也 但し十一月晦日いせ屋理右衛門殿より
渡り手形二而

右者古手御注文代金之内髓二預り申候処実正也、尤来

三月古手仕切迄七朱利足相加へ差引入帳可仕候、右差

引二相成申候節ハ、此書付請取書御座候、為念仍而如

件

文政五壬午十一月晦日

近江屋安次郎 印

堀米四郎兵衛殿

同 才三郎殿

三四 上方仕切差引帳 (横帳)

(表紙)

一、文政五年

上方仕切差引帳

午極月廿日改

仕切

十一月晦日切

一、金貳拾兩也

渡宗殿分

高清水十六入貳丸

但し四十兩替

十一月晦日切

一、金七拾三兩卜

伊勢利殿分

銀四分六厘八毛

国一十八入四丸

但し五拾貳兩貳分替

同 十七入壹丸

×五丸

十一月晦日切

一、金七拾三兩三步卜

同人分

銀四匁六分八厘貳毛

雨卜七十八入五丸 但し五十貳兩貳分替

十一月晦日切

一、金貳百貳拾九兩貳分也 同人分

極上拾七入十八丸 但し四十八兩替

十一月晦日切

一、金貳拾兩貳分貳朱卜 近安殿分

銀三匁六分

笹紅十六入貳丸 但し四十貳兩替

十一月晦日切

一、金四拾八兩壹分卜 近佐殿分

銀五匁六分貳厘

極天十七入四丸 但し四十五兩貳分替

十一月晦日切

一、金百拾貳兩貳分貳朱分也 伊勢源殿分

仕入十七入八丸 但し五十三兩替

十一月晦日切

一、金百八兩也 若喜殿分

飛切十八入八丸 但し四十八兩かへ

ノ金六百八拾五兩三步ト

銀拾四匁三分七厘

此り金壹分ト

十一月壹ヶ月分

左候へは十一月晦日取引ニ致ス

銀拾匁壹分

十月晦日切

一、金貳拾兩ト

鳴清殿分

元利

銀三匁五分壹厘

合金四拾貳兩壹分ト

銀四分八厘五毛

高清水十六袋半入壹丸

但し三十九兩貳分かへ

ノ三十貳袋半

惣ノ金七百貳拾八兩ト

十月晦日切

一、金貳拾壹兩三步ト

綿勇殿分

銀拾四匁八分五厘五毛

銀壹匁八分七厘五毛

内

澤紅十七入貳丸

但し四十壹兩替

午十月五日出し
金三百五拾兩也

伊勢利殿より下り金

此り金七兩也

午十、十一ノ二ヶ月分戻し

午十一月二日出し

金百兩也

若喜殿より下り金

ノ金四拾壹兩三步ト

銀五匁三分八厘五毛

此り金壹兩也

午十一ヶ月分戻し

銀拾三匁七厘

綿勇殿沢紅十七入二丸ノ分歩二

金六兩三歩ト 十一月晦日切惣ノ高六百八十五兩三分

銀六匁六分 十四匁三分七厘歩一引

午十月五日出し分

銀八拾七匁五分 伊勢利殿ノ集金三百五十兩

京都ノ福嶋迄ノ下し質歩打共也

同拾五匁六分八厘 国一印手板不足

同拾四匁八分七厘 雨トヒ印手板不足

同三拾匁壹分六厘 極上印八丸手板不足

同拾九匁 若喜殿ノ下り金百兩京都ノ福嶋迄下し質

同拾六匁五分 同人飛切印四丸手板不足

金壹分ト 近佐藤殿極天印四丸手板不足

壹匁貳分四厘

銀四拾八匁 伊勢源殿仕入八丸飛切四丸手板不足

壹分五厘

貳朱ト貳分五厘 渡宗殿高清水貳丸手板不足

貳朱ト壹匁壹分五厘 近安殿笹紅二丸手板不足

貳朱ト七分五厘 綿勇殿沢紅貳丸手板不足

金壹分貳朱ト五分 同人極上印六丸手板不足

貳朱ト三匁五厘 嶋清殿高清水沢紅ノ四丸手板不足

午十二月廿日

金六兩也 正金ニ而相渡し

但し拾五匁銀二切ル

小以ノ金四百七拾六兩貳朱ト

銀三匁四分七厘

差引而 出分

金貳百五拾貳兩ト

銀三匁八分八厘

内

午十一月廿一日

金九拾五兩貳分貳朱ト

壹匁五分五厘

右ハ伊勢屋利右衛門殿ノ三吉殿喜内殿江相渡ル

午十二月大晦日

金拾兩也 板垣忠右衛門ノ才三郎受取也ニ濟

未三月廿七日
金三分也　こひしやく代之内伝吉分受取

右ハ伊勢殿へ入方ノ分江

沢畑村

四郎兵衛殿

立会人浅吉殿

未六月四日
一、金五拾両也　但し文字判也

右者大阪近江屋安次郎殿為替金髓受取申候、以上

(裏表紙)

吉田村

未四月廿四日出し　沢畑　四郎兵衛

才三郎

同六月四日受取

沢畑村

四郎兵衛殿

山形七日町

高田弓太郎様

右之通差引残金式百五拾式両卜銀三匁八分八厘、近く御

勘定可申上候、以上

吉田村

三五十一　木綿古手老丸掛物割合

才三郎

木綿古手老丸掛物割合

一　正之まんへ

老分口銭

一、三匁四分

荷造賃

文政五年午十二月廿日改

一、六分

シオ津へ
浜出賃

一、老匁也

宝場海へ
小廻船賃

一、七匁五分

同所と酒田
元船運賃

外二

五匁貳、三分位イ

酒田とは是まで掛物運賃也

合 海上老割五分

七双入田店

老六五

一、中上

七百匁代

一、老七

一、老八

六百匁代

一、老九

四百匁代

一、下々

三百匁位イ

一、老九五

二百匁位イ

一、クツ

三双入岡村分

三九

一、中上

三百匁位イ

一、老掛

一、老

貳百五十匁位イ

一、老

百五十匁位イ

一、下物

一、老

百廿匁位イ

一、下々

九十匁位イ

一、クツ

三五一二 積付書

積付書

田中政吉船

一、老 箇

輸木綿

取合入

百六ばん

酒田

本孝殿

右之通積入申候 已上

近江屋

(文政六年)
未二月十二日

安次郎 ㊦

堀米四郎兵衛殿

奥山 才三郎様

右之通積入申候、已上

近江屋

(文政六年)
未二月十二日

安次郎 ㊦

堀米四郎兵衛様

奥山 才三郎様

三七一一 ㊦入日記

三六 ㊦積付書

㊦積付書

一、㊦三本 宝木屋庄右衛門

一、㊦三本 油屋 久三郎

六本也

酒田本孝殿

㊦入日記

大和紺緋 式拾五疋

但し五拾反

播州白木綿 五四

花染下地 六拾反

同上 五八五

三拾反

候 青菜絞 六反

宅 新手掛絞 五七五

度 □□浅黄 五〇五

吉 紅葉絞 五三六

春 松川絞 五八六

納 折羽絞 五七五

先 桐嶋絞 六六六

新 分銅絞 五九五

ノ 百八拾八反入 六反

右之通御改御請取可被下候、以上

文政六

未二月

近江屋安次郎

印

堀米四郎兵衛様

三七一二 絞り値段

絞り値段

六五位イ 六四位イ

○分銅 ○青葉

六三位イ 六式位イ

○折羽 ○浅黄

六式位イ 五八位イ

○手掛 ○紅葉

六式位イ

○松川 桐嶋絞

ノ 八文庫

右之通、通附ニテ相場相見へ申候間、左様思召可被下候

一、○六式ケ六式位イ 三拾反□

一、○五八位イ 六拾反□

ノ

二月吉日 安次郎

堀米四郎兵衛様

三七一三 百七番

百七番

- 一、百五拾壹匁貳步 夏単物
- 一、百四拾五匁七步 同
- 一、百五拾四匁六步 同
- 一、百四拾五匁三步 同
- 一、百五拾壹匁九步 同
- 一、百四拾六匁貳步 同
- 一、百四拾六匁七步 同

右之通御座候、以上

(文政六年) 未 近江屋

三八 万出入覚帳抄 (横帳)

(表紙) 文政六年

万出入覚帳 未二月吉祥日

覚

三月廿三日 一、花種三拾貳表也

代貳拾六匁四百文

両かへ壹六六

此金三兩壹分貳朱也

内

金壹分手金才三郎殿受取

但し壹表ニ付居渡し七百文宛約束也

目方拾メ五百匁渡し

来四月仲場迄之渡し相定申候、以上

一、金拾兩

坂場忠右衛門殿

為替ニ渡

差引金九兩三步貳朱ト

預

九分四厘

此返り金壹歩貳朱ト

十一十二正三三四五
ノ七月利

六匁九分三厘

七朱

入金拾兩

才三郎様ヲ受取

十一月三日
一、銀五百匁

八幡屋江

大和嶋代

三九 引差引目録 (横帳)

引差引目録

十一月二日

入金拾九兩三步貳朱ト

嶋屋清兵衛殿ヲ

九分四厘

受取

引殘金貳兩ト

三匁〇九厘

四匁七分八

預

此返り五匁八分八厘

十一十二正三三四五
ノ七月

七朱

才三郎様御差函ニ付

十一月晦日切

入金貳拾兩壹歩

五匁〇七厘

此返り金三歩

六匁〇三厘

〔や〕笹紅

仕切

十二正三三四五
六月

七朱利

五匁四分六厘

仕切

此利金壹歩

三匁五分八厘

七朱

正月下ス

一、金五兩貳歩貳朱ト

六匁八分六厘

此り金貳朱ト

四匁三分壹厘

天草五箇

仕切

正三三四五
五月

七朱

一、金壹兩壹歩

七匁

〔や〕三ツ綿

送賃

一、金貳朱ト

三匁六分

甲竹志やく

壹箇

正月八日仕切分
一、金拾貳兩

壹歩貳朱ト

五匁壹分

此利金壹歩

五分九厘

木綿仕切

〆

三四五
三月

七朱

十一月晦日
入金五拾兩也

京伊勢利殿

預金

此返り金壹兩三歩也

十二正三三四
五月

七朱

一、金拾四兩三歩

古手

四月廿四日手形分

一、金五拾両也

高田忠藏殿

為替二渡

受取金

合八拾五両ト

貳拾九匁貳分三厘

渡し江

合金八拾四両三歩ト

三拾六匁五分

さし引殘金貳朱ト

貳分三厘

かり

右之通相成申候、御引合可被成下候、已上

(文政六年)
未五月十四日

近江屋安次郎 ㊦

堀米四郎兵衛様

四〇 紅花仕切

仕切

十二月卅日限

一、金卅五両貳歩也

三拾五両貳分かへ
弍丸紅印 十六入四丸

一、金卅六両貳朱也

三拾四両かへ
同紅梅印

十七入四丸

×金七拾壹兩貳歩貳朱也

内金貳歩貳朱ト五匁四分七厘

歩引

金貳歩貳朱ト五匁壹分

十二月卅日迄

壹ヶ月利足

十月七日
金六拾兩也

引当金

金壹兩貳朱ト四匁五分

右二ヶ月分利足引

×金六拾貳兩壹分貳朱ト

拾五匁七厘

差引金九兩ト七厘

残りかし

右の通御相対を以買請代金不殘相渡し、此表無出入相濟

申候、万一箇荷之内拔袋違花又ハ算用違等、有之候ハ、
重テ御差引可被成候、為後日依而如件

文政七申歲

十一月廿日

近江屋佐助 印

堀米四郎兵衛殿

御支配大場三吉殿

銀壹匁八分七厘

老駄四袋

老六拾九兩

銀壹匁八分七厘也

右之内金貳步仁朱卜 御定步引

銀三匁九分也

引殘而

金六拾八兩壹步

銀五匁四分七厘也

此渡し方

四一 紅花仕切

仕切

一、金四拾五兩也

十月十一日正金下し

一、銀拾五匁

右金福島迄下し質並二

歩判折

一、金壹步仁朱

御手板不足

銀二匁壹分

錢八百文

一、金三拾四兩貳步也

利玉紅最上紅花拾六入四丸

老駄也

酉正月晦日限

三拾四兩貳步替

同月限

三拾兩貳步替

一、金三拾四兩貳步卜

同本紅同所紅花拾七入四丸

一、金壹兩貳步卜

金四拾五兩十月中

銀四匁五分

酉正月晦日迄利足

一、金廿兩也

極月晦日限手形二而相渡

一、金仁朱卜壹匁壹分

右金正月壹ケ月利足

ノ金六拾七兩

銀廿貳匁七分

銀八百文

差引而

金三步仁朱也

右之荷物御相對ヲ以買請、書面之金高相渡、無出入相濟申候、万一濡袋違花等有之候ハ、重而御差引可被下候、仕切状仍而如件

文政七申霜月晦日

柴崎屋宗右衛門

印

堀米四郎兵衛殿

御支配

大場三吉殿

四二 紅花仕切

仕切

一、金百六拾六兩貳步也

正銀三拾七兩がへ
引仕入印拾八入拾六丸

ノ四駄片馬

内

一、金四兩貳步也

御差引

引而金百六拾貳兩也

一、金三兩仁朱

二ケ月

六匁九分

右利足

差引而金百五拾八兩三步卜六分

一、金壹步卜壹匁六分

手板不足

引而金百五拾八兩壹步仁朱卜

六匁五分

右之通代金不殘相渡し、此表無出入相濟申候、万一箇荷^⑧之内違花拔袋等有之候ハ、重而御指引可仕為後日仍而如件

文政七年

綿屋勇藏 ⑨

申十一月晦日

堀米四郎兵衛殿

大場三吉殿

四三 紅花仕切

紅華仕切書

一、金三拾六兩也

金三拾貳兩替

一、兩吉

拾八入四丸

ノ十二月切書歩引

ノ七拾貳袋

内

一、金壹歩卜六匁六分

壹歩引

一、廿壹匁八分

右荷物添金取替

閏八月廿二日

一、金廿五兩也

右引当金正下シ

一、金壹兩貳朱也

右利足閏八半九十一十

二

ノ四ヶ月半

一、貳匁五分

歩判切實

一、七匁五分

福嶋迄八日限駄賃

ノ金廿六兩壹歩貳朱卜

銀三拾八匁四分

此金貳歩と

銀六匁四分

合金廿六兩三歩貳朱卜

六匁四分

差引殘而金九兩と

銀壹匁壹分

右之通相對を以買請申候、尤仕切金を為替取送、此表無出入相濟申候、万一目欠違等御座候ハ、重而差引可被成候、為其仕切書依而如件

文政七年

近江屋

申十一月晦日

安次郎

㊦

堀米四郎兵衛様

大場三吉様

一、金貳拾八兩仁朱也

廿五兩がへ
同紅梅印拾八入四丸也

ㄨ 啓駄八袋

内

一、金壹兩仁朱

御差引

引而金貳拾七兩也

ㄨ 金六拾三兩也

一、金壹兩壹歩卜

二ヶ月

六分 右利足

差引而金六拾壹兩貳歩仁朱卜

六匁九分

四四 紅花仕切

仕切

一、金三拾七兩也

正銀三拾七兩がへ
利国一拾六入四丸也

ㄨ 啓駄也

一、金壹兩也

御差引

引而金三拾六兩也

而如件

文政七年申十一月晦日

綿屋勇蔵

㊦

堀米四郎兵衛殿

大場三吉殿

右之通代金不殘相渡し、此表無出入相濟申候、万一固荷之内違花拔袋等有之候ハ、重而御指引可仕、為後日仍

四五 紅花仕切

仕切

一、金拾八兩卜

正銀三拾三兩がへ
大紅拾八入壹丸卜

式匁八分壹厘也

十七入壹丸也

ノ

ノ三拾五袋

一、金式歩卜式匁八分一厘

御差引

引而拾七兩式歩也

一、金式拾兩三步卜

同三拾五兩がへ
同兩指拾九入式丸也

壹匁八分八厘

ノ三拾八袋

内

一、金式歩卜五匁六分三厘

御差引

引而金式拾兩仁朱卜

三匁七分五厘

ノ金三拾七兩式歩仁朱卜

三匁七分五厘

内

一、金三歩卜式分式厘

二ヶ月右利足

一、金壹歩卜式匁

大坂嶋屋渡したちん

ノ金壹兩卜式匁式分式厘

差引而金三拾六兩式分式朱卜

壹匁五分三厘

右之通代金不残相渡し、此表無出入相濟申候、万一固荷之内違花拔袋等有之候ハ、重而御指引可仕、為後日仍而如件

文政七年

申十一月晦日

綿屋勇藏



堀米四郎兵衛殿

大場三吉殿

四六 紅花仕切

仕切

一、金三拾貳兩壹歩貳朱

銀壹匁八分七厘

酉正月晦日限り歩引

右之内

一、金壹歩下

銀四匁四分貳厘

一、金壹兩也

一、銀貳匁四分

一、銀貳匁七分九厘

一、銀六匁

一、銀六匁八分

一、銀三匁四分四（下）

金三拾兩貳歩かへ

一、飛切紅花拾七入四丸

銀貳匁四袋

右壹歩引

十月朔日御支配人へ相渡

右四ヶ月分利足

飛切印四丸

御手板不足敦實払

同 塩津払

同 大津払

仕入印八丸

一、銀拾三匁六分

一、金廿九兩壹歩貳朱

一、金貳歩下

銀五匁八分五厘

一、金三拾壹兩貳歩貳朱下

銀四拾五匁三分也

合

引残而銀壹匁五分七厘

右之通御支配大場三吉殿江御相談を以買請代金指引残、

此度御同人江相渡シ、此表無出入相済申候、万一抜袋違

花又者算用違等茂在之候ハ、重而指引可仕候、為後日

之依而如件

文政七申十二月朔日 伊勢屋源助

堀米四郎兵衛殿

御手板不足塩津払

同 大津払

十二月朔日綿勇殿渡ス

右二ヶ月分利足引

四七 紅花仕切

仕切

一、金七拾七兩貳歩也

十一月限金四拾兩替

〔和〕国一拾八入六丸

拾六袋也

一、金壹兩也

同 金三拾貳兩替

同さし 貳袋也

一、金五拾壹兩壹歩貳朱

十二月切分引金貳拾三兩貳分替

同大一印拾八入四丸

壹匁八分七厘

同極上印拾七入四丸

右之内

金壹兩

部引

壹匁六分五厘

壹ヶ月利足早渡

差引而金五拾兩壹分貳朱

貳分貳厘

金百貳拾八兩三歩貳朱

貳分貳厘

未十二月四日

一、金五拾兩

嶋屋下飛脚江下し相渡

一、銀拾三匁

福嶋迄下質廿匁部打六匁

廿六匁がへ

申正月五日

一、金貳拾兩

佐治吉左衛門殿と相渡

一、銀廿貳匁

八分壹厘

〔和〕大一四丸

壹匁五分

酒田

八匁五分

ツルカ

六匁

塩津

六匁八分

大津

一、銀拾五匁九分八厘

同国一 四丸

六匁三分八厘

四匁五分

五匁壹分

金七拾兩

銀百壹匁四分壹厘

此金壹兩三分貳朱

右同斷

一、銀拾七匁七分八厘

同仙国一仕入印

四匁九分八厘

六匁

差引而殘金五拾七兩貳朱

三匁八分壹厘

一、銀拾四匁五分

式匁五分 ツルカ

六匁 塩津

六匁 大津

右之通御相對ヲ以買請紅花代指引殘金、不殘綿屋勇藏殿
江無相違相渡、此表無出入相濟申候、万一算用違又者拔
袋等有之候ハ、重而御相互ニ御差引可被成下候、為後
日仍而如件

文政七甲申十二月五日

伊勢屋理右衛門



一、銀拾七匁

三分貳厘

同極上 四丸

四匁五分貳厘

六匁

六匁八分

堀米四郎兵衛殿
大場三吉殿

四八 紅花仕切

仕切

正月卅日限

一、金三拾三兩也

三拾三兩かへ
[利]玉錦印 拾六入四丸

一、金三拾貳兩三步貳朱卜

三十壹兩かへ
同極上印

三匁七分五厘

拾七入四丸

金六拾五兩三步貳朱卜

三匁七分五厘

内

金貳歩貳朱卜

歩引

貳匁貳分

金壹兩三步卜

正月卅日迄

三匁三分

一ヶ月利用

金五兩卜

若喜殿へ

六匁壹分五厘

相渡し

金貳朱卜

[利]紅梅丸紅印

四匁五分

引当金下し、駄賃引

銀卅貳匁七分一厘

手板不足

紅梅丸紅印分

金七兩卜

四拾八匁六分八厘

此金三步卜三匁六分八厘

差引金五拾八兩貳朱卜

七厘

右之通御相對ヲ以買請代金不殘相渡し、此表無出入相濟申候、万一箇荷之内抜袋違花又者算用違等有之候ハ、重而御差引可被成候、為後日依而如件

文政七申歲

十二月三日

近江屋佐助

㊦

堀米四郎兵衛殿

御支配大場三吉殿

四九 仕切扣 (横帳)

(表紙)
「仕切扣」

上方仕切

近江屋佐助殿分

十二月晦日限
一、金三拾六兩貳朱也

三拾四兩がへ

紅梅 印

十七入四丸

内

金壹歩下

歩引

六匁六分七厘五毛

金壹歩下

六匁六分七厘五毛

十二月晦日迄

壹ヶ月利足

金三拾兩也

十月七日出し引当金
十一月五日着

金貳歩下

右十、十一、十二ヶ月分

六匁

利足引

銀七匁貳分

福嶋を当地迄
三十兩下し賃

銀六匁

右金京都を

福嶋迄下し賃

金壹歩下

手板不足

壹匁八分五厘

小以、金三拾壹兩三歩下

四匁四分

差引而

金四兩壹歩下

過

三匁壹分

伊勢屋利右衛門差荷

近江屋佐助殿分

極上印十七入

四丸三十匁兩がへ

酉正月晦日切
一、金三拾貳兩三步貳朱卜

三匁七分五厘

内

金壹歩下 差引

四匁七分六厘

金貳歩貳朱卜

貳匁貳厘五毛

極月正月
二ヶ月分利

金壹歩下

手板不足

貳匁三分貳厘

伊勢利立替ノ分

小以ノ金壹兩壹歩下

壹匁六分

差引而

金三拾壹兩貳歩貳朱卜

貳匁壹分五厘通

近江屋安治郎殿分

十二月晦日限
一、金三拾六兩也

三十貳兩がへ
雨吉印
十八入四丸

内

金壹歩下六匁六分

歩引

金壹歩下六匁八歩

手板不足

閏八月廿二日出し九月十九日着

金貳拾五兩也

引当金

銀六匁九分壹厘

福島
当地迄下しちん

七匁壹分九厘

村山屋半四郎殿分

金壹兩貳朱也

右金ノ利足

右八閏八半、九、十、十一、十二、 μ 四ヶ月半ノ分

酉ノ正月晦日切
一、金三拾四兩貳歩也

三十四兩貳歩がへ
玉 紅 印

内金 壹歩ト五匁七歩

歩 引

十六入四丸

銀貳匁五分

歩判
切ちん

金貳拾貳兩貳歩也

十月十一日出し
十一月五日着

銀七匁五分

大坂 μ 福嶋
迄下しちん

金三歩ト貳匁貳分五厘

十月 μ 正月迄 μ
四ヶ月分利

小以 μ 金貳拾七兩貳朱ト

三分壹厘

銀七匁五分

京都 μ 福嶋迄
下しちん

差引而

金八兩三歩ト

過

金壹歩ト四分三厘五毛 手板不足

銀五匁四分

金拾兩也

銀四匁三分

銀七匁五分

右金

福嶋も当地

迄下しちん

正月卅日切下り金

未ダ相届不申候

右金正月壹ヶ月利

京都も当地迄

下しちん見込

小以メ金三拾四兩壹歩ト

三匁八厘五毛

差引而

式朱ト

四匁四分壹厘五毛

過

京

綿屋勇藏殿仕切

大阪嶋屋清兵衛殿分

正月卅日限

一、金拾八兩ト

式匁八分壹厘

内

金式歩ト式匁八分壹厘 口錢歩引

金壹歩ト

六匁六分五厘六毛

極月正月、二ヶ月ノ利

銀 七匁九分

手板不足並ニ

右紅花京都迄だちん

小以メ金壹兩ト

式匁三分六厘六毛

差引而

過

金拾七兩卜

四分四厘四毛

伊勢源殿八丸方綿勇江仕切

綿屋勇藏殿分

正月卅日限

仕入印 十六丸

一、金百六拾六兩式歩也

三十七兩がへ

内

金四兩式分也

口錢歩引

金三兩式朱卜

極、正二ヶ月利足

六匁九分

金壹歩卜

手板不足

壹匁六分

仕入八丸手板不足

銀三匁四分四厘

伊勢源立替分

塩津払

同八丸手板不足

欠立かへ

大津払

銀拾三匁六分

小以、金八兩壹歩卜三匁四厘

差引而

金百五拾八兩式朱卜

四匁四分六厘

過

過金

惣、金貳百貳拾兩式朱卜

六匁七分六厘

内

村半、正月晦日迄

銀七匁五分

下り金未夕相届キ

不申候二付一ヶ月ノ利

金貳步貳朱ト

〔京都より福嶋迄〕

壹匁八分三厘

〔下し賃〕

金三步貳朱ト

〔福嶋より当地迄〕

三匁六分

〔下し賃〕

小以り金壹兩貳步貳朱ト

五匁四分三厘

金四兩貳步貳朱也

〔九駄壹丸〕

〔支配料 三吉ニ相渡ス〕

合 金六兩壹步ト

五匁四分三厘

同金

金貳百拾三兩三步貳朱ト

壹匁三分三厘

外二

十月七日出し

金三拾兩也

〔近佐より出〕

〔十一月五日着〕

此り金 三步也

十一、十二に貳ヶ月分

閏八月廿二日出し

金貳拾五兩也

〔近安より出〕

〔九月十九日着〕

此り金 壹兩ト

五匁六分貳厘五毛

〔九月半より極月迄〕

十月十一日出し

金貳拾貳兩貳步也

〔村半より出〕

〔十一月五日着〕

此り金

金貳步ト三匁七分五厘

〔十一、十二、に貳ヶ月分〕

〔村半より正月卅日切〕

金拾兩也

〔下り金未だ相届〕

〔キ不申候〕

元リ

惣ノ金三百三兩貳分貳朱ト

拾匁七分五毛

元利

右ハ八月ノ極月迄ノ壬入六ヶ月分

ノ金百五拾兩貳步貳朱ト

壹匁貳分貳厘五毛

此分 二ツ割

金百五拾壹兩三步貳朱ト

壹匁六分貳厘五毛

差引而

金壹兩壹步ト

過

内

五分

申七月貸付

一、金五拾四兩貳分也

此リ金 四兩三分ト

壹匁貳分貳厘五毛

右ハ七月ノ極月迄ノ壬入七ヶ月分

申八月貸付

一、金八拾五兩也

此リ金六兩壹步貳朱也

右之通り仕切殘金不殘相渡し、此表出入無御座候、万一紅花違等有之候ハ、可被仰聞候、為其仍而如件

文政八年

酉正月十五日

沢畑村 堀米四郎兵衛

長瀬村

東屋庄六様

利足

五〇 紅花仕切扣 (横帳)

〔表紙〕
紅花仕切扣

上方仕切

一、金貳拾九兩三步

貳朱也

申十二月朔日

同人方 嶋勇方 江濟し

一、金五拾七兩貳朱卜

三匁八分卷也

伊勢利分

国一七丸大一四丸

極上四丸仕切

差引分

一、銀壹匁五分七厘

伊勢源

飛切仕切表

一、金三步貳朱也

柴宗分

国一紅四丸本紅

四丸仕切分

一、金壹匁也

申十月朔日同人方

三吉相渡ス

一、金貳拾兩也

同人方

綿勇渡り

一、銀貳匁四分

右四ヶ月

一、金九兩卜七厘

〔近佐分
丸紅四丸 紅梅
四丸差引分〕

六匁壹分五厘

〔近佐御立替ノ分〕

一、金九兩卜壹匁壹分

〔近安分
兩吉四丸差引分〕

六匁九分

〔綿勇分
差引分〕

一、金五拾八兩貳朱卜

〔近佐分
玉紅四丸
極上四丸差引分〕

一、金三拾六兩貳步貳朱卜

〔同人大紅貳丸
兩揃貳丸差引分〕

一、貳朱卜四匁五分

〔三十兩
極天引当金
下し質若木私
御立替ノ分〕

一、金百五拾八兩壹步貳朱卜

〔同分仕入印
四駄片馬差引分〕

此分ハ引丸紅、紅梅ノ懸リニ付

酉正月廿五日、三吉方江相渡ス

〆金四百四拾七兩壹步

〔銀四匁六分〕

内申極月廿七日
金四百兩也

〔綿勇殿と相下し分〕

一、金五兩卜

〔三吉若木と借用分〕

又酉正月七日
金七兩貳步也

〔三吉殿と〕

又

正金ニ而受取

極上印 沓駄四袋也 同年分

國一印 沓駄也 去申ノ分

金拾貳兩沓步

近安分

飛切印 沓駄四袋也 同年分

銀貳匁八分三厘

大石田二藤部

玉錦印 沓駄也 同年分

為替手形ニ而預リ

本紅印 沓駄四袋也 同年分

又

綿勇殿方

丸紅印 沓駄也 同年分

金貳拾兩也

請取手形ニ而預リ

兩揃印 片馬六袋也 同年分

小以メ金四百三拾九兩三步卜

此支配料金四兩貳步也

申年分 長瀬實惣高

銀貳匁八分三厘

九駄沓丸三袋也

差引而

此支配料金四兩貳步貳朱也

金七兩貳步卜

不足

メ金九兩貳朱也

銀沓匁七步七厘

差引而

金沓兩貳步卜

通

三吉殿売方荷物

五匁七分三厘

大一印

沓駄八袋也

去ル未ノ分

紅梅印

沓駄八袋也

同年分

右之通り不残相渡し、此表出入無御座候、若算違等有之候ハ、可被仰遣候、為念仍而如件

沢畑村

堀米四郎兵衛

文政八年

酉正月十五日

内楯村

大場 三吉殿

上方仕切仲間六本

私シ分仕切三本也

ノ九本

〔長瀬江御見せ申上度、三吉殿へかし渡し〕

五一一 書簡(金子並びに仕切書受取に付)

〔封書上書〕

従谷地

沢畑村二而

内楯村

堀米四郎兵衛様

大場三吉

⑧

急要用入

尚々申上候ハ都合金子式両三歩ト六百八十六匁ニ請取申扱実正ニ御座候、早々以上

一筆啓上仕候、此間者罷越乍毎度緩々預御馳走ニ千萬忝奉存候、然者態々御人被下殊ニ御紙面御帳面並金子相添御届ケ被下忝奉存候、猶又長瀬東屋庄六様方へ之金子茂隨ニ請取、又外ニ並上方御仕切御中間ト六本、又御印御仕切三本、又外ニ御状書通並御差引御長面、且又金子

御貸付被成候御證文武通、慥ニ請取申所美正ニ御座候、
尤下拙方ニ參上仕候所、何共乍勝手不調法千萬ニ奉存候、
扱又申上候者今日仰被下候御用向、明日ニ茂早速參上仕
候所、下拙乍不調法十九日廿日頃迄長瀨村參上仕兼候間、
左様御承知成御免被下度偏ニ御頼上奉候、猶又貴公様へ
御礼ニ茂早速參上仕候所長瀨村ニ罷かいら、其後ニ相成
候得者寔ニ延引ニ相成、何共乍不調法眞平御免被下度偏
ニ奉願上候、何連近日中ニ罷上御礼可申候、先ハ右之品々
為請取如此ニ申上候、恐惶謹言

(文政八年)
酉正月十七日

五一一二 覺 (紅花仕切)

覺

一、銀十式匁八歩 や玉紅四丸

四百五十六文

一、銀拾式匁八分 日出紅四丸

三百四十壹文

銀廿五匁六歩

八百文

此金 壹歩貳朱ト

貳匁壹分

八百文

右之通御座候、以上

(文政七年九)
霜月廿九月

柴さ起 惣店

堀米四郎兵衛様

五一―三 差引書（紅花仕切）

〔封書上書〕
〔大庭三吉様 綿屋勇蔵〕

差引書

一、金貳百五拾六兩 此方仕切金

貳分仁朱

拾四匁九分三厘

一、金五拾八兩仁朱 近江屋入

七厘

一、金九兩也 同人入

一、金廿九兩三分仁朱二 伊勢源入

一、金五拾七兩仁朱

三匁八分一厘

金四百拾兩三步下

拾八匁八步一厘

内

一、金四百兩也

下ス

一、金一兩仁朱

右たちん

四匁

福島迄

一、金仁朱

七匁四分五

紅梅印
手板不足
若の津

金四百壹兩壹歩下

拾壹匁四分五

差引而金九兩二歩下

七匁三分六

右之通相渡し此表無出入相濟申候

甲(文政七年)
申十二月五日

綿屋勇藏 印

堀米四郎兵衛殿
大庭三吉殿

五二 覚(紅花仕切)

覚

一、金貳朱卜四匁五分

貳拾兩

老ヶ月分

一、金壹歩貳朱五匁貳分也

七兩貳朱

六ヶ月半分

ノ 金貳歩貳朱

貳匁貳分八厘

右之通御渡し申上候、入手寒河江

(文政八年)
酉五月七日

伊勢屋理右衛門 印

堀米四郎兵衛様

松田屋源右衛門様

五三 差出申引質金日延願證文之事

(封書上書)

「三吉無尽江加入差出証文巻通 政右衛門」
ゆの沢

差出申引質金日延願證文之事

一、先達而最上紅花買入候処拂金ニ差詰り、其段貫殿江達而願入、右買入候紅花之内為引質五百目袋六百七拾三袋当村七藏方江相渡し、当酉七月晦日切二仕、文字金貳百拾兩借用仕候処、右限月金子不調達故、請戻兼候二付、甚夕勝手之筋ニ候得共、当酉八月晦日迄別而御日延願

申立候処、格別之御考弁ヲ以早速御得心被成下、然ル上者八月晦日迄ニ少茂無相違請戻可申候、万一八月晦日迄ニ又候金子不調達ニ而請戻兼候ハ、本紙證文之通り右引質ニ相渡置候紅花、御勝手次第御引取御壳弘被成候、為後日引質金日延願證文加判仍而如件

文政八百年七月晦日

湯ノ沢村引質金借用主

日延願人 政右衛門 ㊦

同 五人組惣代

治 助 ㊦

沢畑村

四郎兵衛殿

右紅花両度質流ニ相成候処、達而御願右紅花不殘請戻シ、御双方熟談相濟候処、以来申分無御座候、然ル所此度三吉三拾兩無尽発記仕候処、吉田村仁平治三番引取ニ加入仕候処、老丁前不足ニ付老両方加入致具候ハ、終会拾壹番之所ニ而外ニ金五兩被下置候様被仰聞重々忝承知仕候、尤残り式両方者吉田村才三郎出入仕候得者、私シ共

引取之節ハ、双方相請ヲ以為引取被下候、依之右差出申上候、日延証文印形相けつり反故ニ相成申候、為其如此御座候、以上

湯之沢 纏添

政右衛門 ㊦

文政八百年十月三日

沢畑村

四郎兵衛殿

五四 指入申一札之事 (代金用捨に付)

指入申一札之事

一昨申年極月晦日限、其許様江相渡可申上紅花代殘金式拾兩有之候処、某難渋ニ付皆濟難出来、段々相難御用捨之儀御願申上候所、此度最上屋喜八殿御取扱格別之御了簡ヲ以、金拾式両當時差入、残り金八両者御合力御用捨

被成下、難有仕合永世亡失不仕御高思之程難有奉存候、
依而添状如件

柴崎屋宗右衛門 印

文政八酉極月廿九日

堀米四郎兵衛殿

御支配 嘉吉殿

の引質にしたものだけ抜書きにした。

戌六月廿三日 石川 善太郎
一、金五拾五兩也

吉田才三郎口入

此引質

紅花九拾袋 但し九丸

但し四百九拾五匁袋也

戌十一月迄利足相済

月式拾兩匁之利也

元金之内

金貳兩貳分 戌十二月二日

差金受取

残元金五拾貳兩貳分也 戌十二月
お利分

但し来亥正月晦日切仕ル所江亥二月六日

金壹兩壹分三匁七分五厘

右者去戌十二当亥正月ノ式ヶ月分

利足礎ニ受取申候

依之当亥三月晦日切定

五五 大福帳抄 (横帳)

(表紙)

「文政十年

大 福 帳

亥正月吉日 一

(注) この大福帳は文政十年にそれまでの貸出金を整理

し、その後天保二年までの貸出の覚書で、五年間

分一四七枚の横帳である。その中から紅花を貸金

亥四月四日元利濟

証文並ニ紅花不殘相返ス

戌六月廿五日
一、金拾兩也 石川 善太郎

同 使久八渡し

吉田才三郎口入

此引實

紅花貳拾袋也

月貳拾兩壹利付

戌十一月迄之利足相濟

元金之内金貳分也

戌十二月二日差金受取

殘元金九兩貳分也

戌十二月分も利分

来亥正月晦日切定所江

亥二月六日

丁銀四匁貳分五厘

右者去戌十二月並ニ当亥正月も而

式ヶ月分利足受取申候、依之当亥三月晦日切定

亥四月四日元利濟

証文並ニ紅花相返ス

戌七月十五日
一、金百兩也

羽入 宇藏殿

禪三郎殿渡し

此引實

紅花百九拾貳袋也

右之内考袋預り置候処、戌九月廿九日

夫善七殿ニ相渡し

右紅花羽入禪三郎殿ニ差置、則藏預り手形申受置候

当戌十月晦日切定

月貳拾兩壹分利足付

戌十二月迄ノ利足相濟

金五兩也、亥五月五日彦藏様を受取

但し亥正月と四月迄の四ヶ月分利

当五月晦日切二仕

亥九月廿一日証文替ニ而相済

来亥正月晦日切定

亥二月四日

内金三分拾貳匁

亥十二月正メ而

貳ヶ月利足受取

依之当亥三月切定

亥四月十日

又金三分拾貳匁

但当亥二三月式ヶ月利足受取

別而申上候、壹駄ニ付金五兩宛も内金相済不申候得者、月延相成不申候得共、縦此後紅花何程下直仕候共、急度受戻約定ヲ以、当亥閏六月晦日切差延申候、相心得べし、亥七月流

戌九月十三日
一、金四拾兩也

石川
源兵衛直渡し

長三郎受人

此引質

紅花六拾四袋也

但し四百九拾匁袋

月式拾兩壹分利足付

但し六丸ニ致ス

戌十一月迄利相済

内金貳兩也

戌十二月五日

元金之内受取

残元金三拾八兩也

戌十二月と利分

戌十二月五日
一、金九拾五兩也

石川
三治郎

源兵衛受人

此引質紅花

正印七拾貳袋也 但し七丸

羽印八拾八袋也 同 九丸

ノ百六拾袋也

但し四百九拾玖袋也

来亥正月晦日切貳拾兩壹ノ割

亥二月四日

内金貳兩壹分貳朱也 戌十二亥正ノ

貳ヶ月分受取

依之当亥三月晦日切

亥七月流質ニ而濟

亥四月十日

内金壹分壹匁五分

但し戌十二月ノ亥三月迄

ノ四ヶ月分利足受取

別而印

壹駄ニ付金五兩宛も内金相濟不申候得者、差延相成

不申候得共、縦此後紅花如何様之下直ニ相成候共、

急度請戻約速ヲ以、内濟金無之、当閏六月晦日切ニ

差延候

亥七月流質ニ而濟

戌十二月五日
一、金五兩貳分也

石川 源兵衛

三次郎口入

此引質紅花拾袋也 壹丸

但[正]印四百九拾五匁袋也

来亥二月晦日切貳拾兩壹割

戌十二月廿三日
一、金貳百四兩壹分也

石川 三治郎殿 貸附

但し金貳拾兩ニ付壹ヶ月金壹分宛

来亥正月ノ利分

此引質

紅花三百拾九袋預り

来亥三月正晦日切定

但し位付左ニ

七丸 国一六拾七袋口

考款ニ付 四拾六兩位

七丸 国稀七拾四袋口

同四拾三兩位

貳十一

三十二 紅花五拾三袋口

同四拾壹兩貳分位

六丸 紅花六拾四袋口

同三拾八兩位

三丸 紅花廿七袋口

同三拾貳兩貳分位

三丸 紅花三拾四袋

同四拾壹兩貳分位

元二合

亥七月流質ニ而済

此引質紅花正味四拾メめ

当亥七月晦日切約速也

長右衛門方ニ差置也

亥九月十八日

利金壹兩貳朱也 閏六月も八月迄元而

三ヶ月分受取

亥十一月廿七日

元利金三拾壹兩貳分也

長右衛門殿より受取

元利済、証文共相返ス

亥閏六月十五日

一、金九兩也

石川

善太郎

受人源四郎渡し

此引質紅花貳拾袋也

当亥七月晦日切かし

亥七月十七日元利金九兩卜

壹メ四百八十五文

亥閏六月十三日 野田村

太吉

同長右衛門口入

善太郎殿より受取、則式拾袋
右同人殿ニ相渡し

ノ相済

亥七月一日
一、金三拾両者

長瀬村

久四郎直渡

谷地三吉請人

月割式分五厘

此引質紅花袴駄片馬也

此袋五百目袋九拾六袋也

当亥九月晦日切かし

内金貳拾両也 亥十二月十三日三吉より受取

但し利なしニ受取

又金拾両也 亥十二月廿一日元利済

外ニ金貳両壹分添証文三吉返ス

亥七月五日
一、金貳拾五両也

石川

十兵衛

佐平治受人

此引質紅花六拾四袋也

但し袴袋四百九拾五匁袋也

袴ヶ月切ニ而八月割五分利

式ヶ月より者月割式分五厘定

当亥八月晦日切かし

亥七月廿二日相渡し、証文相返ス

亥九月廿一日、証文替ニ而羽入
一、金百両也 宇藏

右者成年紅花引質かしノ分、

亥九月廿一日証文替にてかし

但し亥九月より利分、亥十一月切ニ仕ル

内金四拾五両也

子九月五日禪三郎殿より受取

此り金四兩貳分也相添

但し子正月より八月迄は八ヶ月分

引残而元金五拾五兩也

但し子正月より利分

卯正月十五日証文替二而

濟

元利は金七拾三兩貳分也

御兩人より受取

相濟

証文並ニ蔵預り共四日相返ス

子六月廿八日
一、金貳拾五兩也

小関村

善兵衛

田町与四郎蔵預り

子六月廿日
一、金七拾兩也

長瀬

庄六

内楯三吉渡し

此引實紅花正ミ四拾九メ五百目

長瀬久四郎殿蔵預り二而

月壹割貳分五厘、当子七月晦日切

内金三拾三兩貳分也

子九月廿日利なしニ三吉より受取

又金四拾兩也 久四郎殿より受取

子十月三日

此引實紅花正ミ三拾ニメ匁

但し当子七月晦日切月壹割貳分五厘

利足金貳分貳朱也、子六七メ貳ヶ月分

子八月一日受取、子八月廿日迄差延ル

子九月五日元利濟

証文貳通相返ス

利壹分三匁七分五厘受取

八月壹ヶ月分

子七月六日
一、金六拾兩也

小関村

善兵衛

与四郎殿口入

此引質紅花正ミ六拾メ目

但し当七月晦日切月巻割五分

利足金三分九匁子七月巻ケ月分

子八月一日受取、子八月廿日切差延ル

又子八月巻ケ月分三分九匁受取

元利相済、証文相返ス

子七月九日
一、金拾五兩也

大久保

三郎左衛門

内楯

三吉口入渡し

此引質紅花

当子七月晦日月巻割五分

証文並ニ蔵預リ相届不申候

是ハ破談ニ相成申候

子十月十七日
一、金六拾兩也

灰塚村

又治郎直渡ス

田町

与四郎口入

此引質紅花百拾袋也 但し五百目袋

田町与四郎殿蔵預リ

但し来丑之正月晦日切かし

利足金三兩也 丑二月六日与四郎殿受取

子十月と丑正月迄、四ケ月分

依之丑四月晦日切かし

子七月七日
一、金貳拾兩也

野田村

太吉直渡し

長右衛門口入

此質紅花四拾八袋也

当七月晦日切かし

子九月二日元利済

おさくとの二証文武通相渡し

利金貳兩壹分也 丑五月八日与四郎様と受取

但し丑二月と四月迄は三ヶ月分

依之丑五月と利分則五月切定

内金三拾兩也 丑六月五日与四郎様と受取

外ニ金三分惣利受取

但し丑五月壹ヶ月分

引残而元金三拾兩也 かし

但し当丑九月切定

同六月と利分

元利金三拾壹兩三分貳朱 丑十一月三日喜七と済

証文相返ス

正味三メ匁

来ル丑八月十日切月壹割五分

元利は金貳兩貳分四匁五分

右江金貳兩貳分貳朱受取

内貳朱返ス、四匁五分受取

は済

丑七月五日

一、金七拾兩也 寒河江あら町 利兵衛

此引質

紅花百貳拾八袋也

但し四百九拾匁袋ニ見ル

月壹割五分利足定

当丑八月晦日切かし

西町利助殿藏預り入ル

丑八月四日元利相済

右紅花不残相返ス

丑六月廿九日

一、金貳兩貳分也

ミろくぢ

新蔵悴

沢吉兵衛口入

此引質干花皆掛三メ四百五拾匁

内四百五拾匁位風代見込

双方証文取引相済

七月廿五日

越後屋吉左衛門

同 三之助

丑七月十日
一、金百両也

山形
吉左衛門殿

三之助殿ニ渡し

山形佐治吉左衛門様御分

同 三之助相渡

此引質紅花百拾八袋也

外ニ

忠次郎取次

水皆掛六メ八百匁

い印

一、紅花九拾貳袋也

彌勒寺

同 五メ七百匁

ろ印

一、同 七拾三袋也

〔沢畑
松橋村〕

同 六メ八百匁

は印

一、同 七拾袋也

成高

同 五メ六百匁

に印

一、同 百拾六袋也

三丁目

同 五メ百匁

ほ印

一、同 七拾五袋也

羽入村

〆 五俵也

花蕙だつ

一、同 七拾貳袋也

谷地合

当丑八月晦日切かし

一、同 七拾貳袋也

谷地伝

利足月考割五分

一、同 七拾貳袋也

長瀨

此分先ニ出ス

〆 六百四拾貳袋也

右書付失念仕候間、近日御帰し可申上候 以上

貸附金

金百兩也 丑七月十日渡し

金三拾四兩也 丑七月十四日ノ分

但し丑八月ノ利付分

仕入紅花売付分

手金引残り残金分

金百拾八兩也 丑七月廿一日

金七拾兩貳分 丑七月廿日

壹貳百文

但しみろくぢ与助紅花代立替分

金六拾五兩也 丑七月廿三日

壹メ五百文 花袋六十四

金拾兩也 丑七月十八日

三吉殿分

五百文 同日

三吉殿分

金貳兩也 丑七月廿五日渡し

メ金四百兩也 丑八月晦日切

月壹割五分

内訳

金三百六拾六兩者 丑七月ノ利付

金三拾四兩者 丑八月ノ利付

メ元二合

丑八月廿日濟

山形

吉左衛門殿御分

丑八月廿日改

一、紅花六拾七袋分 龜印

皆掛百四拾七匁

外二壹袋ト正ミ八拾匁

右者内櫛三吉方ニ有之候様、三之助様・忠次郎兩

人申事ニ御座候

合而六拾八袋ト

貳百貳拾七匁

内皆掛百四拾七匁、丑九月六日三吉添状ニ付、高

一、同 百三拾六袋卜 根岸龜印

関平兵衛方ニ袋入皆掛ニ而渡し

皆掛百四拾七匁

此引質貸附

内壹袋也 丑八月十一日三吉ニ相渡し

金四拾両也 但し丑九月

又六拾九袋也 三之助様立合渡し

月壹割貳分五厘利付分

八月十五日

但し当丑九月晦日切かし

引残而六十六袋百四十七匁

内附花壹袋也 丑十月十六日忠治郎ニ渡ス

丑十一月七日

又壹袋 八月廿日受取

元利金四拾壹両、大工仁左衛門様ヲ受取

六拾七袋百四十七匁

相済

此質附

佐治吉左衛門様

丑八月四日 内楯 三吉渡し

同 三之助 様

同八月六日 天童 忠治郎ニ渡し

忠治郎殿取次

金九拾両也 但當八月晦日切

丑八月七日入 一、紅花六拾六袋也 谷地平印

月壹割五分

同八月五日入

八月廿日相済

寅八月五日
一、金三十拾兩也

内楯村

三吉渡し

此引質紅花拾六入 四丸

右紅花三吉方ニ詔置

当八月切かし

利足月卷割式分五厘

同八月六日
一、金四十拾兩也

内楯村

三吉直渡し

此引質紅花拾六入 四丸

右紅花三吉方ニ詔置

当八月切かし

月卷割式分五厘

寅八月十二日
一、金五十拾兩也

内楯村

三吉渡し

但し此引質紅花拾六入 四丸

右紅花三吉方ニ詔置申候
当八月切月卷割式分五厘

三筆
ノ金百貳拾兩也

此引質紅花ノ高百八拾五袋

内訳

六拾八袋口

拾壹袋入 四丸
拾貳袋入 貳丸

百拾七袋口

拾貳袋入 七丸
拾叁袋入 三丸

ノ元二合 預り置

元利金百貳拾三兩也

とら九月廿一日受取済

寅八月廿七日
一、金三十拾兩也

寒河江

治左衛門

市郎兵衛殿口入

此引質紅花六拾四袋也

来卯三月切かし

月考割式分五厘也

去寅八月と当卯五月迄、十ヶ月分利足金三兩三分

也、卯六月四日市郎兵衛殿宅ニ而同人と受取

外ニ内金六兩壹分也 元金之内ニ差金として

四日同人と受取、則受書相渡し

残り元金貳拾三兩三分也 かし

此引質右紅花六拾四袋也

但卯六月と利懸り之分

依之当卯九月切約速仕候

但無証文かし、五百目袋入ニ而

当卯八月切かし

小手形相渡し置

卯八月三日元利濟

則右紅花不残相渡し

済

同十月二日

一、金三拾兩也

内橋村

三吉直渡し

無証文かし

内金拾兩也 寅十一月四日利なしニ預り

預り手形相渡し

右金拾兩、寅十一月晦日借返□□□□

又、金三拾兩也 借用ニ相成、右十月と利懸り

此引質紅花六拾貳袋ト

皆掛貳百七拾匁

寅十二月九日家来と受取

卯六月七日

一、金貳拾兩也

内橋村

三吉直渡し

此引質紅花六拾貳袋ト

皆掛貳百七拾匁

右江十兩受取

来卯三月切

手形相渡し

卯三月十三日附花皆掛式百七拾文め、三吉

親事殿ニ渡しかし

卯五月十一日流主断り、右附花返ス

附花巻袋、天童忠次郎ニ卯五月十一日相渡し、

又巻袋也、卯五月十四日三吉相渡し貸

卯六月廿四日

一、金三拾兩也

ミろくぢ

新蔵直

吉兵衛口入

此引質紅花

卯七月三日相済

右引質紅花相渡し

済

内

金拾三兩也 卯六月廿六日晚直渡し

とら十月四日

一、金八拾兩也

長藩

惣助

三吉渡し

此引質紅花正味六拾四メ匁

但し久四郎蔵預り、当十一月切

月巻割式分五厘定

寅十一月十四日、元利金八拾貳兩受取

証文相返ス、済

卯七月八日

一、金三拾兩也

弥勒寺村

新蔵直渡し

此引質紅花六拾四袋也

但し五百匁袋也

当卯七月切月巻割五分

但し此品物ニ上中あり

沢畑村吉兵衛請人

万一質流ニ相成候ハ、金三兩也

差金可致定メ、相違無御座候

卯八月四日右紅花不殘相渡し

元利受取相濟

五六 覚 (紅花仕切)

覚

仕入 一、貳丸 十七入紅花

同 同 合一、壹丸 十八入同

三丸

一、手板壹通

一、添金貳步貳朱

一、通り判壹通

右之通り髓ニ請取蔵入仕候、為念如斯御座候、以上

設楽次郎右之門 ㊦

(文政十一年)

子八月五日

堀米四郎兵衛殿

紅花出高

一、五百三十七駄三丸

内貳百十七駄三丸 四郎兵衛

卯十一月廿四日 内權村 一、金九兩也 三吉

此引質紅花貳拾四袋也

但し皆掛四百九拾刃袋也

来辰三月切、月壹割五分

質流二者不致候筈ニ而取組、則

限月通り請戻し可申約定仕候、

依之其趣手形相渡し置

辰七月二日元利濟

不殘此品物返ス、三吉立合

右之通り御座候、追々可申上候、

子八月五日

御印様



惣左衛門殿方

戌二 拾兩
一、金壹兩貳分

銀三匁

子極月十三日濟ム

戌十二 六拾兩
一、金九兩也

羽入
卯藏

丑三月五日禪三郎殿方受取

子利濟

戌十二 月壹兩貳步
一、金壹步卜

新田
藤兵衛

壹匁貳分

此分子十二月廿六日

吉兵衛方受取

子利濟

亥正 三拾兩
一、金四兩貳分

大堀村
重治郎

子大晦日惣左衛門殿分濟

惣左衛門口入

亥五 拾五兩
一、金八兩壹分

羽入
卯藏

五七 万書出覚帳 (横帳)

(表紙)

一、文政十一年

萬書出覚帳

子十二月吉日

最上川面村々

西五 三拾兩
一、金四兩貳分

子大晦日濟

東根

嘉吉

惣左衛門口入

子三月廿一日立合禪三郎殿分相濟

丑正月十三日相濟

惣左衛門口入

亥十一 六兩
一、金三分卜

天童
忠治郎

銀九匁

子四 拾五兩也
一、金壹兩貳分卜

天童
孫兵衛

子十二月廿七日直々濟

拾壹匁貳分五厘

亥十一 五十
一、金貳分仁朱也

羽入
喜藏

子二 貳百五拾兩
一、金廿七兩貳分

天童
興四郎

子十二月壹ヶ月分

来丑元利返金之節可濟約束也

子六 百兩也
一、金七兩貳分

同人

亥十二 百兩
一、金拾四兩貳分仁朱

羽入
治郎右衛門

子四 五拾兩
一、金五兩貳分仁朱

六田
運四郎

子十二月廿一日禪三郎様と相濟

丑正月七日御直々受取

亥十二 百兩
一、金拾四兩貳分

同
喜右衛門

子四 五拾兩
一、金五兩貳分仁朱

子十二月躰目
御直々受取

七匁五分

次郎右衛門

子十二月廿一日禪三郎殿と

殘金貳分仁朱 不足

立合相濟

子正 百五拾兩
一、金拾八兩也

山形
吉左衛門

丑七月廿七日御使と受取濟

子四 拾貳兩
一、金壹兩下

野田
長右衛門

四匁八分

戌八 七兩也
一、金壹兩

同人

三匁也

子十一 廿五兩
一、金貳分也

同人

三分

三拾壹文

金貳兩貳分貳朱下

内

金貳分貳朱下

子七月迄ノ分

百八拾八文

六分六拾文

壹匁二付八文宛

金三分貳朱下

きおふ代
八拾匁
(子八月初迄ノ分)

貳十文

金壹兩貳分貳朱下

六拾八文

差引而金壹匁也 受取

内三十七文まけ

丑正月九日立合相濟

子五 元金也
一、金壹分仁朱下

新田
庄兵衛

貳百五拾七文

御年貢分

内金壹分貳朱也 子十二月廿六日

吉右衛門受取

残り貳百五十七文材木代ニ渡ス

子六 廿兩
一、金壹兩下

六田村
甚八

三匁也

吉兵衛口入

子三月大晦日元利相濟

注文相渡ス

子六 三拾五兩
一、金壹兩下

門伝
作右衛門

銀三匁

興四郎口入

丑五月八日与四郎様ニ相濟

子六 十七兩也
一、金貳分卜

藤内新田
源四郎

六分

与四郎口入

丑五月八日与四郎様相濟

子七 五兩貳分卜七百文
一、金壹分卜

野川村

善右衛門

拾四匁七分

三吉口入

錢六拾三文

子大晦日三吉殿

濟

子九 百兩
一、金五兩也

藏増

三之助

子大晦日弥吉殿

弥吉口入

受取

子九 五拾兩
一、金貳兩貳分也

天童田町

清之助

金四拾匁也 子十二月廿五日

多治郎口入

吉兵衛受取

又 受取手形相渡し返ル
金貳匁貳分也 (丑正月七日)

与四郎殿受取

但シ右利足也

子十 六拾兩也
一金貳兩壹分

長瀬

久四郎

子大晦日三吉殿受取

三吉口入

子十 三拾兩
一、金壹兩貳朱

小関村

善兵衛

与四郎口入

丑五月八日与四郎殿相濟

子十 六拾兩
一、金貳兩壹分

灰塚

又治郎

外ニ金三分也丑正月壹ヶ月分添 与四郎口入

金三匁也 丑二月六日

与四郎殿受取

利金濟

子十 四拾兩
一、金壹兩貳分

窪ノ目

五郎治

与蔵口入

右子十二月廿七日

弥吉口入

使利吉殿方受取

子五 五拾兩
一、金五兩也

蟹沢 伊三郎

子大晦日惣左衛門殿方受取

子五 八拾兩
一、金九兩三分

天童 太助

与四郎口入

但シ子十二月二日与四郎殿方

天童 濟ム

子十一 廿兩
一、金貳分也

天童 市三郎

丑六月五日

与四朗口入

与四郎殿方受取済

子十一 五拾兩也
一、金壹兩壹分

羽入 治郎右衛門

金三郎口入

但シ此分未タ證文相届キ残シ

右注文子十二月廿一日相置ク

右子十一月十二日ケ月分来丑八月返金之節可濟管二

願出約束、丑九月三日元利茂衛門殿方相濟證文相返

ス

子十一 七拾兩
一、金壹兩貳分也

蔵増 忠八

子十二月廿四日

源吉口入

御直々受取

無證文貸

子九 三兩也
一、銀拾匁

天童 太治郎

八分

子十二月廿七日

忠治郎殿方

受取

川西村々

戌十二 貳兩

箕輪

一、金壹分ト

己之助

一、金貳分ト

藤藏

六匁六分

嘉藏口入

貳匁四分

嘉藏口入

子三月廿六日受取済

内金貳分也、子十二月廿二日嘉藏殿と受取

子九 六兩也
一、金三分ト

志津
重右衛門

又銀貳匁四分、丑二月十四日と喜内受取

銀九匁也

取ニ合済

丑四月十五日受取済

戌三 廿兩也
一、金三兩貳分ト

稲下シ
久四郎

卯正 三兩貳分
一、金貳分ト

溝延村
玄固老

銀六匁

日和田
治郎兵衛

七匁八分

戌十二 廿五兩
一、金三兩三分

嘉藏口入

外ニ金五兩三分ト

前々滞リ

子十二月廿七日御直々決

嘉藏口入

七匁八分

戌十二 五兩也
一、金三分ト

稲下シ
久七

銀六兩三分

銀九匁也

治郎吉口入

六分

子大晦日治郎吉殿と済

辰十 拾兩
一、金壹兩壹分

田井
源吉

亥十一 四兩也
一、金貳分ト

喜惣治

仁朱也

浅吉口入

拾三匁貳分

嘉藏口入

子十二月十五日済ム

外ニ七匁貳分 去亥利足分

西十二 三兩也

ミのわ

金三分

五匁四分

右口金三分式朱子十二月廿七日直々受取

つり式分式拾文相返ス

式ヶ月利濟

亥十二 元金貳兩
一、七匁式分

子大晦日治郎吉殿方濟

治郎吉口入

子二 三兩式分
一、金貳分ト

七匁壹分式リ五

次郎吉口入

子十二月大晦日次郎吉殿方濟

子二 廿兩也
一、金貳兩三分

子十二月廿四日御直々受取 与助口入

相濟

米代無澄文資
子九 四兩貳百文
一、銀拾四匁

四分

志津
重右衛門

⑩十式文

右ノ分丑四月五日受取濟

西里四ケ村

午三 五兩也
一、金三分仁朱ト

壹匁五分

内金貳分也

又金壹分也

又銀貳朱ト

壹匁五分

相濟

戌二 廿兩也
一、金三兩也

此分子十二月廿六日甚四郎方受取

利金濟

戌二 五兩也
一、金三分仁朱ト

壹匁五分

天満
源三郎

甚四郎口入

子十二月廿六日 甚四郎方受取

丑四月廿六日 甚四郎方受取

丑六月九日 甚四郎方受取

兩所村

傳四郎

受取

甚四郎口入

天満村

市郎兵衛

甚四郎口入

子十二月大晦日甚四郎と受取済

谷地村々

亥十一 五兩也

十治郎

子四 壹兩也
一、拾貳匁也

松橋
藤吉

壹匁五分

甚四郎口入

外二

甚六口入

内金貳分也、子十二月大晦日甚四郎と受取

金三兩三分ト

丑三月九日

拾貳匁也

前々利滞リ

又金壹分貳朱ト

同人と受取

ノ金四兩仁朱ト

壹匁五分

壹匁五分

ノ濟

酉六

横町

亥十一 五兩也

西里

一、米三俵也

正助

一、金三分仁朱ト

伊七

戌金三分ト

壹匁五分

甚四郎口入

壹メ貳百文

内金三分貳朱也

(子十二月廿六日
甚四郎と受取)

外二貸附方利足相濟不申候

又銀壹匁五分

子大晦日受取済

眞正 百三拾五兩也
一、金拾三兩貳分

北口町
与左衛門

子三 貳分仁朱

甚四郎

子大晦日久之助と受取済

久之助口入

一、銀五匁

六分貳り五

寅十二 壹兩也
一、仁朱ト

松橋

子十二月大晦日受取済

三匁三分

伝五郎
伝蔵口入

子十二月廿八日吉兵衛ら受取

濟

辰十 拾兩也
一、金壹兩三分

銀三匁

外二

金拾貳兩壹分

銀九匁也

〆金拾四兩ト

拾貳匁也

巳六 拾兩也
一、金壹兩貳分

外二

金壹分仁朱也 未申亥

三ヶ年滞リ

〆金壹兩三分仁朱也

内金壹兩貳分、子大晦日才三郎ら受取

残り金壹分五朱不足也

工藤小路

忠吉

才三郎口入

大町

弥之助

才三郎口入

外二高丑十一月迄金壹兩壹分貳朱

〆金壹兩三分也

右之内壹兩壹分用捨仕ル

巳十二御差残米百四拾四俵

三兩壹分四匁七分六リ

一、金貳分ト

五匁九分五リ七

外二金貳兩貳分ト

前之利足滞リ

拾壹匁貳分九リ

〆金三兩壹分ト

貳匁貳分四リ七

午十二 壹兩

一、仁朱ト

三匁三分

外二 前々利足滞リ

未十二 五拾兩

一、金七兩貳分

子大晦日惣左衛門殿ら受取

惣左衛門口入

横町

勘兵衛

横町

勘助

浅吉

工藤小路

庄治郎

松橋
重郎左衛門殿分

未十一 貳兩也
一、金壹分ト

注文あり

六匁六分

申七 壹兩貳分
一、金壹分ト

久喜藏殿分

壹匁貳分

注文あり

申十二 貳兩
一、金壹分ト

注文あり

六匁六分

酉五 壹兩貳分
一、金壹分ト

注文あり

壹匁貳分

酉十二 四兩也
一、金貳分仁朱ト

注文あり

五匁七分

戌九 三分無證文賞
一、仁朱ト

おみな殿分

六分

多郎八口入

戌十一 貳兩也

一、金壹分ト

注文あり

六匁六分

戌十二 壹分ト永廿五文
一、銀貳匁九分七リ

御役所方返金

吉兵衛かし

無證文かし

戌十二 四兩也
一、金貳分仁朱ト

注文あり

五匁七分

亥五 貳分無證文賞
一、銀五匁四分

田植之節

亥壬六 四兩也
一、金貳分仁朱ト

注文あり

五匁七分

子五 壹兩也
一、銀七匁貳分

注文あり

ノ金三兩壹分ト

五拾五匁四分七リ

外二

金六兩ト

拾匁〇三厘五毛

合テ

金拾兩壹分ト

銀五匁五分〇五毛

丑正月廿七日元利相濟

注文九本相返ス

ノ 濟

申九 拾五兩

一、金貳兩貳分仁朱ト

銀四匁五分

子大晦日惣左エ門殿方

受取

申十 四拾兩
一、金六兩也

同

小吉

惣左衛門口入

内金貳分仁朱也

子八月五日
金拾兩預り金
利足差かへ

引残テ

金五兩壹歩仁朱也

壬三月十七日相濟

申十二 拾兩
一、金壹兩仁分也

子大晦日惣左衛門殿方

受取

酉三
米五俵代七メ三百三十三文
一、壹メ三百七文

外二

三メ八百五拾文

前々滞り

ノ五メ百七拾文

酉四 五拾兩也

一、金七兩貳分

子大晦日相濟

北口町

治右衛門

久之助口入

酉四 六拾兩
一、金九兩也

工藤小路

三九郎

子大晦日惣左衛門殿方

惣左衛門口入

受取

酉六 壹兩也

高関

内楯

庄兵衛

惣左衛門分上ル

北口町

清四郎

才三郎口入

一、仁朱ト

利助

三匁三分

伝兵衛口入

丑十二月十七日傳兵衛殿請取済

荒町

酉十二 三兩也
一、金貳歩ト

伊助

銀貳匁四分

勘兵衛口入

外二

金壹兩ト

戌亥利足滞リ

拾匁貳分

金壹兩貳歩ト

拾貳匁六分

子先月大晦日元利済

亥三 五兩也
一、金三歩也

高関 新助

内三匁七分五リ

去亥差引
返分預リ

内

金三分也、丑正月十四日

吉兵衛ト受取

銀三匁七分五厘金リ返ス成

右ノ分丑利足長蔵上候

亥十 壹兩也
一、銀四匁

松橋 太郎兵衛

九分五リ

長蔵

此◎五百三拾文

七月半極月迄
メ而五ヶ月半利

丑二月四日長蔵殿方

利足受取済

子五 五拾兩
一、金五兩也

北口町 儀七郎

子大晦日惣左衛門殿ト受取 惣左衛門口入

子六 貳歩也
一、銀三匁分五リ

荒町 才三郎

右ノ分丑ノ暮出し十一日

子七 廿五兩也
一、金壹兩三歩仁朱也

内橋ノ 内兵衛

子十二月廿七日元利済

證文相返ス

惣左衛門方上ル

子八 拾兩也
一、金三歩也

大町 庄三郎

子大晦日三吉殿ト済

三吉口入

子八 壹兩貳步也
銀六匁七分五厘
才三郎
松橋ノ

丑正月十四日吉兵衛ヲ受取濟

子十一 五兩也
一、仁朱ト
松橋ノ
太郎兵衛

壹匁五分

丑十一月廿二日同人ヲ濟

無證文貨
子八 拾三兩
一、金三歩ト
内櫃
三吉

拾三匁五分

内九匁七分五厘
月老割貳分五厘

之間違引

残而金三分ト

三匁七分五厘

子大晦日相濟

寒河江川南村々

申十二 七百兩
一、金三拾五兩也
吉川
長左衛門

丑正月廿日直々濟

子十一 五拾兩
一、金壹兩也
同人

丑九月三日吉兵衛受取

戌五 三拾兩
一、金三兩貳分ト
寒河江
傳四郎

銀六匁也

丑正月廿一日御直々受取

無證文貨シ
亥八 貳步也
一、銀五匁四分
市郎兵衛

一、銀貳匁貳分五厘
去亥利滞リ

ノ七匁六分五厘

亥十二 拾五兩也
一、金壹兩三歩ト
寒河江
文五郎

拾貳匁也

内金壹兩三歩也
丑正月十五日

吉兵衛受取

無證文貸

子二 五兩也
一、金三歩下

寒河江

市郎兵衛

澤畑

二ヶ村

根岸

午四 三兩貳歩
酉十二 三歩也
一、米貳俵也

根岸

与治兵衛

内金三歩也 丑正月晦日御直々受取

右ノ内ニ正月考ケ月分入ル

外ニ

米貳俵也 去ル未滞リ

子三 五拾兩
一、金四兩貳歩也

利助

ノ米六俵也

米貳俵也 去亥滞リ

子十二月十二日請取済ム

又右衛門口入

卯二 貳兩也

南ノ

一、金壹歩下

三五郎

子四 百兩也
一、金九兩也

柴橋ノ
七兵衛

六匁六分

久蔵口入

丑正月廿日受取

長左衛門口入

外ニ銀九分 亥不足分

子十一 貳百兩也
一、金四兩也

柴橋會所

源右衛門

丑五月二日済

長左衛門

金壹歩仁朱也

寒河江

子十一 百兩
一、金貳兩也

中村七兵衛

子十二月大晦日
内金壹分也久蔵方受取

市郎兵衛口入

又壹ノ拾貳文字年酒代

此金貳朱ト貳百十貳文兩かへ六四

差引而

貳百拾貳文通預リ

丑七月八日御年貢皆済之砌

吉兵衛殿相渡ス済

(貼紙)

「 覚

一、金考歩仁朱 利足

一、生油考斗考升五合 〆吉兵衛殿

此考メ拾貳文

此所へ金考歩

右之通り御座候、以上

子極月 三五郎

四郎兵衛様

未十二 貳兩也
一、金考歩ト

沢畑
甚左衛門

六匁六分

未十二 貳歩

一、銀六匁也

〆金考歩ト

拾貳匁六分

子十二月廿六日直ニ済

亥正 拾貳兩
一、金考歩ト

六匁六分

子大晦日三吉方受取

亥十二 五兩也
一、金考兩貳歩

銀九分

子三 貳兩也
一、金考歩ト

銀三匁也

子十二月大晦日与治兵衛方

受取済

子九 貳歩也
一、銀貳匁也

子十二月大晦日与治兵衛方 与治兵衛口入

同人

南
兵太郎

三吉口入

根岸

五右衛門

四郎治口入

根岸
与四郎

与治兵衛口入

久八

〃

受取

老匁四分七り五

子九 三歩三百六拾文
一、三百九文

沢畑
左七

吉蔵口入

金四兩老歩ト

拾四匁九分七り五

申十二月
一、金三歩也

吉田村
傳十郎

吉田村

文治郎口入

午三 武歩
一、銀六匁也

治郎兵衛

此分多利足帳あり
一、金三歩ト

御年貢米滞り

外二

久之助口入

九百六文

金貳兩老歩ト

金老兩貳歩ト

銀三匁

九百六文

老メ三百四拾八文

右多利足ニ而馬代掛り拂置也

金貳兩老歩ト

五七 拾匁

笹川

銀九匁

一、金老兩三歩ト

久之助

老メ三百四拾八文

銀三匁也

申十二 老兩老歩

改メ

但シ貸附多利足相濟不申候

一、拾三匁五分

勘蔵

右利足ニ而家内中たはこ

外二

仁平治口入

割渡可申候約定ニ御座候

金四兩老歩ト

前々滞り

午八 仁朱也

吉田

一、銀壹匁

五分

外二

金壹歩下

壹匁五分

利滞り

松兵衛

仁兵衛口入

〆金壹歩下

三匁也

辰三 七匁也
一、金壹兩壹歩下

銀六分

外二

金四兩三歩下

銀貳匁七分

〆金六兩下

銀貳匁七分

辰十一 貳兩也
一、金壹歩下

六匁六分

吉田

権四郎

浅吉口入

〃

久治郎

戌三郎口入

子大晦日戌三郎と受取済

巳十二 拾六兩
一、金貳兩三歩下

銀七匁八分

外二

金貳兩貳歩下

利足滞り

〃
喜平治

才三郎口入

〆金五兩壹歩下

百五拾壹文

銀七匁八分

百五十壹文

内金壹兩也

(丑正月廿五日
才三郎と受取

残り

利金之分当丑三月切、猶又

元金之分当丑十一月切ニ付口

同延注文相置

又金壹兩也

〔丑六月晦日ニ

吉兵衛と受取

又金壹兩貳步也

丑八月十三日

吉兵衛^ら受取

又金壹步也

丑八月十六日

吉兵衛^ら受取

又壹メ六百文

丑八月晦日

吉兵衛受取

小以^ら金四兩也

引残而

金壹兩壹步下

不足

七匁八分

百五十匁文

午十二 五兩也
一、金三歩下

清龍寺

銀九匁也

才三郎口入

丑七月十三日才三郎^ら済

右者金壹兩受取

一月六日迄此分才三郎利足ニ上ル

〆済

未十二 壹兩貳步

一、金壹歩下

太吉

銀壹匁貳分

才三郎口入

内金壹歩也

丑正月廿五日才三郎^ら

受取

申二 三兩也

一、金貳歩下

勤八

銀貳匁四分

才三郎口入

内金貳歩也

丑正月廿一日

才三郎^ら受取

又銀貳匁四分

丑十二月十一金二附

用捨致し相済

〆受取相済

久之助殿分

酉九 壹兩貳歩
一、金壹歩下

銀壹匁式分

成七 三兩也
一、金貳歩

銀貳匁四分

金三歩

内貳朱卜六分用捨

銀三匁六分

引残而金貳分式朱卜三匁

内六百四拾九文

子極月十一月分御年貢改メ
間違返分引□□也

引残テ

金貳歩

四百六十四文

外二子四月廿九日

百五拾文

いわし買込成かし

金貳分 出分

六百拾四文

子大晦日受取済

成十二 七兩也
一、金壹兩壹歩

改メ
勘平

六分

外二

壹匁五分

亥利足滞

浅吉口入

金壹兩壹歩

銀貳匁四分

内金壹兩壹歩

子大晦日吉兵衛受取

六分

残り壹匁五分

浅吉口出分

上

亥九 五兩也
一、金三歩

吉田
直七

銀九匁也

才三郎口入

内金貳兩也

丑七月廿二日才三郎受取

差引而

金壹兩

返

銀六匁

亥十二 五兩也
一、金三歩

与右衛門

拾三匁五分

才三郎口入

銀九匁

浅吉口入

子大晦日才三郎受取済

是八当子十一月吉田蔵江

亥十二 五匁也
一、金三歩下

勘兵衛

米二而納度願二候間口無意
證文相返し

拾三匁五分

才三郎口入

子大晦日才三郎受取済

湯野沢村

子三 三拾匁也
一、金三兩三歩也

吉田
今内

酉十二 壹匁也
一、拾匁八分

利吉

子極月大晦日久治郎殿受取

浅吉口入

外二

七兵衛口入

子四 元金拾兩
一、金壹兩仁朱也

今内

金三兩貳歩下

前之利滞

子十二月大晦日

浅吉口入

銀八分

久治郎殿元利済

金三兩貳歩下

拾壹匁六分

仁平治分

午十二 五匁也
一、金三歩下

嘉左衛門

元金なし
一、金壹歩下

戌九月廿七日

銀九匁

七兵衛口入

銀四匁五分

差引残りかし

子大晦日吉兵衛受取

午十二
一、金壹歩下

七之助

未十二 壹兩三歩也
一、金壹歩下

吉兵衛

銀三匁九分

子大晦日吉兵衛受取

申十一 三匁也
一、金貳步

銀貳匁四分

圓吉
次助口入

外二

金貳匁仁朱卜 前々滞り

四匁八分

金貳匁貳步仁朱卜

銀七匁貳分

子十二日大晦元利相濟

證文治助に相渡ス

申十二 三匁貳步
一、金貳步

銀七匁八分

清三郎
治助口入

外二

金三匁卜 前々利滞

銀八匁壹分

金三匁三歩下

銀九分

内金貳步下

子大晦日吉兵衛

七匁八分

受取

引残而金三匁下

不足

銀八匁壹分

戌六 貳匁也
一、金壹步下

与七

銀六匁六分

治助口入

外二

金貳匁下

前々利滞

銀拾四匁壹分

金貳匁貳步下

銀五匁七分

戌十二 貳匁也
一、金壹步下

治兵衛

銀六匁六分

治助口入

外二 金壹匁壹步

前々滞

拾三匁式分

ノ金壹兩三步ト

銀四匁八分

内金壹歩ト 子大晦日

六匁六分

吉兵衛受取

差引而

金壹兩壹歩ト

銀拾三匁式分

亥二 貳兩也
一、金壹歩ト

銀六匁六分

善七

治助口入

外ニ金壹兩壹歩ト 前々利滞

拾三匁式分

ノ金壹兩三步ト

銀四匁八分

亥十二 三拾三兩
一、金四兩三步ト

銀拾貳匁也

治助

七兵衛口入

外ニ金拾四兩三步ト 前々利滞

銀三匁七分五リ

ノ金拾九兩三步ト

銀七分五リ

亥十二 五兩也
一、金三步ト

銀九匁也

与吉

治助口入

外ニ金三兩貳歩仁朱ト 前々利滞

銀三匁也

ノ金四兩貳歩ト

銀四匁五分

子十二月大晦日元利相落

證文治助ニ相渡ス

子十一 貳兩貳歩也
一、金壹歩ト

拾貳匁也

助十郎

治助口入

外ニ金壹兩壹歩ト 前々利滞

八匁式分五リ

金壹兩三歩ト

銀五匁式分五リ

内金壹歩ト 子大晦日

拾式匁 吉兵衛受取

差引而

金壹兩考分ト 不足

銀八匁式分五リ

五四 三兩三歩也

一、金式歩ト 七兵衛 治助口入

内金考分式分五 亥利返分預リ

内金式分也 子大晦日吉兵衛受取

差扣而

金九匁三分七厘五毛 不足

寅十二 元金なし

一、銀四匁五分 七藏

治助口入

辰正 六兩也

一、金壹兩ト 庄左衛門

銀四匁八分

外二金壹兩壹歩仁朱ト 前々滞リ

銀五匁七分

金式兩式歩ト

銀三匁也

内金壹兩四匁八分 子大晦日

外二壹匁八分 吉兵衛受取

差引而

金壹兩考分ト 不足

銀拾壹匁四分

辰正 式兩也

一、金考歩ト

外二銀三匁也 亥差引 不足かし

金壹歩ト

九匁六分

子大晦日吉兵衛受取

治助口入

子八 貳兩貳步也
一、金貳步也

彌治右衛門
三郎兵衛口入
久之助口入

午十二 五兩也
一、金三歩下

彌治右衛門

外二

午乙亥迄三拾ヶ年利足滯

銀九匁

外二金三兩三歩 前々利足滯

銀九匁

次助口入

元金なし
一、金壹歩也

湯野沢

七兵衛

外金四兩貳歩下

銀九匁也

治助口入

湯野沢

午十二 貳兩也
一、金壹歩下

長八

辰十二 五兩也
一、金三歩下

助四郎

六匁六分

治助口入

銀九匁

權四兩口入

子大晦日吉兵衛受取

外二金三兩三歩也

申酉戌亥利足滯り

外金四匁貳歩下

銀九匁也

亥三
一、金壹歩下

茂右衛門

午十二 五兩也
一、金三歩下

吉郎兵衛

但シ文右衛門手濟金也

内金壹歩也 子大晦日吉兵衛受取

銀九匁

次助口入

又銀六匁四分式厘 丑正月十四日
吉兵衛も受取

外二金三兩三歩也

前々利足滯

外金四兩貳歩下

元合濟

銀九匁

大原村

子十二 壹兩貳步
一、金壹步下

壹匁貳分

子大晦日久之助を受取済

亥年分

元金なし
一、金壹步也

但シ利足用捨引残り

子大晦日用捨任久之助受取済

酉十二 三歩也
一、銀八匁壹分

元利金之内貳分貳朱二而相済

注文相返ス

子十二 貳兩貳步
一、金壹步下

銀拾貳匁

子大晦日久之助を受取済

丑正 貳兩也

一、金壹步下

六匁六分

丑正月十四日利足用捨流シ

證文相取かへ也

亥年分金壹分下銀八匁四分

合而金三分之用捨流シ取かへ

辰十二 貳兩也
一、金壹步下

六匁六分

子大晦日久之助を受取済

午十二 四兩也
一、金貳步下

拾三匁貳分

子大晦日久之助を受取済

午十二 六兩也
一、金壹兩下

銀四匁八分

子大晦日久之助を受取済

未三 五兩也

太右衛門

弥惣

久之助口入

竹藏

久之助口入

權兵衛銀

久之助口入

長右衛門

忠兵衛

治郎助

一、金三歩ト

銀九匁

子大晦日久之助ト受取済

戌十二
一、金壹歩ト

拾式匁也

子大晦日久之助ト受取済

大久保村

申十 三兩也
一、金貳歩ト

壹匁五分

外ニ金貳兩三歩ト

三匁七分四リ五

五匁貳分四リ五

丑八月廿三日五人扣預ニ付済

沢口□大福長ニくわしく印ス

勘平

申十二 元金なし
一、銀貳匁五分

亥正 拾五兩
一、金貳兩貳歩仁朱也

子十二月大晦日 文治郎ト受取済

亥正 廿兩貳歩也
一、金三兩貳歩ト

銀五匁貳分五リ

子大晦日 文治郎ト受取済

子三 拾兩
一、金壹兩壹歩ト

拾式匁五分

子大晦日久之助ト受取済

子十一 五兩也
一、銀八匁七分五リ

子大晦日 文治郎ト受取済

利左衛門

仁三郎

文治郎口入

治兵衛

文治郎口入

大久保

惣左衛門

久之助口入

助右衛門

文治郎口入

新吉田

荒小家 三ヶ村

船頭

丑七月八日

卯十二 五兩也
一、金三歩ト

荒小家
与左衛門

元ト合相濟

銀九匁

重右衛門口入

子二 三兩貳歩
一、金貳歩ト

新吉田
平助

子極月十九日請取濟ム

新吉田

四匁六分五リ

新太郎口入

未正
一、金壹歩仁朱也

文吉

内金貳分貳朱也 直々受取
銀貳匁八分五厘返リ

但シ手紙金滞リ

重右衛門扱ヒ

此分子十二月廿六日新太郎ニ渡ス濟

亥三 五兩也
一、金三歩ト

荒小家
圓藏

子四 六兩也
一、金三歩ト

荒小家
弥右衛門

銀九匁也

重右衛門口入

銀三匁六分

新太郎口入

子十二月十九日与左衛門ト受取濟ム

内金三分也 丑三月十日新太郎ト受取

亥壬六 廿兩也
一、金三兩貳歩ト

船頭
助作

差引而

銀六匁也

重右衛門口入

銀三匁六分 不足

内金三兩ト五百文

新吉田

子五 拾兩

庄左衛門

子十二月大晦日直受取

一、金壹兩也

新太郎口入

又金貳分ト

残り吉兵衛ト受取

子十二月廿五日直々相濟

新太郎口入

銀壹匁五分

船頭

百六十文

西十二 拾兩也
一、金壹兩三歩ト

治郎吉

銀三匁

才三郎口入

九匁七厘五毛

子大晦日才三郎方受取

金壹兩壹歩

銀八匁七分七厘五

岩木村

内 金壹歩

子三月十四日金貳兩請取分

寅八 三兩也

六藏

三匁

拾ヶ月利戻シ

一、金貳歩

六藏

三匁六分

子五月七日金貳歩請取分

貳匁四分

三匁六分

八ヶ月利戻シ

外二金四兩壹分ト

前之利足滞

拾貳匁三分

金壹歩

銀六匁六分

金四兩三歩

指引而

十四匁七分

金壹兩ト

銀貳匁壹分七厘五

寅九

六藏悴

亥九 拾兩

岩木

元金なし

一、卷メ四百五拾文

六藏悴

一、金壹兩貳歩也

弥左衛門

但シ治郎助上金不足かし

浅吉受合

子十二月廿四日

勘兵衛口入

卯壬四 壹歩也

笹川

内銀五匁四分

笹本弥右衛門殿

一、金壹歩

藤助儀

返り残八

受取分

拾四匁七分

六藏口入

又金壹匁也

子十二月廿四日正金直々受取

外二金三歩ト

戌亥利足滞

又金壹匁也

子十二月廿四日正金直々受取

又金卷兩式朱也 子大晦日吉兵衛受取

又銀式匁卷分 丑正月十四日吉兵衛受取

亥十二 拾三兩
一、金式兩式步下

籙本
弥右衛門

銀式匁卷分

弥左衛門口入

子十二月廿四日

右之金式兩式分式朱也 岩木弥左衛殿受取

つり五匁四分

此分岩木弥左衛門殿長ニ越ス

子利足濟

手形なし

午十一

一、金卷歩也

未十二
一、金卷歩也

丑七
一、金式歩式朱也

内酉二月綴入時四日日用

巳九
仁朱也

丑二月廿四日四郎治受取濟

午十二
一、金卷歩也

子十二 卷歩
一、銀三匁

子十二月大晦日濟

丑七 卷歩
一、銀三匁也

外二六匁也 戌亥利滯

外二六匁也

辰七 三歩
一、銀九匁也

外二金三歩也 前之利足滯

外二金三歩也

銀九匁也

銀九匁也

辰七 卷儀代卷メ三百五十文

沢畑南

金谷 市太郎

沢畑 仁助

かこ

長助

四郎治口入

十太郎

荒小家 重右衛門

荒小家 重右衛門

一、貳百四拾三メ

林 助

外ニ貳百六拾三文 亥利足滞リ

ノ五百六文

巳四 米代残り

一、銀五匁六分八リ

舛川

勘兵衛

申七 壹歩

一、銀三匁也

沢畑

己 蔵

子十二月廿六日□□ヲ受取

申十一 壹歩

一、銀三匁也

南ノ

庄 蔵

外ニ五百五拾文

(申酉利足滞リ右之内七月分
日用引不足也)

ノ銀三匁ト

五百五拾文

亥十二

一拾五文

沢畑

兵治郎

但シ上金之硯不足

横町

惣左衛門分

一、金五両也 戌正月二日貸

一、金拾両也 戌三月晦日貸

一、金廿両也 亥九月七日貸

亥十二 壹歩

一、銀三匁也

みろくし

太七

子十二月廿二日元利済

亥十二 貳歩

一、銀六匁也

沢畑

勘四郎

子十二月十三日受取済ム

日記牒

戌十二

一、金壹歩也

沢畑

仙 助

亥七

一、金貳歩仁朱也

船形

与 助

蠟代残り

子八

一、百八拾九文

天童

又 助

右同断

久三郎事

子夏□
一、三百文

谷地
惣太郎

卯八
一、乃満五拾枚

六供
茂八

た□□とふ代

子大晦日
一、米五升

沢
清之助

巳七
一、金老歩ト
式百文

同人

代

亥九
一、金老歩ト

横町
嘉吉

巳八
一、花筵百五拾枚
戌式メ百文

同人

卷メ六拾老文

いろく引残り蠟代

酉二
一、三百文

沢
清之助

〃
一、同五拾枚
戌七百文

同人

米代不足かし

寅十二
一、金老歩也

〃
重兵衛

午未蠟代残り
一、金老歩ト
卷メ四文

阿ら町
竹治郎

米老儀代

卯七
一、六拾八文

〃
久蔵口入

内卷メ五百四拾文

取
亥十月子四迄ろうそくにて受

米半銭かし

辰八
一、四百文

袖屋敷
権内

前々年貢滞り
一、金老歩也
色々捨引残り

笹川
亀之助
久之助口入

申八、酉八迄
一、金四兩壹歩仁朱ト

天童
又助

百九拾五文

亥八
一、同壹兩貳歩ト

同人

永拾五匁七分九リ

申七
一、米壹俵也

六供
茂八

代壹×五百五拾文

申七
一、金四兩貳歩ト

天童
善之助

永五匁七厘

◎貳百四十九文

申九
一、仁朱ト

大町
善左衛門

八拾壹文

内五百九拾五文 未十月廿七日買物代引ク

引残り

三百拾壹文かし

申九

白鳥

一、四拾文

吉兵衛

米代残り

戌九改×
一、金貳兩ト

天童
七右衛門

永五匁七分七リ

戌四
一、晒板三拾枚

白岩
紋四郎

蠟代残り

戌八
一、金壹兩ト

六供
治右衛門

三百六拾七文

一、五×四百文
花筵四百枚代

同人

亥七
一、百文

大原ノ
長八

子三
一、拾壹×七百四拾文

前小路
嘉兵衛

鯨代色々引残り

子五

吉田

一、仁朱也

内三拾壹文返り

辰之助
才三郎口入

丑四

一、金壹歩下
貳百五拾七文

沢畑
吉兵衛

右米壹俵代

丑十二
一、仁朱ト

八百廿四文

観音寺
善蔵

酉十一 貳歩
一、銀六匁也

外二金貳歩ト

前之利足滞り

田井
弥惣治

銀六匁

ノ金貳歩下

拾貳匁也

辰八
一、貳百八拾四文

御年貢分勘定残り

吉田
文治郎

子大晦日濟

巳三

一、百八拾貳文

是八両所勘助方出ル分

浅吉

午五

一、金壹兩貳歩也
銀九分三リ

横町
惣左衛門

色々仕立質並絹類上下受取

午七

一、貳百廿六文

天童ノ
源治郎

蠟代不足かし

未三

一、壹メ三百五拾文
米壹俵也

北口町
有助

未四 壹歩

一、銀三匁

沢畑
仁左衛門

外二

拾四匁也 前之利足滞

勘兵衛

ノ銀拾七匁也

貳分五リ

未四

一、五百九拾八文

笹川
源八

天秤残りかし

才三郎引受

貳百八十式文

使姉御渡ス

未六
一、仁朱ト

西里
長八

申十二
一、金巻歩仁朱

東根
圓藏

八百八拾式文

米代残りかし

一、金式歩也

作治郎

未六
一、五十文

湯野沢
喜七

但シ圓藏分る腕代渡り金
外貳百文 申七月廿七日紅荷代端せん

志な代□リ

二口ノ金式歩ト

作治郎

未七
一、廿文

前小路
弥兵衛

貳百文

蠟代不足かし

内四メ匁 たはこ二而受取

青字端せん
一、銀式匁六分三リ

南部
垣井新六

竹代

去ル申
一、金巻歩式朱ト

工藤小路
忠吉

酉二
一巻メ五百文

沢畑
小作

銀式匁六分式リ五

但シのこきり代

申四
一、銀式匁四分壹リ

吉田
半助

内四百文 酉春新屋敷土引四日分引残

浅吉受合

引残り

善兵衛

壹メ百文

申七
一、金巻歩仁朱ト

西六

一、金壹歩ト
貳百文

但シ米貳儀代色々引残

工藤小路
忠 吉

亥八

一、金壹歩也
但シ無證文かし

寒河江
又右衛門

酉七

一、三百三拾五文
但シ米味噲代

湯野沢
重四郎

亥十二

一、六百八拾八文
米代残リ

新吉田
新太郎

酉戌

一、金拾壹兩三步
永壹匁五分九リ

東根
傳 蔵

子八月六日改メ
一、貳百六拾文

吉田
才三郎

但シ蠟代残リ

根岸
与治兵衛

子大晦日受取済

天童

酉十二

一、仁朱也
八百五拾文

東根ノ
嘉 吉

子七 拾兩也
一、金三步ト

与四郎

戌十二

一、六百六拾文
返米代なり

吉田
浅 吉

但シ大小壹兩預リ置ク
内金三分貳朱也 丑正月七日御直ニ受取

忠治郎

亥五

一、三百廿文
米壹匁不足

工藤小路
忠 吉

子七
一、金壹歩ト

八拾五文
蠟代残リカシ

子十二月廿七日直々濟

子七
百廿文

喜惣治
ミノウ

灰壹斗代

子十一
金貳步也 使同人

代かし

右者歳暮二而相濟

子二
一、金貳兩貳步仁朱卜

白岩
紋四郎

沢畑
吉兵衛殿分

子七
一、米壹俵也 使御内室

代料金壹步貳百文

内金貳兩貳分貳朱也 喜内受取

子九
一、米壹俵也 使同人

代金壹步三百文

子九
一、八拾五文 カツキサワ
権助

米代不足かし

子十
一、拂壹斗 使同人

代五百八拾壹文

子十二月廿八日吉兵衛も受取濟

子十二
一、貳百八拾貳文 吉田
文治郎

子十一
一、米壹俵也 使同人

代金壹分ト

御年貢改メなり

五百文

子十二
一、三十貳文 羽入
喜蔵

塩引代つりかし

子十二
一、金貳歩仁朱也

沢畑
友吉

代かし

大福ニ上ル

子十一
一、金四兩考歩

内橋ノ
三吉

三十式文

是迄指引不足かし

戌七
一、拾貳文

工藤小路鍛冶
重藏

釘代つりかし

子大晦日
一、貳百三拾壹文

〃
同人

返り銭ハかし

丑七月十三日差引ニ而済

丑正月七日
一、銀四匁五分

横町
惣右衛門

是ハ利足勘定之□

惣半銀不足かし

入方分

酉七
入中なわ耆厘半

根岸

与治兵衛

戌二
入金貳分也

横町

およし

亥三
入仁朱ト

工藤小じ

庄治郎方

貳匁五分

吉田

仁平治

亥八
入赤青苧

九百匁

六供町

重七

子六
入酒三升

代貳百四拾文

かし
入生中耆升

代百文

子六
入生酒三升

代貳百四十文

子七

入生酒三升

代貳百四拾文

子七
入同酒三升

代貳百四十文

〆老メ六拾文

外ニ六十五つり舟代

八月十五日

右ノ五百文 米代不足かし

右江貳朱渡し

百七十五文返り取

子六
入四百四拾五文

灰代返分預り置ク分

子八月十四日
入生酒五升

代四百八拾文

同廿三日
入生酒五升

代四百八拾文

〆貳朱ト百六拾文 子大晦日多吉殿ニ濟

羽入

伝兵衛殿

子七月廿九日
入たまり 貳升七合五夕

同日 入志やうゆ貳升七合五夕

九月九日 入たまり 貳升七合五夕

同日 入志やうゆ貳升七合五夕

同日 入たまり 五升

同十月朔日 入 同 五升

同日 入たまり 五升五合

内糖ノ
庄兵衛

丑正月十七日 入同 貳拾壹厘 使家来持

〆金壹分ト三百三十貳文

丑五月九日直々濟

子十一
入貳百七十文

酒代端かり

子十一月廿五日
入よし

三尺五咫

代貳百五十文

壹×五十文かへ

丑二月四日相濟

吉川

長左衛門殿分

子三月九日
入 屋根拾連

使姉御

代四百文

子七月上旬改
入 同 十五連

使利助殿

代六百文 届キ申候

子十一月四日
入 三拾六連

使御家来

田井
弥兵衛次

同人

子八

代壹×四百四十文

百四拾文 御朱印米代

勘定残りかし

丑正月廿日改
入貳朱也 御米懸リ

亥子二ヶ年分

入分 金壹分貳朱卜

八百四拾文

差引而

金壹分貳朱卜

七百文

丑正月廿日立合改

相濟

入 濟

谷地伴藏分

戌二月十六日
入水油四百三拾匁

〃十月十二日
入同 四百拾匁
〃十一月四日
入〃 四百拾匁
〃十二月廿二日
入〃 四百拾匁
亥正月十四日
入〃 四百拾匁
〃三月十八日
入〃 四百三拾匁
〃四月十四日
入〃 四百拾匁
亥壬六月十日
入〃 四百拾匁
〃七月六日
入〃 四百拾匁
〃十五日
入〃 四百拾匁
〃廿九日
入〃 四百拾匁
〃八月廿日
入〃 四百拾匁
六月八日

入〃 四百拾匁
亥九月九日
入〃 三百六拾匁
〃 廿三日
入〃 四百拾匁
〃十月十日
入〃 四百拾匁
亥十月廿九日
入水油四百廿匁
〃十一月十八日
入〃 四百廿匁
〃極月十三日
入〃 四百三拾匁
〃 十八日
入〃 四百三拾匁
同日
入胡摩貳百匁
子正月五日
入水油四百三拾匁
〃 廿日
入〃 四百三拾匁
〃 廿九日
入〃 四百三拾匁

二月十七日
入〃 四百三拾匁

四月廿六日
入〃 四百三拾匁

亥五月十二日
入〃 四百拾匁

子四月朔日
入〃 四百三拾匁

書出除分ハ

新町

平吉分

湯野沢

庄助分

酒代分

三五郎

工藤小路

鍛冶分

二舞子

小三郎分

寒河江

一、 要藏分

大工

仁左衛門分

文政十一年

子歲暮書

一、 金卷兩三分

天童

忠治郎

一、 金卷分也

太吉

一、 大塩引卷本

庄助

一、 中塩引卷本

金右衛門

一、 金卷兩也

惣左衛門

外二塩引卷本

一、 米拾俵也

三吉

外二又拾俵也

外二金卷分二塩引卷本

米貳拾俵也

寅四月改二而
子歲暮濟

子七月金壹兩貳分盆礼濟

一、金壹兩也

長増

一、金壹分也

傳兵衛

一、金貳分也

文治郎

一、大塩引壹本

利助

一、中塩引壹本

四郎治

一、塩引壹本

久蔵

外二三百文

新蔵

三百文

久蔵

一、小塩引壹本

才治郎

一、中塩引壹本

重五郎

一、小塩引壹本

新蔵

一、中塩引壹本

新太郎

子七月金三兩也盆礼相濟

一、米壹俵也

子七月廿五日渡し

一、同壹俵也

子九月二日渡し

一、同拂壹斗

子十月廿六日渡し

一、同壹俵也

子十一月十八日渡し

一、金貳分也

子十一月廿六日渡し

一、金壹兩也

吉田新吉田両村支配ノ料

一、金貳分也

おかめとの

一、金貳俵也

左内分

外二塩引壹本

右 子七月と極月迄六ヶ月分

蠟燭五丁

一、白米壹斗

金谷庵

御茶相添

一、米壹俵也

極楽院

外二

白米貳升

百文

蠟燭貳丁

一、米元貳升五合

甚八

外二貳拾五文

役錢

一、小塩引巻本 大原 長四三郎

一、金巻両也 久之助

外ニ米巻俵也 作兵衛分

支配料

一、金巻両也 才三郎

一、塩引巻本 仁平治

百文分 一、うとん 定林寺

外ニ金貳分也

一、金貳分也 甚四郎

一、米貳俵也 同人

外ニ塩引巻本

右 畜米寅三月五日立合 畑中伊八

御年貢ニ致ス 但シ甚四郎殿願ひ附

一、米三俵也 与治兵衛

外ニ塩引巻本

一、貳百文 大膳

一、金巻分也 治郎吉

一、米半俵也 嘉蔵

一、金巻分也 弥吉

一、百文 西里村

一、百文 ③ つぼさし

一、日和田大奉貳状 三吉

目 礼

一、いわし巻束 かや 市太郎

一、貳百文 衆太 羽入いしや

一、塩引巻本 新田 権蔵

沢畑

吉兵衛益礼

丑七月十二日 一、金三兩也

内

金巻分也 丑四月廿日渡ス

米巻俵也 丑五月廿八日渡ス

代金巻分六百元

米巻俵也 丑七月二日渡ス

代金巻分六百元

メ金三分ト巻メ式百文

引残而金式刃ト四百文

右ノ分 取直ス也

尤左内おかめとの礼之儀は

当丑極月大晦日可致候

(裏表紙)

上紙共二五拾式枚

五八 書簡(紅花代金為替手形下しに付)

(端裏書)

「やサマ

」

二啓申上候、旧冬中ハ万端御都合克御取納可被遊珍重御儀奉存候、次ニ当方御蔭を以相応ニ御取仕舞仕候 乍憚御休意可被成下候、一昨年中ハ御差荷被成下難有仕合ニ奉存候、右売付旧冬申上候所相達御拜見御承知被遊候由、右代金此度山形十日町村井清七様へ為替ニ取組手形相下し申上候、則左ニ

金四拾式両三步ト

六匁九分也

右之通手形江下し申上候、右同人様方引替御受取被遊可被下候、尤仕切書ハ旧冬相下し申上候御一覽被遊被下候由奉察入候、爰元旧冬中取引之儀外々方も申参り御承知被遊候由、昨年中諸方荷不足ニ而是非一花面白キ取引可

有之哉存居候所、何分諸方不景氣ニ而、紅屋方染註文無
之、例年の半高後々仕事も致不申、依而残花も相応ニ有
之申候、当年諸方又々荷不足之様相聞入申候、何卒此後
都合克上出来仕ハ反御利運相成り候様奉祈上候、不相替
御仕入御差向被成下度偏ニ〳〵奉願上候、先ッ者申上度
如斯御座候、恐惶謹言

(文政十四年カ)
正月四日

近江屋佐助^印

伊助

喜助

万助

堀米四郎兵衛様

御店衆中様

五九 書簡 (京都より手形入に付)

(封書上書)

〔沢はた

貫津

堀米四郎兵衛様 赤塚庄次郎

貴下

未夕不得御意候得共春

寒迫兼日候、御家内様

御壮氣被成御越年珍重

之御義ニ奉存候、然者昨日

京都近江屋佐助殿と

手形入之書状到来

候ニ付、差遣申候、御入手

可被下候、則乍御面倒

御請取被遣可被申候、早々

以上

(文政十四カ)

二月十二日

尚々申上候、賃銭

式百文此ものニ被下度

奉存候、右賃ニ而者

少々余慶与奉存候得共

御勘弁被下度奉存候

六〇 書簡 (注文品船積他に付)

(封書上書)

「羽州最上谷地沢畑

堀米四郎兵衛様

為替手形入」

(封書裏書)

「二月十二日出

近江屋

安次郎」

(端裏書)
「や御印様

(異筆)
山形山村藤八殿と

三月晦日八ツ時着」

一筆啓上仕候、春暖相催候処、先以其御地御家内様御揃
益御勇健ニ被遊御座奉存珍重候、随而当方無異罷有候、
乍憚御安意思召可被下候

一、猶其御表正月二日出候御状、京都伊勢屋理右工門殿
と相達し忝拜見仕候、然ハ旧冬才三郎様御上京之儀、其
後喜内様三吉様御上京之儀ニ付、御叮嚀御礼御書状被下
奉痛入候、誠ニ喜内様三吉様之儀ハ、当地御逗留も無御
座御出立ニ付、大キニ残念ニ奉存候、乍憚宜しく御断申
上候

一、才三郎様御註文之品、早々御下し可被成候様被仰下
忝奉長候、則先状と追々上船候御ツミ入申上度罷有候、
此度別紙船付書御案内申上候、御入手可被成候、且又絞
リ木綿両三日中ニツミ入申上候間 請入次第二仕切書御
案内可申上候

一、猶爰許正月廿四日出候くり綿船付天草仕切書御案内
申上候、定而相達候御被見可被下候、追々入津之節御引

分訂被下候

一、昨年古手御註文被成下候ニ付、右代金当夏紅花ニ而御為替被下候様御引合之趣御尤ニ候へとも、皆済右花代ニて御済被成候様ニてハ、下店ニても困入申候ニ付、半金御渡し被下候而、半金新花ニ而御返済被下候様、才三郎様ニ御相談仕候、亦右御承知被下、旧冬中金五拾兩伊勢利殿も受取申上候、亦此度御状之趣ニてハ、右手仕切金ハ当夏新花ニ而御為登被下候様、右正金之儀ハ早々御下し可申上候様いさゝるニ被仰下承知仕候、早速正金ニて差出し可申候処、幸ひ東根江為替金有之候間、右金為替取組可被成候、左候ハ、下候實も無益ニ相成可申候間、則左之通

一、金五拾兩也

東根早坂徳兵衛殿

二月晦日切 手形書通

右之通手形書通差下し候間、早速御引合被下二月晦日御請取可被下候、尤同人様も別紙書状ヲ以右為替金之儀申遣し候間、此状書通早々御達可被下候、若又右同人様手

形を以右金不殘相揃ひ不申候節ハ、四五日中ハ御待被下候而御受取可被下候、尤二月晦日も格別ニ延引仕候ハ、日割申分利足御受取可被下候、少々延引者可然御掛合可被成候、下店もいさゝる訳合申遣し候間、早速ニ相渡り可申候へとも、萬々一都合被成候迄兩三日中之所可然御用捨可被成候、此段くれぐれ奉願上候

一、右金利足金之儀、則下店も左之通追而勘定可仕候

一、金拾兩也

午十二月朔日也

未正月晦日まで

メ二ヶ月分七朱也

右之通利足御勘定申上候、兼而才三郎様へ御引合申上候通、追而さし引書相出し可申候、御店様之御帳合も御控置可被成候、若哉東根も最早登り金被成候ハ、跡辺ニも相成申上候、直様正金相下し可申上候、此段御安心可被下候

一、此度古手式箇御注文被下忝奉存候、さて相働最上向キ御積入可申上候、其外御預り金之儀廻し御案内申上

置候間、追而差引書ニ相認メ可申候、此段御案心可被下候

一、紅染下地出雲白木綿七拾反御注文被下候処、当年くり綿高直ニ付、木綿至而高直、別而出雲割合大不好御座候処、御差直之五匁五六分ち七八分高ハ無之候、いづれも六匁位ち下直ニ而ハ無置候間、出雲は見合紅染下地ニ宜しき木綿外ニ六拾反御つミ入申上候、是ハ割合利好ニ御座候間、其地着御見分可被成候

一、当地くり綿之儀、旧冬ち式參百匁かた引入申候、才三郎様御買入被成候直段ニ而ハ、之節出来不申、當時国々ニ而五メ式百匁位ニ御座候間、其思召ニ而御商内可被成候、未々引メ而可申候間下直ならハ御見合御待可被成候、至而右荷無御座候間追而引立可被成候、以上

一、当地紅花之儀、当春ニ相成差而相変不申、同様之姿ニ御座候処、此節ニ而ハ江戸廻し廻候て入津仕、旧冬ちハ壹式両かたも引後取引仕候、此段右様思召可被成候、何卒一花引入り可申様仕度候へとも、春ニ承ニ而

相違少々差引下り申候段大キニ困入申候、御勘弁可被成候、貴川着候段御請状申上度早々如此ニ御座候、恐惶謹言

近江屋

(文政十四年カ)
二月十二日

安治郎印

源円

伊八

堀米四郎兵衛様

御店中様

六一一 書簡 (紅花代金勘定に付)

(端裏書)
「伊勢理殿」

末ノ紅花

弍国
一拾八袋入 六丸卜拾六袋

未十一月晦日切四拾兩替

此金七拾七兩貳朱也

同さし花貳袋也

未十一月晦日切三拾貳兩替

此金壹兩也

金七拾八兩貳朱也

内

金五拾匁也

未十二月四日御出し

同廿七日着

又金貳拾兩也

申正月五日御出山形佐治吉左衛門殿に

申二月六日受取

此分未十二月壹ヶ月分利足御勘定無之候

残り

金八兩貳朱也

申十二月五日去新花代金入合

綿勇殿ニ相渡ル

此分未十二月分置入

申之十一月迄に十三ヶ月利足

御勘定無之候也

右之通り去未に暮之

惣仕切差引書ニ相見

不申候間、上方之仕切

扣御札、右二口利足

御受取被下候、猶委細

之儀者、使人江申合

遣し申候間、左様候へ者被下候、何角御世話

之段千万不淺忝

奉存候、随分御道中共

御大切ニ被遊、御帰国之砌

万々目出度得貴意御礼旁可申上候、

恐惶謹言

(文政八年)

三月廿五日

六一—二 御心得書

〔吉川

沢畑村

松田源右衛門様

堀米四郎兵衛

御心得書

用書

一、柴宗殿漬杯与申立分散等願出候ハ、御同人も当春
差下し申候偽り書面ヲ以メ付、猶又綿勇殿方ニ而ハ、右
ノ書面ニ付甚タ迷惑之筋ヲ以、綿勇殿方も御懸合之程御
願可申上候、左候へハ柴宗も甚タ綿勇方江及迷惑ニ可申
哉与愚案仕候、敵敷御懸合御片付御下り被下度奉願上候、
右心得之ため如此御座候、早々頓首

四日

堀四

松田源右衛門様

六一—三 書簡(紅花仕切殘金に付)

(端裏書)

一昨日者御念之御入忝奉存候、弥当廿七日御登之由被仰
聞早速以參御見舞可申上善之処、何様にも内外取込參上
仕兼背本意候段、真平御尊免被下候、然者上方用向筋御
頼申上候趣意ハ、柴崎宗右衛門殿紅花仕切殘金貳拾兩、
去暮中迄ニ綿屋勇藏殿方江相渡候、則御同人も差下し可
申積りニ、支配人三吉右兩人江取渡り、則綿勇殿も受取
書付申受罷下り候処、其後柴崎宗右衛門殿も三吉方江正
月二十一日出二書状罷下り被見仕候所、弥々柴宗方も綿
勇方ニ去暮中無相違相渡し候趣申參り候処、綿勇も二月
二日御出貴札ニ者、去暮中柴宗方江催促仕候得共手詰り
之趣ヲ以相渡不申由、依之私之方も嚴重懸合可被成様ニ
申參り候、左候得ハ柴宗殿不得之様ニ相見江申候間、綿
勇殿同道ニ而柴宗方江御懸合御受取可被下候、若出来不
申候ハ、町奉行所江綿勇殿相談之上御出訴被成下、右大

謀計之書状ヲ以御懸合可然哉ニ奉存候、何分綿勇殿相談之上御懸合可被成候、則綿勇柴宗伊勢利三人江差状差遣し申候間左様思召可被下候、猶又伊勢利用向左ニ

(以下切レ)

六二 書簡(酒田湊入津通知並びに相場書)

(封書上書)
「谷地沢畑

堀米四郎兵衛様

本間幸四郎

要用書

(封書裏書)
「

酒田と

幸便一筆啓上仕候、追日暖和二相成候得共、御家内様弥々御勇健可被遊御座奉珍賀候、此度上方と下り御荷物差向

被成下千萬忝奉存候、則着仕候分左ニ

や 操綿 三本

同 天草 貳本

宮丸兵藏舟

や 操綿 三本

玉出丸富五郎舟

や 操綿 三本

日吉丸宗助舟

や 同 三本

宝来屋庄右エ門舟

や 天草 三本

正宝丸平左エ門舟

右之通無事着仕候間、御安意可被遊候、尚又此節積舟其御地御城米積登候間、右船下り次第ニ為積登可申候間、左様ニ御思召可被下候、右御案内旁申上度、早々御免可申下候、尚期近々可申上候、恐惶謹言

本間幸四郎印

三月十八日

堀米四郎兵衛様

相場

一、御米札
当月切

〇合
三十式匁半位

三十式匁七分より
三匁也

一、作徳米

三十三匁半位

一、最上大豆

五十三分

一、同小つ

一石七斗五升

一、同なたね

一石三斗五升

一、玉砂糖

五十一、二斤

一、塩

六石四斗

一、銭両かへ

六メ七百文

六三一 一 書簡 (紅花代残金渡しに付)

一筆啓上仕候、春暖之砌弥其御地御家内様御揃御勇健ニ可被遊御座珍重之御儀奉存候、隨而当方茂無別条罷有申候、乍憚貴意易御思召可被下候、然者当地と二月十二日出しをもつていさへ申上候得者、無相違相達し御披見御承知可被下候与忝奉存候、然ル所御地と二月二日御出し之貴札相達し、御納書之趣忝拝見仕候所、柴崎屋宗右衛門殿と去暮迄ニ可相渡金子、御手詰之趣ヲ以相渡シ不申候ニ付、其趣柴惣殿江御懸合可申段御納書ニ被仰聞、何角千万忝奉存候、然ル所御同人様と正月廿一日出し之貴札、大場三吉方江相達し披見仕候所、紅花代残金不残去暮中貴家様江相渡シ候間、定而其趣貴家様と御案内可有之趣御納書被仰聞候、如何之行違ニ御座候哉相訳り兼候間、此度松田源衛門為差登申候、宜敷御思召可被下候、万一柴宗殿と今以テ貴家様江相渡シ不申候得者、何ヶ御尊公江ご迷惑ヲ相懸度、偽り謀計り取工候事与奉存候、

依之柴宗殿方之御出状為持差遣シ申候間、又々乍御苦勞
様源衛門御同道ニ而、右之書面ニ付、柴方を御尊公ヲ相
手取候趣ヲ以て、御懸合被下置候ハ、早速相訳り可申
候、則相訳り申候ハ、乍御面倒綿屋飛脚ヲ以て御差下
し被下度奉願上候、何連源工門御差凶次第偏ニ与願上候、
万一早速相渡シ不申候ハ、源工門方ニ御加力ヲ御差か
へ、町村役人江出訴可仕様申合為差登候間、何分御勘弁
之上早速相訳り候様御加力之程偏ニ願上候、乍末筆大場
三吉も宜敷御礼可被仰上管左様申事候、先何様右御頼旁
以愚札如此御座候、恐々謹言

三月二十七日

堀米四郎兵衛

綿屋勇藏様

同 御店中様

六三十一 書簡（紅花代殘金渡しに付）

柴崎屋惣右衛門江手紙控

一筆啓上仕候、春暖之御弥御地御家内様御揃御勇健ニ
可被遊御座珍重之御儀奉存候、隨而当方無別条罷有申
候、乍憚貴意思召可被下候、然所御地方正月廿一日
御出し貴札相逢拜見仕候、然ル所紅花代殘金去暮中綿
屋勇藏殿江不殘御渡シ被成下候間、御同人様を御案内
可被參申趣大場三吉殿方江被仰越候処、綿屋勇藏殿を
二月二日御出之貴札達披見仕候所、去暮中貴家様を金
子御渡不申候段申參り、如何之訳ニ而御渡し不申候哉、
其正月廿一日御出シ貴札ニ者去暮中綿屋殿江不殘相渡
し候所、大場三吉方江の御書面何共相訳り兼申候間、
此度松田源工門差のほせ申候間、綿勇殿江急度御懸合
早々差下し可申様奉頼入候、右申上度御願旁急札如此
御座候、恐惶謹言

三月廿七日

堀米四郎兵衛

柴嶋惣右衛門様

御店中様

六三十三 書簡(追伸)

〔尙々書〕
〔外ニ申上候、上方より下り書状上方江御持参御懸合可申候〕

追々申上候、御心得のため上方諸書無封じニ而差遣、御覧ニ入申候間、則御覧之上封じ被遊、御持参被下度は又奉願上候、諸事御考弁無御油断偏ニ奉願上候、早々謹言

八日

印様

や

六四 書簡(紅花値段下落に付)

〔封書上書〕
〔羽州最上沢畑

堀米四郎兵衛様

伊勢 源助

〔朱印〕 要用

〔封書裏書〕

〔早便〕
〔四月五日出

京都

嶋屋便を以一筆啓上仕候、追々向暑ニ相成候処、其御地御全家様御勇健ニ可被遊御座喜悅之至ニ奉存候、当方無異儀罷有、乍憚御安慮可被成下候、然者当地より三月廿二日出を以、御印紅華入船仕候趣申上候相達、御披見可被成下奉存候、尤其後御飛脚無難ニ上着仕相改蔵入仕候、御安氣可被成下候、尤売方之儀者売渡無如才相働候得ども、何分不相手ニ而買人無之殆々困り入罷有候、勿論此節之処相手次第御売附仕候とも、迎も

直段之処思召ニ相付申間敷与大二心配仕候、何分此後之処無油断相働、宜買人も御座候ハ、相成丈出情可仕候、宜御承引可被成下候

一、爰許紅華之儀、先書ニも申上候通り、早春以来之所紅渡物大不揃ニ相成、追々直段計下ケ一向引合ニ相成不申候趣ニ而、紅渡方一円出来不申候間、紅華潰連荷物至而無少、此節ニ至りいまだ眩々と取引無之候故追々氣配不宜、殊ニ残年之殘荷何程も相揃不申候処へ、春上り荷追々上着ニ相成、弥以氣配不宣候間、既ニ去冬相庭方七八商品ニ拾両方も下落ニ相成、扱々困り入候年柄ニ御座候、尤此後之処如何成行可申候哉難計、何卒新花萬一華賑々敷立候様奉祈上候、先者右御断旁々申上度如此御座候、尚期後便時候也、恐惶謹言

伊勢屋源助

四月十五日

孫八

金七

貞七

堀米四郎兵衛様

貴下

六五 紅花引当金借用証文

引当金借用証文之事

一、金三拾兩也 但し御吹替判ニ而

此引当紅花六拾四袋 但し正味五百匁入

右者此度御上納金ニ差詰り、其訳貴殿江達而御願申入、右引当之紅花六拾四袋櫃西村宇兵衛蔵ニ積立、書面之金子三拾兩只今儘ニ請取借用仕、御蔵方御上納所実正ニ御座候、尤返済之儀者、来卯三月限月壹割式分五厘之利足金差加へ、元利急度返済可申候、万一右限月迄ニ返済成兼候ハ、前書引当之紅花、貴殿方ニ而御勝手次第御壳拂可被成候、縱令其内引当之紅花、火盜其外如何様之諸難出来候共、拙者方ニ而勝手之筋を以櫃西村宇兵衛蔵

二積立置、右金借用申上者、貴殿江少茂御苦勞御損之筋
毛頭相懸申間敷候、為後證引当金借用加判證文、依而如
件

文政十三寅年八月□日 寒河江樋西村

金子借用人

名主 治右衛門

同村

右紅花預り人

宇兵衛

同村口入人

市郎兵衛

沢畑村

四郎兵衛殿

六六一 書簡（紅花作付状況に付）

〔封書上書〕

〔羽州最上谷地澤畑

〔封書裏書〕
五月十二日

堀米四郎兵衛様

近江屋

安治郎

〔端裏書〕
「や、サマ」

端午之御祝義目出度申納候、向照之砌御坐候へ共、先以
其地御家内様御揃、御壯健ニ可被遊御座珍重之御儀ニ奉
存候、次ニ御店無異儀罷有候間、乍憚御安意可被下候
一、其地紅花追々成長可仕候様奉存候、何卒此後無難上
出来仕候様奉祈上候、扱当地之儀元来□印之所近国西
国すじ時付多く、仍而紅花見込よわく、尤先月下旬方
能てり込申候間、右庭所私早庭等照なとも可相成欵と
双方危口口眠合罷有候所、節句頃方折々好雨御座候間、

何連近々品物善悪相分申候へ者、一一高下可仕与奉存候、猶新花御荷物不相変沢山御差向可被下候、急度出情早壳御仕切可申上候、先者右出荷御頼申上度取込早々如意御坐候、恐々謹言

五月十二日

近江屋

安治郎^印

源兵衛

伊兵衛

堀米四郎兵衛様

貴下

六六一二 書簡 (為替金不渡り他に付)

(端裏書)

「ヤサマ」

副啓仕候、然ハ此元先月廿四日出ヲ以、山形高田忠蔵殿渡り為替取組、金五拾両手形差下申候得者、近日相達御

承引可被成下与忝奉存候、尤当月晦日限無相違御引合御請取可被下候

一、自御地四月十三日出之手紙相達し、忝拜見仕候、然ハ東根早徳殿渡為替金手形入込宿、仍而山武殿へ御懸合之上、早徳殿へ人御遣申候所、何相不訳之儀、右御組合之衆へ御伺も被成候而、御見御用之儀不操合ゆへ不渡り之由、其段当地へ御案内申上候間、仕金御受取被下候様とも御手付、右為替手形御返し被下、扱々折角取極申為替右様不渡相成不都合之段、何共いかさま千万奉存候、尤右代金若又々為替等も取組申者無相違相渡申候方へ取組可申様、万一為替無御座候得ハ、正金指下可申段、御細書被成下夫々御尤ニ御座候、然ル所先便申上候通貴家様ハ御案内無御座候所、先方右之趣申参候而、早速右御引金山形表へ為替取組、委細ハ其セツ申上候間文略仕候

一、くり綿天草口付等御案内申上候趣、御承知被下忝奉存候、今後追而無事着受取可被下与奉存候

一、惣差引書委敷相認メ差下可申上候様被仰下御尤被存

候、則此度別紙差引書指下申候、尤差引殘金左之通

金式朱卜指引過上

銀式匁三厘也

六六一三 相庭書

右之通差引過上ケ様成申候間、御預金申返而御差引二相

加へ可申候間、此段宜承引被下候

一、紅花御出荷等本書いさゝ御願申上候、 何方さく

年者多分御座候荷ひかへ候へと可申上候、急度相働キ早

速御仕切可申上候、まつハ右之段申上度存候、早々如此

御座候、恐々謹言

五月十二日

近江屋

安治郎 印

源太

惣八

堀米四郎兵衛様

御店中様

相庭

一、筑前米 五十六匁三分

一、肥後米 五十八匁四分

一、中国米 五十七匁四分

一、加賀米 五十七匁三分

一、岡大豆 五十七匁五分

一、水あふら 式百三十匁

一、種白絞 式百八十三匁

一、荏油 三百拾匁

一、繰綿坂上

印 五又仁百匁

一、印 四又八九百匁

一、庄内米 斗 四十六七匁

一、最上大豆 斗 四十四五匁

一、同小豆 斗 四十八匁

- 一、同荏料斗 六十匁位
- 一、同菜種斗 五十八匁
- 一、薩摩蠟 六メ八九百匁
- 一、長州同 五メ七百匁
- 一、鳴原同 六メ三四百匁
- 一、地晒同 壹匁四分五
- 一、土嶋白砂糖 九匁七分
- 一、太白同 七八匁十六七匁
- 一、御物黒同 斤 九匁七分十五匁
- 一、六しま同 斤 九匁七分十四匁
- 一、本大ワラ 廿七匁
- 一、金 六リ三毛八分五
- ぜに 八から九分 ほん

五月十二日

近江屋安治郎

六七 書簡 (紅花代金にて古手買入に付)

(封書上書)
羽州最上谷地沢畑

堀米四郎兵衛様

近江屋安次郎

要書

才三郎様御出立ニ付一筆啓上仕候、寒冷相増候処、弥以其ノ地御家内様御揃、益御壮健ニ可被成候ニ付、珍重御儀ニ被存候、隨而当店無異儀罷有候、乍憚安心思召可被下候

一、差荷被登候や印紅花之儀才三郎様御相談ニ而、此度御手合出来、則仕切書別紙ニ相認メ差上申候、尤仕切代金之儀八十一月限ニいたし、尤右仕切金ヲ以木綿等ノ注文之品、夫々壹麥払ヲ以差引可申候、其節右十一月と預り金ニ而差引仕候而、過不足之儀ハ来春御案内可申上候

一、此度才三郎様も御添書被成候忝奉拝見候、然者来春古手類御注文金式百両分差下し可申様、右代金二而紅花も餘程御仕入御差向被下候段、御細書被成下御厚情之段、忝仕合二奉存候、然ル処近来古手類甚不引合二付、下店二而も過分仕入も困入申候、乍併貴家様御事御坐候ハ、御引合之通御取引仕度候得とも、何卒右御註文金高二半金春中に渡し可被成願上候、殘金新紅花目当二御差下し可仕候、委細之儀才三郎様御渡し申上候、宜敷御聞濟被成下候、註文被成下候て忝奉存候、御引合申候通御承知被成下候、来四日迄古手類積入可申上候、御勤弁之上早々御返言可被下候様奉願上候、其餘ハ右御同人様も何角御承引可被成候、まつハ取込早々如斯二御座候、恐惶謹言

近江屋

十月廿三日

安次郎④

源太

惣八

堀米四郎兵衛様

御店中様

六八 書簡（紅花仕切金利足に付）

別而啓上仕候、此度御手合出来候紅花仕切金十一月限御進上候所、日限後者来春諸品仕切書差上申候節迄、七朱利足御勘定申上候、此段左様思召可被下候、尤仕切差引不足金御取替相成候節ハ、忝割利足二而御勘定可被成下候、此段御頼申上候

近安次郎④

十月廿三日

堀米才三郎様

六九 書簡（紅花氣配並びに仕切書に付）

（端裏書）
「ヤサマ」

一筆啓上仕候、先以甚寒御座候所、其御地御家内様御揃

益御^(マツ) 聖康可被遊御座珍重御儀奉存候、次に当方無異罷

十二月十五日

在申候、乍憚御休意可被成下候、

近江屋佐助

一、爰元紅花氣配之儀、定メ而追々外々方も申参り御承

伊助

知被遊候半、元来当年ハ諸方荷物不足故、是まで何連一

喜助

花面白キ取引可在之存居候所、何分諸方不景氣ニ而、染

万助

注文も無之、紅屋方も実以引合ニ相成不申候、一統仕事、

堀米四郎兵衛様

例年の半分位より致し不申、思惑買人無之、初メより少々

大場 三 吉様

もの商内ニ御座候、依而残花も又々相応ニ在之、今以売

御店衆中様

人ハ多分在之買人無数ニて扱々入り入居申候、迎も当時

引上ケ可申様子も相見へ不申候、何連来春諸方草生弥々

蔣付も不足等も相聞へ候得者、如何相成可申哉、難計奉

存候、何分諸方不景氣故中々引上ケ可申様子ハ相見へ不

七〇 覚 (請取書)

申候、御差荷も段々骨折相働キ、此度売捌キ申候、別紙

覚

仕切書共相下し申上候、御一覽被遊可被下候、金子之儀

一、金拾両也

ハ当晦日相下し申上候、此段御承引可被成下候、御地御

内銀五百匁

荷主様も追々御帰国可被遊御聞取被遊、又々外々方も申

七三一 此金七両三步式朱卜

参り候半、宜敷く御承引被成下候、先ハ右申上度如此御

三匁十九厘

座候、恐々謹言

さし引

金貳兩卜

四匁七分八厘

近安

才三郎殿

(大石田)
富樫久兵衛印

(文政五年)
午年七月十八日

沢畑

堀米四郎兵衛様

七一 覚 (紅花荷物蔵入書)

覚

国仕
一印入 紅花 十八入
六箇

近佐殿行

金壹兩貳步也

送り状壹通

御出判壹通

右之通槌ニ受取申候、以上

七二 覚 (紅花荷物蔵入書)

覚

飛切
四丸 紅花
十七入

一、手板壹通

一、添金壹兩也

一、書判相添

伊勢屋理右工門殿行

司雨

貳丸 同

拾六入

一、手板志通

一、添金式歩也

一、書状老封

一、書判相添

近江屋安治郎殿行

同雨

貳丸 同

拾六入

一、手板志通

一、添金式分也

一、書判相添

同人殿行

合紅花八丸

手板三通

添金貳両

右之通御出荷被成下、忝健請取蔵入仕候、尤急船二積下可申候、以上

(大石田)
寺崎作右工門印

(文政九年)
戊七月十日
堀米四郎兵衛殿

七三 書簡 (代金支払延引取調べに付)

(端裏書)

一 堀米四郎兵衛様

一筆啓上仕候、先以甚寒御座候処、其御地御家内御揃益御勇健可被遊御座珍重奉賀候、佐而当方無恙罷過候、乍憚御安意思召可被下候、然者自先達御窺旁何角御願様子

柄も可申上候処、何分不都合之儀而已ニ而、乍不本意御無音申上候段、幾重ニも御高免被仰付被下候様奉希上候、定而夏以来及御聞も被成下候義、私義近来困窮居候而当惑、甚以困り入申候処、当春ニ至り如何体(マツ)(様カ)ニも致方無之、不勘定ニ及び無是悲借財之方江暫く相延シ、追々ニ入金請取被具候様ニ相頼ミ粗承知にも相成候処、六月中俄ニ願付ニ而、中井正次殿及御公辺当地御奉行所江被召出、手形之義ニ付何とも迷惑相成、品々取合申候内町分江御預ケ被仰付、漸々去月中旬ニ御上記相濟申候処、数月無商売ニ居、其上内證之破損旁以必死と手詰(途)り十方ニ暮居困り入申候処、御在京御荷主様方格別御憐愍を以、御渡し金之儀暫く御延引御用捨ニ被成下、先夕商売ニ取続キ可然思召、御厚情を以漸々商売方ニも立入り可申義ニ而、此度山形山田屋弥兵エ様を以、御国方之儀も御願ひ奉申上候仕合、何とも困命仕候義ニ御座候、此度別紙差引書之表、何卒右山形山田屋殿へ御勘定御渡し置候様、委細之儀者御同人方も御聞達被成下候様、誠ニ必死と難渋罷有候義、偏ニ御賢察被仰付宜敷御願奉申

上候、不存寄故障之儀共引出シ、御一統へ対し重々不屈之至りニ御座候へ共、幾重ニも御用捨、乍此上御引建させ被下候様ニ、呉々御厚志之段奉願上候、先者右御願旁早々如此御座候

恐惶謹言

(文政九年)
戌十二月

近江や熊次郎[㊦]

堀米四郎兵衛様

尊下

七四一一 覚 (紅花代金勘定に付)

覚

未秋差荷

一[㊦] 国 一、拾八入六丸 拾六袋

未十一月晦日切 四拾両替

代金七拾七兩貳朱也

同さし花貳袋

未十一月晦日切 參拾貳兩替

代金壹兩也

ノ 金七拾八兩貳朱也

内

金五拾兩也

未十二月四日御出しニ而下ル

同十二月廿七日嶋屋飛脚ヲ受取

又金貳拾兩也

申正月五日御出しニ而

山形佐治吉左衛門殿ヲ

申二月六日受取

此分十二月壹ケ月利足

御勘定無之相見江申候

殘金八兩貳朱也

申十二月五日大一極上ノ仕切

金入合五拾七兩貳朱ト三匁八分壹厘

綿勇殿方江受取

此分未十二月ヲ闕入申之

十一月迄ノ十三ケ月分

御勘定相見江不申候

尤右殘金之内ニ而手板不足

右七拾兩下し質御質銀

御引殘金江十三ケ月分

御勘定可被下候

右之趣西二月十二日出しニ而

差登申候

伊勢屋利右衛門行

七四―二 書簡（紅花代金勘定に付）

伊勢利殿江手紙控

一筆啓上仕候、春暖之砌、弥其御地御家内様御勇健ニ可被遊御座、珍重之御儀ニ奉存候、随而当方無別条罷有申候、乍憚貴意思召可被下候、屋敷当地ニ二月十二日出しヲ以て委細申上候得者、定而相達し御披見御承知可被下与忝存候、且又此度其御地色々諸用向有之、松田源工門殿為差登申候所、依之先書申上候差引殘御利足別

〔利國〕
一十八袋入六丸拾六袋

未之十一月晦日切四拾兩替ニ而

代金七拾七兩貳朱也

同七十花貳袋也

未之十一月晦日切三拾貳兩かへ

代金壹兩也

二口ノ金七拾八兩貳朱也

内

金五拾兩也 未十二月四日御出し
同廿七日着也

又金貳拾兩也

申正月五日御出し

山形御領庄左衛門殿方

申二月六日着受取

此分十二月壹ヶ月之利足御勘定無之相見江申候

殘金八兩貳朱也

申十二月五日申新花代金舍

綿勇殿江相渡候

此分未十二月ノ閏入申之十一月迄ノ十三ヶ月分利足御

勘定相見江不申候

右之通御勘定被成下、則源工門殿ニ御渡し可被下候、何

様右申上置候、急札如此御座候

恐惶謹言

三月二十七日

堀米四郎兵衛



伊勢屋利右衛門様

同 御店中様

七五 書簡 (沢雨紅花又為替取組みに付)

(端裏書)
二やサマ 戌ノ十二月廿二日遣し書状
亥ノ正月二日着

一筆啓上仕候、及日廻嚴寒ニ御座候得共、先以其御地御家内様御揃益御勇健可被遊御座与珍重之御儀与奉存候、随而当地無異儀罷有候、乍憚貴意易思召可被申候

一、爰元々十二月廿四日出を以_レ印紅花之儀委細申上候得ハ、定而順達御披見可被下与奉存候

一、自御地十一月十九日出貴札九、一日忝拜見仕候、然ハ爰元々九月十七日、十月十一日出、順達夫々御披見被下候由忝存候、然ル処兼而色々申上候_レ沢雨紅花之儀、酒田押判屋四郎平殿_と阿州宮嶋萬屋治兵衛殿又為替取組、

則送り手板絵花板とも萬屋次兵衛殿名前ニ而参り、勿論御同人御出坂被成候間、貴家様_と被仰候之趣掛合申候処、酒田押判屋_と手前為替取組、則手板絵符板迄も手前荷替ニ而差向候儀ニご座候得ハ、売代金之儀ハ不残手前へ相渡し可申候、万一彼是いたし候得ハ荷物相渡し可申候様被仰聞、勿論酒田押判屋四郎平殿請取書も御持参被成候ゆへ、右代金不残御同人へ相渡し、則右之趣貴家様へ御案内申上候儀ニ御座候、然ル処此度之御書状之趣ニ而ハ貴家様分押判屋へ御かし金もご座候由、其上ケ様之取計押判屋不筋之趣被仰被下候、御尤丈ニ御座候得とも、左様内表合訳ハ存不申候、送手板絵符板とも萬屋治兵衛殿名前ニ御座候間、下店ハ手板捌之事ゆへ断し申様ハ無御座候、無抜御同人へ相渡し一向御気毒ニ奉存候得共、右□□宣御承知可被下候、尚貴家様_とハ押判屋御掛合可被下候

一、当地紅花相返候儀、同様不景氣こまり入申候、尚又別紙難相返入御覽申候間、御勤考被下御引合候品何成共御差向被下様奉願上候、無如才相納御座候内可申上候へ

くんハ、右其詔□申上候、最早年内余日無御座候得者、

来春日出度萬々可申上候之条取込早々如此御座候、恐惶

得意

三月廿九日

近江屋

安治郎印

平八

次兵衛

堀米四郎兵衛様

御店中様

貴下

七六 書簡 (紅花絵符・送手板に付)

(封書上書)

羽州最上

堀米四郎兵衛様分大坂

急用書

江戸六日限

(封書裏書)

一四月廿八日出近江屋

安次郎

一筆啓上仕候、向暖之砌ニ御座候得共、先以其御地御家内様御揃益々御勇勝可被遊御座珍重之御儀ニ奉存候、随而当地無異儀罷有候、乍憚貴意易思召可被下候

一、從其御地二月十三日出貴札相達し忝拜見仕候わんハ、兼而御尋被下候ニ沢雨紅花之儀絵符板送手板とも阿州宮嶋萬屋治兵衛殿名前ニ而参り申候間、売代金御同人へ相渡申候段御案内申上候処、御尤に思召され、左候得ハ酒田押半屋へ御掛合被成、仍而送手板絵符板等写し差上可申被仰下承知仕候、則絵符板ハ沢雨十六入荷也、阿州宮じま萬屋治兵衛といたし裏ニ堀米四郎兵衛出しと遣し有之、尚亦送手板ハ沢雨十六入四丸是亦荷主阿州宮じま萬屋治兵衛と入申し、勿論印形いたし、尤此も裏之

はし二堀米四郎兵衛出しと相印、印形へも何二も無御印候、仕切之儀ハ三拾七両式歩かへ相仕切、則旧冬御同人江代金相渡申候、右之通御座候宜御承知可被成候、尤早速返書可被成候処取込罷有少々延引仕候段御免可被成候一、当地紅花様子近々外々に方も及御聞可被成候通兎角不印を以鬚直立不申扱々困入申候歟、其後新花草生模様次第高下可仕候、例年御仕入御荷物多少二不依御さし向被下度可然申上候、格別相励御仕切可被成候、且別紙諸相庭入御覽申候間、御入手被下御引合之品も有之者、御差向被下度、偏奉願候、先ハ右之段貴報申上候、取込早々如此申候、恐々謹言

四月廿八日

近江屋

安次郎印

平八

源兵三

堀米四郎兵衛様

御店中様

貴下

七七 書簡(上京御尋に付)

一筆啓上仕候、向暑ニ御座候得共、先以其御地弥々安康ニ御上景被遊候御事哉大慶御儀ニ奉存候、此間南都増井清兵衛殿御状申被遣承知仕候、御同人此間兵庫表へ御越被成候間、近日御帰りに被申出候ハハ、御渡し可被下候、若哉此方御立寄も無之候ハハ、南都御送り可申上候一、尊(マツ)て様先年御上坂、下店江も御主人来被成下大慶仕候、此度商用ニ而御上京被成候哉承度候、尚亦堀米四郎兵衛様方いづれも御壯健被成候哉御尋申上候、御同人紅花も昨年中大場三吉様御上京之□□御片付被遊候哉ニ存候、若亦可被為登も御座候ハハ御手人江可被申候、御承知いたし可申候、まつハ右之段、乍序手御尋申上度一言如此ニ御座候、恐惶謹言

近江屋安次郎印

五月十八日

伊八

松田源右エ門様

貴下

七八 書簡 (為替金持参に付)

(封書上書)
〔谷地沢畑

山形

堀米四郎兵衛様

高田弓太郎

金五拾両添要用

(封書裏書)

〔谷地沢畑

山形

堀米四郎兵衛様

高田弓太郎

金五拾両添賣下

態々手代勘助差遣し候条、一筆啓上仕候、追日酷暑之砌、先以其御地御全家様御揃益御壯健ニ可被為入大悦ニ奉存上候、随而下店無異御安意思召可被申候、此間者遠路之

所大勞之節初而御入幸被下候得とも、折節取込何之風情も不申上今更奉恐入候、其節御約束被成候通判

一、金五拾両也

但し大坂近安殿為替
手形引替

右之通為持奉差上候、御改御入手被遊下候、奉願上候、

尤近安殿清主手形江貴家様御受取裏書被成下、此者江御渡し可被下候、今日ニ一齊状日ニ御届候ハハ、此趣大坂

表江申達し候間、何とぞ貴家様よりも請拂相濟之趣意御

申通し被下候様奉願上候

一、其節被仰受候てん草上之義、此節当地相庭直段ニ而受拂被仰付候ハハ随分相働御世話可申上候間、否や此者御左右被仰受可被下候奉願上候

一、其節も御伺申上候、向後為替之義、御勝手合ニ相成候ハハ、御互永かく御取引仕度存候、御勘考被下以来御取引之義御伺迄、重々先者先口御龜末之取計申上候、御申訳旁乍略用以書中如斯ニ御座候、余者使勘助口上ニ而可申上候間宜敷御承引被遊可申候、恐惶謹言

六月三日

高田忠 ㊦

弓太郎

堀米四郎兵衛様

参人々御中

七九 書簡 (紅花仕切差引書に付)

(端裏書)
「や」

一筆啓上仕候、追日暖氣相募り申候処、其御地御令家様御揃益御勇健ニ可被遊候由珍重之御儀ニ奉存候、隨而当方無異儀罷有申候、乍憚御休意可被下候

一、御印様紅花之儀、先書壳付申上候儀ハ相達御承引可被下与奉遠察候、此度仕切差引書奉入御覽候、御引合被遊可被下候、若相達も御座候ハハ御序被仰遣可被下候、尚又差引表不足金少々相立申候而御氣之毒ニ奉仕存候、追而為替ニ御願被申上候間、御執置被遊可被下候

一、当地紅花之儀、先書後、差而相替儀も無御座候処、

五月十三日出ニ照込候様子相聞候故、一統氣配持候得とも、紅屋方ハ最早暑氣ニ罷成候故仕業も相休候時節之間、直上ケ買人も無御座候ゆへ持合居申候、此後御地出来模様ニて高下不仕候、何卒景氣相直り賑々敷商事出来候様、夫而已願居申候

一、御印様当年も多分御仕入被遊候、壳付延引仕御願申上候も乍恐入候得共、口入合ニ急度出情可仕候間、不相替宜ク御荷物より不限多少御出荷被成下御支配被仰付被下候様奉願上候、先ハ右之段申上度如斯御座候、尚追々便なと申上候、恐惶謹言

市村屋

六月四日

弥三郎 ㊦

吉兵衛

堀米四郎兵衛様

参人々御中

八〇 諸品控帳 (横帳)

(表紙)

「諸品ひかえ帳」

壱ばんたんす引出し

象牙時絵

一 嶋天鷲絨女の帯地

二ノ引出内ニ 市松の入帯一ふさ

五番之内ニきせるたはこ入

ぞうげくし一

まきへくし二ツ

きんのさしこみ二ツ

同 よふじ二

壱番引出し

取合

一、銀のかんさし 九本

一、銀きせる 三本

一、たはこ入 五ツ取合

一、同 さし 一ツ

一、守袋 壱ツ

一、へつこうこうかへ 二本

一、同 かんさし 四本

一、同 かへほふ 壱本

一、同 くし 三枚

一、ぞうげのくし 壱ツ

一、まき糸のこくし 二ツ

一、きんのさしこみ 二ツ

又外ニ 二ツ

一、同 ようしさし 二ツ

一、紙入 壱ツ

一、麻のあせふき 二ツ

一、硯箱 壱ツ

一、扇 三本

一、はし箱 壱本

一、かね付 壱ツ

一、小はこ取合 四ツ

一、小そ代く 五ツ

一、はし 二ぜん

一、縮縮めん小切色に

はり小こうかへ

一、ようじさし 壱ツ

一、守巾着 二ツ

一、縮色々小切 二包

一、綿ほふし 一ツ

一、縮表染返し 壱反

一、ひろーと半えり 二ツ

一、嶋男帯地 一筋

二番

一、ちゝふ縮式反半

一、紫縮面帯 一ツ

一、糸織帯 一ツ

一、緋縮緬帯 一ツ

一、非縮緬(マ)ヨシ帯 一ツ

一、浅黄 同 壱ツ

一、萌黄紋縮緬帯 一ツ

一、御納戸男古帯地 一ツ

一、糸織帯女片わわ 一ツ

一、紫形付小切 二ツ

一、天鷲絨嶋腰シメ帯地 一ツ

一、白綸子腰シメ帯 壱ツ

一、白紋縮緬同 壱ツ

一、紅緋 半反

一、はかた古男帯地 一ツ

一、綿ほふし 二ツ

一、上ケ綿ほふし 二ツ

三番

一、黒天鷲絨帯

壹本

一、唐槭風呂敷

壹枚

一、茶 子帯

壹筋

一、糸織じま綿入

壹ツ

一、龍門小紋綿入

壹ツ

一、糸織格子嶋袷

壹ツ

一、黒羽二重綿入

壹ツ

一、縮緬古裏表

貳敷

一、白紋羽せんひ

壹ツ

一、縮端切色々

壹包

一、単形付縮

壹反

一、嶋糸織

壹反

一、紅縮切

壹包

一、同

半反

四番

一、ようふん縮緬わた入 壹ツ

一、紋縮めん敷綿入

壹ツ

一、紫同 綿入

壹ツ

一、河色紋付わた入

一ツ

一、狐紋わた入

一ツ

一、縮羽縫胴着

一ツ

一、紫同 胴着

一ツ

一、唐御納戸紋付わた入 一ツ

一、紋付帷子

壹枚

一、単形付単物

壹枚

五番

一、まわた

一包

一、緋かこの縮緬表もの一ツ

一、しま風呂敷

壹ツ

一、黒唐孺子女帯地

壹本

一、羽縫縮面下着

壹ツ

一、紫せなか当

壹ツ

一、白緋はた着 一ツ

一、嶋縮緬女帯 沓筋

一、染じま紋付わた入 沓ツ

一、しま風呂敷 一ツ

一、茶格子裕 沓ツ

一、茶立しま綿入 沓ツ

一、茶青梅わた入 一ツ

一、茶見甚わた入 一ツ

一、茶しま太織同 一ツ

一、茶弁慶 同 一ツ

一、結城しまわた入 一ツ

一、茶格子わた入 一ツ

一、形付小紋裕 沓ツ

一、青茶小紋裕 沓ツ

二 管入一ばん 小ふとん立しま
形付敷ふとん

三 一、茶格子裕 沓ツ

一、同 裕 沓ツ

一、茶弁慶裕 沓ツ

一、茶格子わた入 一ツ

一、茶さび格子綿入 一ツ

一、立しま単物 沓枚

一、単じま単物 沓枚

一、納戸紋付わた入 沓ツ

一、しま紬綿入 沓ツ

四 一、白輪帷子 沓枚

一、立しま輪同 沓枚

一、帛しまかたひら 沓枚

一、紺しま 同 沓枚

一、白帷子 沓枚

一、萌黄格子ゆかた 壹枚
 一、ちゝら青梅単物 壹枚
 一、単かさりう帷子 壹枚
 一、格子しま帷子 壹枚
 一、白むく小袖 二ツ
 一、紫縮緬敷綿入 壹ツ
 一、紫縮緬振袖 壹ツ
 一、萌黄綸子女帯 壹筋
 一、振袖中綿 一
 一、丸わたほふし 一
 一、染しま袷 壹ツ
 一、格子しまわた入 壹ツ
 一、替しま袷半天 壹ツ
 一、嶋縮緬単物 壹枚
 桑入之内 小内たん二十二之手袋
 枕二ツ かやほろかや
 一、古とき波色々 壹枚

一、古格子わた入 壹ツ
 一、白ゆまき 壹ツ
 一、縮ときまき 壹統つと
 一、白足袋 壹足
 一、もんぺ 壹足
 一、単くつし単物 壹枚
 一、黒昼夜女帯 壹筋
 一、染しま袷 壹ツ
 一、青梅しま御袷 壹ツ
 一、草染しま袷 壹ツ
 一、紺かすり帷子 壹枚
 一、浅き下帷子 壹枚
 一、縮綿たはぬへはた着壹枚 壹枚
 一、地白形付単物 壹枚
 一、色々羽縫下帷子 壹枚
 一、黒袖口古とめ色 壹枚
 一、志ほり一重ひしわ 壹枚
 一、龍つ小紋単羽織とき帷一

- 一、黒縮面手ほそ 老ッ
- 一、紺豆絞り単物 老枚
- 一、生八丈の帯地
- 一、緋色々羽縫下着 老ッ
- 一、岸しま裕 老ッ
- 一、単小柳古切 一
- 一、納戸古合羽 一
- 一、単小紋わた入 一ッ
- 一、茶染しま裕 老ッ
- 一、単染しま裕 老ッ
- 一、茶弁慶裾綿入 一
- 一、かかミ 二面
- 一、セつた 老足
- 一、日より下駄 老足
- 一、小こふり 一ッ
- 一、日かさ 老本
- 一、雨かさ 老本

- 一、布こた入 一ッ
- 一、よろしこし 一門
- 一、江戸糸 三枚
- 柳桑打入
- 一、小夜着 一
- 一、枕ふとん 一
- 一、ゆたん包 二
- 一、夜具 二ッゆたん
- 一、金六拾両也

×金六拾両ニ

式百拾四之品也

一筆啓上仕候、大暑之砌ニ御座候得共、御家内様益御勇健被遊御座珍重之御義ニ奉存候、随而当方無異罷有候条、

乍憚貴意易思召可被下候、然者兼而及御語置候姉様御口
願並御手道具今般送り差上候間、御改御請取被下度奉存
候、先達而中簞笥之鍵不見当趣申上候所、其後出来候二
付、則別紙品書付相記し為持上候間、御高覽之上御引合
御請取可被下候、尤親類縁者迄立会取調封印いたし呉候
得共、若見落し候品も有之候ハハ、被仰聞可被下候、且
差添候幸料共江御請取書被下度奉願上候、先ハ時候御伺
旁得貴意度如此ニ御座候、恐惶謹言

六月七日

堀米直藏

佐藤傳兵衛

高橋六右エ門様

参人々御中

追手寺拂差上候間御請取可被下候、且先達而差上候村
拂並寺拂共御請書此もの江御渡被遣被下候様願申上候

八一 書簡（紅花荷物大石田蔵入に付）

〔封書上書〕

〔沢畑〕

大石田

堀米四郎兵衛様

久兵衛

貴下

〔御才料様御帰りニ付、一筆啓上仕候、残暑之砌御座候得
共、御家内様益御勇健ニ被遊御座珍重之御儀ニ奉仕存候、
然ハ此度御印御荷物御差向被成下雖有仕合ニ奉存候、右
御礼申上候一当所江紅花荷物出高之儀式百六拾駄仁三郎
舟頭迄積入相成候、跡当所蔵入も御座候間、凡三百駄御
座候、猶追々様子申上候間、先ッ者前文御礼旁々早々申
上候、恐惶謹言

大石田

七月十八日

久兵衛

堀米四郎兵衛様

八二 紅花送り状

一、百拾五文

六田方榎岡迄

八月五日

紅花三

問屋 ①

一、百貳拾九文

たて岡方土生田迄

八月五日

三肥分

問屋 ①

一、百廿五文

三丸

袋まし共

土生田方

大石田迄

以上

源助 ①

八三 覚 (蠟請取書)

一、蠟 覚

六舟

目方三拾四又百五十匁

右之通清兵衛方蠟請取申候、以上

八月七日

油屋

伴蔵 ①

沢畑

四郎兵衛殿

八四 青芋四駄請取手形

布宮七蔵殿

(包紙上書)

「青芋四駄請取手形

大石田との」

堀米四郎兵衛殿分

天 一八丸 百廿四肥入
夕 白干亭

一、添金式両式歩

一、手板巻通

一、通り判巻通

一、添状式通

右之通り髓ニ請取蔵入行候、為念如此御座候、以上

辰

設楽治郎右衛門 ㊦

八月廿七日

天神ゆの沢

八五 覚 (着物地等仕切)

覚

丑十月廿四日

一、百三十五文

半衿式ツ

同十一月九日

一、巻メ百十五文

つむぎ切巻丈
御内様分

一、金巻分ト四メ式百文

子之年木綿切品々取合
あね殿分之帯出表

丑十月廿一日

一、金巻分ト百文

古小袖綿入巻ツ

丑二月廿五日

一、式百三十文

白九文足袋巻足

三月朔日
一百七十文

ちりめん半袴巻ッ

あね殿分

外二

金巻両式分ト八貫七百五十三文

金巻分也

代百文

丑五月十七日
一、金三分之内式百文

仙台平野袴巻ッ

米式俵也

年貢也

返り

但苗代也

同
一、巻メ九百文

馬のり袴巻ッ

代金巻兩ト五百文

錢四百五十文

またい仕立ちん

亥八月十九日
一、九十文

入衿さらし式尺

並白きめ代共

同八月廿日
一、七百三拾五文

入衿さらし巻丈五尺

合金式兩式分ト九メ七百三十文
此金巻兩式分ト五百廿四文

笠を巻ッ

右之通ニ御座候

此表相濟申候

寅三月十九日
一、三十八文

花染切巻尺

八月十日

与藏

同同日
一、式百四拾文

くろ切四尺

堀米四郎兵衛様

小以

八六一一 覚 (諸品勘定)

正月十八日

近江屋林兵衛 ㊦

沢畑之

堀米四郎兵衛様

覚

一、六拾四匁

本紬(マユ)しま巻反

一、五拾八匁五分

同 巻反

一、五拾九匁

相見甚 巻反

一、四拾七匁

中紅きぬ巻疋

一、貳拾三匁五分

花口きぬ巻反

一、七拾五匁

縮面かが下着巻ツ

一、三拾九匁五分

□□風合羽十八間仕立上り

ノ三百六拾貳匁五分

為金六兩ト貳百六拾五文

外二

金貳歩申請 内貳百拾四文ハ返上

右金六兩貳分貳朱也、已上

七百四拾九文御返し

右之通売却此金髓奉受取り申候、以上

八六一二 覚 (売上代金受取)

覚

一、木綿十八間風合羽巻ツ

右之通売上代金髓ニ受取申候処、尤仕立出来之砌、此

書付引替ニ右品御渡し差上可申上候、以上

卯

正月十日

近江屋

林兵衛 ㊦

堀米四郎兵衛様

御内

八六一三 覚 (仕立賃金請取)

内 金三分十二月廿一日武助殿より受取

引残

金三朱ト八百廿六文

覚 京都より当地迄金壹兩ニ付銀四匁分五毛

十二月十一日

一、六百廿八文

酒肴代割合

一、金壹兩貳歩ト八拾文 綿屋勇藏殿より金四百貳拾五兩

割合届

同 一、六百文

丁字代

右為割合仕立届賃銀隨ニ請取申上候、以上

メ金三朱ト貳メ五拾四文

亥

十月十九日

福島屋 印

右へ

金三兩也 酉年分利金

堀米四郎兵衛様

引残り

貳兩壹分を朱ト三百四拾六文

右之通差引勘定仕候間、御改御差引可被下候

戌正月七日

善藏

八六一四 覚 (差引勘定)

覚

四郎兵衛様

一、金三分三朱ト五拾六文

此利七百七拾文

八六一五 覚(代金受取、入帳依頼)

覚

一、銀拾五匁

大極上々

熊胆正ニ三分

一、同拾六匁五分

雲丹取合 百五拾匁

ノ銀三拾壹匁五分

右之通ニ御座候間、宜御入帳可被下候、已上

丑十月廿五日

天佐藤 印

沢

御両親様

八六一六 覚(賄代調書)

覚

九月廿九日晚

一、貳

九月晦日昼晚

一、四

十月一日 昼

一、貳

同、廿八日

一、老

ノ九ツ

代七百廿文

右之通御座候、以上

柴はし

十月廿八日

孫七

沢畑村

四郎兵衛様

申十月十八日相済帰ル

四郎兵衛様
市郎兵衛様

同
同

四郎兵衛様

八七 書簡(差引勘定に付)

(封書上書)
堀米四郎兵衛様 丸屋次右エ門

用事

くわん計ニ相成咄々御取込候事与奉察上候、然ハ一昨日
申上候通り、当夏私引請仕候当年濟之分、左之通元利共
差遣し候間、御改御受取可被下候、則差引左ニ申上候

覚

金高三拾五兩貳分之内
一、金拾五兩貳分

当年濟之分

此り壹兩壹分

六匁三分七厘貳毛

〆拾六兩三分

六匁三分七厘貳毛

内

拾四匁 紅花御運上分

残り拾六兩貳分

七匁三分七厘貳毛

右之通差上申候間、御受取被成下度奉存候、尤紅花御運
上之分、差引致差上申候儀如何敷御座候へ共、先日御役
所へ立替候上助仕候間、則差引ニ相立申候、右惣而思召
被申候、余ハ拝顔可申上候、以上

大卅日

八八 紅花仕切

(包紙上書)
一、文政五年

仕切書一通

午ノ十一月吉日

最上谷地

吉田村

奥山才三郎

一、いか拾三れん

代

一、数のこ 式升

代

封印 ④ 最上沢畑村

荷主 堀米四郎兵衛 ④

一、からかい 四懸ケ

代

一^や国 拾八入 四丸

一、蠟燭台 拾丁

拾七入 壹丸

代 壹メ文

〆 壹駄壹丸 九袋也

京都

外二

伊勢屋利右衛門殿行

酒田に大久保迄運賃ハ貳百五十文濟、此分利左工門方

二而拂置、右之通り御座候、以上

聞

四月十八日

八九一 覚 (諸品勘定)

覚

戌九月廿二日

八九一二 覚（戌亥年分勘定相濟）

覚

一、十式貫五百文 去戌年百廿五分

一、金巻分式朱 色々代

巻メ七百四拾文

外二
一、式貫文 当亥春四ツ分

ノ金五兩式分式朱

四百六拾文

右之通去戌春当亥春兩年分不殘相濟、此表出入無御座候、
以上

亥四月廿四日

四郎兵衛様

酒田工町

七兵衛

正筆

印

九〇 書簡（注文品代金・紅花値段に付）

嶋屋飛脚ヲ以一筆啓上仕候、秋暑退兼候得共御全家御揃
一統御壯健ニ可被遊御座珍重ニ奉存候、当方無異儀罷在
候、乍憚御安意可被下候、然者七月十七日出御印御売附
申上代金之内四拾四兩差下申候、相庭（ま）ヲ受取可被下奉存
候、其節十右衛門様江の渡し金相断候而御地も早々御差
凶御状御上可被下候様申上候処、其後右十右衛門様度々
御出被成、国元も返事有之候迄相待候義何分込り入候而
難渋仕候段、再応被仰聞、私方推察仕何共氣之毒仕候、
仍之当地にて考弁仕、右重右衛様御買物左二

一、佛壇 式固

一、小間物入 巻固

ノ凡代金拾兩斗之由被仰聞候

右荷物引取金七兩式歩相渡申候、仍之右荷物や印にて大
津も敦賀へ向貴家様へ差引候間、御馳走之上荷物津替金

七兩式歩御引取可被下候、則荷為替之振合ニ仕候而為替
手形別紙差下申候、可然御取計可被成下候

一、御印仕切状 別紙相認メ差下申候

御引合可被下候則差引殘金左二

金四兩三分五朱

×山形西屋清兵衛殿と御受取可被下候、山形と大貢

御拂可被下候

右之通差下申候、御受取可被成下候、右ニて皆済と相成

申候、左様思召可被下候

一、当地紅花之儀、干今思染方寤々始り不申候、追々新

花も上り込候得者何卒此後追々賑敷取引出来候様願居候、

尚又不相替新花御出荷被成下候様奉願上候、先者右之段

申上度、如此御座候、尚期重便之時候、恐惶謹言

八月四日

伊勢屋源助 印

金七

彦七

堀米四郎兵衛様

貴下

九一 書簡(年賀・紅花相場に付)

(封書上書)

「最上沢畑

一月九日

(封書裏書)

堀米四郎兵衛様 從西都

竹岡理右衛門」

参る人々御中

新春之御吉慶不可有尽期重畳目出度申納候、先以其御地

御家内中様、揃倍御勇健被遊御追歳、珍重之儀奉存上候、

次ニ当方無異儀加年仕候間、乍憚御安意思召可被下候、

先者右年始之御祝詞申上度如斯御座候、尚期永日之時候、

恐々謹言

正月八日

竹岡理右衛門

堀米四郎兵衛様

参 人々御中

旧冬紅花相庭

最上 七拾兩右

南仙 百兩前後

奥仙 百廿五兩前後

南部 品なし

早庭

水戸 右同断

残荷六七百駄

唐紅花 正ミ 拾メ刃二付

三拾兩右

七拾兩右

正ミ

天笠 廿式メ刃付

六拾兩右

右之通御座候、以上

九二 紅花仕切

(端裏書)「やサマ」

仕切

十二月晦日限

右金三拾六兩壹步ト

壹刃八分七厘

九袋

金子五拾四兩替正ミ

「やサマ」印拾七入式丸ト

右金六兩式步式朱ト

五刃六分式厘

八袋ト

三百目

金五拾兩かへ 同

同へ吉印二申候

金四拾式兩三步式朱ト

七刃四分九厘

内銀八刃六分

手板不足

指引金四拾式兩三步ト

六匁九分三厘

右之通御任せ荷物売捌キ、代金不残当月晦日限相下し
可申、此表無出入相済申候、万一箇荷物之内抜御取違
在、亦ハ御算用違等有之候ハ、重而御指引可仕候、
為後日之依而如件。

文政十一戊子

十二月七日

近江屋佐助 ㊦

堀米四郎兵衛殿

尚々不日御仕入御荷物支配とも御用向被御付可被下候、

吳々モ奉御願上候、已上

新春之御吉慶無休期重畳目出度申納候、先以其御地御家
内様御揃、益々御勇健可被遊御越年珍重之義奉存候、次
ニ当方無異加年仕候間、乍憚御休易思召可被下候、尚々
右年頭之御祝詞申上度如斯御座候、期尚永日之時候、恐
惶謹言

正月五日

近江屋佐助 ㊦

伊助

喜助

万助

堀米四郎兵衛様

参り人々御中

相場

九三 書簡 (紅花相場に付)

(封書上書)

「羽州最上谷地沢畑

堀米四郎兵衛様

要用」

(封書裏書)

「極月口日

近江屋佐助

」

奥仙

六十四五兩
五十八九兩
五十四五兩

南仙

六十四五兩
五十八九兩
五十四五兩

早場

六十四五兩
五十八九兩
五十二三兩

水戸

右同断

最上

六十兩前後
五十四五兩
四十四五兩

残荷高凡

六百駄余

右之通二御座候、以上

今田

修家文書

(河北町田井)

一 紅花仕切

仕切

歩引口銭引御手取現金四拾兩かへ

一、金百三拾七兩貳分 へや大直千花三駄貳拾八袋

右之通御相對を以売買仕、紅花代金不殘相渡シ、此表無出入相濟申候、万一抜ケ袋又者違ひ花等御座候ハ、重而御指引可被下候、為後日仕切状仍如件

宝曆六年子四月廿九日

花山屋

喜右衛門^印

今田弥兵衛殿

榎 新助殿

二 紅花惣仕切目録

惣仕切目録

一、金三百七拾八兩

銀三十四匁四分

一、金壹兩

銀七匁五分

へや印口々仕切

惣^へ高

正月廿三日売付

へや大壹駄

代三拾貳兩

此り二月より五月半迄

^へ三ヶ月半戻シ日相

^へ金三百七拾九兩

銀四拾壹匁九分

右之内

申七月

一、金八兩三歩

一、金四兩壹歩

銀貳兩三分

両所和田六太夫殿と

為替相渡シかし

同所和田理兵衛殿と

為替相渡シかし

一、金三歩と
右二口は十三兩端銀
八月は閏極月迄は六ヶ月一ノリ

壹匁八分

八月廿一日

一、金貳歩と

六匁七分八リ

へや大貳駄積合船
石塚長兵衛船濡荷わり合
敦賀へ渡シかし

同廿六日

一、歩判金百兩

大黒屋飛脚差下シ
御取替

一、金九兩貳歩

申九月は潤へ入
酉五月半迄

は九ヶ月半一ノリ

一、金貳歩

九匁五分

下し駄賃

一、銀拾壹匁

切ちん

九月七日

一、歩判金三兩

かし

一、銀三分七厘

廿四文

九月廿五日

一、金拾五兩

相渡し取替

一、金壹兩壹歩

申十月は潤共
酉五半迄

壹匁五分
は八ヶ月半一ノリ

十月十六日

一、歩判金百五拾兩

大黒屋飛脚を
差下し取替

一、金拾貳兩

申十月十六日より
酉五月半迄潤共
は八ヶ月一ノリ

一、拾五匁

切ちんかし

一、金三歩

下し駄賃

四匁八分

十月廿八日

一、金拾兩

相渡しかし

一、金三歩

申霜月より
酉五月半迄
は七ヶ月半一ノリ

十月廿二日
一、三匁壹分

貳百文せにかし

霜月二日

一、金拾三兩

知春坊へ為替ニ
御渡し取替

一、金三歩と

申霜月より酉五月半迄
は七ヶ月半一ノリ

十四匁壹分

極月廿日

一、金五兩 かし

十二月廿一日 一、六匁貳分四リ也 四百文

閏十二月二日 一、金壹兩貳歩 かし

同廿六日 一、金壹兩 油屋佐兵衛殿相渡シ 御取替

拾貳匁壹分四厘

閏大晦日 一、五匁五分 かわし代二口 但し千種屋拂かし

同日 一、金貳兩 取替かし

酉二月廿九日 一、金三歩 かし

三月廿五日 一、歩判金壹兩 かし

四月廿七日 一、銀拾貳匁四分 かし

五月四日 一、貳匁貳分六厘 たばこ代百四十五文

同日 一、七匁七分五厘 五百文せにかし

三日 一、金貳兩 川口弥藏殿へ 御拂ノ節かし

一、六匁 此度差引金 切賃

メ 金三百四拾四兩

百貳十貳匁五分四厘

(追筆) 右御取替金

是之證文此度戻ス 此金壹兩三歩ト十二匁三分

合金三百四拾五兩三歩

十二匁三分

惣差引残

歩判金三拾三兩壹歩

貳十九匁六分

此錢壹メ九百拾文

但兩替六十三匁

右之通指引残金不残相渡シ無出入相濟申候、万一算用違御座候ハ、重而御相互ニ御差引可申候、為後日仕切目録仍而如件

伊勢屋理右工門^印

一、金三拾貳兩壹步

同大印紅花壹駄

明和二酉歲

銀十貳匁八分

代 三袋

五月十六日

同断

但右同金三拾三兩替

今田弥兵衛様

一、金百九拾壹兩三歩

同大印紅花五駄片馬

同源 蔵様

銀三匁九分

代 貳拾袋

但十六入廿貳丸

十七入壹丸

外二三袋ノ都合

二一二 紅花仕切

同断

但右同金取合三拾壹兩替

一、金五拾四兩壹歩

同大印紅花壹駄

同谷大印紅花三丸

ノ壹駄片馬十六袋

代

但右同金三拾壹兩替

仕切

但歩引口錢引

御手取現金拾六兩替
へや干藝花

代 貳拾六袋

当正月廿三日受取

但右同金二兩

一、金四拾七兩壹分

同大印紅花壹駄片馬

一、金三拾貳兩

同大印紅花壹駄

銀十三匁八分

代但十六入四丸

十七入貳丸

此度

但右同金三拾壹兩替

同断

但右同金取合貳拾五兩替

一、金拾四兩

同夕大 十七袋

銀三匁九分

同天 十九袋

片馬四袋

代

金三百七拾八兩

銀三十四匁四分

右之通御相對ヲ以売買仕代金別紙目錄表ニて不殘相渡シ
無出入相濟申候、万一算用違或者抜袋等有之候ハ、重
而御相互ニ差引可申候、為後日仕切状仍而如件

明和二酉歲

伊勢屋

五月十六日

理右衛門印

今田弥兵衛殿

同 源 藏殿

三 (京都紅花問屋に付) 一札

江戸表御勘定所小野日向守様於御役所被仰渡候ニ付
差上申一札之事

羽州紅花荷主共儀、京都紅花問屋取計ヒ不宜故、捌方差
支候趣、但州播州通船請負人武州亀有村清右衛門へ相頼
候旨、先達而一色安芸守様江清右衛門奉願候ニ付、右荷
主並清右衛門、其外問屋紅屋共一同ニ御吟味御座候処、
先年之紅屋共茂、紅花出生之国々江被越、勝手次第直売
買仕候処、問屋相極候以来、問屋共不束成捌方ニ付、清
右衛門於京都増問屋株取立紅花荷物引請正道ニ取計ヒ候
ハ、外問屋共も自然ニ簾直巻ニ可相成趣、品々申上問屋
共儀者三拾ケ年余己前ハ右之通直売買相成候得共、享保
二十卯年問屋拾四軒ニ極候已来、自荷物混雜も不致盜荷
等も無之取締宜敷、尤是迄不直成取計ヒ仕候儀無之由申
上之、紅屋共儀者以前之通直売買いたし候様相成候得者
勝手被成候由申上之候得共、一体申争ヒ無證據之儀者御

取用難成、問屋共儀紅屋江売渡候分計口錢取立候得共、
 多分問屋共方江買取置候故、右之分ハ口錢無之候間、前々
 方仕来ニ而仕切書付ニ口錢之眞数相認不申、藏敷之儀者
 口錢ニ込取立候故、是又不認由申上候得共、左候ハ、右
 之訳委細認分ケ仕切書付も可渡処、無其儀一体不取締い
 たし方、其上問屋極有之候而者、売捌方手拔差支ニ相成
 候段ハ歴然ニ付、清右衛門江増問屋株被仰付候様ニ支度
 と申儀弁、直売買ニ相成候共、問屋株ハ御立被置被下候
 様ニ支度旨、今般御吟味之上問屋共之内ニ而、奉願候儀
 共難成間、己来問屋名目相止メ、三十箇年余以前之通、
 銘々紅花出生之国々江罷越直々売買仕、勿論荷主共儀も
 外ニ紅花作り候ものより荷物相渡由申候分ハ、引受之
 勝手次第商ひ仕、都而荷主帳面等巨細ニ取極、紛敷儀無
 之様ニ仕、荷主共儀も我儘之取計ひ仕間敷旨、被仰渡一
 同承知奉畏候、若相背候ハ、御科可被仰付候、仍御請證
 文差上申所如件

柴村藤三郎御代官所

羽州村山郡谷地

明和二年七月四日

荒町村百姓

紅花荷主五兵衛

前小路村

同 金右工門

大町村

同 五郎兵衛

前小路村

同 傳藏

代藤藏

伊奈半左工門御代官所

武州葛飾郡龜有村

百姓 清右工門

但州播州通船請負人

京都紅花問屋行事

小川通蛸薬師下ル丁

紙屋 勘兵衛

東漸院三条下ル町

若山屋勘右工門

同所紅花問屋

四条通烏丸東へ入町

伊勢屋理右衛門

烏丸通蝸薬師下ル丁

若山屋喜衛門

室町通蝸薬師下ル丁

池田屋五兵衛

綾小路東漸院東へ入丁

松位屋徳兵衛

蝸薬師小川東へ入町

山形屋八郎右工門

新町通三条下ル町

最上 市左工門

烏丸通綾小路下ル丁

若山屋又兵衛

六角通室町西入町

若山屋孫兵衛

烏丸通蝸薬師下ル丁

東漸院通六角下ル丁

紙屋 徳右工門

東洞院通六町下ル町

近江屋九郎兵衛

烏丸通二条下ル丁

井筒屋善助

代 十三郎

室町通四条上ル町

伊勢屋源助

同所紅屋行事

榎木町通室町東へ入町

綿屋徳兵衛

衣槌通下口口上ル町

松葉屋徳兵衛

錦小路油小路東へ入町

丸屋徳兵衛

油小路通高辻上ル町

二見屋長兵衛

同所紅屋百四拾八軒惣代

三月廿三日下り之紅花沓駄之送金取かへ

佐藤屋作兵衛

一、同沓両沓歩

玉屋 九兵衛

六月廿六日下り之紅花沓駄之送金かし

代 八兵衛

一、同沓兩者

松葉屋新助

右同断 下り沓駄片馬之送金かし

越後屋金右工門(実カ)

一、同沓両

七月廿八日へや印沓駄騎片馬送金かし

一、同式歩拾式匁五分

七月八日下り沓駄之送金かし

一、同沓両

八月九日濡紅花造り直し六固(箇)之送金かし

一、同沓歩九匁九分七厘

右者上山御役所御荷物大坂より浜上質・蔵入ち

ん、当所より其御地迄之運賃掛物御取立被下候様ニ

申遣候

惣ノ金六匁九匁九分七厘

四 覚 (へや印紅花運賃指引勘定)

(端裏書)
「へや」

覚

一、銀拾式匁五分

閏十二月十一日かし金請取残ニ而かし

但し治郎七下三拾両金之残

一、金三歩八

右之通別紙金指引相立申所、依而如件

本間幸三郎印

西十一月十一日

今田弥兵衛殿

金八拾五兩壹分と

十三匁三分

右之通仕切目録相認相渡シ、此方帳面ニ請取印形有之候

明和四年亥二月

伊勢屋理右衛門

印判

五 紅花惣仕切目録

(端裏書)

「今田仕切目録」

惣仕切目録

一、金三百五拾兩三步と

へや印紅花口々

銀五十四匁三分

代惣ノ高別紙仕切表也

右之内

一、金貳百六拾四兩貳歩と

銀百四匁五分五厘

差引残

六 紅花仕切

(端裏書)

「今田仕切写」

仕切

但シ御手取銀金三拾八兩かへ

一、金四拾八兩

へや大印紅花

五匁分

壹駄十七袋

代 但し 十六入四丸
十七入壹丸

此利金貳歩 極月一ヶ月の利

一、金四拾兩

但し右金にて

同大印同壹駄

代

但し右同断にて四拾兩かへ

一、金八拾壹兩壹分

同大印同貳駄

貳袋

一、金四拾五兩壹歩

但し右同金四拾壹兩かへ

同本紅印同

十四匁分

壹駄七袋

代

此り金壹歩

同壹ヶ月

十貳匁分

戻しり相

一、金六兩貳分

但し右同金にて廿貳兩かへ

同大藝花拾七表

同大 同 貳袋

拾九袋

一、金拾貳兩貳歩

但し同金ニ而三拾五兩かへ

同大印 同廿貳袋

四匁分

又㊦印 同 壹袋

銀貳拾三袋

銀金三百五拾兩三歩と

銀五拾四匁三分

右之通任切認相渡シ此方帳面ニ請取印形有之候

一、金百拾六兩貳歩

同大印同貳駄

十三匁八分

片馬六袋

代 但し十六入四丸
十七入六丸

明和四年

伊勢屋

亥二月

理右衛門 印

今田弥兵衛殿

同 宗七殿

今田弥兵衛殿
中野 宗七殿

七 紅花惣仕切目録

八 紅花惣仕切目録

惣仕切目録

一、金三百五拾兩三分と

へや印紅花口々

銀五拾四匁三分 代惣へ高別紙仕切表也

右之内

一、金貳百六拾四兩貳分と

銀百四匁五分五厘

差引残

金八拾五兩壹分

十三匁三分

右之通仕切目録相認相渡此方帳面ニ請取印形有之候

明和四年亥二月

伊勢屋理右衛門 印判

(端裏書)

「目録写」

惣仕切目録

一、金四兩三步と

十五匁七分

一、金三步と

五匁三分

一、金四拾九兩貳歩

廿匁七分

一、金八拾五兩壹歩

十三文七分

小野七十郎殿差引残り高

へ

鈴木長十郎殿仕切表残り

高へ

大黒屋又兵衛殿仕切表残り

り高へ

今田弥兵衛殿仕切表残り

高へ

一、金拾貳兩貳歩

預り金

廿六匁四分

五口

銀百五拾貳兩貳歩と

銀八拾老匁四分

右之内

一、金貳兩と

三匁四分

浦城喜兵衛殿紅花代指引目
録表不足引

(貼紙)

仕切老通 浦城之分

目録老通 天童へ遺ス

一、金拾兩

紅花代之内へ相渡ス

一、金五拾兩

右同断 相渡ス

一、金九拾三兩貳歩

宗七殿へ取替渡金銀高

十二匁八分

但し委細ハ別ニ書付有

銀百五拾五兩貳歩と

十六匁貳分

惣指引残而

金老兩三歩と

已上かし

拾四匁三分

右之通殘金請取無出入相濟申候

明和四年亥六月

伊勢屋

理右衛門 印

今田弥兵衛殿

中野 宗七殿

九 (紅花売代金に付) 返答書

乍恐書付を以御答申上候

一、天童村伊勢屋善太郎様番頭伊兵衛殿御支配方喜兵衛殿迄貳拾ケ年諸色之大豆、小豆、紅花、たばこ一切之買物年々村方他村迄致買物来候、然ル処去々酉年田井村弥兵衛殿と申御人紅花拾六駄京都へ被為登拙者御頼

二候得共、なれぬ商ニ御座候間延引仕候得共、是非罷登候様御頼被成候間罷登、首尾好売買仕年中ニ罷下申候、依之去七月右伊勢ヤ方に而、紅花拾駄余京都へ被為登、夫私御頼被成候得共、多分之金高成商ニ御座候間、遲滞仕候処其元去年初而登り利運被致商茂吉凶御座候間、又々当年も罷登呉候様御頼被成、然る処田井村弥兵衛殿方も御頼被成候間罷登候之処、荷高三拾駄計ニ相成、去八月下旬ニ上京仕候処、殊之外不景氣段々引下ケ何共迷惑仕、其後九月段々荷物質入仕、金子借用田井村弥兵衛殿へも天童伊勢やへも指下シ申候、然る所伊兵工殿京都へ御登り相談之上少々荷物相払売代金伊兵工殿へ相渡指下申候、残荷物御相談之上見合置申候、伊兵衛殿罷下其後勢州旦那様も相払候様二度々御状被遣候間相払売代金ニ而九月之借用金指引仕、残金勢州旦那様へ差下申候、然る所其後天童伊勢屋も又ハ紅花貳駄余当二月迄ニ京着仕候、此荷物者私御頼之御状被遣何共不景氣之節ニ御座候間、見合置候処、勢州旦那様も御状被遣候処、当年之新花様

子最上ハ殊之外不出来之由申来候間、夫共五拾兩位ニ御座候ハ、相払候様被仰遣候、其上何年ニも無之大雪紅花仕付後レ候由申来り候へハ心強罷成、此上直段六拾兩余迄ニ不相成内ハ新花京着仕候迄も逗留仕心ニ而国元旦那衆中へ拙者思入之書状差下申候処、天童伊勢屋喜兵衛殿方も私方へ五月中間出シ之書状六月中旬ニ京着仕拜見仕候得者、新花殊之外上出来見事ニ御座候間、四拾兩位ニ相成候ハ、相拂早々売代金持参仕急ニ罷下り可申との書状被遣候間、拙者然レハ右之趣之御状世間ニも参善と存急ニ附花おたし段々吟味仕候処、四拾三兩ニ直こひ有之余方ニも新花上出来之様子参善と存、然る時ニハ人氣よわく罷成直段引下ケ可申哉と存候、右直段ニ而段々弥兵衛殿荷物とも拾駄余売代金請取、漸六月十八日迄ニ差引勘定仕候得ハ飛脚も無之拙者直ニ金子持参仕、急ニ六月十九日ニ京都出立少々荷物有之、右荷物之内ニ金子仕切目録書状共入置勢州最上へ下御人有之由勢州旦那様も申参候間、勢州へ心掛罷下右荷物人足ニ為持相間ニハ自分持ニ致、

十九日之晩草津泊、明廿日二大山与申町ニ而人足色々
と申賃錢四拾五文ニ而右荷物為持罷通候処、山坂ニ而
日暮ニ罷成候得ハくせもの共人足追懸り荷を押へ私方
へ追懸り拙者も驚、くせものとも大勢拙者相叶不申夫
方山中へ逃ケくく利のめくり屋まくり方角もなく沢入
ニ逃下り、命からがらニ而段々そこかしこへめぐり漸
坂の下と申町ニ九ツ過ニ本生もうせ候様ニ而そこかし
こ見せうちおこし候得共一切返事無之所、漸返事仕候
宿有之候処、宿かり候得ば、忝人宿相成不申込、二度
返事無御座候処、力なくうろうろ立のき段々心細く罷
成国元へも申訳なくと存、是方何方へも出奔仕心ニ罷
成段々あちらこちらニ廻り桑名ニ而二夜泊、京都宿へ
段々右之様子書状ニ認、最上江之書状封込外ニ京都之
宿方最上へ申添状御願申候様ニ書状認致候処、幸京都
へ登御人ニ出会相頼右書状相届申候、夫今段々心色々
ニ相成、国へ下る氣も無之そこかしこに陳取、うろう
ろと歩き日数相懸、夫方段々思案仕国へ下り不申候而
ハ、多分之金高二御座候へハ、荷主様方私金高たくわ

ひ仕欠落杯と御推量も可有之と存、夫方国へ下る心ニ
罷成、段々罷下候処、当七日二天童伊勢や二下着仕、
段々右之様子申立候処ニ番頭衆御承引無之迷惑仕候、
右申上候通大金うばひ取候故如何様と御吟味被仰付候
得共、多分之金高二御座候得ハ何分申訳無御座候、此
上如何様ニ被仰付候共、無拋事と申上候而二夜明候処、
羽入村喜之助と申御人体立預り、我家ニ同道申候様、
此上右喜之助宜様相談仕将明申候間、内ニ居り候様申
付候間、何分多分之金高御座候得ハ拙者申分ケ可仕様
無御座候間、此末宜様相済呉候様喜之助殿御頼置候様
御指図被仰付候ニ付、其後喜之助殿御了簡ニ及不申故、
無拋御役所様へ御苦勞ニ被成、何共迷惑至極仕候、此
上御尋之儀御座候ハ、口上ニ而可申上候、以上

亥八月

荷口村答主

長瀬御役所

惣七印

一〇一一 (惣七紅花売付け一件に付) 願上書

右弥兵衛願之通被為仰付被下度奉存候、以上

組頭儀兵衛

乍恐書付を以奉願上候事

大庄屋

牧野藤左衛門

子八月

御役所

宮村孫左工門様御代官所荷口村惣七京都二而紅花売代金不相渡候二付、去八月御訴訟申上候所、則長濤御役所江御文通被成下候二付、右惣七御吟味之上道中二而金子被奪取候儀雖申之、不分明二被思召村預二被仰渡候趣、乍併御私領を掛り合候出入永御取扱難被成由二而御手離、因茲差急出府御訴訟申上度奉存候へ共、病身者故遠路出府仕兼候、乍去右金子打捨置候へ而八身上之痛と罷成候間、此度弟勝平出府為致御判頂載仕度奉存候間、願之通被仰付被下度奉願候、尤勝平老人差遣候義、氣遣敷奉存候間、私四男青木楠五郎様御代官所羽入村傳兵衛召仕吉太郎相添当十二日出府為仕度奉存候、右二付乍恐御添翰被成下度奉願上候、以上

一〇一二 (惣七紅花売付け一件に付) 訴訟書

乍恐以書付御訴訟奉申上候事

宮村孫左工門様御代官所羽州村山郡

一、金百拾四両 荷口村紅花代金引負人相手

惣七

右惣七去戊年織田八百八様御領分天童田町善太郎を相頼紅花売支配京都へ為差登候付、惣七罷越相頼候へ、去年通紅花売支配仕度段申之候故、任其意候処戊年之儀者、

田井村願人

明和五年子八月

庄屋弥兵衛(印)

京都二而紅花至而下直二付越年致罷有候而、右紅花段々

已上

相拂去亥八月七日天童善太郎方へ帰国仕、翌十日荷口村

松平山城守領分羽州村山郡

在宅仕候付、右紅花代於京都請取候殘金書面之通相渡候

明和五_戌年八月 田井村訴訟人弥兵衛所

様二催促仕候得者、道中勢州坂ノ下山間二而、夜盗出合

勝平

金子被奪取候旨申之相渡不申候、尤金貳拾兩三拾兩之事

儀兵衛

候ハ、才覚を以も相済可申候得共、大金之儀御座候処、

御奉行様

致方無之段挨拶仕候、御治国泰平之世之中二往還筋二左

様之怪敷者有之間敷奉存、則荷口村名主傳九郎並五人組

へも相断、其上地頭松平山城守役所へ訴訟仕、宮村孫左

一〇一三（惣七紅花売付け一件に付）願上書

工門様御役所へ御通達被成候処、右惣七御吟味之上於道

中被奪取候儀不分明被思召、親類五人組二村預ケ被仰付

乍恐以書付奉願上候御事

被差置由、山城守役所へ被仰遣候、右二付差急出府仕御

一、宮村孫左衛門様御代官所荷口村惣七儀、去ル酉年伊

訴詔申上度奉存候得共、病身者二而遠路出府仕兼延引仕

勢參宮仕度旨申之二付、左候ハ、紅花売支配致吳候様

候、尤其儘差置候而ハ、番頭ハ勿論身上之傷与相成、百

二相頼上京為致申候、然ル所去夏中紅花相調候二付、

姓相統諸上納差支甚迷惑仕候間、御慈悲之御救ヲ以、右

京都紅花宿方前金等借用仕候間、右引当として代物紅

惣七道中宿々江難題申懸ケ謀計を以掠取置候金子私方へ

花荷物送為登申候、則右宿伊勢屋理右工門、若山屋喜

可相済分無相違相渡候様被仰付被下置度、乍恐幾重二も

右衛門方江茂差付荷物二可仕旨申遣候、然ル所右惣七

御訴訟奉申上候、右願之通被為仰付候ハ、難有奉存候、

罷越申談候ハ、天童大黒屋又兵衛与仲間ニ而紅花仕入

一、金百拾壹兩余

紅花代金

有之、猫又干花ニ而も壹貳駄も相調候故、上京仕心懸

外二三兩余京都日相可請取金子也

之所二天童善太郎店之荷物も売支配、外ニも三駄計も

百拾四兩余

支配御座候間、是非上京仕候、因是其元仕入紅花も売

内訳

支配致度旨、惣七申之ニ付、左候ハ、差付荷物之外任

六拾貳兩貳分余 京都若山屋喜右工門方^レ請取候由

其意候、然ル所去冬中紅花下直候由相聞候得共、惣七

此金子之義差付紅花荷物代金ニ御座候間、惣七請

何与相心得候哉、多分之損金ニ而売附申来候故、正月

取間鋪金子請取之候、仍之右喜右工門方江も断相

四日出之書面ニ餘り下直ニ御座候間、理右衛門、喜右

立置申候

衛門兩宿江相任セ、書状着次第第二帰国可仕旨申遣候処、

四拾五兩

京都近江屋九郎兵衛方ニ而商金

惣七^レ之返書御覽ニ奉懸上候、然ル所利右衛門方江藏

右惣七義干紅花貳駄相調自分商ひ仕候損金御座候

入紅花荷物当二月中ニ不残売附申候由、宿利右衛門^レ

ハ、相弁可申候、尤当二月中私方江宿理右工門方

申来候、因是指引殘金差下シ可申候処、左様義も無之

^レ可相屈金子指留相調候様奉存候、則惣七方^レ之

六月中迄永逗留仕、剩喜右衛門方江差付荷物代金茂請

書面御覽ニ奉懸上候、然ル上者自分商事ニ御座候

取致帰宅罷有候由承之候間、右代金不残相渡候様ニ

間何様之儀出来候共相償無相違日相金共ニ可相濟

度々催促仕候得共、彼是申掠相濟不申候間、名主傳九

外六兩貳分惣七手元有金

郎方江茂度々相断、其上及通達候得共、辻も将明不申

内四兩貳分ハ天童善太郎店二道中金残預置候由申

候故、不得止事御訴訟奉申上候、右惣七^レ可請取金高

来候

左ニ

右之通構非分不將仕甚迷惑仕候、因是御慈悲之以御賢慮
惣七方右金子員數無相違相渡候様二乍恐長滯御役所様
江被為仰遣被下置度、幾重二モ奉願上候、猶又御尋之義
茂御座候ハ、口上二而可奉申上候、以上

亥八月

田井村願人

上山

弥兵衛[㊦]

御役所様

前書之通願出候二付、奥印仕差上候以上

溝延村大庄屋

牧野藤左衛門[㊦]

一一 覚 (紅花売口錢等勘定申立)

覚

一、金八拾五兩壹分銀拾三匁三分 京都宿理右衛門方^b
但し当亥二月仕切表

惣仕切殘金

内四拾五兩

京都若山屋喜右衛門方江渡金

但し当亥三月廿九日ニ相渡申候由申越候

殘四拾兩壹分銀拾三匁三分惣七請取自由仕候

外二貳兩ハ 右金自由仕候二付、当亥二月^b六月

迄日相金也

一、金七兩壹分銀拾壹匁七分 去戌九月喜右衛門方^b

注文金不足之所惣七請取

一、金三分銀七匁五分 去戌九月^b当六月迄日相金也

但し喜右衛門方^bハ相渡候由申遣候得共、請取候

義不申遣候而、自由仕候故日相勘定仕候

高壹兩壹分貳朱之内

一、金三分銀壹匁五分 紅花添代

一、五拾壹兩貳分銀四匁

一、金六拾貳兩貳分銀五匁五分 若山屋喜右衛門方^b渡

金

此金本書ニ申立候通、差付送り紅花代金ニ御取候処、
惣七請取候段、則喜右衛門方^bも不得其意趣及通達
候

金百拾四兩銀九匁五分

内

金壹兩

参宮人谷地甚兵衛与申者ニ取替之由未相

濟不申候

惣金請取候節勘定ニ相立可申候

金四兩

天童善太郎方江道中金残請取置候由、本

書ニ書上仕候、尤惣金請取候節、善太郎

方ニ而成共、私方ニ而成共勘定相立可申

候

外売口錢駄ニ金三分宛送り、差付之外七駄三丸分勘定

ニ相立可申候

右之通本書ニ申立候金高如是ニ御座候、以上

亥九月

田井村

弥兵衛

長瀨

御役所様

一二 紅花仕切

仕切

御手取現金三拾八兩貳步かへ

子正月五日

一、金七拾九兩壹步と

へや大印紅花貳駄

銀九匁八分五厘

代 四袋

一、金三拾貳兩

へや大印紅花壹駄

同金

代

一、金三兩貳步と

同金三拾三兩かへ

へや大印

一、金三兩貳步と

銀六匁九分

代

紅花七袋

同金拾三兩かへ

代

一、金壹兩三步と

へや大印

紅花九袋

銀四匁九分

代

同金三拾三兩かへ

同金三拾三兩かへ

代

同金三拾三兩かへ

一、金拾六兩貳步

へや庄印 鶉渡河

代 紅花片馬

金百三拾三兩と銀貳拾壹匁六分五厘

右之内

亥十二月廿八日

一、銀三匁壹分

鶉渡貳丸大津駄ちん

亥十二月廿八日

一、銀九匁四分五厘

へや印大津駄ちん

同十二月廿八日

一、金百兩

山形山口三郎右エ門殿へ

為替取組相渡ス

一、金三歩

下し金差引貳拾兩

過上分四ヶ月不足

金百兩三歩と銀拾貳匁五分五厘

差引残り金三拾貳兩壹歩ト銀九匁壹分

内

一、銀拾四匁八分 此度下し金だちん引

一、銀四匁貳分 歩判切ちん

銀拾九匁此金壹歩ト三匁

差引残り歩判金三拾貳兩ト丁錢三百七拾八文

右之通相對を以売附代金不殘福鳴飛脚江差下し、此表無

出入相濟申候、万一拔袋或者算用違有之候ハ、重而差

引可申候、為後日仍而如件

伊勢屋源助 ㊦

明和五年子五月六日

今田弥兵衛殿

一三 (紅花代金横取に付) 願上書

乍恐書付を以奉願上候

松平山城守領分

羽州村山郡田井村

名主弥兵衛煩二付代

訴訟人 勝平

紅花代金横取致
出入
渡し方差滞候

宮村孫左衛門様御代官所

同州同郡荷口村

百姓

相手 惣 七

乍恐訴訟人弥兵衛代勝平奉申上候、右惣七儀去ル戊七月
中私方江罷越相願候者、同郡天童田町善太郎方江紅花売
支配ニ付、京都江罷越候間、私方紅花之儀も同様ニ差遣
吳候得者、右惣七勝手ニも相成候趣相願候ニ付、任其意
私所持之紅花七駄片馬、京都売仕切金、無滞私方江相渡
可申旨申談、右紅花差遣上京為致候処、去ル戌年之儀、
紅花甚下直ニ付、越年致居去亥年ニ罷成段々売拂、同八
月七日右善太郎方へ帰着仕、翌十日荷口村江在宅仕候ニ
付、紅花代京都より追々差越候殘、金百九兩壹分銀拾匁
四分五厘有之候ニ付、相渡候様催促仕候得者、道中伊勢
坂下山間ニ而盜賊ニ行合、金子被奪取、尤式拾兩三拾兩
之儀ニ御座候ハ、才覚ヲも致相渡可申候得共、大金之

儀故致方無之段挨拶仕、相渡不申候ニ付、右村名主傳九
郎並五人組江、濟方申付吳候様相願候得共將明不申、種々
不分明成儀ヲ申之甚疑鋪奉存、右体之儀等閑致置候而者、
年々家業之差障ニ相成、難儀至極仕候ニ付、無是非今般
御訴訟奉申上候、何分御慈悲ヲ以、右惣七被召出御吟味
之上、書面之金子無滞相渡候様被仰付被下置候ハ、難
有仕合奉存候、已上

松平山城守領分

羽州村山郡田井村

明和五年子八月

名主弥兵衛煩ニ付代

御奉行所様

訴訟人 勝 平

(裏書)

「如斯訴状差上候間、

致返答書来ル十月

十三日評定所江罷出

可対決、若於不參者

可為曲事者也

子八月晦日

御用方無加印

加役無加印

備前

佐渡

美濃 御用方無加印 大渦

伊賀 日向 豊前

大煩 彈正 一

一四 (紅花代金横取に付) 一札之事

一札之事

来ル十月十三日御評定所江可罷出旨、三御奉行所様御裏御判物並、土岐美濃様御役人中様も、御添書老通頂戴奉拝見、於長瀬髓請取申候、尤墨付よこれ等決而無御座候、為後日仍而如件

子

荷口村請取人

九月十五日

惣 七

五人組 清三郎

同 五郎兵衛

田井村

勝平殿

同 教善

同 四郎兵衛

同 伝四郎

百姓代 勘兵衛

組頭 嘉兵衛

名主 伝九郎

一五 紅花代金指引帳 (横帳)

(表紙)

「明和五子年十月

紅花代金指引帳

松平山城守領分

羽州村山郡田井村

勝平

一、紅花八駄片馬 京都伊勢屋利右衛門方へ遣

一、拾九袋 但し壹駄二付十式両かへ

代八拾壹兩壹分

内

代六兩貳分

一、壹駄 七袋 但し壹駄二付四拾壹兩かへ

貳匁

代四拾五兩壹分

代金ノ三百五拾兩

拾四匁八分

四拾壹匁四分

一、壹駄 十七袋 但し壹駄二付三十八兩かへ

外二

代四拾八兩

一、貳分也

五匁九分

戊極月壹ヶ月利金

一、貳拾三袋 但し壹駄二付三十五兩かへ

一、壹分

金四拾五兩壹分十四匁八分分

代拾貳兩貳分

拾貳匁九分 戊極月壹ヶ月利金

四匁九分

惣

一、貳駄片馬六袋 但し壹駄二付三十五兩かへ

ノ金三百五十兩三分

代百拾六兩貳分

五拾四匁三分

拾三匁八分

内

一、壹駄 但し壹駄二付四拾兩かへ

一、金百兩 戊ノ五月十六日民受取

代四拾兩

一、金五十兩 同 七月十七日民受取

一、貳駄貳袋 但し壹駄二付四十兩かへ

一、金百兩 同 十月六日 民受取

一、金拾三兩壹分 利金引

一、金壹兩壹分 切實、下し金駄實

五拾壹匁六分

一、五拾貳匁九分五厘 紅花駄實不足かり引

一、金四拾五兩 若山屋喜右衛門方へ渡候分引

小以金三百拾壹兩

拾四匁六分六リ

差引

金四拾兩壹分

九匁七分五厘

惣七方へ受取申候分

一、紅花六駄片馬六袋 京都若山屋喜右衛門方へ遣し分

内

一、三駄貳拾袋 但し壹駄ニ付四十五兩かへ

代百四拾九兩

三匁九分三リ

一、貳駄貳袋 但し壹駄ニ付四拾五兩かへ

代九拾壹兩壹分

九匁八分四リ

一、壹駄拾六袋 但し壹駄ニ付四拾貳兩かへ

代五拾貳兩貳分也

代金

貳百九拾貳兩三分

拾三匁七分七リ

外ニ

一、金七兩壹分 戌夏分紅花代残り

十匁匁四分

一、金四拾五兩 いせや利右衛門方へ受取候分

一、金壹兩 右金ニヶ月半利金

七匁八分七リ

一、拾四匁九分 紅花駄實残り

一、貳分三リ 同断

惣

金三百四拾六兩三分

三匁四分七リ

内

一、金百拾兩 戊六月七日民受取

一、金壹分 右金利金引

七匁三分式リ

一、金貳分 右金下し駄賃引

三匁壹分七リ

一、拾六匁五分 部判切賃引

一、四匁九分五リ 同断引

一、金百五拾兩 戊九月七日民受取

一、金拾四兩壹分 右金九ヶ月半利金引

一、金三分 右金下し駄賃引

せに百六十文 但し貳匁貳分

一、貳拾四匁 部判切立引

一、四匁三分五リ 同断引

小以金貳百七拾六兩三分

貳匁四分七リ

指引

金七拾兩ト壹匁

二口

惣七方へ受取申候分

金百拾兩壹分

拾匁四分五リ

内

金壹兩 谷地村甚兵衛

惣七方へ受取候分引之

指引

金百九兩壹分

拾匁四分五リ

惣七方へ受取申候分

右之通勘定仕立差上申候所如件

松平山城守領分

羽州村山郡田井村

弥兵衛代 勝

平

子ノ十月

一六 (惣七紅花代金横取に付) 内済証文

勘兵衛 殿

伝九郎 殿

内済為取替証文之事

一、我等組下惣七与申者、貴殿に紅花金百九兩壹分ト銀拾匁四分五厘之荷物御渡し被成候処、右之荷物不残売払候得共、代金滞一切相済不申候ニ付、当子ノ十月横取金之様ニ御願被成、同十三日可被出御尊判頂戴、奉驚双方之取分御吟味之上、右之惣七入牢被仰付候処、両宿村役人被あつかへ仕、御用捨被下候上ハ、家材代与して金三兩、惣七身替与して俣式人差出、金拾兩ニ質物奉^上ニ差置申^上処実正ニ御座候、右ニ付定之通内済仕候上ハ、御願かましき義仕間敷候、仍而為取替証文如件

明和五年子十一月

田井村 勝平

江戸宿 五兵衛

同 清八

五郎兵衛殿

一七 (惣七紅花代金横取に付) 内済証文

内済為取替証文之事

一、我等組下惣七与申者方江、貴殿に紅花金百九兩壹分ト銀拾匁四分五厘分之荷物、御渡し被成候処、右之荷物不残売払候得共代金滞一切相済不申候ニ付、当子ノ十月横取金之様ニ御願被成、同月十三日可罷出御尊判頂戴奉驚、双方被召出御吟味之上、右之惣七入牢被仰付候処、我等共貴殿江達而御詫仕候得者、御得心之上右之金百九兩壹分ト銀拾匁四分五厘之所、只今金拾三兩御請取被下、残金九拾六兩壹分ト銀拾匁四分五厘之儀者、右之惣七身上取続相応ニ渡世仕被有候ハ、追々ニ御取立被下候約速ニ而、貴殿之御了簡ヲ以内済被下

忝奉存候、然ル上者、右惣七出牢致候以後、何様之儀申候共、我等共仲人ニ相立候上者、少も右惣七ニ違背為致申間敷候、尤御訴訟被成候一件之儀ニ付、何事ニ不寄、諸親類村役人迄貴殿方江意根ケ間敷儀、一向為申間敷候、若左様成ル儀茂有之候ハ、此証文ヲ以我等共方江何様ニも御懸リ可被成候、少も違背申間敷候、為後日內濟殘金借用為取替証文仍而如件

明和五年子十一月 荷口村惣七組合

五郎兵衛 ㊦

同村年寄 勤兵衛 ㊦

同村名主 伝九郎 ㊦

弥兵衛殿

乍恐以書付御訴訟奉申上候御事

宮村孫左衛門様御代官所荷口村惣七江、京都ニ而紅花宿理右衛門喜右衛門両家方相渡候紅花壳代金、帰国後再三催促仕候得共、相渡不申候ニ付、無拠去亥八月中御訴訟

奉申上候処、則長瀬御役所様江右之趣、被為仰出候ニ付、御吟味之上、道中ニ而被奪取候由、惣七障申之不分明故、村預ニ被仰付被差置候段、併御私領懸合之出入多月御取扱難被成旨、被仰聞奉承知候、乍去惣七方何レ共返答茂不承、出府仕候得而茂、右之趣御尋茂御座候ハ、早速可及当惑候、且右壳代金全被奪取候而も、私方江無滞可相渡趣意ハ、京都宿理右衛門方、三度飛脚便ニ可相渡金子八拾五兩差留、自分商仕損失之上ハ、道中ニ而者勿論御同様之義御座候共、相弁可相濟処、自分商紅花壳下損金多、猶又国元仕入損失可相弁無手段、於道中ニ被奪取候杯与、無跡形も謀計を以、多分之損金を保たもひ京都方持參之金子掠置不相渡段、醜鋪巧之程、以御賢惠被為聞召分、被下置度奉存候、則惣七京都方去亥五月十五日出し書状、並宿理右衛門方惣七切目録写書、去亥三月六日出之書状共ニ差上候間、御熟読被下候得者、全惣七理右衛門方私方江可相渡金子自由仕、自分商ニ而損失仕候義相分り候哉ニ奉存候、固是以謀計身上可操巧ニ而、不相渡金子全無相違相渡候様、乍恐幾重ニ茂奉願候、尤御手を

被離候処、御訴訟奉申上候御儀、恐多奉存候得共、取掠取置候惣七、何レ共返答茂不仕候故、出府之御添翰奉願上候も、如何敷奉存候間、今一応御文通被成下度奉願候、勿論此上惣七不得心ニテ相濟不申候者、何レ共返答承度、又々願書指上申候、右惣七可請取金子、都合百四兩未熟ニ相成候得而者、御領分持高諸上納ハ勿論、御公料所々越石諸納共ニ甚難儀仕候間、右ノ金子請取御公料御領分御田地、相統仕度奉存候、御慈悲以御賢恵、右之趣被為聞召分被下置候様ニ、長滯御役所様江被為仰遣被下度奉願上候、以上

子二月

田井村願人 弥兵衛

上山

御役所様

一八 書簡(受取証文返却に付)

一、昨日は緩々得貴意、殊ニ御馳走被成下、忝仕合ニ存候、然し当春中六沢伊七殿一義之節、段々御扱被成下候砌、御注文金五兩受取申候、其節貴家内様江右金証文差上置候様ニ御座候、此度壳代金ニ而差引仕候間、左様ニ思召可申候、依之右証文之義、谷地半助殿まで御返可被下候、差引之義ハ何分伊七殿ニ御尋被下度、偏ニ御願上候、尤其節御嘶可申上筈ニ御座候所、失念仕候、自非^{（可）}迎伊七殿御聞合被遊候而、証文御返シ可被下候、且又先日被仰聞候義ハ、其節申上候通、弥七殿方承候而、早速書状差上可申候間、左様ニ思召可被下候、取込早々申上候、以上

十二月十七日

自谷地

大沼喜兵衛

田井

今田弥兵衛様

用事

候得共、大沼氏相願候事ゆへ、如斯ニ御座候、尚其門
ニも御礼旁可申上候、恐惶謹言

十二月廿一日

田井

今田弥兵衛様

吉田屋五兵衛

貴下

一九 書簡(受取証文返却に付)

以手紙申上候、先以寒氣甚敷御座候得共、弥御家内様御
揃御勇勝ニ可被遊、珍重之御義ニ奉存候、当方無事ニ罷
有申候

一、酒田大沼氏と喜兵衛参り候而、春中伊七方へ相渡候

五両之証文、右金子分荷物差登せ申候間、右之証文請

取申度段、申事ニ御座候、御世話ニは有之候得共、貴

公様御所持にて有之候ハ、則共ものへ御渡、御返し

被下様ニ願上候、右伊七方ニ有之候ハ、乍御面倒御

添翰被成下、共もの分廻相渡す様ニ、御取計ヒ願上候、

最早月廻ニ相成候間、何程か御取込ニ御座可被遊奉察

候、御鬮敷所へケ様成ル儀申上候も、至て延引ニ御座

二〇 (惣七紅花代金横取に付) 濟口証文

差上申濟口証文之事

一、羽州村山郡田井村名主弥兵衛煩ニ付、代勝平奉申上
候、同国同郡荷口村百姓惣七儀、同郡天童田町善太郎
方と、紅花売支配ニ付、京都江籠越候ニ付、私方紅花
之儀も同様ニ差遣具候様相願候ニ付、則紅花七駄片馬
差遣候処、右代金百九両老分銀拾匁四分五厘、渡方相

滞候ニ付、濟方被仰付被下置度段当八月中、土岐美濃守様江奉出訴、当十月十三日御差日御尊判頂戴相附、則双方罷出、一通御吟味之上、相手惣七儀入牢被仰付、其後双方被召出、御吟味被成下候処、相手惣七御答奉申上候儀不埒之段、依之此上御牢内ニおゐて、敵數御吟味可被仰付旨被仰渡候処、江戸両宿共取扱、内濟為致度御吟味御日延奉願上、則取扱御始末、乍恐左ニ奉申上様

一、訴訟人勝平申立候紅花代金、百九兩壹分銀拾匁四分五厘、相手惣七方急度皆濟可致候処、惣七儀甚不身上もの故、調達仕兼候ニ付、右惣七俸小四郎増平、右兩人当十一月より来ル丑ノ十二月迄、勝平方江質物奉公ニ差出、金拾兩借用致外ニ、金三兩者右惣七家財諸道具引当として、付徒ニ罷出候五郎兵衛勤兵衛方差出し、都合金拾三兩此度勝平方江相渡、殘金九拾六兩壹分銀十匁四分五厘者、惣七儀身上取続、相応ニ渡世致罷在候ハ、追々ニ相濟可申答、双方無申分熟読内濟仕、偏ニ御威光と難有仕合奉存候、然ル上ハ、右一件

二付已来、双方方決而御願ケ間舖儀、申上間敷候、為後証双方並江戸両宿加判仕、濟口証文差上申処、仍而如件

松平山城守領分

羽州村山郡田井村

名主弥兵衛煩ニ付代

明和五子年十一月

訴訟人 勝平

宮村孫左衛門御代官所

同国同郡荷口村

相手 百姓 惣七

付徒人 与頭 五郎兵衛

名主 伝九郎代

同 年寄 勤兵衛

麻布南日ヶ久保町

江戸宿伊勢屋

扱人 五兵衛

代新五郎

馬喰町壹町目

御奉行所様

同 津嶋屋

同 清八

〆 紅印紅花 四丸

〆 巻左 十六入

現金三拾両かへ

〆 金六拾八両壹分ト

拾式匁

御売付代金かへ

二 紅花代金差引覚

右之内へ

丑五月六日

一、六匁五分四厘

端銀歩二而下入不足

一、五匁六分七厘

〆 紅印巻左

手板表不足大津川口へ払

十一月六日
一、金三拾八両壹分ト拾式匁

一、丁百拾八文

〆 大印 五丸

〆 大印紅花 五丸

代巻匁七分七厘

手板表不足敦賀

十六入三

清水二兵衛殿江払

拾七入式

一、丁四百九拾五文

〆 大印 五丸

〆 巻百拾八袋

代七匁二分七厘

手板表不足塩津

現金三拾両かへ

中村佐右衛門殿へ足払

一、金三拾両

一、七匁式分

〆 大印 五丸

手板表不足大津川口弥藏殿へ払

一、六匁八分

歩判切ちん

一、廿匁七分

山形迄下しちん

一、三百文

山形方谷地迄まし

代四匁三分五り足

メ 六拾匁弍式分

取かへ銀引

引残而

金六拾七匁弍分卜

拾四匁八分

右之所へ六拾七匁弍歩下ス

匁弍式分不足御取かへかし

右之通御売付代金不残相渡し、此表無出入相濟申候、算

用違等御座候ハ、重而御互ニ差引可申候、以上

明和六年

近江屋九郎兵衛[㊤]

丑ノ十一月六日

今田弥兵衛様

三三 (紅花仕入代金年賦) 一札

一 札

一、金五拾兩也

右者去ル亥ノ夏、紅花仕入金ニ而差下申処、荷口村宗七

殿一件ニ付、是迄御延引ニ相成居申候、此度真木新助殿

真木藤左衛門殿御取持を以、右金子年賦ニ致相濟申候、

尤請取方当寅秋方来之亥ノ秋迄、毎年金五兩宛十ヶ年賦

ニ致相濟申候処、実正明白也、然ル上者是迄如何様之証

文書付有之候共、御互ニ得心之上、此一札之通、十ヶ年

賦ニ相濟申上者申分無之候、為後日之年賦一札仍而如件

明和七寅年七月

京都 若山屋喜右衛門[㊤]

証人 真木藤左衛門[㊤]

最上田井村

今田弥兵衛殿

年賦金請取之覚

一、金五兩也

右者当寅年分年賦金、髓ニ請取申候、以上

明和七寅年七月

若山屋喜右衛門^印

今田弥兵衛殿

(包紙)

「一札入」

一、金三步

毛氈三枚代

一、拾九匁

唐紙一本代

一、壹匁七分

右挟板代

一、壹匁三分

竹沓本

一、三匁

あぶら紙三枚

一、壹匁

繩薙 荷物造代

五月廿日

大津たちん

一、七拾文

後六月卅日
一、六メ文

毛せん唐紙入二箇
長谷川利左衛門殿払

二三 紅花代金御取替目録覚

御取替目録覚

七月十四日

一、沓厘沓毛

氈毛紙下 たちん川口払

十一月七日

一、式厘沓毛

毛せん唐紙下し清水払

四月十四日

一、分判金拾五兩

白川寺様取かへ

一、同金 五兩

右同人様同

此り金沓兩三步と

拾匁

同日

一、六匁八分

歩判金切ちん

同日

一、卅匁四分

太ちんましとも

十四日

一、八分四厘

毛せん唐紙下し中村払

十二月廿日

一、三匁貳分五厘

大津たちん

メ

金百貳兩貳歩

銀八十匁匁四分

錢百四十貳文

此代貳匁

メ銀八拾三匁四分

此金壹匁壹分

合金百三兩三歩

右之内へ

五月一日

一金貳兩

難船割

貳文半

うけとり

此り拾壹匁八分八厘

九ヶ月メノリ

メ

差引のこり

金百壹兩貳歩

銀四匁六分

右之通り御取替候分指引仕、殘金紅花代仕切にて受取相

濟申候、以上

いせ屋源介^印

明和八年

辛卯正月六日

今田彌兵衛殿

二四 紅花仕切

仕切

一、金七拾七兩

御手取現金金卅八兩貳歩かへ

へや大印紅花貳駄

右同金四拾壹兩かへ

一、金三拾八兩三歩
へや大印同片馬廿壹袋

五分
但四百七拾目宛有之

代金四拾兩壹歩と七匁貳分

内壹兩貳歩六匁七分引

但壹袋二付貳拾目宛目不足

有之引のこり如此也

右同金拾三兩かへ

一、金壹兩壹分
へや印芸花七袋

十匁匁三分

右同金廿兩かへ

一、金三歩
へや大印同 貳袋

十貳匁三分

一、金百拾七兩三歩と

銀貳四匁壹分四厘

右之内へ

一、金百壹匁貳歩

四匁六分

一、六匁五分

一、壹匁壹分
此度歩判切ちん

四厘

一、金百壹兩貳歩

銀丁貳匁貳分四厘

差引のこり

歩判金拾六兩壹歩と

⑩ 銀拾壹匁九分

丁錢八百拾六文

右之通売附代金差引仕、殘金此度差下、此表無出入相濟
申候、万一抜袋算用違等候ハ、重而指引可仕、為後日

依而如件

伊勢屋源介⑩

一、明和八年辛卯正月六日

今田弥兵衛殿

諸取替もの委細ハ

目録ニてあり

此度金子下りたちん

二五 覺(紅花仕切)

覺

一、金三拾四兩と拾五匁三分

拾六袋入

へや大印紅花 四丸

同 印 九袋

へ 考駄九袋也

現金三拾兩かへ

一、金三兩と四匁三分七厘

へや大印紅花 七袋

へ 現金貳拾八兩かへ

㊦

へ 金三拾七兩と拾九匁六分七厘

右之通相對を以買請代金不殘相渡シ、此表無出入相濟申候、若算用違或者荷物拔袋等御座候者、御互ニ重而指引

可申候、以上

明和九年辰十月六日

今田弥兵衛殿

近江屋

九郎兵衛㊦

二六 紅花仕切

仕切

一、金六拾七兩と

銀貳匁

一、金三拾五兩

一、金貳拾貳兩貳歩

御手取現金三拾三兩かへ

へや大印紅花貳駄と貳袋

同金貳拾八兩かへ

同大印同考駄拾六袋

同金三拾兩かへ

同大印同片馬拾六袋

同金拾貳兩かへ

一、金貳兩壹歩 同大印ちり花拾三袋

十式匁

同金貳拾壹兩かへ

一、金壹兩三歩 同大印紅花六袋

十式匁

〆 金百貳拾八兩貳歩

銀貳拾六匁

二七 覚 (紅花仕切)

覚

一、金百四兩貳歩

銀拾壹匁貳分

拾七袋入

〆 大印紅花 六丸

拾六袋入

同印 貳丸

〆 貳駄六袋

金五拾兩かへ

右之通壳附代金、別紙目錄表江入、此表無出入相濟申候、
万一抜袋又ハ算用違等候ハ、重而指引可仕候、為後日
仍而如件

伊勢屋源助印

安永二年巳正月七日

今田弥兵衛殿

一、金貳拾貳兩壹歩

銀三匁七分

拾七袋入

〆 大印紅花 貳丸

〆 片片馬貳

金四拾貳兩かへ

金百貳拾六兩三歩

銀拾四匁九分

右之通相對を以買請、代金不殘相渡シ、此表無出入相濟申候、若算用違或者荷物拔袋等御座候ハ、御互重而差引可申候、以上

近江屋

安永五年申十一月廿七日

九郎兵衛印

今田弥兵衛殿

取申候所実正明白ニ御座候、尤返濟之儀者右紅花荷苞

駄、代金仕切表ニ而返金可致候、且又右証文象瀉蚶滿

寺内煎堂長老、參内入用金ニ相成候ニ付、若又京都ニ

而、右煎堂長老金子不足候ハ、右荷物代金之内ニ而、

為替金外ニ取替筈ニ候様ニ、近江屋九郎兵衛方へ、添

状御頼申、為替金証文添状共請取申処、相違無御座候、

為後日仍如件

田井村証文請取主

安永八年亥七月五日

久七印

同加判人

藤吉印

田井村

弥内殿

二八 覚 (紅花代金請取)

覚

一、此度最上干紅花荷物苞駄、貴殿方江相渡し、京都近

江屋九郎兵衛方へ、可請取金三拾兩之為替金証文、請

二九 へや諸色御買物目録 (横帳)

(表紙)

「 安永九年子五月 大沼忠兵衛[㊦]

へや 諸色御買物目録

今田弥兵衛殿

此金壹兩廿三匁九分壹厘

一、塩罽六匁

數貳百八拾五本 四拾八匁かへ

代錢拾三貫六百八十文

外二

一、廿貫四文 田井迄諸懸物

都合錢拾七貫六百八十四文

此金貳兩七拾貳匁六厘

一、石灰 壹匁 拾貳分入 三十三文かへ

代錢三百九拾六文

外二

一、四百廿五文 田井迄諸懸物

都合殘八百廿壹文

此永拾貳匁六分三厘

一、村山茶五本

正三百五拾斤 三兩貳分半切かへ

代金貳兩拾壹匁四分五厘

外二

」

へや 諸色御買物目録

今田弥兵衛殿

」

へや 諸色御買物目録

今田弥兵衛殿

へや御買目録

一、七嶋三箇 數百三拾枚

たはこ取かへ 壹×百文かへ

代錢拾四貫三百文

外二

一、貳貫六百三十貳文 田井迄諸懸物

都合錢拾六貫九百三拾貳文

此金貳兩六拾匁四分九厘

一、切荒目貳箇ト小荷壹丸

正五拾三貫五厘 拾貳文かへ

代錢六貫四百廿文

外二

一、壹×六百三十四文 田井迄諸懸物

都合殘八貫五拾四文

一、五拾匁六分三厘 田井迄諸懸物

都合貳兩六拾貳匁八厘

一、大白砂糖三瓶 七斤入 拾六斤かへ

代金壹兩三拾壹匁貳分五厘

外二

一、八匁四分七厘 田井迄諸懸物

都合金壹兩三拾九匁七分貳厘

一、嶋木綿拾反

代七拾七匁五分

此金壹兩壹匁四匁七分七厘

一、足袋五拾五足 貳百五文替

此錢拾壹貫貳百七拾五文

此金壹兩七拾三匁四分六厘

〆金三兩貳匁六分三厘

外二

一、四匁五分四厘 買口錢

〆金三兩七匁七分七厘

一、近江表貳固 六拾枚入 丁貳拾三匁替

代銀貳百七拾六匁

外二

一、包 貳枚半直段

代銀貳匁三分

〆貳百七拾八匁三分

此金四兩六拾三匁八分三厘

外二

一、四拾四匁九分八厘 田井迄諸懸物

都合金五兩五匁八分壹厘

一、切こんふ半固

正九匁五拾匁 拾八文替

代壹匁六百廿九文

外二

一、三百四拾七文 田井迄諸懸物

都合錢壹貫九百七拾六文

此永三拾匁八分七厘

惣〆金拾九兩拾四匁七分四厘

右之通御買物代金、差引表二而相渡申候、以上

安永九年

子五月十一日

大沼忠兵衛[㊦]

今田弥兵衛殿

大石田儀兵衛

十二月十六日

一、小豆七拾表

同所 林兵衛

三月十四日

一、小豆五拾貳表

同所 儀八船

惣ノ三百九拾八表

此 払

一、小豆百表 三斗八升二合

升二三拾八石貳斗

兩壹石八斗三升也

代金貳拾兩三歩

拾貳匁四分三厘

一、同七拾壹表 三斗八升廻り

升貳拾六石九斗八升

右同直段

代金拾四兩貳歩

三〇 へや諸色売目録 (横帳)

(表紙)

「天明元年閏五月 本間与治右衛門

㊦

へや 諸色 売 目 録

今田弥兵衛殿

売 目 録

十一月廿四日

一、大豆百三拾七表

一、小豆百三拾九表

廿四匁三分貳厘

一、同三拾表 同し廻り

升拾壹石四斗

壹石八斗貳升かへ

代金六兩壹歩

壹匁三分七厘

一、同四拾表 同し廻り

升拾五石貳斗

右同直

代金八兩

三拾五匁壹分六厘

一、はね貳拾表 三斗七升八合

内壹斗五升 単切足へり

正升七石四斗壹升

壹石八斗七升かへ

代金三兩三歩

廿壹匁貳分六厘

一、大豆百貳拾表 四拾九表半かへ

代金貳拾四兩

廿四匁貳分四厘

一、大豆はね拾七表 五拾表かへ

単切在之、高方三歩引

正拾六表七分

代金三兩壹歩九匁

〆三百九拾八表払

代〆金八拾壹兩三歩

貳匁七分八厘

内

一、金壹兩貳歩

増口銭

三匁三分三厘

一八七五

一、同壹兩貳歩

売口銭、くらしき

拾三匁五分五厘

一、六匁八分九厘

大豆之とり次

一、金貳歩

水すくら入

拾貳匁九厘

〆直ちん共

小以金三兩三歩

拾匁八分六厘

殘金七拾七兩三步

拾六匁九分貳厘

多葉粉請払

三月十三日

横山久兵衛船

一、百匁

船頭義兵衛

同十四日

同 義八

一、百四拾三匁

内式拾六匁

相払

残而三百五匁

蔵入預

一、へや山 貳拾匁

正味千五百七拾七斤半

百四拾五斤替

代金拾兩三步

拾貳匁九分三厘

一、同 山巴東 六匁

正味四百廿五斤六貳五

百七拾四斤かへ

代金貳兩

四拾四匁六分壹厘

一、貳拾六匁

代金拾三兩

三拾貳匁五分四厘

内

一、廿四匁九分八厘

増口錢

一、三拾九匁九分七厘

売口錢のまし

一、貳拾六匁

蔵敷

一、四匁四分四厘

水上くら入作直ちん共

小以金三步

貳拾匁三分九厘

殘金拾貳兩壹步

拾貳匁壹分五厘

一、大奉式百貳帖

ノ此 弘

一、百五拾状 三拾卷状半かへ

代金卷兩

拾九匁五厘

一、五拾貳帖 三拾卷状かへ

代金卷歩

拾六匁九分三厘

ノ貳百貳帖

代ノ金卷兩

六拾匁九分八厘

内

一、四匁八分貳厘 売口銭斗

殘金卷兩貳歩

六匁壹分六厘

惣ノ

金九拾卷兩三步

拾匁貳分三厘

右之通指引表ニ而相渡相濟、出入無御座候、以上

本間与次右衛門 ㊦

丑閏五月十七日

今田弥兵衛殿

運賃取替覚

十二月十六日

一、金卷兩卷歩

廿四匁五分四厘

船頭林兵衛 兩三渡引殘

三月十三日

一、同貳兩貳歩

同久兵衛相渡ス

同十四日

一、同卷兩三步

同義兵衛同断

同日

一、同三兩三步

同義八同断

拾匁九分四厘

此差七百元

ノ金九兩貳歩

廿三匁五厘

右之通、別紙指引二入、請取可申候、以上

本間与次右衛門 印

丑閏五月十七日

今田弥兵衛殿

内へ

十月十六日

一、金六拾五兩式歩ト

銀七匁五分

大二拾八入四ツ
上印拾七入四ツ

八丸

式太拾式袋 金三拾兩替

差引残而

金百六拾五兩ト

七匁五分

一、三歩ト四匁五分

十半月ノリ足

金百六拾五兩三歩ト

拾式匁

三二 へや印紅花差引覚

九月晦日

一、金百五拾兩

本間与次右衛門殿

為替金丸屋半介殿へ渡し

一、金三歩

金百五拾兩十半月り足

十月十六日

一、金八拾兩

十一屋飛脚ヲ以取替下し

へ

金式百三拾兩三歩

同

一、金三拾三兩三歩ト

九匁三分七厘

へや大和十七入式つ
久印十八入式つ

四丸

十一月朔日

一、金拾六兩三歩ト

七匁五分

へや大ニ 拾八入式丸
上印

片馬四袋

金三拾壹兩替

内へ

〆 老太六袋 金三拾老兩替

〆 金百拾七兩貳步

同
一、金三拾五兩ト

〆 大天印拾七入四丸

拾貳匁三分八厘

三匁七分五厘

〆 老太四袋

一、金三兩貳步ト

六、七、八〆 三ヶ月り足

金三拾三兩替

壹匁五分

〆 金八拾五兩貳步ト

〆 金百貳拾老兩ト

拾三匁八分八厘

貳拾目六分八厘

差引残而

九月朔日

一、金三拾兩

高福寺様為替金渡ス

金八拾兩ト

皆式朱

六匁三分八厘

同

一、金五兩

御同人様へかし

十一月五日
一、金拾五兩

巳之介様へ取替し

〆 百五拾六兩ト

〆 金九拾五兩ト

拾三匁八分八厘

六匁三分八厘

一、金三步ト

九半月り足

一、金七兩貳步ト

十一、十二、正、正、二、三、四、五、

六匁

〆 八ヶ月り

惣合

金百五拾六兩三歩ト

五月廿四日
一、金拾五兩

高福寺様為替金渡ス

半ざし

拾五匁六分八厘

内へ

拾四匁三分八厘

九月廿日

一、金四拾貳匁三步

へや大印 拾八入四丸

へや谷 拾八入四丸

へや太八袋

一、金百拾七匁貳歩ト

三匁七分五厘

へや天上 拾八入三つ五丸

へや天 拾七入貳つ

へや大吉 拾八入 四丸

へや天 拾八入 四丸

同印 拾壹袋

へや太片馬拾壹袋

一、金貳匁ト

拾壹匁貳分五厘

へや大吉 七袋

へやチリ 七袋

へや金百六拾貳匁壹歩ト

拾五匁

差引残而

金五兩壹歩ト

内

一、五匁壹分

へや大印 七丸手板不足

丸屋半介殿へ払

一、拾匁貳分貳厘

同印七丸塩津掛り物

中村佐右衛門殿へ払

一、拾壹匁九分

同印七丸大津太質

川口弥藏殿へ

一、三分六厘

へや大印 貳丸、へや大和 二丸、へや大店 印貳丸、へや久 大和 二丸、へや大

丸手板不足二而中村佐右衛門殿へ

一、拾匁貳分

同印六丸、大津太質

川口弥藏殿へ

一、壹匁九分壹厘

へや大印 五丸、へや大店 印貳丸

へや上 印五丸、へや大店 印貳丸

一、拾匁貳分貳厘

へや七丸手板不足丸屋半介殿へ

同印七丸塩津掛り物

一、拾壹匁九分

中村佐右衛門殿へ

同印七丸大津太質

川口弥藏殿へ

一、四匁八分八厘

へや大印四丸、へ三板不足
谷 中村佐右衛門殿へ

此金貳兩壹歩ト

貳匁五厘也

一、六匁八分

同印四丸、大津太質

惣差引残而

金三兩ト

一、三匁壹分

川口弥蔵殿へ
へや大上
天 印五丸、へ三板不足

拾貳匁貳分七厘

又 三匁五分八厘

卯正月十四日

一、八匁五分

中村佐右衛門殿へ
同印五丸、大津太質

差引預り

川口弥蔵殿へ

へ銀拾五匁八分五厘

一、三匁七分六厘

へや大天
印五丸、へ三板不足

へ金三兩壹歩ト

八分五厘

一、八匁五分

中村佐右衛門殿へ
同印五丸、大津太質

右之通差引過上金預り置、重而差引可仕候、已上

川口弥蔵殿へ

天明四年甲辰

卯九月廿日

九月廿日

近江屋

一、拾六匁五分

金百五拾兩半ざし貳朱質

一、拾貳匁

金八拾兩土屋下し

今田弥兵衛殿

九郎兵衛

印

一、拾壹匁貳分

金八拾兩下し質

へ百三拾七匁五厘也

三三 巳紅花仕入覚帳 (横帳)

(表紙)

天明五年

田井村

巳紅花仕入覚帳

六月吉日

今田弥兵衛

┌

覚

六月拾日

一、五拾文

嘉吉

一、百八拾文

源次

一、六拾文

源六

壹×五拾匁

一、五百貳拾五文

手花

×八百拾五文

水花貳×三百匁

此千三分

六月十一日 四十五文かへ

壹×五十匁

五×五百匁

壹×八百匁

手花

代三×七百五十七文

壹×九百七拾文

一、八百八拾七文

源次郎

貳×匁

一、九百文

善藏

貳×六百拾匁

一、壹×貳百貳十文

孫七

九百八拾匁

一、四百四拾三文

多郎三

貳×六百匁

一、壹×四七十文

庄蔵

一、四百三十文

小作

一、貳百四十文

三八

一、三百四十五文

伝吉

一、四十八文

同人

五百六拾匁

可成下候、尤運賃大石田を金三分丁銭老賃文相添、差遣申候間、夫々御引取早々先々江御送可成下候、為念紅花荷物送手形仍如件

一、貳百五拾三文

市右衛門

羽州最上田井村

一、九百文

与右衛門

巳六月廿八日

今田 弥兵衛

△拾貫五百九拾三文

最上大石田

外二

一、七拾四文

太郎三

庄内酒田

六沢屋金十郎殿

一、五拾文

庄之助

本間与次右衛門殿

一、九拾文

要かへ

越前敦賀

一、ちり六拾匁

弥作

丸屋半助殿

一、同百六拾匁

久七

近州塩津

中村佐右衛門殿

最上紅花送手板

同州大津

大
へや二 天 老駄老丸 封印

川口弥藏殿

但駄二四固附

京都

五百匁入拾八袋造

いせや源助殿

右者紅花荷物送遣申候条、所々二而濡摺等御改、御受取

御蔵入

最上紅花送手板

大
や二 駄
天印 沓駄沓丸 封印

但 駄二四固附
五百匁袋入十七袋造

右者最上紅花荷物送遣申候条、所々ニ而濡攪等御改、御
受取可被下候、尤大石田方運賃金三步丁銭沓貫相添、差
遣申候間、夫々御引取早々先々江御送可成下候、為念送
手板仍如件

羽州最上田井村

巳六月廿八日 今田 弥兵衛

最上大石田

六沢屋金十郎殿

庄内酒田

本間与次右衛門殿

越前敦賀

丸や半助殿

近州塩津

中村佐右衛門殿

近州大津

川口弥藏殿

京都

若山屋勘右衛門殿

御藏入

最上紅花送手板

大
や天 店印 沓駄

駄四固附

但 十七袋入

五百匁入 封印

右者最上干紅花京都江為登申候間、所々ニ而濡攪等御改、
御請取可成下候、尤大石田方金三步運賃金相添、差遣申
候間、夫々御引取、先々江早々御送可成下候、送手板如
件

羽州最上谷地田井村

巳七月四日 荷主 今田弥兵衛

羽州最上

六沢屋金十郎殿

庄内酒田

本間与次右衛門殿

越前敦賀

丸屋半助殿

近州塩津

中村佐右衛門殿

同州大津

川口弥藏殿

京都

伊勢屋源助殿

御蔵入

最上干紅花送手板

大
へや和 印 壹駄

但駄四固附

五百匆入拾八造

封印

内大店ちり五袋造込

右者最上干紅花荷物送、為差登申候条、所々二而濡摺等

御改、御受取可被下候、尤運賃金大石田と金三步相添差

遣申候間、夫々御引取、先々江早々御送可被成下候、依

紅花荷物送手板如件

羽州最上谷地田井村

巳七月四日

荷主 今田弥兵衛

羽州大石田

六沢屋金十郎殿

庄内酒田

本間与次右衛門殿

越前敦賀

丸屋半助殿

近州塩津

中村佐右衛門殿

同州大津

川口弥藏殿

京都

伊勢屋源助殿

御蔵入

最上紅花送手板

へや 店 印 壹駄

但 駄二四固附

五百匁入袋十八袋造

内大二天ちり五袋造込封印

右者最上干紅花荷物、送為差登申候条、所々ニ而濡摺等御改、御受取可被成下候、尤大石田より運賃金三步相添、遣申候間、夫々御引取、先々江早々御送可被成下候、送手板仍如件

羽州最上谷地田井村荷主

巳七月四日

今田弥兵衛

最上大石田

六沢屋金十郎殿

庄内酒田

本間与次右衛門殿

越前敦賀

丸屋半助殿

近州塩津

中村佐右衛門殿

同州大津

川口弥蔵殿

京都

若山勘右衛門殿

御蔵入

最上紅花送手板

へや 大 上 二 印 壹駄

但 駄二四固附
五百匁入袋十八造

右者最上紅花荷物送遣申候条、濡摺等御改、御請可被成下候、尤運賃金大石田より三步相添、差遣申候間、夫々御引取、先々江早々御送可被成下候、仍送手板如件

羽州最上田井村荷主

今田弥兵衛

巳七月十日

最上大石田

六沢屋金十郎殿

庄内酒田

本間与次右衛門殿

越前敦賀

丸屋半助殿

近州塩津

中村佐右衛門殿

同州大津

川口弥蔵殿

京都

若山勘右衛門殿

御蔵入

最上紅花送手板

大
二
上
印
壹丸

但 駄二四固附
五百匁入十八袋造

同
リ
チ
印
壹丸

但 駄二四固附
五百匁入袋十六造

同
吉
大
印
壹丸

但 駄二四固附
五百匁袋十九造

内
大
二
上
五袋

同
リ
干
三袋

同
谷
大
七袋

同
天
吉
大
四袋

三固

右者最上干紅花為差登申候条、濡攪等御改、御請取可被
成下候、尤運賃大石田方金式分丁錢五百文、相添遣申候

間、夫々御引取、先々江御送可被成下候、仍送手板如件

最上紅花送手板

羽州最上田井村荷主

大印 貳丸

巳七月十二日

今田弥兵衛

羽州大石田

但 駄二四固附
五百匁入十九袋造

六沢屋金十郎殿

大印 壹丸
同吉印 天

庄内酒田

右同断

本間与次右衛門殿

三丸 封印

敦賀

丸屋半助殿

近州塩津

中村佐右衛門殿

同州大津

件

川口弥蔵殿

羽州最上谷地田井村

京都

若山屋勘右衛門殿

羽州大石田

巳七月十二日

今田弥兵衛

御蔵入

六沢屋金十郎殿

庄内酒田

本間与治右衛門殿

越前敦賀

丸屋半助殿

近州塩津

中村佐右衛門殿

同州大津

川口弥蔵殿

京都

伊勢屋源助殿

御蔵入

〔(裏表紙) 任意集 〕

三三 大 へや諸色売目録 (横帳)

〔(表紙) 天明八戊申十二月

本間与次右衛門

印

大 へや諸色売目録

今田弥兵衛殿

大 へや売目録

未十二月仕切残り

一、へや宝 たはこ八固

同十月廿一日

一、大豆百四俵

一、小豆百五拾九俵

一、小麦貳表

御手船仁兵衛

十二月五日

一、へや大上 拾五固

一、同大上 四固

一、同天 壹固

同断 喜兵衛

二月十九日

一、丸黒拾八表

一、小豆 貳表

一、大豆 貳表

一、へや大 五固

一、同大 四固

一、同大上吉 老固

一、同三 老固

右 同人船

二月廿三日

一、大豆百八俵

一、小豆百三拾八表

一、平黒豆四俵

横山久太郎船

同廿九日

一、小麦 壹表

一、大豆 壹表

一、平黒豆五表

一、又はき芋貳丸

一、へや大 拾四固

御手船山三郎船

四月廿五日

一、小豆七拾七表

一、大豆 廿八表

一、青豆 七表

横山圃之分

同喜兵衛
同人積状

五月十六日

一、小豆百九俵

一、大豆 拾表

一、青豆 三表

圃之分

右同人船
仁兵衛殿積状

六月五日

一、へや上 貳固

一、一や上 壹固

一、同大 廿九固

一、同大 五固

一、同山 七固

一、同上 貳固

一、同 四固

五拾固

一、又はき芋式丸

一、小豆七拾式俵 但送り状あり

八表不足

御手船久助

六月廿五日

一、小豆 六俵

一、大豆 壹俵

横山久太郎舟

大原村長四郎殿出し

八月廿六日

一、柏倉米式百六拾三俵

御手船久助舟

御直出し

大豆式百五拾四俵

小豆五百六拾三俵

丸黒 拾八俵

平黒 九表

青豆 拾俵

小麦 三表

柏倉米式百六拾三表

又はき芋 四丸

たはこ 百三固

但仕切残りとも

此 払

一、大上山々 取合拾五固 百廿五斤也

正味千式百三拾六斤式五

代金九兩八拾九匁

一、大^ス吉^ノ上^三 壹固 七拾五斤也

正^ミ 六拾八斤七五

代金九拾壹匁六分七厘

一、上山七 七固 百廿式斤也

正^ミ 五百廿六斤八七五

代金四兩三拾壹匁八分六厘

一、大テ 拾四匁 百四拾貳斤也

正ミ 千五拾壹斤貳五

代金七兩四拾匁三分貳厘

一、大 貳拾九匁 平均百拾斤也

正ミ 貳千貳百五拾八斤貳五

代金拾七兩三拾七匁貳分貳厘

一、一やクサ 壹匁 百五斤也

正味 七拾壹斤貳五

代金六拾七匁八分六厘

一、^{上二}三印 三匁 百廿斤也

正味 貳百拾九斤三七五

代金壹兩八拾貳匁八分壹厘

一、古 貳匁 ならし百五斤也

正味 百五拾斤六貳五

代金壹兩四拾三匁四分五厘

× 七拾貳匁貳

残而三拾壹匁 藏入預

未ノ年六匁も

代金四拾三兩八拾四兩九分

内

一、八拾貳匁貳分

御役

一、壹兩三拾壹匁五分貳厘

売口錢三部

一、七拾貳匁

藏しき

一、拾六匁七分

水上くら入口切作直し

但喜兵衛船廿匁水とりちんとも

小以金三兩貳匁四分貳厘

引殘金四拾兩三步

六匁六分七厘

穀物払

一、小豆貳百五拾表

三斗八升貳合

升九拾五石五斗

壹石貳斗五升也

代金七拾六兩四拾匁

一、同百五拾俵

三斗八升廻り

升五拾七石

壹石貳斗七升也

代金四拾四兩八拾八匁壹分九厘

一、同五拾表

三斗七升九合

升拾八石九斗五升

壹石三斗五升也

代金拾四兩三匁七分

一、同七拾九俵

但舟頭松兵衛積取り之分

三斗八升廻り

升三拾石貳升

壹石四斗五升也

はねなし

代金廿兩七拾匁三分四厘

一、同 はね三拾四俵

三斗七升六合

内五斗六升 単切輕表、惣高方込へり

正升拾貳石貳斗貳升四合

壹石四斗七升也

代金八兩三拾壹匁五分六厘

一、大豆貳百拾七俵

三拾壹表半也

代金六拾八兩八拾八匁八分九厘

一、同 はね三拾七表

三拾五表かへ

内半表 輕俵単切込へり

正三拾六俵半

代金拾兩四拾貳匁八分六厘

一、青豆拾俵 三拾三俵かへ

代金三兩三匁三厘

一、小麦三俵 四斗壹升七合

升壹石貳斗五升壹合

九斗五升也

代金壹兩卅壹匁六分八厘

一、丸黒六俵 三斗八升廻り

升式石式斗八升

五拾四文替

代拾壹メ八百五拾六文

此金貳兩四匁四分壹厘

一、柏倉米貳百六拾三俵

三拾三俵かへ

はねなし

代金七拾九兩六拾九匁七分

千九拾九表払

残而平黒 九俵

丸黒拾貳表

廿壹表 蔵入預

代金三百廿九兩貳歩

廿四匁三分六厘

内

一、金六兩拾八匁貳分六厘 御役

一、同六兩五拾九匁四分九厘 売口銭蔵しき

一、四拾匁五分壹厘 舟大豆とり次

一、壹兩九拾匁七分七厘 水上くら入直し

小以金拾五兩九匁三厘

引残金三百拾四兩貳歩

拾五匁三分三厘

一、又はき四丸 四拾文也

正ミ四拾六メ匁

代拾八メ四百文

此金三兩拾七匁貳分四厘

内

一、五匁九分五厘 御役

一、拾匁三分四厘 売口銭蔵敷

一、六分九厘 水上くら入

小以十六匁九分八厘

引残金三兩貳分六厘

三口

金三百五拾八兩

四拾九匁貳分六厘

九拾匁三分三厘

五月十六日

一、同三兩

久助舟

三拾匁匁貳分五厘

六月五日

右之内

一、同二兩

右同人男売古之分

運賃取替覚

廿匁匁貳分四厘

此度相渡ス

一、金五兩

松兵衛舟

一、拾六匁六分壹厘

久太郎

拾六匁四分六厘

未十月廿一日

六月廿五日

一、六拾匁匁三分八厘

庄兵衛船

一、金貳兩壹步

久助ふね

同十二月五日

八月廿六日

一、八拾八匁六分

右同人船

金廿四兩拾八匁八分八厘

引殘金三百三拾四兩壹步

一、金三兩

久太郎船

三匁三分八厘

四拾六匁

二月廿三日

一、同貳步

山三郎舟

右之通壳代金、別紙差引ニ入相渡申候、以上

拾四匁八分六厘

二月廿三日

本間与次右衛門

印

一、同貳兩貳步

喜兵衛舟

天明八年申十二月

拾貳匁壹分

四月廿五日

今田弥兵衛殿

一、同貳兩

右同人舟

同 弥次郎殿

三四 紅花代金差引目錄

紅花代金差引目錄

一、金百六兩と

へや御印

銀式匁六分三厘

仕切表

此所へ

申九月十日

本間与治右エ門殿

一、金百兩

為替相渡

大阪嶋町

大黒屋源兵衛殿

同日

一、銀式匁三分

為替打状賃共

同日

一、銀式拾匁

式朱判打

此り

一、金六兩

申九月と酉二月迄

申十月十日

一、金五兩

義峯和尚様為替渡ス

へ六ヶ月利足

同

一、銀七分五厘

右金子式朱判打歩切賃

此り

一、金壹歩

へ五ヶ月ノ利足

へや天
店四丸

へや大
天一丸

へ五丸
手板不足

田保氏へ拂

一、銀七匁四分七厘

右五丸塩津かかり内

中村佐右エ門殿渡ス

へや玉紅、四丸、吉上

一丸

一、九匁壹分

作り合一丸

へ手板
漆金不足

丸や半助殿へ渡

一、銀八匁九分貳厘

為後日仍而如件

右六丸掛り内
塩津中村氏へ渡ス

一、銀貳拾壹匁

寛政元年
伊勢屋源助 ㊦

御印拾壹丸
川口弥蔵殿へ

酉二月廿六日

登し駄賃渡

ノ金百拾壹兩歩と

今田弥兵衛殿

銀七拾三匁七分三厘

差引残而

金五兩壹歩と

銀七拾壹匁壹分

三五 干紅花仕入覚帳 (横帳)

五六貳

此金壹兩壹歩と

(表紙)
一 寛政元年 天童田町

銀八分五厘

干紅花仕入覚帳

合 金六兩貳歩と

酉壬六月吉日 今田店 一

銀八分五厘

右之通差引仕、残金之儀者御取替ニ附出し置申候而、此表無出入相濟申候、若算用違も候ハ、重而差引可仕候、

壬六月十三日
一、六分
栄助

代金三拾三兩貳分永拾匁

内金拾兩渡

金三拾兩廿五日渡ス

同十四日

一、五拾九匁卜貳拾匁

伴治

代金五拾五兩貳分

永拾壹匁四厘

内

金拾四兩貳分ト六百文 渡ス

金貳拾兩 七月十二日渡

同日

一、五拾兩

嘉六

代四百五十文

店b私

同十五日

一、九拾匁

大工

代九百文

右同断

壬六月十五日
一、正ミ五メ八百匁

清助

代金拾壹兩貳分

内

金七兩

相渡ス

又貳兩

相渡

同日

一、正ミ六百四拾匁

權兵衛

代壹兩壹分

同日

一、正ミ五百貳拾匁

いえ衆

代壹兩

一、正ミ

巳之助かへ

代金七拾九兩壹分ト壹メ貳百文

内

金五拾兩

廿九日渡ス

金拾兩ハ

廿三日渡ス

六拾壹兩貳分かへ

一、三拾六匁

栄助

代金

内 五兩
五兩

相渡
相渡

一、三百拾匁 伴治

代式メ五百文 店の私

メ 四駄

代金

外二

ちり 式メ八百匁 巳之助

代

七月朔日

一、正ミ卷メ百七拾匁

新八

代金式兩卷分 巳之助遣し

七月二日

一、正ミ式拾九メ百匁

文蔵

内十五袋、八袋受取

此代金六拾兩式分

十三兩式分 七月廿九日渡

廿兩 七月廿六日渡

内 拾兩 相渡ス

金式分 栄助渡

五兩八 店の渡ス

式分 七月十六日店の渡し

式分式メ八百四十文 廿三日店の

拾七兩 七月廿四日渡

七月三日

一、正ミ式百五拾匁

庄蔵

代卷分ト卷メ百匁

同日

一、正ミ三百拾匁

乱川 文蔵

代金式分ト四百文

内四百文 渡ス

七月四日

一、三百拾五匁

上 庄六

代金式分ト八百文 巳之助の渡

同日

一、式メ四百七拾匁

上 伝六

外二三拾匁 風代出目

代金五兩式分ト三百八拾文

此袋五袋ト三百廿五匁

七月五日
一、式拾三袋ト百廿匁 小八

代金式拾壹兩

同日 六十兩かへ
一、式拾七袋ト百五拾匁 栄助

代金

内金壹兩三分ト五百文 店と渡

同日 五拾壹兩かへ
一、九袋ト四百六拾匁 同人

代金

七月十六日
一、三百式拾匁

代金式分ト三百五十文

又

此駄数式駄壹袋

栄助指引

一、金三拾三兩式分永拾匁 紅花六分代

駄二六拾壹兩式分かへ

一、金三拾四兩壹分 千五分六厘二五

永廿四匁三分七厘

駄二六拾兩かへ

一、金式拾五兩壹分 千四分式厘壹八七五

永六匁式分五厘

駄二五拾壹兩方かへ

一、金七兩三分 千壹分五厘四五

永拾匁七分壹厘 壹式五

又 百壹兩壹分

永壹匁三分式厘

内

六十六匁 六拾兩かへ

代永拾三匁式分 さし花り

九拾匁 六拾壹兩替

代拾八匁四分五厘 さし花り

金拾兩 壬六月十三日

金三拾兩 六月廿九日渡

金五兩 店と渡

金五兩

右同断

金三兩三分

金壹兩三分卜五百文

右同断

永拾匁分七厘

金三拾兩

七月十八日渡

此錢五百六拾九文

金三兩

店と渡

此金代七月廿二日渡相濟

金貳兩壹分

右同断

巳之助指引

金拾兩

七月廿日渡

一、金七拾九兩壹分卜

九拾七兩壹分

卷メ貳百文

永六匁六分五厘

新八分

錢五百文

一、金貳分卜八百文

庄六分

此永九匁五分

一、金貳兩卜七百貳拾文

干り花代

八拾四兩卜

(貼紙)

一、金四兩

栄助二渡

式メ七百貳拾文

店と渡

内

金拾兩

渡し

金壹兩壹分

同人不相見候

金五拾兩

渡し

右同断

金拾四兩

渡し、七月廿日

夫文五郎

金拾兩

渡し

小以八拾四兩

引残

引残 式メ七百貳拾文

金錢受取覚

壬六月十一日
一、金拾壹兩

ゆゑ受取

一、金五兩

嘉六と預り

此金店と返金

一、金五兩

店と受取

廿九日
一、金四兩

兩度ニ
右同断

廿八日
一、金百兩

ゆゑ受取

同日
一、金九兩貳分

右同断

同日
一、金九兩貳分

右同断

同日
一、金九兩貳分

右同断

同日
一、金九兩貳分

右同断

同日
一、金九兩貳分

右同断

同日
一、金九兩貳分

右同断

同日
一、金九兩貳分

右同断

内巻分ト五百文

二日ニ基十郎ニ渡

ノ百三拾四兩巻分

巻メ六百元

朔日
一、金貳兩巻分

巳之助と預り

三日
一、百四拾壹文

栄助と受取

但駄ちんの内、半駄ちん受取

七月五日
一、金壹兩三分ト

店と受取

八百八拾文

六月廿四日
一、金貳兩

ゆゑ巳之助渡

七月十二日
一、金六拾六兩

ゆゑ持参

七月廿二日
一、金八兩

七月廿二日ゆゑ持参

一、巻メ文

七月廿二日店と受取

一、金壹兩

七月廿四日同断

一、金五兩

七月廿四日夫勝太、巳之助代

内金壹分四百拾文

当分かり

内金壹分四百拾文

当分かり

但店帳ニ控置候

一、金貳拾兩

七月廿五日夫同人

但右同断

源十郎殿方かり

ノ 三拾四兩ト壹メ文

ノ 十三兩三分貳朱

利足

右之払

同拾壹兩三分

金三兩三分ト

七月廿二日

外貳兩貳朱

店ノ渡

五百六拾九文

栄助ニ渡す

三兩三分

巳之助ニ渡

金拾兩

七月廿四日文藏渡

ノ 十五兩貳分

金壹分

同日半右衛門殿遣し

残壹兩有

貳百文

七月廿四日肴代

七月廿六日
六百文

入ニ付巳之助かへ花御役

但梅庵殿鱒八尾ニ而病人見舞

七月十九日

錢百文

七月廿四日さん初尾

壹メ百七拾六文

同 小八ニ渡

貳拾兩

七月廿六日文藏ニ渡

七月廿九日

店ノ入、幸庵分

但夫直々乱川弥兵衛持参仕候

金貳兩壹分貳朱

ノ 三拾四兩ト壹メ文

八月三日

紅兩三度文藏ニ渡

金三兩

同 店ノ入

七月廿九日

金拾六兩貳分

持参

内

十三兩三分ト

外壹分貳朱

ノ 十三兩三分貳朱

同拾壹兩三分

外貳兩貳朱

三兩三分

ノ 十五兩貳分

残壹兩有

七月廿六日
六百文

七月十九日

壹メ百七拾六文

七月廿九日

金貳兩壹分貳朱

八月三日

金三兩

十六兩貳分之内残

金壹兩

持参

〆四兩

八月三日

金百兩

山形為替金受取

八月六日

金三拾四兩

同 ゆゑ持参

金拾兩

八月九日同孫兵衛〆

金貳兩

同十日 同人〆当座かり

〆四拾六兩

内

金貳拾兩

八月七日入ル伴治ニ渡

金貳拾兩

八月十日入ル溝延東あらやニ而
(ママ) 両外見積ニ上

但店へ銀之受取置候

〆四拾兩

残六兩 持参仕候

八月十一日帰ル

三六 (紅花代金差引) 目錄覚

目錄覚

一、金百三拾六兩

太へや紅花仕切〆高

右之内

八月晦日

酒田本間庄五郎殿〆為替ニ

一金百兩

御取組被成、大阪炭屋善五郎

殿相渡し

此り金壹兩

九月一ヶ月利

一銀廿壹匁

貳朱判打

九月朔日

一步金廿兩壹匁貳朱

銀壹匁五分

当地若山屋喜右エ門殿為替

被仰遣、則利足とも相渡し

此り銀拾壹匁貳分一ヶ月利

一銀四匁六分五厘

貳朱打

へや天店四丸御手板不足

一 銀拾三匁七分五厘 壹分壹厘敦賀拂

五匁八分四厘 塩津拂

七匁四分 大津拂

同玉紅四丸御手板不足

一 銀拾五匁六厘

壹匁四分貳厘 敦賀拂

五匁八分四厘 塩津拂

七匁八分 大津拂

同上店極紅四丸御手板不足

壹匁四分 敦賀拂

一 銀拾五匁貳分貳厘 五匁九分貳厘 塩津拂

七匁八分 大津拂

一 金百廿壹兩壹步貳朱

銀八拾匁七分八厘

此金壹兩壹步貳朱

銀五匁貳分六厘

合金百廿貳兩三步

銀五匁壹分六厘

差引殘金拾三兩貳朱

銀壹匁七分一厘

右之通紅花代金差引不殘相渡、此表無出入相濟申候、萬一算用違候ハ、重而御差引可仕候、為後日仍而如件

寛政元年

西十月

伊勢屋

理右衛門

印

今田弥兵衛殿

藤屋 金助殿

三七 紅花仕切

仕切

現金七拾三兩替

一、金六兩三步と

へや飛印 紅花六袋

銀五匁三分

金助殿と請取

此利掛戻し

金貳朱と銀四匁三分

九月と霜月迄

三ヶ月利足掛戻し

九月晦日手取

現金六拾五兩替

一、金四拾三兩貳歩貳朱と

銀貳匁六分

大へや天印 紅花 十七入 二丸九袋 片馬拾壹

右同金六拾三兩替

一、金六拾三兩

大へや上店印 紅花 拾六入 四丸 壹駄

右同金五拾七兩替

一、金九兩三步ト

銀貳匁六分

へや上吉印 紅花 拾壹袋

此三口と金百拾六兩壹歩貳朱

銀五匁三分

此利掛戻し

金貳兩壹歩ト

銀四匁三分

十月と霜月迄

三ヶ月之利足掛戻し

此度

一、金六拾九兩と

銀三匁四分六厘

大へや二印 最上紅花 十七入四丸 壹駄四袋

同

一、金貳兩三步と

銀三匁四分六厘

大へや玉紅印 紅花六袋

同

一、金三兩貳朱也

大へや上吉と出ルチリ紅花 七袋 へや天店と出ルチリ花 壹袋

右同金貳拾五兩替

八袋也

金貳百兩壹歩貳朱と

銀貳拾五匁九分貳厘

此金壹歩貳朱ト銀五匁分壹厘

右之通御相對ヲ以売附仕、代金之儀者別紙目錄表ニ而差

引仕、殘金不殘相渡、此表無出入相濟申候、万一抜袋違

花等又者算用違杯茂有之候ハ、重而差引可仕候、為後

日仕切状依而如件

寛政元年

伊勢屋源助

印

酉霜月廿九日

今田弥兵衛殿
庄司 金助殿

三八 紅花代金差引之覺

紅花代金差引之覺

皆貳朱判

一、金貳百兩壹歩貳朱

御印紅花

銀貳拾五匁九分貳厘

御仕切表ハ高

五五八

此金壹歩貳朱ト

銀五匁分壹厘

合金貳百兩三歩ト

銀五匁分壹厘

此所之内

一、金六百貳歩ト

酉二月廿七日御出立之砌

銀八分五厘

差引殘金御取替

此利金貳歩貳朱ト

三月ハ霜月晦日迄

銀壹匁四分

ハ十ヶ月利足

酉八月晦日

一、皆金百兩

為替大坂炭屋善五郎殿下し

一、銀貳拾匁

右皆金渡貳朱判打

此り

一、金三兩

九月と霜月晦日迄

〆三ヶ月利足

一、銀貳匁三分

大坂為替之打

手形入状下し質

九月十九日

一、歩金貳拾八兩壹歩也

烏孝長老様為替渡

一、銀五匁六分五厘

右金子貳朱判打

此り

一、金貳歩貳朱ト

九月十七日と霜月晦日迄

銀四匁五分壹厘

〆二ヶ月半利足

一、銀五匁八分四厘

〆や二天四丸、塩津掛り物

中村佐右衛門渡

一、銀壹匁五分五厘

同四丸、御手板不足

田保孫右衛門渡

一、銀壹分壹厘

〆や上庭四丸、御手板不足

丸屋半助殿渡し

一、銀五匁八分四厘

〆や上庭四丸、塩津掛り

中村佐右衛門殿渡し

一、銀壹匁五分五厘

〆や天庭四丸、御手板不足

田保孫右衛門殿渡し

一、銀五匁八分八厘

同四丸、かかり物

中村佐右衛門殿へ

一、銀貳拾匁四分

〆や御印紅花、拾貳丸

大津と京迄

川口弥蔵殿へ渡

一、銀拾匁八分五厘

此度掛金、皆金打

〆金百三拾九兩と

銀八拾六匁七分三厘

此金壹兩貳歩ト

銀三匁四分八厘

合金百四拾兩貳歩と

銀三匁四分八厘

差引残而

皆金六拾兩壹歩と

銀壹匁六分三厘

三九 御売仕切事

御売仕切事

九月四日水揚 古酒屋半兵衛舟

一、大印へや 白成 三箇

皆掛メ貳拾八メ五百目

内 貳メ三百目 入目

又 貳メ六百目 壹引

メ 四貫九百目

残正味貳拾三メ六百目

此斤九拾四斤四歩

壹匁四分八厘かへ

代百三拾九匁七分壹厘

内

四分五厘 蔵入仲仕ちん

九分 蔵しき

貳匁七分八厘 口せん

右之通差引仕、残金不残相渡、此表無出入相濟申候、若
算用違も有之候ハ、追而差引可仕候、為後日依而如件

伊勢屋源助 ㊦

寛政元年酉霜月廿九日

今田弥兵衛殿

御支配

藤屋金助殿

ノ四匁壹分四厘

残銀百三拾五匁五分八厘

右之銀子重而差引江相加、此表無出入相濟申候、仕切状

仍而如件

寛政元年酉十一月卅日

伊勢屋治四郎 ㊦

今田弥兵衛殿

現金廿五兩替

一、金壹兩三步貳朱 同黒花 五袋

銀四匁三分三厘 ノ

代

ノ 金六拾三兩三步二朱

銀五匁壹分九厘 両かへ五十五匁五分

右之通御相對を以買請紅花代金不殘相渡、此表無出入相

濟申候、万一算用違又ハ拔袋等有之候ハ、重而御相互

二御差引可仕候、為後日仍而如件

四〇 紅花仕切

仕切

現金六拾三兩替

大ハ極紅印紅花 十八袋入式丸

一、金六拾貳兩と 同上店印 同廿七袋

銀八分六厘 ノ片馬參拾壹袋

代

寛政二年

伊勢屋

戌二月五日

理右工門 ㊦

今田弥兵衛殿

御代藤屋金助殿

四一 生花仕入帳(横帳)

内廿五匁 風代

六月十七日 六

一、卷又五百匁 手花

代九百文

一、百三拾匁 村市助

代七十八文

内三百文渡

一、百拾匁 同字七

代六十六文

一、三百六拾匁 伊右衛門

代貳百十六文

内貳百文渡

一、四百十匁 吉助

代貳百四十六文

内百文受取

一、八拾五匁 与七

代五十一文

(表紙)
〔文化十二年〕

生花仕入帳

亥六月十七日 田井村今田弥兵衛

六月十五日 五

一、五百三拾匁 手花

代貳百六拾五文

六月十六日 五五

一、七百三拾匁 手花

代四百壹文

二口合

干上百八拾匁

内五十文受取

一、六百七拾匁 弥次郎

代四百三十五文

一、卷メ三百五拾匁 みぞのべ 丈次

代八百七拾七文

内銀式朱渡

ノ四メ六百拾匁

代式メ八百六拾九文

水

干上

六月十八日 五

一、四メ式百匁 手花

代式メ百文

一、八百匁 村左吉

代四百文

内式百文渡

一、卷メ三百三拾匁 みぞのべ源次

代六百六十五文

一、式百五拾匁 村宇七

代百廿五文

一、六百拾匁 同市助

代三百五文

一、卷メ六拾匁 伝兵衛

代五百三十文

一、卷メ三百五拾匁 同吉助

代六百七拾五文

一、六メ八百五拾匁 みぞのべ丈次

代三メ七百五拾文

内金式分渡

一、式百四十匁 荷口人

代式百廿文

ノ拾六メ六百九拾匁

代八メ七百七拾文

水 拾九メ百匁

千二口合

正巻メ六百匁

風代百五拾匁

一、八百七拾匁

代四百七十八文

同市助

六月十九日 五五

一、五メ六百五拾匁

手法

一、巻メ拾匁

代六十文

同宇七

代三メ百七十五文

一、巻メ百五拾匁

村左吉

一、巻メ百拾匁

代六十文

同与右衛門

代六百三十式文

一、式百四拾匁

みぞのべ長吉

一、巻メ四百四拾匁

代七百九十式文

同吉助

代百廿文

一、巻メ六百匁

村伊右衛門

一、三メ百七拾匁

代七メ七百四十三文

同文吉

代八百八拾文

一、式百八拾匁

おつる

一、式百四拾匁

代百廿文

溝延三四郎

代百四十文

一、巻メ六百五拾匁

みぞのべ源次

一、巻メ百七拾匁

代九百七拾三文

村源六

代九百七文

一、九百匁

村伝兵衛

一、八メ三百五拾匁

代四メ六百元

みぞのべ又次

代四百九十五文

内金式分渡

一、六メ八百三拾匁 弥惣次

代三メ七百五拾六文

内金貳分渡

ノ三拾六メ三百六拾匁

代拾九メ九百六拾三文

水三拾八メ九百匁

干 九百匁七十八口入

卷メ百五匁 廿口入

合貳メ五匁

六月廿日 八五

一、三メ七百匁 手花

卷メ五百五十匁

ノ五メ貳百五十匁

代四メ四百六十貳匁

一、四百匁 村与七

代三百四十文

内貳百文渡

一、六百文 同市助

代五百十文

一、卷メ五百三拾匁 伊右衛門

代卷メ三百文

一、九百八拾匁 左吉

代八百三十三文

一、貳百三拾匁 みぞのべ長吉

代百八十四文

一、貳メ匁 みぞのべ源次

代卷メ七百文

一、七百四拾匁 村字七

代六百廿九文

内百文渡

一、七百拾匁 同伝兵衛

代六百三文

内貳百文渡

一、九百四拾匁 同吉助

代七百九十九文

一、貳百四拾文 同おつる

代百九十貳文

一、三百六拾匁 畑中新蔵

代貳百八十八文

内百文渡

一、貳メ貳百廿匁 村文吉

代壹メ八百八十七文

一、六メ拾匁 みぞのべ丈次

代五メ百文

内金貳分渡

一、壹メ六百七拾匁 村弥吉

代壹メ四百拾九文

一、四メ五百五拾匁 同弥惣次

代三メ八百六拾文

内金貳分廿一匁渡

一、四メ五拾匁 同弥三郎

代三メ四百四拾貳文

代三拾貳メ四百八拾匁

代貳拾七メ五百四十八文

水五拾メ三百匁

干上正味三メ五拾匁

外二卷メ百五十匁 十九

合 四メ貳百匁

風代貳百五拾匁

六月廿一日 八

一、六メ五百匁 手花

代五メ貳百文

一、四百拾匁 村平七

代三百廿八文

一、四百匁 同又五郎

代三百廿文

一、五百三拾匁 畑中与右衛門

代四百廿四文

一、三百五拾匁 村おつる

代貳百八十文

一、八百三拾匁

畑中栄助

代八百七十式文

代六百六十四文

一、卷メ六百四拾匁

同源八

一、六百四拾匁

みそのべ与作

代卷メ三百拾式文

代五百拾式文

一、卷メ七百六拾匁

同左吉

一、四百廿匁

畑中喜四郎

代卷メ四百八文

代三百三十六文

一、式メ三百匁

同伊右衛門

一、五百拾匁

同村新藏

代卷メ六百廿四文

代四百八文

一、式メ百五拾匁

同善十郎

一、五百七拾文

村市助

代卷メ七百廿文

代四百五十六文

一、卷メ六百四十匁

同弥助

一、九百三拾匁

同伝兵衛

代卷メ三百拾式文

代七百四十四文

一、五メ式百五拾匁

同弥三郎

一、式メ八百拾匁

みそのべ源次

代四メ式百文

代式メ式百四拾八文

一、卷メ三百拾文

同金八

一、五百廿匁

同村長吉

代卷メ四十八文

代四百十六文

一、卷メ四百九拾匁

同宇七

内式百文渡

内金卷分渡

一、卷メ九拾匁

村吉助

代卷メ百九十式文

一、貳メ六百五拾匁 村文吉

代貳メ百廿文

水百メ匁
干上り正味七メ百廿匁

一、九メ三百五拾匁 伯父弥惣次

代七メ四百八十文

風代百三匁 二つ
貳百五拾匁

金三分 廿二日渡

内金巻分渡

六月廿二日 七五

一、三メ貳百貳拾匁

一、七メ百五拾匁 手花

代貳メ五百七十六文

代五メ三百六十貳文

六百文 廿三日

一、三百七拾匁 畑中利助

内金巻分渡

代貳百五十九文

一、八メ三百五拾匁 みそのべ丈次

一、七百拾匁 畑中与右衛門

代

代五百三十貳文

一、九メ六百五拾匁 同人

一、壹メ三百三拾匁 同村栄助

メ拾八メ匁

代九百九十七文

代拾四メ四百文

一、七百六拾匁 村半兵衛

内金巻両渡

代五百七十文

メ六拾七メ匁

一、七百匁 村又五郎

代五拾三メ六百文

代五百廿五文

内貳百文渡

一、貳メ七百三拾匁 みそのべ源次

代貳メ四十七文

内金巻分渡

一、四百九拾匁 畑中喜四郎

代三百六十七文

一、五百八拾匁 同村権三郎

代四百三十五文

一、三百九拾匁 同村治郎助

代貳百七十三文

一、三百七拾匁 同村伊八

代貳百五十九文

一、八百貳拾匁 みそのべ長五郎

代六百十五文

一、九百六拾匁 みそのべ与作

代七百廿文

一、貳メ四百三拾匁 村善十郎

代壹メ八百廿貳文

一、九百五拾匁 同平七

代七百拾貳文

一、五百拾匁 同おつる

代三百八十貳文

一、壹メ百匁 同与七

代八百廿五文

一、貳メ五百六拾匁 同伊右衛門

代壹メ九百廿文

一、貳メ九百匁 同与右衛門

代貳メ百七拾五文

一、貳メ貳百四拾匁 同弥助

代壹メ六百八拾文

一、七百六拾匁 村与作

代五百七十文

一、五メ八百匁 同弥三郎

代四メ三百五十文

一、貳メ三拾匁 みそのべ長之助

代壹メ五百廿貳文

一、貳メ六百五拾匁 村庄五郎

代卷メ九百八拾七文

内貳百文渡

一、卷メ貳百八拾匁 同金八

代九百六拾文

一、貳メ四百四拾匁 同文吉

代卷メ八百三拾文

一、七百廿文 畑中新藏

代五百四十文

一、貳メ三百七拾匁 村源八

代卷メ七百七十七文

内金壹分渡

一、卷メ貳百八拾匁 同吉助

代九百六拾文

一、卷メ六百拾匁 同太七

代卷メ貳百七文

一、壹メ三百匁 同伝兵衛

代九百七十五文

一、四メ匁 同弥吉

代三メ文

一、貳メ六百六拾匁 同左吉

代卷メ九百九十五文

一、卷メ六百拾匁 同市助

代卷メ貳百七文

一、卷メ六百九拾匁 同宇七

代卷メ貳百六拾七文

一、六百貳拾匁 同長吉

代四百六十五文

一、四メ九百拾匁 みそのべ兵藏

代三メ六百八拾貳文

一、貳拾貳メ八百五拾匁 村弥惣次

代拾七メ百三拾七文

一、内金三分貳朱 廿三日渡

一、貳拾貳メ四百匁 みそのべ丈次

代拾六メ八百文

一、内金壹兩壹分 廿四日渡

メ百拾三メ三拾匁

代八拾四メ七百八文

水百四拾七メ四百匁

干上り正味拾メ貳百六拾匁

風代百八十匁

風代四百六拾匁

六月廿三日

七 六五

一、八メ五拾匁

手花

代五メ六百三十五文

一、七百匁

みそのべ長五郎

代四百九十文

内銀貳朱渡

一、六百貳拾匁

村半兵衛

代四百三拾四文

一、壹メ五拾匁

畑中与右衛門

代七百三十五文

一、壹メ四百七拾匁

同永助

代壹メ貳拾九文

一、貳メ九百四拾匁

みそのべ源治

代貳メ百九十八文

一、六百拾匁

村おつる

代四百廿七文

一、八百九拾匁

みそのべ与作

代六百廿三文

一、六百匁

畑中利助

代四百貳十文

一、六百四拾匁

同村權三郎

代四百四十八文

一、五百四拾匁

同村伊八

代三百七十八文

一、三百七拾匁

同村次郎助

代貳百五十九文

一、壹メ四百七拾匁

村吉助

代壹メ廿九文

一、五百五拾匁 同喜四郎

代三百八十五文

一、貳メ五百三拾匁 みそのべ長之助

代壹メ七百七十一文

一、三メ貳百五十拾匁 村伊右衛門

代貳メ貳百七拾五文

内銀貳朱渡

一、壹メ三百四拾匁 伝兵衛

代九百三拾八文

一、八百四拾匁 畑中新蔵

代五百八十八文

一、貳メ四百四拾匁 村源八

代壹メ七百八文

内三百文渡

一、壹メ三百拾匁 同平七

代九百拾七文

一、貳メ八百七拾匁 村宇七

代貳メ九文

一、貳メ四百三拾匁 同左門

代壹メ七百壹文

内金壹分渡

一、貳メ五百五拾匁 同文吉

代壹メ七百八十五文

一、壹メ六百六拾匁 同市助

代壹メ百六十貳文

一、六メ七百匁 同弥三郎

代四メ六百九十文

一、貳メ四百匁 同善十郎

代壹メ六百八十文

内銀貳朱渡

一、壹メ四百九拾匁 同左吉

代壹メ四十三文

一、四メ五百七拾匁 みそのべ小助

代貳メ九百文

内貳朱渡

一、貳メ三百九拾匁 村小兵衛

代巻メ六百七十三文

一、八百七拾匁 みそのべ長吉

代六百九文

一、四メ貳拾匁 弥惣次

代貳メ九百四拾匁

内金貳分渡 廿四日

メ 六拾四メ三百四拾匁

代四拾四メ八百七十九文

水 七拾五メ五百匁

干上り 正味七メ六百四拾匁

風代四百拾匁 二つ

六月廿四日 七五

七八

一、七メ匁 手花

代五メ四百六十文

一、四百廿匁 畑中与右衛門

代三百十五文

一、八百三拾匁 同村栄助

代六百廿貳文

一、五百八拾匁 同利助

代四百五十貳文

一、四百四拾匁 同権三郎

代三百三十文

一、貳メ百九拾匁 みそのべ源次

代巻メ七百八文

一、四百四拾匁 畑中伊八

代三百四十三文

一、貳百五拾匁 同次郎助

代百八十七文

一、三百八拾匁 同喜四郎

代貳百八拾五文

内式朱渡

一、六百六拾匁 同新蔵

代五百十四文

内銀式朱渡

一、巻メ六拾匁 村伝兵衛

代九百四文

一、六百八拾匁 みそのべ長五郎

代五百三十文

一、巻メ六百三拾匁 村左吉

代巻メ貳百七拾壹文

一、六百貳拾匁 同半兵衛

代四百八拾三文

一、四百九拾匁 みそのべ与作

代三百八十貳文

一、三百九拾匁 村庄次、おつる

代三百四文

一、巻メ七百三拾匁 みそのべ長之助

代巻メ三百四十九文

一、貳メ四百五拾匁 村伊右衛門

代巻メ九百拾壹文

一、巻メ貳百拾匁 同吉助

代九百四拾三文

一、巻メ百七拾匁 同平七

代九百拾貳文

一、七百匁 みそのべ長助

代五百廿五文

一、巻メ九百五拾匁 村源六

代巻メ五百廿壹文

一、貳メ百匁 同吉助

代巻メ六百三拾八文

一、巻メ六百五拾匁 同弥助

代巻メ貳百八拾七文

一、巻メ五百四拾匁 同源八

代巻メ貳百壹文

一、巻メ八百九拾匁 同文吉

代巻メ四百七拾四文

一、五メ三百匁 同弥三郎

代四メ百三拾四文

一、巻メ貳百匁 同市助

代九百三拾六文

内四百文渡

一、三メ百九拾匁 みそのべ小助

代貳メ四百八拾八文

一、貳メ六百五拾匁 みそのべ兵藏

代貳メ六十七文

内金壹分渡

一、七百拾匁 同村長吉

代五百五十三文

一、三メ七拾匁 村弥吉

代貳メ三百九拾四文

一、五メ三百匁 同弥惣次

代四メ百三十四文

内金貳分渡

一、八メ三百六拾匁 みそのべ丈次

代六メ六匁

内金三分渡

六拾三メ七百三拾匁

代五拾メ百五拾七文

水 九拾三メ三百匁

千正 五メ貳拾匁

風代三百三拾匁

七五

六月廿五日 八

八貳

一、四メ三百五拾匁 手花

代三メ五百六十貳文

一、貳百五拾匁 溝延おちん

代貳百八十八文 夫三平

一、壹メ百三拾匁 同村源次

代九百四文

一、貳百廿匁 村おつる

代百七十六文

一、五百廿匁 畑中榮助

代四百拾六文

一、貳百六拾匁 みそのべ与作

代百九十五文

是は相濟也

一、九百拾匁

同村長之助

代七百廿八文

一、貳百五拾匁

畑中權三郎

代貳百文

一、四百廿匁

同村利助

代三百三十六文

内貳百文渡

一、六百五拾匁

同村与右衛門

代五百廿文

一、六百六拾匁

みそのべ長助

代五百廿八文

一、八百八拾匁

村吉助

代七百四文

一、三百九拾匁

畑中新蔵

代三百四文

一、貳百拾匁

同村喜四郎

代百六拾八文

一、五百拾匁

みそのべ長五郎

代四百八文

一、壹×三百九拾匁

村文吉

代壹×百拾貳文

一、貳×四百匁

同弥吉

代壹×九百六拾八文

一、五百四拾匁

同半兵衛

代四百三十貳文

一、九百四拾匁

同伝兵衛

代七百五十貳文

一、八百拾匁

同平七

代六百四十八文

内貳百文渡

一、三×六百五拾匁

同弥三郎

代貳×九百九十三文

一、壹×五拾匁

村与七

代八百四十文

一、八百八拾匁 同左吉

代七百四文

一、壹メ三百九拾匁 同与三

代壹メ百拾貳文

一、四百五拾匁 みそのべ長吉

代三百六十文

一、壹メ貳百匁 村市助

代九百六十文

一、壹メ三百八拾匁 同宇七

代壹メ百四文

内百五文渡

一、五メ五百廿匁 みそのべ丈次

代四メ四百十六文

内貳分貳朱渡

一、四メ九百匁 村弥惣次

代三メ九百廿文

内金三分 廿七日渡

メ 三拾八メ百拾匁

代三拾メ七百五拾八文

水 六拾メ七百匁

干上正三メ三百匁

風代三百匁

六月廿六日 七八

一、三メ八百匁 手花

代貳メ九百六十文

一、八百八十匁 溝延源次

代六百八十六文

一、八百八拾匁 同村長之助

代六百八十四文

一、三百九拾匁 畑中新蔵

代三百四文

一、貳百貳拾匁 同村喜四郎

代百六十文

内百文 廿八日渡

一、五百廿匁 同利助

代四百五文

一、貳百三拾匁

同權三郎

代百七拾貳文

一、七百匁

同与右衛門

代五百四十六文

一、四百八拾匁

同半兵衛

代三百七拾四文

一、九百九拾匁

みそのべ兵五郎

代七百七十文

一、四百貳拾匁

畑中伊八

代三百廿七文

一、五百貳拾文

みそのべ長五郎

代四百五文

一、壹メ三百匁

村文吉

代壹メ拾四文

一、壹メ四拾匁

同伝兵衛

代八百拾壹文

内金壹分渡

一、貳メ四百六拾匁

舟戸小七

代壹メ九十八文

一、壹メ六百拾十匁

村八兵衛

代壹メ貳百六拾三文

一、八百匁

同与七

代六百廿四文

一、三メ匁

同弥三郎

代二メ三百四十文

一、壹メ五拾匁

同吉助

代八百十九文

一、壹メ四百拾匁

同竹之助

代壹メ百文

一、壹メ六百拾匁

同源八

代壹メ貳百五拾五文

内銀貳朱渡

一、壹メ四百八十匁

同源六

代壹メ百五十四文

一、貳メ六百五十匁

同弥吉

代貳メ六十七文

一、五百三拾匁 米そのべ長吉

代四百十三文

一、貳百廿匁 村おつる

代百六十五文

一、壹メ五百四拾匁 同市助

代壹メ貳百壹文

一、百三拾匁 同半兵衛

代九十七文

ノ 三拾メ九百七拾匁

代貳拾四メ三拾四文

水 四拾四メ匁

干上正 三メ三百匁

風代貳百匁

六月廿七日 七五

一、百六十匁

一、四メ五拾匁 手花

ノ 四メ貳百拾匁

代三メ百五十七文

一、八百六拾匁 米そのべ源次

代六百四拾五文

一、三百九拾匁 同村長五郎

代貳百九十貳文

一、九百匁 同長之助

代六百七十五文

一、三百四拾匁 畑中新蔵

代貳百三十八文

一、壹メ九百拾匁 村伊右衛門

代壹メ四百三拾貳文

一、八百廿匁 畑中与右衛門

代六百拾五文

一、壹メ六百五拾匁 舟戸小七

代壹メ貳百三十七文

内金壹分渡

一、貳百四拾匁 畑中権三郎

代百六十八文

内銀貳朱渡

一、五百八拾匁

同村利助

代四百三十五文

内銀貳朱渡

一、四百貳拾匁

畑中伊八

代三百十五文

内銀貳朱渡

一、卷メ七拾匁

村宇七

代八百貳文

一、卷メ五百三拾匁

同久兵衛

代卷メ百四拾七文

一、八百三拾匁

同平七

代六百廿貳文

一、卷メ五拾匁

村吉助

代八百六拾貳文

一、卷メ四百八十匁

みそのべ兵五郎

代卷メ百拾文

一、七百三拾匁

村半兵衛

代五百四十七文

一、三メ匁

同弥吉

代貳メ貳百五十文

一、三百五拾匁

同弥三郎

代貳メ三百六十貳文

一、五百三拾匁

みそのべ長吉

代三百九十七文

一、卷メ四百拾匁

村源八

代卷メ五拾七文

一、卷メ六百九拾匁

同市助

代卷メ貳百六十七文

一、七メ八百五拾匁

同弥惣次

代五メ八百八拾七文

内金貳分 廿八日渡

メ 三拾六メ七百九拾匁

代廿七メ五百拾九文

水

干上り正三メ四百匁

風代貳百九拾匁

六月廿八日 七三

七八

一、貳メ八百匁 手花

代貳メ八十四文

一、五百匁 みそのべ源次

代三百九十文

内金壹分渡

一、百八拾匁 畑中新蔵

代百三十卷文

内銀貳朱渡

四百文渡

一、貳百五拾匁 同村伊八

代百九十貳文

一、五百四十匁 畑中与右衛門

代四百廿一文

一、四百八十匁 畑中利助

代三百五十文

一、貳メ貳拾匁 村弥三郎

代壹メ五百七十五文

一、八百五拾匁 同伝兵衛

代六百六拾三文

一、七百八拾匁 同与七

代六百八文

一、貳百三拾匁 同おつる

代百七十文

一、八百四拾匁 同字七

代六百五十五文

内銀貳朱渡

一、三百五拾匁 みそのべ長吉

代貳百四十五文

内金壹分渡

一、六百五拾匁 村平七

代五百七文

一、貳メ百七拾匁 同弥吉

代卷メ六百九十式文

内五百文渡

一、百四十匁 三十郎かゝ

代九十八文

一、五百四十匁 村文吉

代四百廿一文

内三百文渡

一、卷メ四百三十匁 同源八

代卷メ百十五文

内五百文渡

一、貳メ三百匁 同与右衛門

代卷メ七百九十四文

一、四メ九百五拾匁 みそのべ丈次

代三メ九百六十文

内金三分渡

一、卷メ四百五拾匁 村市助

代卷メ百三十一文

内三百文渡

一、三メ匁 みそのべ兵藏

代式メ三百四十文

内金式分渡

一、八メ八百六拾匁 村弥惣次

代七メ八十八文

内金三分 廿九日渡

一、拾卷メ百匁 みそのべ常吉

代八メ八百八拾文

内金卷匁渡

一、七メ貳百匁 新田へ

代五メ四百文

三分百五十文渡

相濟也

五拾三メ六百拾匁

代四拾式メ拾式文

水

干正 貳メ八百拾匁

卷メ八百匁

七百三拾匁

合五メ三百四拾匁

風代百四拾匁

百五拾匁

五十匁

六月廿九日 七

七五

一、貳メ拾匁 手花

代卷メ五百七十文

一、三百匁 畑中利助

代貳百十文

一、百四拾匁 同村権三郎

代九十八文

一、五百匁 同村与右衛門

代三百七十五文

一、卷メ六百六拾匁 村弥三郎

代卷メ貳百四拾五文

一、九百五拾匁 同八兵衛

代七百拾貳文

一、卷メ七百拾匁 同嘉助

代卷メ貳百八拾貳文

一、四百六拾匁 村平七

代三百四十五文

一、貳メ貳拾匁 同弥吉

代卷メ五百拾五文

一、卷メ百三拾文 みそのべ兵五郎

代八百四十七文

内金巻分渡

一、卷メ百廿匁 同兵藏

代八百四十文

一、卷メ八百匁 村藤七

代卷メ三百五十文

一、貳百六拾匁 みそのべ長吉

代百八十貳文

一、八百八拾匁 村弥次郎

代六百六十文

内巻メ文渡

一、巻メ百五拾匁 同利八

代八百六十式文

一、巻メ五拾匁 同久兵衛

代七百八拾七文

一、巻メ百八拾匁 同市助

代八百八十五文

一、七メ八百五拾匁 同弥惣次

代五メ八百八十七文

内金式分巻メ文 七月一日渡

メ 式拾六メ百七拾匁

代拾九メ五百八十九文

水 三拾六メ匁

干上正巻メ式百七拾匁

正巻メ四百拾匁

合式メ六百八拾匁

風代百三拾文

七月朔日 七

一、巻メ四百廿匁 手花

代九百九十四文

一、百拾匁 みそのべ兵五郎

代七十一文

一、四百五拾匁 田井村源次

代三百十五文

一、百三拾匁 同長吉

代九十文

一、百廿文 みそのべ長五郎

代八十四文

一、四百四十匁 村与七

代三百八文

一、三百四拾匁 畑中与右衛門

代式百三十八文

一、三百八拾匁 村半兵衛

代貳百六十六文

一、七百六拾匁 北口仁助

代五百三十貳文

一、壹×百九拾匁 村八兵衛

代八百三拾三文

内三百文渡

一、四百文 畑中利助

代貳百八十文

一、壹×匁 長五郎

代七百元

一、三百貳拾匁 村五郎助

代貳百廿四文

内貳百文渡

一、壹×八拾匁 溝延兵衛

代七百五十六文

一、壹×五百拾匁 村嘉助

代壹×五十七文

一、壹×八百匁 同弥吉

代壹×貳百六十文

一、六×五百五拾文 同弥惣次

代四×七百十六文

金壹分 文五郎

同貳分 七月二日渡

一、壹×三百四拾匁 同市助

代九百三十八文

内貳百文渡

× 拾九×三百四拾匁

代拾三×六百六拾貳文

水

干正 壹×九百拾匁

風代貳百四拾匁

七月二日 七三

四百匁

一、四百五拾匁 手花

× 八百五拾匁

代六百弍十文

一、弍百四拾匁

畑中与右衛門

代百十八文

一、弍百匁

同利助

代百四十文

一、五百弍拾匁

みそのべ兵藏

代三百六十四文

一、六百四拾匁

同村仁助

代四百四十八文

内銀弍朱渡

一、九百七十匁

村弥吉

代七百八文

一、三百拾匁

村文吉

代弍百十七文

一、壹メ八十匁

同嘉助

代七百八十八文

内弍朱渡

百文渡

一、八百匁

同市助

代五百八拾四文

一、弍メ三百五拾匁

同弥惣次

代壹メ七百六十弍文

メ 七メ九百八拾匁

代五メ七百九拾九文

一、四メ六百七拾匁

舟戸五助

代三メ五百五十文

金弍分五十文渡

一、三百匁

村吉助

代弍百拾文

メ 拾弍メ九百五拾匁

代九メ五百五十九文

水

干正 壹メ五百四拾匁

風代六十匁

七月三日 七

一、三十匁
みそのべ長吉

代十八文

四メ式百九拾匁

代三メ拾五文

一、九十匁
畑中与右衛門

代五十四文

干上 五百廿匁

百廿匁四分

一、百三拾匁
みそのべ甚助

代八十四文

風百拾匁

一、四百四拾匁
村市助

代三百八文

七月四日 七

一、七百五拾匁
同嘉助

代五百廿五文

一、四百匁
手花

代貳百八十文

一、三百廿匁
市助

一、六百五拾匁
同弥吉

代四百五十五文

代貳百廿四文

一、百四拾匁
村半兵衛

代九十八文

一、八十匁
利助

代四十八文

一、貳メ六拾匁
同弥次郎

代壹メ五百三文

一、貳百五拾匁
みそのべ仁助

代百六十式文

内銀貳朱渡

一、九拾匁
村弥次郎

貳百文渡

代六十三文

代七百七十七文

代七百七十七文

代錢寄

一、貳百六十五文

一、四百壹文

一、貳百八十六拾九文

一、八十七百七拾文

一、拾九百九百六拾三文

一、貳拾七千五百四十八文

一、五拾三六六文

一、八拾四七七八文

一、四拾四八百七十九文

一、五拾百五拾七文

一、三拾千七百五拾八文

一、廿四三拾四文

一、廿七千五百拾九文

一、四拾貳千拾貳文

一、拾九千五百八十四文 廿九日

一、拾三六六拾貳文 朔日

一、九千五百五拾九文 二日

一、三六四十五文 三日

一、七千七十七文 四日

四百六拾四五百拾文

直し金六拾六兩壹分

三百六拾文

一、金拾壹兩貳分 為登入用

一、金六兩 内雜用

八拾三兩三分

内

廿八兩 いせ源と入

四匁貳分 同断

貳十兩 いせ理と入

残而

三拾壹兩壹分

五兩 いせ理と入

五兩

福嶋飛脚ちん

いせ源同断

残而

廿一兩壹分

目方

一、百五拾五匁

十五十六日

一、壹メ六百匁

十七十八

一、貳メ五拾匁

十九

一、三メ五拾匁

廿日

一、七メ百廿匁

廿一日

一、拾メ二百六拾匁

廿二日

一、七メ四百四拾匁

廿三日

一、五メ貳拾匁

廿四日

一、三メ三百匁

廿五日

一、三メ三百匁

廿六日

一、三メ四百匁

廿七日

一、五メ三百四拾匁

廿八日

一、貳メ六百八拾匁

廿九日

一、壹メ九百拾匁

朔日

一、壹メ五百四拾匁

二日

一、五拾八メ三百六拾五匁

一、五百廿匁

三日

一、百廿匁

四日

一、五拾九メ五匁

改

六拾三メ六百廿匁

内三メ六百廿匁 風代

正六拾メ

風代

廿五匁

十五十六

百五十匁

十七十八

二百五十匁

廿日

三百八拾匁

二つ 廿一日

六百四十匁

三つ 廿二日

四百拾匁 二つ 廿三日

三百三拾匁 廿四日

三百匁 廿五日

貳百匁 廿六日

貳百九拾匁 廿七日

三百四拾匁 三つ 廿八日

百三十匁 廿九日

百四十匁 朔日

六十匁 二日

三メ六百四拾五匁

外二

百三拾匁 三日

大^ハ 拾八袋入 壹駄

二^ハ 拾八袋 二箇

大^ハ 拾九袋 二箇

内大印 拾二袋

天二大印 壹袋

(裏表紙)
「任意集」

四二 (紅花荷通判に付) 願書

以書付御願奉申上候

御代官三宅鑑作様御支配所羽州村山郡西里村百姓林兵衛代吉次郎義、御願奉申上候儀者、当御領分加美郡高城村並当御領分前澤町・一ノ関町、右三ヶ所ニ而紅花買方仕度段、当御城下大町二丁目川村屋新七手先ニ而買方いたし、右紅花三拾六メ目壹駄割合ヲ以、都合六駄買入候地元^カ夫々御首尾合申受、御通帳為附渡候ニ、七北四通、当月十一日受払御会所へ駄送仕、右紅花此度川村屋新七方^カ買入候ニ付、御他領出し御通判申受候ニ付、三拾六メ目ニ金四両、外ニ壹駄ニ付御仲間所御会所ニ金貳分御役永御上納仕、別而紅花壹駄ニ付正金三拾三兩三分御上

納仕、御頼手札ニ而金三拾三兩三分ツツ御引替下受不仕候而ハ、御通判之御下知無之趣被仰聞承知奉畏候、則右御引替金貳百貳兩貳分御上納仕候間、右御頼御手形御下被成下度段、宿川村屋新七江再忖御願申候得共御下金無之、何共困入存候、何卒格別御慈悲ヲ以右荷物早速駄送仕度旨、御通判御下被成下度、偏奉願上候、以上

慶応元五年

二月十三日 御代官三宅鑑作様

御支配所羽州村山郡

西里村百姓

糸紅屋

林兵衛代

受払

同 同

吉次郎

同 御仲

御会所様

四三 当寅生花帳（横帳）

〔表紙〕

〔慶応元年〕

当寅生花帳

寅六月十三日

〔表紙裏〕

〔但生花百匁ニ付貳百文見込〕

手作方

寅六月十三日

一、生花四百五拾匁

同十四日

一、同貳メ九百五拾五匁

同十五日

一、同三メ四百五匁

同十六日

一、同三メ七百五拾匁

同十七日

一、同四メ三百五拾匁

寅六月十八日

一、生花三×百五拾匁

同十九日

一、同式×七百五拾匁

同廿日

一、同三×五拾匁

同廿一日

一、同三×五拾匁

同廿二日

一、同五×貳百匁

同廿三日

一、同三×匁

寅六月廿四日

一、生花壹×七拾匁

同廿五日

一、同壹×百三拾匁

同廿六日

一、同壹×三百三拾五匁

同廿七日

一、同五百四拾五匁

同廿八日

一、同四百匁

同廿九日

一、同百八拾匁

寅七月二日

一、生花百九拾五匁

ノ三拾九×九百六拾五匁

代七拾九×九百三拾匁

寅六月廿日

一、生花壹×三百五匁

同廿一日

一、同式×七百七拾匁

同あま

一、同壹×六拾匁

同廿二日

一、同三×七拾匁

同廿三日

一、同壹×九百匁

同六月廿四日

一、生花貳百匁

藤吉分

寅六月十五日

一、生花壹×七百拾匁

同十六日

一、同貳メ六百貳拾匁

同十七日

一、同三メ百五拾五匁

同十八日

一、同貳メ七百七拾匁

同十九日

一、同卷メ三百五匁

同廿五日

一、同七百三拾八匁

同廿七日

一、同五百拾五匁

メ 貳拾三メ百拾八匁

代四拾六メ貳百三拾六文

此金七兩三朱卜

貳百三拾六文

源作分

寅六月十八日

一、生花四百三拾五匁

同十九日

一、同五百五拾五匁

同廿日

一、同七百五匁

同廿一日

一、同卷メ貳百八拾五匁

同廿二日

一、同貳メ八百八拾匁

寅六月廿三日

一、生花九百八拾匁

同廿四日

一、同四百四拾匁

同廿五日

一、同四百三拾五匁

同廿六日

一、同五百三拾五匁

同廿八日

一、同三百三拾匁

メ 八メ五百八拾匁

代拾七メ百六拾匁

此金貳兩貳分貳朱卜

三百六拾文

一、生花三拾九メ 手前手作分

九百六拾五匁

一、同 式拾三メ 藤吉分

百拾八匁

一、同 八メ五百八拾匁 源作分

三〇

メ生花七拾壹メ六百六拾三匁

代百四拾三メ三百式拾文

此金式拾式兩壹分式朱卜

百式拾六文

外二

金壹兩式分 入用見込

二口メ金式拾三兩三分式朱卜

百式拾六文

此干花七メ匁 売払

代金拾八兩式分

殘金五兩壹分式朱卜

百式拾文損毛

(裏表紙)

「羽州村山郡

最上田井村

今田弥兵衛用」

四四 覚(紅花仕入金請取)

覚

一、錢式拾五貫也

右者干紅花之仕入錢二、髓二請取申候所実正二御座候

子六月十五日

和巾

田井 弥助殿

四五 覚（や印紅花大石田蔵入）

覚

へや印壹駄片馬紅華

但四固附

外二

送金壹両卜貳貫文

手板 貳枚

通御判 貳枚

添状 五通

右之通儲請取蔵入仕候、近日中能舟ニ積入指下し可申候、
以上

六澤屋金十郎 ㊦

子七月廿三日

今田弥兵衛殿

四六 覚（紅花代金請取）

覚

一、金拾両者

但し歩判也

右之通り千紅花代金之内儲ニ受取り申候、為念如此ニ
御座候、以上

羽入村

弥内 ㊦

子ノ八月廿五日

田井村

弥兵衛殿

四七 覚（紅花代金請取）

覚

一、金貳拾五兩三分也

又

右者紅花代金御使伊七殿

慥ニ請取申候、已上

東海林市郎兵衛

㊦

庚子十月五日

今田弥兵衛殿

四八 覚 (紅花代金請取)

覚

一、金五兩也

外式分利足分

右之通紅花代殘金慥ニ請取申候、以上

庚子十一月廿九日

野田村

新助

㊦

田井村

弥兵衛殿

四九 覚 (紅花晒蠟取立錢請取)

覚

錢貳貫四百文

右者去子紅花晒蠟通荷物、別紙取立上納請取候処如件

丑正月十一日

酒井伊兵衛

㊦

浅野藤太夫

㊦

田井村庄屋

弥内方

五〇 覚（や印紅花大石田蔵入）

覚

へや印三駄片馬紅花

但四固附

外二

送金貳両貳歩四貫文

手板 四枚

通板 四枚

添状 貳通

右之通槌請取蔵入仕候、近日中能舟二積入早束指下し可
申候、以上

（大石田）
六澤屋金十郎 印

丑六月廿三日

田井

五一 金銭指引勘定

金指引

一、金貳両三歩廿三匁六分

子十一月十二日差引表かし

一、同拾兩者

六月朔日大豆五拾表引当かし

一、同壹歩者

右金之内七両ハ六月も八月迄之利足壹両壹歩

惣金拾三両貳拾三匁六分

内

一、金九兩拾貳匁九分

大豆五拾表売仕切表かし

引殘金四兩拾匁七分

外二

一、金四兩貳步拾壹匁貳分貳厘

紅花添金別紙の通

右之通指引殘金御取替御座候、為後日仍如件

丑ノ十一月四日

今田弥兵衛殿

本間幸三郎 ㊦

為念如斯御座候、以上

松橋

宮地次兵衛 ㊦

丑十一月十一日

田井

今田弥内 殿

五二 覚 (紅花仕入代金請取)

覚

一、金拾兩也 但シ文字歩判也

右者当丑夏仕入紅花代金之内、慥ニ請取申候、

五三 覚 (紅花送手板)

覚

八月十七日

○ 〆や二大 四丸紅花

〆 壹駄也

此駄質六匁八分

右之内

御手板残り○

丁百三文受取

代耆笈五分三厘

残り五匁貳分七厘

八月十七日

○ へや大 四丸紅花

ノ耆駄也

此駄笈六匁八分

右之内 ○

丁百三文受取

代耆笈五分三厘

残り五匁貳分七厘

○ へや大 式丸紅花

○ 同大 壹丸紅花

ノ 三丸也

此駄笈五匁貳分五厘

右之内

御手板残り

三百文受取○

代五分

残り四匁七分五厘

九月四日

○ へや大 五丸紅花

此駄笈八匁七分五厘

御手板耆通残りなし

ノ 式拾四匁四厘

川口弥蔵

印

丑十二月

今田弥兵衛様

伊勢屋源助様

五四 覚（へや印紅花大石田蔵入）

覚

へや印四固紅花 十六入

へ出印式固同 十七入
十三入

へ 沓駄片馬

外に

送金沓両式貫百文

手板式枚

添状沓封

通御判式枚

御状沓通

へ 蛸満寺様行

右之通髓ニ請取蔵入仕候、近日中能舟ニ積入積下し可

申候、以上

寅七月九日

六沢屋金十郎 印

今田弥兵衛殿

五五 覚（紅花代金差引勘定）

覚

沓駄ニ付金三拾三兩沓分、永八匁式分三リン上リ

へ 可仕今 紅花式駄 但拾八袋入

代金七拾五兩也

内金式分

荷造七嶋駄ちん

六月廿日

金三拾兩

直渡

六月廿三日

銭式拾貫文

使弥八渡

同廿五日

金三拾兩 使弥次郎殿渡

七月六日

金拾兩 御同人渡

金七拾兩貳分貳拾貫文

此金三兩壹分

金直し七拾三兩三分

残金壹兩壹分

寅七月卯七月迄

一、金四拾兩ハ

金五拾兩無尽送り金

金四拾壹兩壹分

内

寅十一月八替目

一、金壹兩貳分

右無尽御出金

壹メ三百拾八文

一、金壹兩貳分

右同断

壹メ三百拾八文

金三兩壹分

壹メ七拾壹文

此内八百三拾六文 座料代引

残金三兩壹分 式丁分御出金

貳百三拾五文

又金貳分三百文 米貳表代

壹メ文 米拾貳表江さし米代

小以金三兩三分 引

壹メ五百三拾五文

差引残金三拾七兩壹分

錢拾五文

内金貳拾四兩、廿八日渡ス

残テ金拾三兩壹分十五文、今日渡ス

右之通相渡、此表出入無御座候、尤送り金四拾兩ハ、来

卯七月四拾貳兩ニ而御済可被下候、利足之儀者当寅十一

月金貳兩、卯三月金貳兩御済可被下候、以上

柴田弥之助 ㊦

寅七月晦日

今田弥兵衛殿

同 弥次郎殿

五六 覚（へや印紅花大石田蔵入）

覚

へや印六箇紅花

十七入三

外二 十八入三

送金巻兩下弍貫文

手板 弍枚

添状 弍封

通御判弍枚

又

右之通髓ニ請取蔵入仕候、早刻積下し可申候、以上

(大石田)
六沢屋金十郎 印

寅八月五日

今田弥兵衛殿

五七 覚（干花代金請取）

覚

一、金子五兩八干花代金内

右之通髓請取申所実正ニ御座候、為其仍而如件

卯ノ七月廿六日

吉田村

源助

田井村

今田弥兵衛様

五八 覚（紅花代金受取）

覚

一、金拾両者

右者久ノ本六兵衛分紅花代金之内、書面之通髓受取申

候、已上

卯八月廿五日

田井村

弥兵衛殿

大町村取持人

六右衛門 ㊦

六〇 覚 (干花代金請取)

覚

一、金貳拾兩 干花代

右之通り儘ニ請取実正ニ御座候、以上

野田

庄八 ㊦

五九 覚 (紅花手打金受取)

覚

一、金五兩也

右ハ久ノ本紅花手打金書面之通、儘受取申候、以上

卯八月廿五日

田井村

弥兵衛殿

大町村取持人

六右衛門 ㊦

六一 覚 (や印紅花大石田蔵入)

覚

や印式駄式丸紅花

外二

一、手板 貳枚

一、通判 貳枚

一、添状 貳封

一、送金考兩貳步下貳貫文

右之通髓請取蔵入仕候、近日中能船ニ積合積下し可申候、
以上

(大石田)
六沢屋金十郎

巳六月廿八日

田井

今田弥兵衛殿

六二 覚 (紅花袋入請取)

覚

一、紅花四拾袋半

右者間之助出紅花袋入髓請取申候、草々

巳

七月廿一日

明石八之助

㊦

田井村

善三郎殿

六三 覚 (紅花荷繼立)

覚

一、(や)紅花五箇

添錢五百文

右之通御請取繼立可申候、以上

未七月一日

六田

問屋 ㊦

田井

弥兵衛殿

未七月二日

加藤甚内 ㊦

田井村

今田弥兵衛殿

六四 覚 (紅花荷物大石田蔵入)

覚

一、紅花五丸

但し拾六入

此添金壹両貳朱也

外ニ永拾壹匁三分壹厘

御役永預リ

右之通髓ニ濟差申候、以上

大石田

六五 覚 (紅花代金差引)

覚

一、百九兩ト

拾八匁貳分五リソ

一、四拾三兩貳分

五匁六分

一、七拾九兩貳分

七匁五分

ノ貳百三拾貳兩ト

三拾壹匁三分五リソ

内

へや 二貳駄三袋

ちり 八袋

へや 一片馬三拾袋

二大 駄片馬八ツ

一、金三兩貳分ト

売口セシ

百八拾兩壹分ト八匁六分

四匁四分

内

一、三拾三兩

大津たちん

百兩ハ

ひ脚ニ渡ス

一、貳拾六兩

百兩ノ外也

拾兩ハ

五八殿渡ス

九分

たちん

残ニテ

一、三拾三兩

貳百拾貳兩ノ切ちん

七拾兩壹分ト八匁六分也

九分貳リシ

百兩に十六かへ

右通御渡シ申上候、若勘定違御坐候ハ、重而仕直シ

一、四拾四兩壹分

高福寺様御渡シ

可申上候、為念如件

十貳匁七分

申ノ十一月廿日

真木与作

㊦

一、貳拾九匁七分

三拾兩三兩ノ利足

今田弥内殿

百兩壹月壹兩貳分壹ケ月分

同 源蔵殿

並也

一、金貳兩也

与平治へ取替

一、三分二リシ

右切ちん

一、壹兩八分

十月九かり

六六

へや印紅花代金差引覚

残四拾九兩三分ト

百四拾貳匁七分四リシ

へや二印差引覚

指曳ニテ

十一月廿七日売付

十七入

一、金百四兩貳步

〆大印六丸

十六入

一、金貳兩

右金十一

銀拾壹匁貳分

同印貳丸

〆貳駄六袋

一、同 壹匁貳分

〆大印四丸

金五拾兩也

十七入

〆大印壹丸

同 一、金貳拾貳兩三歩

〆大印貳丸

銀三匁七分

〆片馬貳

金四拾貳兩也

一、同 七匁三分

右印五丸

〆

金百貳拾六兩三分

一、八匁貳分五厘

銀拾四匁九分

右之内

右印五丸
大津と京江たちん
川口弥藏殿拂

九月廿六日
一、歩判金百兩

嶋飛脚ニ而差下ス

一、三匁九分八厘

同 一、三拾三匁

右歩判打

〆大印四丸
〆大印壹丸

同 一、貳拾四匁

右金下ケたちん

〆手板不足
中村佐右衛門殿拂

一、八匁式分五厘

右印五箇

大津方たちん

川口弥蔵殿拂

ノ

金百貳兩

銀八拾五匁九分八厘

此金壹兩壹分ト拾匁九分八厘

ノ金百三兩三步

銀拾匁九分八厘

残而

金貳拾三兩貳步

銀三匁九分貳厘

内残

一、六匁四分五厘

右金歩判打

五匁六分四厘

右金福嶋屋下シたちん

ノ拾式匁九厘引

残而

金貳拾三兩壹步ト

銀六匁四分三厘

右通代金子福嶋飛脚を以差下し、此表無出入相濟申候、

若し算用違等御座候ハハ、御遣可被下候、重而御差引

可申上候、以上

近江屋九郎兵衛^印

申ノ十一月廿七日

今田弥兵衛様

六七 生花代金指引覚

指引覚

一、九拾メ九百拾八文 生花代

外二六匁文銭買不足

壹メ六百五十文 ちり三百匁代

五貫七百八十匁文 口銭

小以九拾八貫九百四拾九文

内

金拾五兩壹分 生花仕入之節受取

此錢九拾壹メ五百文

一、錢貳メ文 役錢之節受取

一、金壹分 盆夫ニ受取

一、米壹俵三升 糶貳表ニ而受取

此代壹メ六百七十九文

一、八十五文 代かり

メ金拾五兩貳分

三貫七百六十四文

指引残テ

貳貫百八十五文

右之通りニ可有之候已上

酉ノ八月十五日 源内

弥助殿

(別紙)

一金受取覚

一、三兩六月十三日十四日貳度

一、貳兩十五日 壹兩天童方受取

一、貳兩十六日 貳兩十九日

一、貳兩貳分十八日 貳兩廿日

三分廿一日

六八 書簡(紅花作況等に付)

尚々此方酒田へ便口口乍御世話此一通御地方御

届可被下候、大荷着之事而已申遣候、乍去御達

し可被下候ハ、物有之時節御地方御便時々可

有之候、遠察仕候

天童へ向一筆啓上仕候、秋冷相催候、其御地御家内御

揃弥御勇健可被遊御入珍重奉存候、此方無異罷有候、

乍憚御安意可被下候、

一、七月十五日出候貴札当日鳴屋便相届キ忝拜見仕候、

又六月廿五日出二酒田表方貴札漸一昨廿七日相届キ御

細書忝拜見仕候、

一、從此方右熊飛脚状後七月六日同廿日兩通差下申候、

相届キ御披覽可被下奉存候、

一、酒田大沼仲兵衛殿を当月九日出し御添状ニ而、此度

庄ウへ大印鵜渡川原花片馬貴所様分御送り為御登被下

候処、船中無難上着仕候、先以無御為替御出荷被成下

候段、外実共忝仕合奉存候、随而売口銭吟味売付候上

ハ、代金仕切其御地へ直々差下し候様被仰下候、尚又

貴所様之御差函追付可被仰下と奉待存候、御荷物無

事着御出荷之御礼旁如斯御坐候

一、惣七殿不埒何共気毒、可申上様も無御坐候、寄々尋

申見候得共、相知連不申候、惣七殿へ先達而相渡候仕

切金、並ニ小差引目錄等之義、委細両度差下し申候条、

一々御引合御覽可被下奉存候、六月廿日出早状態々申

上候処、七月十五日相届キ御驚キ御難渋被遊候段、御

尤至極ニ奉存候、常々御風体少しも心置キニ見得不申、

御方私方も甚驚入候事ニ候、御実体之御方我人も以之

外と今に申暮申候、去年紅花壳御損失多キ中へ、不存

寄惣七殿御不埒旁気毒千万難尽筆紙可申上様無之候、

嘸私事氣の不付段不届ニ思召可被成と遠察痛入気毒奉

存候、今更御断之申上様無御座候

一、先月御状春中下し会之義、成程其義御催促申御下し

候様ニと申候得共、先達而得貴意候通、買返し之紅花

買付代金入用と被御書付を御覽被成候通、追々惣七殿

へ相渡し、成程近九殿ニ而紅花御買被成候噂及承候事

故、其事と斗存居申候、何と申而も、全体御たまし被

成候ニハ不及力、何分此上御了簡私方御聞届可被下候、

御頼申上候、先便段々申上候条取込罷有候得者、不能

返筆候

一、当年其御地早続ニ而、新花不出来不作之由、先達而

相聞得、当地も古花引立、盆前商ひ事御座候、夫故か

此間至新古共一向取引無御座、扱新花大不出来成事、

御地能ク申唱候故、此度上り来り左程ニ無之やと紅屋

衆少し安堵気味ニ御座候、其内仙台花多見事成花、昨

今上り申候、何様来月至紅屋染細工段々始り被申候、

追々商い事可有之候、荷不足之義ハ、大方登り揃ひ不

申候而ハ、皆人髓存知申間敷候、暫ク売出し候間取可
申哉も奉存候、此末紅屋方買口けいきニ応じ、商ひ事
可有之候、相替義も御座候ハハ期重便之時候、恐惶謹
言

伊勢屋

亥

理右衛門 ㊦

八月廿九日

今田弥兵衛様

参人御中

六九 書簡（紅花買入代金前払に付）

市庄治郎殿下り便ニ付、一筆啓上仕候、暑之砌其地御
家内愈御勇健可被遊御入珍重奉存候、此方無異罷有候、
乍憚御安意可被下候

一、先月十六日以書中申上候相届キ御披覽可被下と奉存

候

一、去冬跡御買入花夏中早々御通り御登し可被下と奉存
候心得奉存処、今に何之御左右も無之候、其御地など
御拂被為成候や、一向御状等不被下如何御戻敷奉存候、
御代宗七殿疾ニ御下り可被成之処、其御地も御荷も御
遣し可被成御まぢ天童浦城を江戸廻し荷も有之候、旁
御見合被成御坐候、御印紅花代仕切状も先々御渡し申
仕廻申候、当月中ニハ御出立も可被成候、嘸御まぢ兼
被成御坐候半与奉存候、何卒御手廻しはやく御出立被
成候様ニと奉存候、御状も御出し被成候、委敷可申参
と奉存候

一、新花前金御取かへ申様ニと宗七殿被仰候儀も、金子
殊外不廻り御坐候ニ付、此節後下し不申御断申上候、
御心当テ被成下間敷候

一、今年も其御地何エトやらん下直ニ有之間敷様ニ奉存
候、先便ニ申上候通、能々御覽慮之上、出来相応利口
御坐候ハ、御買調御尤奉存候、尤若し高直ニ候ハ、
御見合セ可被遊候

尚委細之義、宗七様も可被參候、大略仕候、尚期重便
之時候、恐惶謹言

六月十一日

今田弥兵衛様

參人御中

伊勢や

理右衛門^印

健可被遊御入珍重奉存候、此方無事罷有乍憚御安意可
被下候

一、七月四日出舟便貴札相届き忝拜見仕候、隨而

へや^天点印紅花吉駄

式袋

但し十六入二丸

十七入二丸

七〇 書簡(紅花荷物と手板表の相違に付)

(端裏書)
「戌八月伊勢屋理右衛門殿方書状」

尚々乍末筆源藏様へ宣數御一統可被下願上候、

一、其御地田畑定而^(虫喰)□□□可有之奉存候、大

坂相場之事承右別紙ニ申候ハハ御覽可被下

候、取込早々已上

一筆啓上仕候、秋冷相催し其御地御家内御揃、愈以御勇

右之通御手板表之通、舟中無難上着大慶仕候、先以不
相替御出荷外聞旁忝仕合奉存候、

一、右御荷物御添状表ニハ右ノ印式駄式袋と御認メ有之
候、如何哉と奉存候へ共、御手板表吉駄式袋と有之候、
其子ニ御座候、定而跡為御登御積哉と遠察仕候、為念
此義申上候

一、右新花御支配人様も何運か御遣し被成候や相知不申
由、追而可被仰下と奉待存候、尚隋分々致吟味相応
宣數直組有之候ハ、売捌キ候様ニ出情可仕候、追而
御吉左右可申上候、尤走り花被取上、仙台も先達而

相走り有之候へ共、御国元到着而高直成物御坐候故、中々引合兼、以今商ひ事始り不申、何共直打申上様も無之候、此様子ニ候得ハ、今暫ク間取可申相見へ申候、成程出来者宣敷候へ共、去年之紅花格段高直ノ義ニ而紅花衆聞きおぢ致し取引一向出来不申候、来月へ至不申而ハ駈ニ商ひ有之間敷奉存候

一、其御地段々御買入右御状御遣候迄、是五駄片馬計御造立被成候由、追々御送り御登し可被下と奉存候、一体者水花御仕入も拾駄余御出来被為成候由、御買口宣敷直段引下ケ能キ御買物御座候得かしと奉願候

一、右新紅花御買入ニ付、金子蠟の仕入方ニも御入用ニ御坐候間、此節百両も早々下し候様ニ被仰下候共、此方も為替等追々申上、新只今くり合出来兼申候、尚又此未廻り合出来次第下し候様ニも可仕候

一、先月十六日出し歩判金五拾両大石田へ下候金、次手有之故指下し申候、先此相届キ御請取可被下と奉存候、都合百五十金ニ御取替相成り申候、御帳合被成置可被下候、其外無相替義先々右荷物無事着仕候段、得貴意

申上度、早々如此ニ御座候、猶期後音之時候、恐惶謹言

伊勢屋

理右衛門 ㊦

吉兵衛

戌八月十六日

今田弥兵衛様

同 弥内様

参人御中

七一 覚（へや印御取替の目録）

（端裏書）

「へや印御取替ノ目録」

覚

戌五月十六日

一、歩判金百兩 福嶋飛脚へ差下シ御取替

一、七兩貳歩 五月十六日より極月廿日まで

〆七ヶ月半一分之日相

一、拾六匁 切賃

一、金貳歩と四匁六分五厘 下シ駄賃割合かし

同七月十七日

一、歩判金五拾兩 大黒屋飛脚へ差下シ取替

一、貳兩三歩 七月十七日と極月廿日迄

〆五ヶ月半ノ日相

一、六匁 切賃

一、金壹歩ト まし三百文代

四匁六分五厘 下シ太賃

同十月六日

一、歩判金百兩 大黒屋飛脚へさし下シ取替

一、三兩 十月と極月迄

〆三ヶ月日相

一、拾五匁 切賃

一、金貳歩五匁三分 百貳兩

但し宗七殿と貳兩御たし被成候合、

右下シ太賃かし

十月廿九日

一、八匁五分

〆大五丸

手板不そく

石田へ払

霜月十二日

一、三匁

山中へ

九拾貳文払

極月廿九日

一、四拾壹匁

へや印口々

四分五厘

大津駄賃

川口へ払

〆貳百六拾四兩貳歩

百四匁五分五厘

Ⓜ

右之通御取替御座候、別紙紅花代惣仕切目録ニ而右〆高
請取申候事

伊勢屋

亥二月

今田弥兵衛様

理右衛門

可申候、以上

(大石田)
六沢屋金十郎 ㊦

亥六月十七日
(二十七)

今田弥兵衛殿

七二 覚 (や印紅花大石田蔵入)

覚

へや印五駄壺固 紅花

但四面附

銘々小印二而

外二

手板 六枚

添状 三通

通り之判

酒田行之状

送金〆三両六貫文

右之通槌請取申候、近日中能舟ニ積入早々酒田へ指下し

七三 覚 (中野惣七様へ御取替目録)

(端裏書)

「中野惣七様へ御取替目録」

覚

去酉十月三日付落

一、七匁五分七りん

錢五百文かし

同廿七日

一、五匁

古手代ましかし

一、壹匁七分六りん

歩判三拾五両

太賃七百廿六文

百五拾文天童へまし

此所十式匁受取置指引不そ
くかし

極月廿日
一、壹匁貳分七りん

二大ゴク印壹駄

手板不そく葛谷殿分白銀屋へ

渡ス

ズ

戌八月廿日
一、四匁六分五りん

錢三百文かし⑩

九月六日
一、四拾四匁八分五りん

秤三挺代

専徳殿へ払

同八日
一、拾貳匁

七百七拾八文

芝居割かし

一、歩判
一、歩両貳歩

御参宮ノ節かし

九月廿日
入壹両三歩

預り有

九月廿四日

一、歩判拾両

かし

一、壹歩ト三匁壹分五りん

右三ヶ月

ズノ日相

一、壹匁五分

切賃

霜月三日

一、歩判壹両

かし

同九日

一、歩判五両

かし

一、貳匁

勢州状賃

五度かし

同廿七日

一、金拾両

大坂へ御下りノ節かし

極月四日

一、三匁壹分

錢貳百文かし

同廿六日

一、金拾両

兩度ニ相渡シかし

同廿九日

一、金壹歩

丈助へ遣し候節かし

同
一、金三歩

かし

一、壹匁三分

霜月六日天童へ御下シ状ち

㊦

んかし

一、壹匁三分

浦城喜兵衛殿
御下シ状ちん

御下シ状ちん

ノ

亥正月十二日

一、歩判五匁

かし

一、七分五りん

切ちん

同十四日

一、小判貳匁

大坂へ唐弓壺代下シかし

同十七日

一、歩判壹匁貳歩

かし

同

一、八分七りん

大坂駄賃私

五十五文代かし

二月十七日

一、金貳拾匁

花代ノ内ヲかし

同廿四日

一、金貳拾匁

渡シ

同廿七日
一、歩判壹匁

かし

三月朔日

一、九匁五分

柳合利代六百廿文かし

四月十五日

一、歩判壹匁

かし

廿九日

一、同 壹匁

かし

五月十七日

一、同 三匁

かし

廿三日

一、金貳歩ト

かし

七匁六分 五百文代

惣合

金九拾貳匁ト

百八匁壹分七りん

此金壹匁貳歩拾貳匁八分 ㊦

指引金ニテ

ノ九拾三匁貳歩

惣七殿分渡シ高

拾貳匁八分 此表紅花代別紙惣仕切目録表へ

付出シ候て受取申候

添状 三通

右之通御取替ニて則書付惣七殿へ相渡シ、此方帳面ニ

通り御判

夫々請取印形有之候事

送金式両式歩七貫文

伊勢屋

〆

亥ノ六月

理右衛門

今田弥兵衛様

右之通り隨請取蔵入仕候、近日中能舟積合早々酒田指下
し可申候、以上

惣七殿へ取替遣し候品々也

六沢屋金十郎

亥七月八日

今田弥兵衛殿

七四 覚（へや印紅花大石田蔵入）

覚

七五 覚（大石田より為登荷）

但駄ニ四固附

覚

へや印四騎片馬

内欠印有り

へや印耆丸 近江表

外ニ

〆

手板 六枚

右之通当所弥十郎達ニ為登積申候間、濡様御改御請取可

被成候、尤運賃相渡し申候、以上

(大石田)
六沢屋金十郎 ㊦

亥七月拾日

田井

今田弥兵衛殿

送金三步巻メ五百文

右之通り儘請取蔵入仕候、近日中能舟積合早々酒田へ指
送り可申候、以上

(大石田)
六沢屋金十郎 ㊦

亥八月四日

今田弥兵衛殿

七六 覚 (へや印紅花大石田蔵入)

覚

へや印五箇紅花

外二

手板 式枚

添状 式通

内老通酒田行

通り御判

七七 書簡 (惣七紅花代金滞の書付相渡に付)

(包紙)

一 田井村庄屋

弥兵衛方

上山役所

先達而其方相願候長漕御料荷口村惣七江相掛候紅花代金
滞之儀、長漕ニ而吟味有之候処、此間申来候趣、則写遣
候通之文書二候、仍長漕方戻候書付式通相渡候、此上者

其方了簡次第之事二候間、得与理害相考、存寄役所江可
申達候、已上

亥十一月十日

浅野藤太夫

田井村庄屋

弥兵衛方

紅花六駄片馬六袋 若山屋喜右衛門指引表

内卷駄四袋庄内酒田大沼仲兵衛仕入紅花、則差付

送遣ス

三駄拾八袋当亥春差附送り遣ス

此代金貳百九拾貳兩三分銀貳拾八匁九分

右之内六拾貳兩貳分五匁八分ハ、差附紅花代殘金御

座候間、惣七請取申間敷候処、請取之口ニ付、則喜

右衛門方江不得其意趣申遣候

金七兩壹分拾壹匁七分 右同人方惣七請取

是ハ去戌九月紅花仕入代金不足惣七江相渡候分

合金六百五拾兩三分銀九拾四匁九分

内

去戌五月十六日出

金百兩

伊勢屋理右衛門方紅花前金借用

同七月十七日出

同五拾兩

右同人方借用

同十月六日出

同百兩

右同人方下し金

同拾三兩壹分

右同人江日相金仕切表ニ而済

七八 紅花代金差引勘定寛

紅花代金之寛

五百匁入

一、紅花拾五駄 拾六袋

此払取

紅花八駄片馬拾袋 京都伊勢屋理右衛門仕切写表

内三駄拾九表紅花前金請取候渡し、差附二送遣し

候

此代金三百五拾兩三分銀五拾四匁三分

同壹兩壹分五拾壹匁六分 右同人江步判切賃金子駄ち

長瀬

ん仕切表にて済

御役所

銀五拾貳匁九分五厘 右同人江駄賃不足銀仕切表二而

済

金四拾五兩 右同人喜右衛門濟方相渡ス

金貳百貳拾九兩三分銀五拾匁九分

七九一 書簡(年賀)

喜右衛門方差引表二而請取

金壹兩

谷地甚兵衛・惣七方借用仕候由

相断置申候

尚々^(ママ)乍外恩御袋様初御内上様江宣敷御心へ被下度奉頼
上候、以上

(貼紙)

一金五兩貳分貳朱

紅花七駄片馬、壹駄二付売口錢

三分宛引之

小以五百四拾八兩壹分

陽春之御吉慶不可有尽期目出度申納候、先以弥御勇健御
越年可被成与珍重之御義奉存候、当方無異儀加年仕候、
右年始之御祝義為可申上如斯ニ御座候、猶期永日時候、
恐惶謹言

銀九匁八分貳厘五毛

柴田弥右衛門

殘金百四兩銀六匁三分貳厘五毛 不足分

同 弥之助

右之通紅花代金差引勘定仕候処相違無御座候、以上

正月七日

松平山城守領分

今田弥兵衛様

亥九月

田井村弥兵衛

同 弥内様人々御中

七九一二 書簡 (紅花三駄通判願)

……………(前半欠)……………

指為登申度奉存候間、右紅花三駄之通判申受度、此者遣
シ申候間、御承知被下、此者ニ通判御渡シ被遣可被下候、
尤御役料此者ニ御書附被遣可被下候、早速御上納可仕候
一、紅花 三駄 但シ四固附

荷主谷地大町

弥右衛門

右之通ニ御座候間、山形表茂宣敷相通申候様ニ御書附被
遊被遣可被下候、貴面之節御礼方々可申上候、以上

柴田弥右衛門印

正月七日

今田弥兵衛様

同 弥内様

参人々御中

八〇 書簡 (年賀、紅花景況)

追啓上仕候、旧冬其御地御商事御懸方等思召儘御取可被
遊、尚々以目出度奉存候、下御方相応例之格取集仕候、
乍憚御安意可被下候

一、御代中野惣七殿御義、随分御堅身御逗留被成、御重
歳候半、御安堵可被下、乍憚御同悦奉存候、此段右御
宿元へ早々御達し可被下候

一、其御地も去冬中何ニ迎御文通ハ出し不被下候哉、余
りの事ニ不審申居候、去秋御出状被成候儘、其後一向
一通も参り不申候、若し道中ニ而相滞候や、御出し被
成便ノ品ヲ御聞せ可被下候、承合可申と奉存候故、如
此申上候

一、御印紅花之義、及御聞も可被下、以之外不位御座候
故、折々惣七殿へ及御相談見候得共、御見合セ御覽可
被成よし、御損多出候物故へ御尤ニも奉存候、其内外々
へ御出し御覽、惣七殿も殊の外御心遣ひ被為成候御事

二御座候、去秋中段々御出荷御商ひ事申上候分

覚

一、三木紅印巻駄七袋 現金 四十一兩かへ

御座候、尤去冬之分御相談ノ上御商ひ事申上候分

覚

霜月廿五日

へや大印五丸 三拾八兩かへ

極月十五日

同紅印巻駄 四十一兩かへ

同八日

同大廿三袋 三拾五兩かへ

旧冬押詰

同大拾丸 四拾五兩かへ

同日

同大四丸 四拾兩かへ

右之通売付申候、随分相働キ出情仕候得共、及御聞可被

下、全体当地不位ニ御座候故、其御地御元着へ不引合御

損金多被為出候段、気毒千万ニ奉存候、惣七殿ニも右之

口々付花御取出し談々御見セ、其内直上候御聞合被成下候、外々私方直段宣敷こなして御売不被成候、至極厳敷御吟味御座候、勿論御損多出候物二候へハ、方々へ御見セ被成候事も御尤と奉存候、此方至極相働キ候得共御失意被為出候故、其働キ目も見得不申残念、時節悪敷と申物者致候様無之物ニ御座候、紅屋中ニ古花持多、花屋内思之外古花有之、去霜月迄新花之商ひ者薄ク、古花見切売候故、其方先キへ売捌ケ申候、段々売透き候て、極月へ入中旬頃少し新花望人出、一旦少し直段も直り申候、併紅屋方買進ミ不申、花屋内素人方ニ少し思ひ入レ、買有之候て商ひ事御座候、下地直段も式三兩余引立商ひ事有之候、御印余り御損毛候得者、春々へも御見合御覽可被成よし、其外ハ御見合被成候、時々之様子其御地之及御聞可被下候得共、右売レ口御覽被成候而者別而御掃リ可被遊と遠察仕候、尚又委細之義宗七殿可申参候得共、右之段々得貴意申上度、如此御座候

一、其御地跡買被成置候よし、定而春中御登し可被遊と

推察仕候、三月中至候ハ、相応買人出可申候、春為

登御尤ニ奉存候、差而目当テも無之候得共、余り紅屋
中買不申候、此末紅屋手元透キ候ハ、自然と買人可有
之様ニ奉存候、尚又相替事候ハ、重便可申上候、先ハ
右之段々得貴意申上度如此御座候、尚永春之節万端可
申上候、数通相認殊外取込儻筆御免ニ可被下候、早々
以上

伊勢屋

理右衛門

理兵衛

④(京都伊理)

正月九日

吉兵衛

佐助

今田弥兵衛様

参人々御中

八一 書簡(紅花勘定仕切違)

正月六日出之御状、昨廿八日当着髓拜見仕候、如貴命御
家内様御揃余寒ニ無御障御勇健ニ被成御座奉珍重候、当
方無為ニ罷在候間、乍憚御安慮ニ被下候、且又此度去秋
中追々為差登候紅花荷物御任申上置候処、御誠情之御働
を以夫々之仕切状並差引書表へ、殘金三拾三兩三分、丁
錢四百四拾八文髓落手仕候、尤時之相場と乍申初秋より
余程引下ケ候様ニ奉存候、殊ニ古花之義、去夏此方ニ而
茂直附等有之候、全駄ニ金拾兩之御勘定違哉と奉存候、
依之仕切状差戻し申候、相違無之義ニ御座候ハ、無廻義
と奉存候得共、余之下直ニ御座候故、若御算用違ニ而茂
可有之哉と奉存候間、如此得御意候、御尋申上候も氣之
毒ニ候得共、勘定合之義者御榮之義御座候間、幸福嶋便
乍御報如之得御意候、恐惶謹言

今田弥兵衛

正月廿九日

伊勢屋源助様

善七殿

御座候間、左様ニ思召可被下候、尚重便之期時候、恐
惶謹言

いせや

三月六日

理右衛門

同 見セ 判

八二一一 書簡（紅花相場等）

今田弥兵衛様

参

一筆致啓上候、先以当春者年頭之御状御登被下、恭落手
致候、弥其御地御勇健ニ可被遊御座、珍重ニ奉存候、当
方無異儀罷在候、乍憚御安慮可被下候、然者惣七様ニも
御堅勝ニ御座被成候間、御同事ニ思召可被下候

八二一二 書簡（紅花買入に付）

一、御印春荷物定而御積出可被遊与奉存候、追付着次第
御右左可仕候

一、此度金子差下シ申度候処、外々ニ下シ金子も無御座、
少金ニ而も駄賃同し用ニ相遣候故、先此度ハ指扣申候、
跡方見合組合セ有次第ニ早々下し可申候間、左様御心
へ可被下候、親方ハ書状被遊度候得共、折節持病さし
掛り見世（店）より乍憚代筆仕候、紅花相場之儀相替義も無

追啓、右鷺渡川原新花荷口方取出し付花見候処、当年甚
不出来御座候、酒田大沼殿状面見候処、不出来ニ而、最
上花方不釣合候故御扣へ被成、漸々片馬ノよし、無数御
買入御花ニ奉存候、去年之今年ニ候得ハ、中々花の佳程
下直ニも御買入兼、左候ハ、御扣へ被成候段御尤ニ御座
候、則返書ニも其義申遣候、内々左様思召可被下候、尚

追而御地方之御指図可被下と奉待存候、今日数通相認メ
取込早々申上候、以上

伊勢屋

八月廿九日

理右衛門

今田弥兵衛様

貴下

八二一三 書簡(紅花売買に付)

別紙を以申上候、愈御勇健被遊御入珍重奉存候、御代宗
七殿随分御堅身ニ御逗留被成候間、御安堵可被下候

一、御印紅花御売り有之候故、未夕御見合被成候、貴家

様跡買之紅花、春登し可被成候、此登り口も御待被成

居候、弥御送出し被遊候や、御便御床敷奉存候、外ニ

天童浦城殿江戸廻し紅花茂式取太余り有之候、其花御支

配被成候、今暫御見合、其上追而御下り可被成候、兎

角其御地方御左右奉待候、……………(以下切レカ)……………

八三一 書簡(紅花不景氣に付)

尚々申上候、大谷印只今直付仕り候所、三拾八両ニ
直付御座候而、此直段ニ而何共氣毒ニ奉存候

以飛脚一筆啓上仕候、然ハ寒氣罷成候へ共、弥々貴御地
皆々様御堅勝ニ可被遊御座候、珍重奉存候、下拙無事罷
有申候

一、紅花殊外不景氣罷成、何共氣毒ニ奉存候、然所ニ当

月下金義、不景氣故一切借り金不仕候間下シ兼、何共

申訳無之候間、下直ニ而も少々茂相払申候ハ、来月

五七拾両も指下シ可申奉存候、然所ニ天童いせ屋トハ

拙者売兼候所ニ、勢州たんなる人々を遣候而、三拾五

六両ハ四拾両迄、不残相払申候、外ニ少荷物ハ右之相

場ニ御座候間、見合候間左様思可被下候、何共只今之

様子ニハ、引上候様ニハ相見不申候而、気毒ニ奉存候、何分替之もの共持兼、老駄式駄つ、下向の何のと申候而、売付候間、一向紅屋方ニ而下直の直打故、買込人無之候間、段々不景氣罷成候而、御そんふかく候ハ、何共気毒ニ奉存候、当年中買入申候ハ、少々も売付候も相願連不申候、何分買仕候而も五七駄も春中迄見合可申奉存候間、左様思召可被下候、早々恐惶謹言

中野惣七

十一月十六日

今田弥兵衛様

八三十一 書簡(紅花代金送金に付)

尚々去冬中之商申訳も無御座候へ共、当年之ふかゆきの様子、少々成共心付候ハ、何様存兼下リハ仕間敷候ハ、何共気毒ニ奉存候

市庄二郎様下り便ニ而一筆啓上仕候、段々暑氣能成候処、弥々其御地皆々様御揃ひ御堅勝ニ可被遊御座候、珍重ニ奉存候、下拙無事罷有候、乍憚御康氣可被下候、然ハ当地紅花只今相場少々引上候処、様々日会勘定存してあげ不申候、然所ニ拙者買返シ荷物、只今ニ利分無之候ハ、見合候故、今ニ下りも相知不申候、左様思召可被下候、次ニ伊勢屋利右衛門殿江、無々頼入金子可申候へ共、当年ハ不商ニ候ハ、何共下シ金成不申候様ニ被仰候間、左様思召可被下候、次ニ若喜殿江ハ段々御咄仕候所、此度之指付之荷物江之引当金子も、又注文金子茂一度ニ御下シ被成様ニ、七日出シニ仕ル様ニ被仰候間、可然と奉存候、此未宣敷事も御座候ハ、拙者荷物相払帳下り可申候間、左様思召可被下候、早々恐惶謹言

中野惣七

六月十二日

今田弥兵衛様

八三一三 書簡（紅花不景氣に付）

尚々中物三拾式三兩ち六七兩迄、上物四拾兩ち三四
兩迄仕候、諸事藤左衛門殿様子御承り可被成候、右
相場二而も買すこみ不申候間、見合申候、就ハ商事
もながく罷成候ハ、越年ニも可罷成奉存候間、左
様ニ思召可被下候

榎藤左衛門殿下り便、一筆啓上仕候、然ハ寒冷罷成候へ
共、弥御堅勝ニ可被遊御座と、珍重奉存候、下拙無事ニ
罷有申候、扱々紅花不景氣ニ而氣毒ニ奉存候、然所ニ藤
左衛門殿御払候節、拙者荷物義ハ、老駄ニ付何も五六兩
の御そんニ而払兼候処ニ、只今ハ殊外のそんニ御座候
ハ、商事も仕兼候ハ、越年ニも罷可成奉存候間、左
様ニ思召可被下候、当月之下シ金義、金切ニ而工面仕候
へ共、成兼申候哉、無心元奉存候、たとい下シ金仕候と
て、老駄ニ付三拾兩位ならて無御座候ハ、た、五拾兩
計なくて成かたく御座候と奉存候、此金も今に出不申候

ハ、当十五六日か来月かも相不知不申候間、左様思召
可被下候、早々恐惶謹言

中野惣七

霜月十日

今田弥兵衛様

八四一一 覚（紅花仕入錢請取）

覚

一、錢三拾貫文 但し鏝也

右者当子之紅花仕入代之内被遣、髓ニ落手仕候、為念以
上

六月十九日

和市

田井

弥内殿

八四―二 覚（紅花仕入錢請取）

覚

一、錢貳拾貫文 鑑也

右者当子之紅花仕入錢之内、隨ニ請取申候、為其以上

六月廿二日

和市

田井

弥内殿

八五 書簡（惣七荷物盜まれに付）

惣七殿方御こし被成候状面写（荷物盜まれ候事）

態一筆啓上仕候、段々暑氣甚敷成候処、弥々貴御地皆々様、御堅勝可被遊御座と、珍重奉存候、下拙義、ながく

御世話罷成、忝奉存候所ニ、今度下拙義、一生之あやまち仕、坂下江ちかつめ日くれ罷成候処ニ、あとさき方三人出荷物ヲをいおとし、其上拙者ヲおいまわし、拙者高約とほにくれ、何のなさけなく荷物取れ、荷物持も拙者もばらくに罷成、命計たすかり、わき道にげ、其上坂下ニ宿かり候処に、忝人もの宿かし不申、無寄仮にせきニ而この世を明し、夫方勢州ニ参りかと存候へ共、何分無申訳様ニ存候而、夫方心なていき不申、うるく仕下り申候へ共、中々国元江此手に而ハ参兼、何方ニも先とうりう可仕候と存候間、左様思召、国方江そい状宜敷様ニ被成頼入申候、何分拙者あなたこなた江も何共申訳無御座候故、此通罷成候間、御すいりう被成可被下候、残るものにハ出立もの、外ニ金八両計こしに付候間、少しヲちから任候

一、若喜様之書状ハとも皆々仕切、皆々書状迄無之候へハ、又ハ貴御地江相返り可申と存候へ共、又々このみちにも追而御状指上可申候、くさりハ候へ共、国元江何分宜敷書状願上申候、何分ふんしやうも出不申候間、宜敷

様ニ御状下し可被下候、何分奉願上候、若当秋今田浦城
方も、是ニ付差登り可申候間、拙者当年中ニハ下り兼
可申候間、右様ニ思召可被下候、何様ニも貴公様方之御
取なし頼入申候、かならずく宜敷御頼上申候、早々已
上

くわなち

六月廿五日

中野 惣七

伊勢屋理右衛門様

右之状六月卅日昼過小八つ時分

飛脚者と見江、みせへほふり込届ケ申候

八六 書簡(紅染屋との訴訟一件裁許に付)

一筆啓上仕候、時分柄残暑甚敷御座候得共、貴御地御家
門御揃弥御勇健ニ可被成御座、奉珍重候、次私共儀江戸

表從御奉行所御召ニ而、先月廿八日当着仕候、然ル所、

当月四日御勘定所小野日向守様、御役所ニ而願人並京都
紅染屋私共三方御召出ニ而、別紙書付之通被仰渡候、仍
之双方相済帰京仕候、商ひ事之儀者、三拾年以前之心得
ニ而商売仕候間、御荷物御用之儀、不相替被為仰付可被
下候、奉願上候、尤京都紅花景氣之儀、私共出立以後、
追々残古花直段宜敷相成申候段、書状ニ而申候、定而今
年者新花も相応相捌可申哉と奉遠察候、外ニ相替義無御
座候得共、去年中も永々紅花一件、江戸御公辺向及出入
候処、此度御裁許相済申候ニ付、右之段為御知申上度、
乍略儀御連名ニ而奉申上候、恐惶謹言

江戸族宿ニ而相認申候

七月六日

紙 屋 勘兵衛

若山屋勘右衛門

伊勢屋理右衛門

若山屋喜右衛門

池田屋 五兵衛

山形屋八郎兵衛

次第不同

田宮五郎右衛門様
細谷 庄右衛門様
鈴木 庄 七様
細谷 五郎兵衛様
真木 新 助様
今田 弥兵衛様
勝森 小 八様
市 藤三郎様
田宮 八兵衛様
柴崎 孫右衛門様
内藤 次郎兵衛様

藤屋 市左衛門
若山屋 又兵衛
若山屋 孫兵衛
伊勢屋 源 助
近江屋九郎兵衛
紙屋 治右衛門

西田 次郎兵衛様
日野屋七郎兵衛様
伊藤 佐兵衛様
真木 藤左衛門様
和田 太兵衛様
柴田 弥右衛門様
伊勢屋 善五郎様
兩所
和田 兵左衛門様
東根
三井 七右衛門様
同所
門脇 伊左衛門様
寒河江
安達 又三郎様
同所
中村 庄兵衛様
同所

大沼 三次郎様

新庄

遅沢 庄右衛門様

白岩

田中 弥右衛門様

右之通別紙請書証文相添、相廻し可被下候、此外御名前
落申候処御座候ハ、乍御面縦御廻し可被下候、尤御所
遠近不存候間、御勝手次第段御順達可被下候、右書付廻り
留り、私共内へ京得為御登之、物之次手ニ為御登可被下
奉願上候、以上

八七 書簡（紅花荷物大石田蔵入）

尚々送金之内老歩目不足在之、則御才料衆御返申上候、
此分其内御届ケ被下候様奉願上候

貴札恭致拜見候、如仰甚暑御座候へ共、御家内様弥御堅
勝被成御座、珍重奉存候、此方無為罷在候、然ハ然ハ此
度御印紅花御荷物つ出被下、無事着髓請取蔵入仕候、近
日中能舟積合早々酒田へ指下し可申候、尤手板金不申積
舟積仕様被仰下承知仕候、当出舟其内可申上候、追々御
用茂被仰聞被下度奉願上候、右御報迄早々恐惶謹言

（大石田）
六沢屋金十郎 印

七月七日

今田弥兵衛様

参人々中

八八 覚（や印紅花酒田船積通知）

覚
（や）大 二
天 四丸 十七入

佐州 有田久四郎船

七月二日出船

同大 貳丸 十七入

同山 貳丸 十六入

老駄

藤塚や権右衛門船

同大 貳丸 十六入

同大 壹丸 十七入

藤木や三郎右衛門

同大 貳丸 十六入

同大 壹丸 十六入

米や源兵衛船

右之通夫々積入申、日和次第仕候間、左様御心得可申下

候、出船次第為御知可申上候、以上

本間与次右衛門

七月七日

今田弥兵衛様

八九 書簡(紅花代金出入に付)

六月晦日出御状、当十五日相届忝拜見仕候、如仰御堅勝
ニ被成御座、珍重ニ奉存候、此方不相替罷有申候、去秋
中ち惣七長逗留仕、御世話ニ相成忝奉存候、其上此度紅
花代金取集、勢州へ罷下り坂下ニ而盜賊会、荷物紛失仕
候由被仰下、察入申候、委細之紙面被仰下候、惣七方ハ
態々人々下し被下候様、其上半かみかうも有之候ハ、御詮
義可被成下段、是巳頼ミ仕罷有申候、乍御世話何分惣七
貴下様罷歸り申候ハ、仍て御尋被下候而、相成義ニ御
座候ハ、御吟味被成下候様ニ奉頼候、右候ハ、惣七も
相立義ニ御座候間、何分宜敷奉頼候、損毛上ノ損毛故、
十方くれ此節難尽筆紙ニも奉存候、御推通可被下候、何
分宜敷御吟味相成候様ニ奉頼候、委細跡あと可申上候、支

配人為相登、年々毎不將成義、此後之商事仕候ハ、御任せ御頼申義ニ御座候、勿論少々仕入も追付出荷仕候間、其節書中を以可得御意候、此度之義ハ貴得御賢慮を以、商事ニ取統候様ニ御工面之程奉頼上候、右惣七不埒仕、帰国茂相成間敷、此所も氣毒御了簡を以、右紛失金藤々も取返申候ハ、惣七も相立、殊ニ私方ニ而も商事相統候義、此所何分宜様奉頼候、委細ハ近便ニ可申上候、恐惶謹言

今田弥兵衛

七月十六日

伊勢屋理右衛門様

御報

九〇一 書簡(紅花代金出入に付)

天童浦城伊兵衛御登、一筆啓上候、然者八月廿九日出し

之御細書、当月十九日ニ当着、慥ニ致拜見候、如貴命冷氣相成候処、弥御家内様御揃御勇榮ニ被成御入、奉珍重候、当方無異事罷在申候、然者追々被仰下候通、中野惣七殿御事、不慮成義之由ニ而、貴公様ハ御渡被成候紅花代金、相渡し不申候、近年打統拍子悪損毛、其去年中ハ格段之損金、猶又追々被仰下候通之悪行之旨、去迎て心外ニ存、其通ニ者難相成、併手懸りも無之、手段及工面候処、中野氏在所江帰家之由承之候間、一応催促仕候得共、何レ共挨拶不仕候間、不得止事地頭役所へ御訴詔申上候処、委細御尋之上聞届、国役所中江御文通被成下候得共、今以何之訳も不承候、併中野氏村預り之体ニ罷成候之由、視及承候、惣七殿御事御公料所ニ御座候間、此地ニ而ハ埒明申間鋪候条、御公訴も外有之間敷奉存候、右ニ付書面共之内ニ相調べ見候処ニ、二月中仕切目録諸指引相濟候趣、写し書被遣候処、何共相濟不申候二月中ニ代金御渡し被成筈ニ者無之様ニ奉存候、正月出書面着後、早速帰国為致、荷物を御任申上候旨被遣候、此方ニ而も難止得事共風聞御座候間、中々逗留仕候仁へ、二月

中ニ不殘代金御渡被成候御義、甚難心得御事ニ奉存候、然ル上ハ此地ニ而内証不結義有之、御馴合与奉存候、其詮も段々書面共相調へ見候処、三月六日出書状ニ、近便ニ差引殘金可差下趣被仰遣候間、右之一体其後何共御沙汰止被成候、御実体之御取計ひ与者不奉存候、中野氏逗留被致候ハ、直々此方へ金子御下し被成候得者、ケ様之不埒出来不仕候、畢竟御勝手筋有之哉、又者中野氏御取替両相成、此方差引へ入被成候様奉存候、正月出し御報も所持仕居、殊三月六日出し御書面之代筆両通、則当役所へも入熟覽置申候、何とやら仕切目録与諸差引写、惣七殿下し殘荷物御任申上与、御頼入遣候処、御互ニ書面共相調候得者、難相訳候、後而悪因縁ニも相成間敷哉、心外ニ相心得罷在申候。

一、大沼仲兵衛殿と庄門紅花片馬送り参候由、間違ニ御座候、此荷物之義ハ御同性源助様へ送遣候様ニ申遣候処、先年と貴丈様宿之義ニ御座候間奉存候、源助様御内平八殿へも頼遣申候、夫共御間柄之義ニ御座候間、被仰合可然御取計可被下候、源助様御方江荷物送り添状ニも申遣

置候、紅花に御座候間、定而御待可被成与奉存候、貴丈様御支配被成下候ハ、伊源様貴丈様も御断被仰立可被下候、鈔荷物ニ御座候間、支配之儀者何方ニ而不苦候、只願所拍子能御弘申度計ニ御座候、右筆可得御意、如斯ニ御座候、恐惶謹言

九月廿一日

今田弥兵衛

伊勢屋理右衛門様

御報

九〇一二 書簡（紅花代金出入に付）

六月晦日出書状 （玉喰） 相達、忝拜見仕候、如貴命御家内様御揃御堅勝ニ被成御座、奉珍重候、当方無異事罷在申候、去秋中も惣七義越年仕候ニ付、当早春以書状申上候通、荷物共貴公様並若喜様御両家江、殘荷物御任帰国仕候様

二、惣七方江も申遣、勿論貴公様江も右之段得御意候処、天童伊勢屋荷物、江戸廻り差後、片付帰国可致趣、被仰下候処、貴公様御預り荷物相片付、其後逗留仕、先達而市庄次郎殿御下り便之御紙面二、紅花代金目録差引書共ニ御後被成候由、承知仕罷在候処、此度惣七義、勢州罷下り坂下ニ而盜賊出会、荷物紛失仕候由被仰下驚入、氣毒千万ニ外実共御察可被下候、委曲御紙面被成下候通、惣七方へ態人御下し御尋之上、半掛も有之候ハ、御詮義可被成下候段、是之已頼ニ存罷在候、惣七事貴公様へ御引寄被下候ハ、何方へ御尋被下候而、兎角金子ニ相成候様ニ御吟味被成下度、幾重ニも奉頼上候、近年打続損失、別而去年中仕入荷物ハ格段之損而已、其上ケ様之變難十方くれ、此所御推量可被下候、乍此上ノ手懸りも御座候ハ、宜御吟味奉頼上候、委細跡方可申上候、扨々支配人為相登、年毎之様ニ不埒成義出来、扨々心外成御事、此後商事仕候ハ、御任御頼申義ニ御座候、勿論当仕入も追付当地出荷仕候間、其節以書状可得御意候、此度之義ニ、貴公様御賢慮を以、紛失之金子取返候様ニ相

成候ハ、商事取続可申候、何分御工面之上、御吟味懸合奉頼候、右惣七不埒仕、帰国も相成間敷義、氣之毒ニ奉存候、右紛失金御座候も取返し候ハ、惣七義も相立殊ニ私方ニ而ハ商事相続仕義、此所御賢慮之上、何分宜様ニ御取計奉頼上候、遠国之義商事道宿頼候杯罷成候間、以重閑不相成様ニ懸合、御求宜様ニ奉頼上候、不忠變難故、前後致而已、乱筆御用捨可被下候、猶又追便ニ可得御意候、恐惶謹言

今田弥兵衛

七月十五日

伊勢屋利右衛門様

利兵衛様

追而天童伊勢屋喜兵衛殿式通、則相達受取差遣申候、谷地市庄次郎殿尅通、是又相達申候、以上

九一 覚（や印紅花大石田蔵入）

覚

へや印 三丸紅花

同印 式丸 同

外二 手板 式組

通り御判

御添状共

送金巻両卜老貫文

右之通り慥請取蔵入仕候、近日中能舟積合、早々酒田指

下し可申候、其内出舟可申上候、以上

七月廿三日

今田弥兵衛殿

六沢や金十郎 印

九二 覚（千紅花代金請取）

覚

一、金巻両也

外六貫百廿文

都合式両也

右八千紅花代金之内受取申候、為念如斯ニ御座候、以上

七月廿九日

藤次郎 印

弥兵衛殿

九三 書簡（へや印紅花酒田船積通知）

追啓上仕候、先月中八小三郎為差登何角と御世話被成下
恭奉存候、然者先達而紅花運賃金四両御下シ被下慥受取

申候、其節何角取紛早速書状も差上不申御無沙汰仕候段、御用捨可被下候、且夕先達而積付申上候^(マ)、^(マ)御印紅花^(マ)啓駄、佐州赤泊宇左見権七船、当七日爰許出船仕候、外に^大今^大や同老駄、佐州松ヶ崎勝陰長五郎船積入、昨日出舟仕候、左様思召可被下候、扱又此間村上ちや老本為積登候間、其御地着次第御受取可被下候

一、此方当年者金子払底にて至三而難義仕候間、去年中差

引殘金、此小三郎^二乍御無心御渡御かし可被下候、必々奉頼上候、右申上候通金子闇敷難義仕候間、乍くり事必々御かし可被下奉頼上候。

右義申上度、殊之外取込略仕候、此方御用儀追々被仰付被下度奉頼上候、尚追々可申上候、恐惶謹言

(酒田)

大沼仲兵衛

印

八月十日

今田弥兵衛様

参人々御中

九四 覚(紅花代金請取)

覚

一、金五兩

右紅花代髓ニ請取申候所、実正ニ御座候、為念如此御座候、以上

八月十二日

榑岡五日町

利兵衛

印

田井村

弥兵衛様

同村

久助様

同村

金八様

九五十一 書簡（紅花売買に付）

添翰を令下候御人帰便以手紙申上候、先以昨日者寛々得
貴意、預御馳走忝奉存候、明日御役所江罷上り可申と、
御約束申上候所ニ、折節明日当町役人雜時用向有之候由、
依之明日得参かね候、延々私を申候得共、明後朔日長瀬
へ参上可仕候間、御延し可被下候、朔日ニハ無間違参上
可仕候間、長瀬に而御出合可被下候、必々朔日ニ御出合
可被下候、為其貴意得度、如此御座候、以上

九月廿九日

自天童

今田弥兵衛様

浦城喜兵衛

用事

九五十二 書簡（紅花代金不払いに付）

態考人差遣し一筆啓上候、先日者罷上り寛々得貴意、大
慶仕候、然者昨日預御人委敷御伝言之趣、承知仕候、只
此方も其意申上候通、弥昨日御役所へ願書指上申候所、
早速御取上ケ被下否、荷口村惣七五人組御名主方へ御差
紙出、則昨夜之内右御差紙、荷口へ相届ケ申候

一、此度御指紙之御趣、乍恐相察申候所、紅花代金来ル
廿三日迄ニ、金主方へ急度相濟下様ニと之御差紙と相
察申候

一、願書写し指上げ申候間、御入手可被下候
一、御役所へ申上ケ置ニハ、田井村弥兵衛殿方ニも、手
前同様ニ惣七方へ取替有之候、是も追付御役所へ願出
可申と申上ケ置候

一、右之外此もの口上にて申上候、御承知可被下候、甚
取込以略筆申上候、草々、恐惶謹言

浦城喜兵衛

八月十五日

今田弥兵衛様

貴下

九七一 書簡（紅花売買に付）

九六 覚（紅花代金請取）

覚

一、金拾貳両

右者紅花代値ニ請取申候、為念如斯御座候、以上

九月三日

利兵衛

与 八 印

彦兵衛

田井村

弥兵衛殿

浦城伊兵衛殿下り便ニ、一筆啓上仕候、先以貴御地貴公
 様皆々様御堅勝可遊御座候、珍重奉存候、下拙無事ニ罷
 有申候、然ハ紅花義、別而此間ハ不景氣ニ罷成、一向買
 人無之候所ニ、若喜殿へ御買被下様ニ申上候ハ、直附
 被致候処、中物三拾四五両、四拾両迄、上々一天物五拾
 両迄直こひ仕候、此直ニ而も少々老駄貳駄金つまり、御
 人相払申者有之候、天童浦城伊兵衛此間上京被致候而、
 最上中者三拾七両、女鹿五拾両ニ相払申候へ共、手前紅
 花ハ今又見合申候、扱々当年ハ御そん有之候而迷惑ニ奉
 存候、商事も不捌御座候間、越年ニも罷成候かと奉存候
 間、左様ニ思召可被下候、依之御相談被成、書状も被遣
 可被下候、此末少とも引上候ハ、少々も商可仕と奉存
 候、併御様子天童ニ御出被成候ハ、伊兵衛下り節御承
 可被下候、何共下直ニ而氣毒ニ奉存候、先々一向金切ニ
 相見江申候故、諸々引当金も成諷御座候間、来月之下シ

金も、少とも下シ金致度奉存候へ共、如何御座候哉、無
心元奉存候、工面仕取そがい可申候間、左様ニ得御心可
被下候、早々、恐惶謹言

十月廿二日

中野惣七

今田弥兵衛様

同 源蔵様

九七一 書簡（紅花代金差下しに付）

以飛脚申上候、弥々御地御堅固ニ可被遊御座、珍重奉存
候、下拙無事ニ罷有申候、然ハ今度金子百五拾両差下シ
申候、御請取可被下候、右之内百兩ハ酒田江御下様ニと
被仰遣候へ共も、一向酒田表ニついて無御座候と被申候
間、ふがつてと奉存候へ共差下シ申候、左様思召可被下
候、扱荷物へや^庄可印、へや^太三印此荷物式駄計着仕候、外ハ
金子着不仕候、右金子手前宿ニ金切レニ御座候故、若喜

殿方借用仕候、左様ニ得御心可被下候。

九月五日

中野惣七

今田弥兵衛様

同 源蔵様

追而申上候、紅花義ハ金子相場事一切無御座候、尚中間
時分ニハ相場も相定可申と奉存候、段々御状茂差上可申
候間、左様思召可被下候、早々、恐惶謹言

九七一三 書簡（紅花不景氣に付）

以飛脚一筆啓上仕候、先以皆々様弥々御堅勝ニ可被遊御
座候、珍重奉存候、下拙義無事ニ罷有申候、然ハ当月十
六日出シ之下金、紅花不景氣ニ付、壹駄ニ付三拾兩計の
引当不申候ハ、何とも成兼候哉、無心元奉存候、何分金
切ニ御座候而迷惑奉存候、当分一向契出もの無之候ハ、

直付承候ハ、様々中物三拾式三兩五六七兩迄仕候、上物
四拾兩五四拾式三兩迄ニ申候、此直ニも荷がさは買込不
申候、何共氣之毒ニ奉存候、右金子義ハ段々工面仕、五
拾兩計茂借用相成候哉、無心元奉存候間、左様ニ思召可
被下候、早々、恐惶謹言

霜月六日

中野惣七

今田弥兵衛様

同 源蔵様

九七一四 書簡(紅花売払い代金に付)

尚々あと買花之御地ニ而、買人有之候ハ、少々の

覚ニ御座候ハ、御払可被成候ハ、可然様奉存候間、

左様申上候

飛脚便ニ一筆啓上仕候、先以寒氣甚敷御座候へ共、弥々

其御地皆々様御揃御健勝可被遊御座と、珍重奉存候、下

拙不相替無事罷有申候、氣安思召可被下候。

十一月

一へや大印 三拾八兩替

十二月

一へや木印 四拾壹兩替

右之直段ニ而相払申候、何共当年之御そんふかく御座候
ハ、何共氣毒ニ奉存候、只今ニ而ハ早売不仕が残念奉
存候へ共、一寸崎相知不申、右直段ニ而ハ商仕筈ニハ有
御座間敷奉存候へ共、しせんも引上候らん時ニハ、又々
売おくれニも罷成候故、右通り売付申候、残り荷物ハ先々
見合申候、此未少々も引上不申候内ハ、来春迄売申間敷
と奉存候間、左様思召可被下候、然所ニ段々不景氣故、
書状も御出し候哉と待入候へ共、今又一通も相届キ不申
候ハ、無力罷有申候。

一、下シ金之義無之工面仕候へ共、下シ金高何方ニ而も

相改儉不申候ハ不及力、此通り仕合ニ而氣毒ニ奉存候、

只今金切申、一向借金仕不申候、皆ハ何共御なんき奉

存候共、何分工面成兼候間、左様思召可被下候、早々

恐惶謹言

十二月六日

今田弥兵衛様

中野惣七

荷物ニ御座候や相知不申候得共、貴家様御印故、御案内申上候、弥相違無御座候ハ、御安心可被下候、乍序申上候、以上

いせ屋源介

九月六日

善七

今田弥兵衛様

人々御中

九八 書簡（敦賀着紅花の手板に付）

追啓上仕候、然ハ今日敦賀清水仁兵衛殿と

左之通

へや極上 四丸

へや大木 四丸

へや大本 四丸

右之通無事着申来候得共、手板参不申候ニ付いつれ之御

九九 覚（へや印紅花酒田船積通知）

覚

へや紅木 紅花三丸 十八入

氷見や佐兵衛船

同紅大 同 三丸

能州輪嶋

角や多兵衛船

同紅木 卷丸 十七入

同吉次 卷丸 十六入

同長上 卷丸 十七入

三丸

能州輪嶋

加藤万之丞船

右之通当十三日着仕、則右三船積入申候、左様思召御案
心可被申候、右着積入旁申上度如此御座候、以上

本間与次右衛門 ㊦

七月十五日

今田弥兵衛殿

一〇〇 書簡 (紅花敦賀到着通知外)

追啓上仕候、
(虫喰) 喜兵衛指遣候、何哉と御世話被成下、

恭次第奉存候、左候へハ晒蠟之代、先々当時相庭二而者

見合申様ニ被仰下相心得申候、扱々此方今頃者宜敷事も

御座候哉と奉存候所、存之外緩々此間能物四貫五百五十

匁替口出申候様成事ニ御座候、しかし此方も有増壳透候

様ニ相見へ申候

一、先去御取次申上候金子、先達而申上候通紅花荷為替

二而ハ御工面不宜候趣被仰下、金主方へ申訳置候間、

別而義理合之儀ニ御座候へハ、少トも早ク御濟被下候

様奉頼上候

一、紅花船敦賀無事着、左申上候

佐州相川

一、八月十六日着 磯野十左衛門船

一、八月十五日着 八田や七右衛門船

一、同 十六日着 越前や吉郎右衛門船

一、同 廿一日着 小林伊左衛門船

一、同 十六日着 かゝや弥四郎船

一、同日 着 有田久四郎船

一同 廿一日着 北野や九郎兵衛船

右之通無事着仕候由申來候、鍵や忠八船も定而其後無事着仕候様ニ、船宿にて申御事ニ御座候、左様思召可被下候、余者喜兵衛口上ニ可申上候、此方御用地御座候ハ、此ものニ可被仰下候、以上

偏ニ奉頼上候、先者右之段申上度早々如此ニ御座候、恐惶謹言

藤屋傳左衛門

傳二郎

九月廿三日

今田弥兵衛様

御人々御中

(酒田)
大沼仲兵衛 印

九月十四日

今田弥兵衛様

同 勝平様

尚々、御病氣御快全被成申候ハ、御見合四五日御逗留なから御出被下度御頼上候、猶又京行御状今日相届申候間、左様思召可被下候、以上

一〇一 書簡(大坂伊勢屋出し荷不着通知外)

巳刻

猶又貴家様行大坂いせ七出し老笹、今以着不仕候間、右者跡着次第差遣可申候、此段左様思召可被下候、其残等之儀も、此未追々候、且又被仰遣被下度奉頼上候直段之儀者、随分相働下直ニ差遣申候間、不相替御仕入被下度

一〇二一 書簡(荷物間違ひ積下しに付)

追而申上候、大坂羽釜之義、段々書状にも申越候処ニ、張伐と申所之荷物間違候而、積下シ申候言事ニ御座候、然所又々若松方ニ而調、相渡可申由、書状參候間、拙者張下り改可申と存候間、荷物御調被置可被下候とて状遣候、然共、只今下り不申候、追而拙者下り吟味仕、何様ニも可仕候間、左様得御心可被下候

十一月十日

一〇二二 書簡(紅花売捌きに付)

追而申上候、然所紅花不景氣様子ハ段々承候所、見込之御人無之候故、一向買すゝみ不申、なぜと申に、当正月売出し申荷物など、只今問屋方江相達候も可有之候、当

四月売付之荷物、若喜殿方へ紅屋方へ相返し申候事も有之候、無之事御座候間、不景氣能成候きやく衆方、紅屋方江取くみ候ハ、金半金も出不申候、何分問屋共売付申、未年方古花出申候、然所ニ来四月のべなとに売付申者御座候而、中々不景氣ニ而商事出不申候、何共御そんなをく御座候而、迷惑奉存候、夫故拙者、貴公様之御荷物今又売出シ不申候、今未少々も直出買入御座候ハ、少々も相払可申奉存候、夫共をいをいニも御状出シ可被下候、以上

霜月六日

中野惣七

今田弥兵衛様

一〇二三 書簡(紅花代金送り状)

尚々申上候、大印五十卷兩ニ出印四十八兩ニ直附被致候、伊理・若喜ニ而左様ニ御座候、わき方ニ八直

付無之候、以上

以飛脚申上候、先達而九月四日出御状、忝致拜見候、干

花御^①被成候段、被遣候上物、四拾四五兩ニ京着仕候

ハ、宣敷御座候、金子義被仰付候間、此度金切ニ御座

候間、様々相調百兩差下シ申候、御請取可被下候、下し

金貳兩相添、此金子ハ拙者内方江御遣可被下候、扱又紅

花義ハ先月少々商出申所、渡会善右エ門・西川源助・山

形兩屋手代市村宇蔵・大石田勘七杯、買花三十五六兩方

上物五十四五兩迄売出申候、夫よつて当月ハ紅屋方ニ而

買す、み無御座候相見候而、一向不商御座候、拙者何と

も見合申候、此未如何御座候哉と奉存候間、宣敷も罷不

成候ハ、越年ニも相成候か、無心元奉存候、御様子書

状も被遣可被下候、しぜん元金ニも罷成候ハ、少々茂

商可致哉と奉存候、左様思召可被下候

十月六日

中野惣七

今田弥兵衛様

同 源蔵様

一〇三 覚 (紅花代金差引勘定)

覚

①一、金三拾四兩

拾五匁三分

拾六入

へや大印 四丸

同 印 九袋

へ考た九袋

現金三拾兩かへ

①一、金三兩四匁三分七厘

へや大印 七袋

へ

現金貳拾八兩かへ

卯十一月六日売付代之内端銀預り

①一、四匁五分

へ

金三十拾七兩

式拾四匁壹分七リ

内へ

辰三月十五日

⑩歩判金三十拾兩

弥内様御参宮御道中入用金

為替相渡シ

⑩三匁六分 右歩判切ちん

⑩一、金壹兩三歩 右利足

拾四匁 三四五六七八九

ノ

⑩一、丁四百廿一文 へや印五固

代五匁四分七リ 手板表不足

中村佐右衛門殿相渡ス

⑩一、八匁貳分五 へや印五固

大津あたちん

川口弥蔵殿ニ 相渡ス

ノ

金三十拾壹兩三歩

三十拾壹匁三分貳リ

取替金引

引残而

金五兩拾匁三分五厘

右通此度鳴飛脚を以差下シ無出入相濟申候、尤端銀拾匁三分五リ是者下シちん之内へ預り置可申候、差引過不足之所者来秋御互ニ御勘定可仕候、先々右御引合御覽被遊可被下奉願上候、以上

近江屋九郎兵衛 ⑩

十月八日

今田弥兵衛様

一〇四 覚（紅花代金請取）

田井村

弥兵衛殿

覚

一、金拾兩三分也

右者紅花代金之内金八殿以右金髓ニ請取申候、以上

東根

六兵衛 印

十月六日

田井村

弥兵衛殿

覚

一、金五兩也

右者紅花代金之内金八殿以右金髓ニ請取申候、以上

長瀨村

庄 六[㊦]

十月六日

一〇五 書簡（紅花上着藏入）

（封書上書）

「羽州最上谷地田井村

若山屋

今田弥兵衛様

勘右衛門」

用人

（封書裏書）

一ノ[㊦]

從京都

十月廿五日出し

」

福島飛脚便を以一筆啓上仕候、寒冷之節御座候処、先以
其御地御家内御揃弥御勇健ニ可被遊御座奉珍重候、当方
無異義罷有候間、乍憚責意易思召可被下候、然り此度御

荷物左之通

覚

へや^大上^二印紅花四丸 但し拾八袋入三

拾九袋入卷

内ニチリ五袋有

右之通海陸無事ニ当月十五日ニ上着仕候而、御互ニ目出

度儘ニ請取蔵入仕候、先以不相變追て御荷物為御登候、

御用被仰付被下候段、外聞旁忝仕合ニ奉存候、

一、右御荷物着仕候ハ、金子三拾兩尾州知多郡藤江村

安德寺様へ、差下し為候様被仰下承知仕候、則右之通

り金子三拾兩当月十七日ニ安德寺様へ差下候間、左様

思召可被下候、

一、当月五日ニ式朱判百廿兩江戸へ向差下し、彼地ニ而

嶋屋佐右衛門殿方ニ而正金ニ取替差下し被申候、善ニ御

座候、定而着仕御請取可被下と奉察候、式朱判替之義、

此間江戸表と申参り候、貴家様分百兩ニ付六拾匁に御

座候、左様思召被下候

一、爰元紅花之義、先書後別而相変ル義無之候、今以聡

と商事も無之、気毒ニ奉存候、御印御荷物之義、何卒

兼々売付申度、無油断吟味仕罷有被申候へ共、右申上

候通り、不景氣故只今宜キ望人も無之候、此未無油断

相働、兼々売付御左右可申上候、先ハ右申上度、早々

如斯ニ御座候、猶期重便之時候、恐惶謹言

若山屋

十月廿五日

勘右衛門 ㊦

七次郎

与兵衛

又兵衛

今田弥兵衛様

弥次郎様

与 七様

一〇六 差引書覺(紅花代金)

差引書覺

荷高拾五駄片馬

伊勢屋理衛門殿方

紅花八駄片馬拾袋

差引殘而

金四兩壹分銀九匁七分五厘

内三駄拾五袋紅花前金受取候故差附二送遣申候
此代金ノ三百五十兩三分銀五十四匁三分

内

金百兩

戌五月十六日出受取

一〇七 紅花代金覺

同五拾兩

戌七月十七日出受取

同百兩

戌十月六日出受取

紅花代金覺

同拾三兩壹分

同相分 仕切表二而濟

一、紅花拾五駄拾六袋 但壹駄四固附

同壹兩壹分銀五拾壹匁六分

壹固五百目入拾六袋

歩利切賃並二

此弘訳

京都

下し金駄賃仕切表二而濟

紅花八駄式固拾袋

伊勢や理右衛門仕切写表

同銀五拾式匁九分五厘

紅花駄賃不足

内三駄拾九袋紅花前金請取候故差附二送遣申候

仕切表二而濟

此代金ノ三百五拾兩三分銀五拾四匁三分

金四拾五兩

喜衛門江濟方相渡ス

小以

金三百九兩貳分

銀百四匁五分五厘

紅花六駄式固六袋

若山や喜右衛門差引書写表

金四拾五兩

仕切り表ニ而済

内巻駄四袋庄内酒田大沼仲兵衛仕入紅花則差附送

右同人ら喜右衛門江濟方相渡

遣申候

ス

三駄巻固拾式袋当亥春差附ニ送遣申候

金式百式拾九兩三分

喜右衛門方ら差引表ニ而受取

此代金式百九拾式兩三分銀式拾八匁九分

銀五拾四匁九分

喜右衛門方ら差引表ニ而受取

金七兩巻歩銀拾巻匁七分若山や喜右衛門ら惣七請取

金巻兩

谷地村甚兵衛惣七ら借用

是ハ去戌九月喜右衛門方ら紅花仕入代金残相渡り

金

………(以下切レ)………

候分

合金六百五拾兩三分銀五拾四匁九分

内

金百兩

い勢や理右衛門ら

一〇八 残り花覚

紅花前金借用

金五拾兩

右同断

残り花覚

金百兩

右同人ら下し金

一、大^二印 巻駄八袋

若勤殿行

金拾三兩巻分

右同人江相金仕切表ニ而済

一、同印 ちり六袋

同人殿行

金巻兩巻分

右同人江歩判切質並ニ

一、大^二印 五袋

同人殿行

銀五拾巻匁六分

下し金駄質仕切表ニ而済

一、大^二印 三丸巻袋

同人殿行

銀五拾式匁九分五厘

右同人江紅花駄質不足

一、大^二印 六袋

同人殿行

一、大天 ちり九袋

同人殿行

一、大庄 同 壹袋

同人殿行

ノ貳駄壹丸四袋

内壹丸ちり

貳駄四袋紅花

一、大上 壹駄壹丸八袋

近九殿行

一、大天 壹駄壹丸三袋

同人殿行

一、大上 ちり七袋

同人殿行

一、大谷 壹駄八袋

同人殿行

ノ三駄三丸拾袋

内七袋ちり花

三駄三丸三袋紅花

二口ノ六駄拾四袋

内壹丸七袋ちり花

一〇九 相場書

相場左

一、御米札 十七表六部

一、最上大豆 三十五俵半

一、小豆 三十六俵小口物

一、小豆 三拾五俵七部 はねなし

大上物 壹石三斗

一、小麦 壹石壹斗五升

一、竹原塩 壹石六斗五升

一、小麥 跡廿石五升

但壳透申候間俵貫ハ被成間敷候

一、村上茶三番 四兩五分

一、秋味 四兩壹分位

右同断奉願上候

一、秋味 四拾壹本

貳拾かへ利付

九ノ四百匁

百斤り

百貳拾斤迄

六貫文

此方為登物左二

叶屋

同人

本与

浅久仕入

同人

本塩

浅久り受取分

同人

先達而申上候分

同人

同断

一、同三拾四五固 同人

同断二而三拾匁仕候着 跡貫付

右之通ニ御座候、諸色此方追々引上ケ申候間、御考可被

下候、秋味之儀者着次第御売払可被下候、猶又天童売付

塩之儀、買返しニ可被成奉願上候、将又大豆之儀、只今

下直ニ御座候得共、一昨日本与方江上方注文參り候所、

船手衆三十三・四俵ノ望に御座候間、来春ニ相成候ハ、

三拾俵二者相成可申候、左候得者、只今相場ニ而も壹割

も利遠ニ相成可申候間、思金一箇支度奉存候間、上方様

子承度乍思長逗留仕候、将又先達而り此方金子切ニ而、

本与方り漸く借用仕、叶屋渡江相渡し申候、是も以之外

延引相成相渡し申候、其上金子借用仕候も相成兼、無勘

蔵増江山形為替金之儀、内八両為替取組遣申候者、不覚

成事ニ思召被成候者、御尤ニ奉存候、日限延引ニ相成候

得者、塩之儀下蔵ニ而売払申候と申事ニ御座候間、少分

なから不益成事ニ御座候間、殘金本（写込）方り借用仕受取

申候、此段御用捨可被成下候、且又能キ大豆ニ御座候而

一、秋味拾七固

拾本入廿八九匁着

一、鯨巻桶

一、同五拾俵

一、塩百俵都合

一、同 三拾本

一、村上茶三拾巻本

一、塩三百俵都合

一、両替

一、多者粉

一、鯨

茂、貳拾両ニ而引合申間敷候間、残り大豆の儀者御買入被成間敷と奉頼上候

御下り候ハ、相渡し可申候間、左様思召可被下候、何れ宜御取上奉頼上候、以上

一、越前丹後辺貳三部之作合申来候、是も丸や半助様と書状申参候間、相違なき事ニ御座候、其故越後辺も大豆石老斗位ニ相成申候、尤一昨日当所いせや叶又杯も上方と御下り被成候得共、穀相場下直ニ御咄被成候得共、此衆あて二者相成不申、上方程又者本相場ニ奉存候、伊せや杯も内々ニ而ハ、昨日米少々も買入申候様ニ相聞申候、左候得者、上方も穀物下直二者有之間敷と奉存候、能々御考可被遊候、猶罷帰り申候節、万端貴細ニ可申上候、先者旁得貴意度、如此御座候、恐惶謹言

十一月二日

同 与七

今田弥兵衛様

弥次郎様

追啓申上候、蔵増庄次郎殿御下り被成候ハ、為替金八両ハ御渡し可被下候、尤百六両共受取金御座候間、

楨

真司家文書

(河北町谷地)

一 紅花旱損歩付帳 (横帳)

(表紙)

享保十八年

丑ノ年紅花旱損歩付帳

六月

是ハ
相違有之候

新町村

伊左工門

名主

七郎兵衛

本新畑共

一、畑高百五拾五石四斗九升六合
差引 貳拾五町七反八畝六分

七反七廿七分 此高六石四斗六升壹合 子ノ川欠
内四町九反五畝廿八分 前之川欠引

此高三拾六石八斗四升八合

貳町六反五畝廿九分

此高廿六石九升七合

屋敷

八十六石九升
残高九拾貳石五斗五升壹合

十七町四反三七七分
差引拾八町貳反壹畝九分

此訳

一、畑拾貳町拾三分

此高六拾壹石壹斗三升壹合

内

壹町拾分

壹町廿分

貳町壹畝分

貳町四反拾分

貳町五反廿分

三町七畝拾三分

外

六町貳反廿六分

麦作並春仕付

大豆・あへ之義

右ハ当丑ノ年夏作旱損ニ付御注進申上、内改帳差上、此
度為御見分御出、拙者共立合損毛歩当リ御吟味請候所、
書面之通相違無御座候、尤御見分之義ニ付毛頭御非分之

紅花作

義無御座候、以上

丑六月

新町村

名主伊左衛門

同 七郎兵衛

組頭左 吉

同 源右衛門

同 勘兵衛

同 五 助

同 伝 吉

同 与 助

長百姓源右衛門

同 五郎 七

同 孫 七

二 紅花願控書 (縦帳)

(表紙)

元文五歲

紅花願 扣書

申 六月

乍恐奉願上口上書

私共羽州最上紅花商人共二御座候、御当地紅花問屋近年拾四軒と相定、已後紅花売買勝手悪敷罷成、其上問屋共方多分損失相懸ケ候間、惣商人商壳体二相障、迷惑仕候二付、郡中紅花商人為惣代、私共当夏中より上京仕、段々書付を以奉願上候趣左ニ相認、乍恐御訴訟奉仕候、御憐愍を以御吟味之上、いか様とも被為仰付被下置度奉願上候

一、私共羽州最上紅花商人共二御座候、国本御百性紅

花作始候事百年余と申候、就夫年々所々商人紅花売買仕候得者、御百性ハ右紅花を以御上納並諸役錢差上、御百性ニ至迄、心儘売買仕来候処、六年以前卯ノ年より、京都紅花問屋拾四軒と相究候由申来候処、夫ハ拾四軒問屋江紅花荷物指為登、口錢出シ売買仕候得者、年々問屋相潰、五ケ年之内、最上商人共江多分損銀相かけ、商人者不及申御百性迄必至と困窮仕候、依之最上商人惣代として我々為差登、当四月中京着仕候而、人を以拾四軒問屋へ申越者、拾四軒問屋口錢を以被相勤候上者、最上表江損銀被相懸候事、商人共難得其意候、自今以後問屋拾四軒仲間にて問屋被相勤候ハ、拾四軒之内相潰候共残り問屋中ハ弁、最上商人共江損銀相かけ申間敷と請合被申候ハ、内々ニ而相済可申と、度々人を以申遣候へ共、仲ケ間請合之儀曾而取あへ不申、然ル所、此度拾四軒問屋中ハ申越候者、此後紅花荷物切手と、紅花代金引替ニ仕売買致度と、人を以申越候故、此儀不得心之事も御座候得とも、何卒内証ニ而相済申度存、我々得心可仕候間、拾四軒印形被致候様ニ

申遣候得者、段々日を延、其上印形不仕、不屈キ之儀ニ奉存候、右之段々国元江申遣候所、国元商人共ハ申越候ハ、遠国ハ御公儀様江御願申上候儀、千万恐多奉存候得共、右段々内証ニ而相済不申上者、難義之上之難義ニ御座候間、御百性・商人相立不申儀ニ御座候へ者、御願申上候様ニ申越候、依之此度御願申上候間、先年之通京都ニ而何方へ成共、勝手次第相對を以、広ク売買仕候様ニ奉願上候、殊ニ京都紅染屋中茂最上江罷下り、紅花被相調候様ニ是又奉願上候、当年紅花追付出来仕、右拾四軒問屋へ荷物為差登候ハ、年々相潰申候問屋ニ御座候得者、当年潰も難斗、荷物難差出商人共、可致様も無之仕合奉存候、右之趣被為聞召分、御慈悲之上いか様共被仰付被下置候ハ、難有可奉存候、以上

元文五年申六月廿六日

柵屋甚右衛門

青柳屋喜惣次

御奉行様

右之通六月廿六日奉願上候所、拾四軒問屋方返答書差上候趣、御見セ被下置候

紅花売買之儀ニ付、羽州最上紅花商人惣代として、此度柘屋甚右衛門・青柳屋喜惣（トウ）一、兩人之者御願申上候儀、右願書私共江御見セ被下、いか様之訳やと御尋被遊候ニ付、乍恐奉申上候

一、右兩人者、私共方江是迄何之通達仕候義無御座候

一、当四月下旬、最上谷地柘屋新二郎・江州日野西田五兵衛と申者罷登、私共方江申聞候者、此度御公儀様へ御願申上候筋有之罷登候へとも、上京之上承合候へ者兼而所存と間違御願相止申度候、乍然折角罷登甲斐も無之、何ニ而も国元惣荷主中、兩人之もの申立ニ罷成候義、片付罷下申度候、依之十四軒紅花問屋衆之内、若身上相潰紅花代金相滞ル儀出来候節者、惣問屋中も相償、荷主少茂損失相かけ申間敷と、拾四軒問屋中請合、証文致與候様ニ兩人被申候得共、前々方紅花老卷之儀者、羽州山形町年寄・大庄屋・檢断並惣荷主中、連状ニ而応答仕候、然ル所ニ、此度右連中より兩人上

京之添状等、曾而以無御（トウ）坐候、是又其時分在京之荷主、並荷物支配ニ登り居候手代中へも相尋候へ者、何之儀共ニ銘々主人共方申越候筋も無御坐、一円不存候由、右兩人之申わけ、何れも却而不審存候由御座候、右之趣御座候間、右兩人江取あへ可申様無御座候、殊ニ現金売延共ニ、荷主共と問屋共相對之上ニて、如何様共取引可仕候義ニ御坐候へ者、此度願人共強而申立候筋、無之義ニ御座候御事

一、柘屋甚右衛門と申者、先年京都ニて紅花売買仕候而罷在候処、商売相止、其後相果申候、右甚右衛門子孫ニ柘屋甚四郎と申もの罷有候へ共、紅花商売不仕候、甚右衛門訳相尋候処ニ、親類共之内ニ甚右衛門と申もの不奉存候、先甚右衛門家来筋之子孫之もの御座候、若左様之者甚右衛門と名乗候儀ニ而も可有御座候也、其段難斗奉存候

一、青柳屋喜惣治と申者、最上谷地と申所ニ罷有候、紅花注文引請渡世仕候ものニて御座候、則最上表紅花荷主共上京罷有候付、相尋候処ニ、喜惣治義上京不仕候

旨、尤此度奉願上候趣、荷主共旨而不存旨ニ御坐候

右之段々被為聞召分被下置候ハ、難有可奉存候、以上

元文五年申七月六日

紅花問屋中

いせや利右衛門

紙や勘兵衛

御奉行様

右之通七月六日問屋共返答差上候由、依之私共再返答奉仕候

私共奉願上候儀ニ付、紅花問屋拾四軒被申上候、拙者共江御見セ被遊候故、再返答左ニ奉申上候御事

一、最上表之儀、數ヶ所入組御座候故、紅花商人惣名代

として終屋甚右衛門・青柳屋喜惣治ニ而御願可申上旨申、為差登候ニ付、兩人名代を以御願奉申上候、尤商

人連判之儀ハ最上表ニ而甚右衛門・喜惣治取置申候

一、当四月中私共罷登候節、御願可申上奉存候所、去年中罷登居候鈴木庄七と申最上者、拾四軒問屋被頼

切手引替之儀申越候、不得心之事も御座候得共、拾四軒印形被致候ハ、最上表江可申遣旨申違候得者、印形之儀不罷成由被申越候、私共拾四軒江庄七を以申越候者、此已後拾四軒仲間ニ而問屋被相勤候ハ、問屋之内相潰候共、最上商人江損銀相懸ケ申間敷と請合被申候ハ、最上表江可申遣旨申違候得者、是又最上表並山形檢断・庄屋、何とも不申参候由、此度拾四軒被申上候得共、此儀最上表ニ而庄屋・檢断並商人中申候者、年々相続損銀相かけ、不届成問屋江可申遣旨無之間、添状ニ不及と申候故、添状持参不仕候、依之庄屋・檢断之儀ニ付、登被申候方御座候へ共、少々意味御座候故、出所之儀者難成指扣被申候、此仁登り被申候儀、拾四軒之ものいか様之手筋にて承被申候哉、右仁方江拾四軒問屋之内より参候而被申候者、最上惣代兩人方江此度登り道中雜用、京都逗留中小遣等迄遣可申候間、此度之出所相止、一先最上表へ御下シ被下候様ニ相頼被申候段、彼方私共方へ委細被申聞候、右之仁出所之儀難成儀ハ、拾四軒共委細ニ存居、段々

つきまわされ其上無心元者共之様被存候付、依之此度願主代柀屋新次郎儀、庄屋・檢断連判之儀ニ付、六月十六日ニ御当地出立仕、最上表へ罷下り申候、

一、最上へ罷登、御当地ニ居候荷主・支配人私共願之儀不存旨問屋方へ申上候、此度右之者共不存旨ニ御座候、此もの共、去ル七月八日之内最上表出立仕候、然ル所御願可申上と商人共相極候ハ、去冬拾四軒之内、いせ屋利右衛門瀆レ被申様ニ最上表へ申参候付、年々問屋瀆大分損銀相懸り候故、商人も可仕様無之仕合と申、右理右衛門瀆と申参候而、去十二月当正月迄ニ相談相究儀ニ候へ者、御当地登り居候荷主・支配人ハ不存事ニ御座候、尤罷登り候内、荷主と申者一兩人ニ而御座候得者、弥支配人も不存旨御座候

一、柀屋甚右衛門由緒之儀、拾四軒へ被申上候通、先甚右衛門手代筋ニ而、只今最上ニて柀屋甚右衛門と申候、少々紅花商売仕候

一、青柳屋喜惣治儀、拾四軒へ被申上候通、紅花注文引請渡世仕候ものニ御座候、然所ニ問屋瀆、荷主共損銀

相懸り、此後荷主注文無之様ニ罷成候而者、渡世難成及難儀ニ、殊ニ惣商人中へ名代ニ罷成候様相頼申候故、惣紅花商人名代ニ差出申候段、相違無御座候

右申上候通相違無御座候、先達而奉願上候趣、御吟味被成被下候ハ、難有可奉存候、已上

羽州最上紅花商人

元文五年申七月九日

惣代

柀屋甚右衛門

青柳 喜惣治

御奉行様

右之通七月九日再返答指上、其上国元惣商人共へ飛脚指下候処ニ、五人之者八月下旬上京仕、左之通御訴仕候

乍恐口上書

一、出羽最上へ為差登候紅花之儀、近年御当地紅花問屋拾四軒ニ相定候後、問屋中自由之致方故、最上郡中紅花商人共及難儀候ニ付、惣代柀屋甚右衛門・青柳屋喜

惣治名代として五兵衛と申者罷登、当六月御願申上候

処、御吟味被成下難有奉存候、依之御尋被遊候儀、五

兵衛言人ニ而申上兼、其上問屋中より最上商人共ハ、右

願之筋不奉存候由申上候旨、五兵衛申越候故、此度羽

州郡中紅花商人共、惣代柀屋甚右衛門・青柳屋喜惣二

煩二付、代伯父藤四郎此外三人罷登候二付、乍恐口上

書を以奉申上候、先達而奉願候通り、拾四軒問屋之内

潰レト申立、紅花代金不相渡候故、困窮之商人共紅花

商売難成、迷惑至極仕候間、御慈悲ニ先年ノ通、商仕

候様ニ被為仰付被下候ハ、最上郡中百姓商人共ニ難

有可奉存候、尤紅花商人ハ不及申上、百姓共ニ一統ニ

御願申上候段、相違無御座候、依之惣代之もの連判仕、

重而奉願候、以上

荒木屋 与兵衛

中村屋六郎兵衛

近江屋 五兵衛

御奉行様

右之通八月晦日ニ奉願上候処、九月八日ニ被召出、此度

商人為惣代五人之者罷登候上者、先達而両人名前を以願

出候趣相認直シ、五人印形仕差上候様ニ被為仰付候間、

左之通奉申上候

御奉行様

問屋共ニ対談ハ、亀薬師の店にて十四人不残対談申候、

此趣御訴訟

右之通九月十日奉願上候処、同月十七日被召出、右願

之趣問屋方へ一応致相對、問屋共内証ニ而得心不仕候

ハ、重而訴出候様ニ被仰付候間、同十九日ニ問屋共ニ

対談仕候、右之段申聞候へとも、問屋共曾而取あへ不申

候間、無抛左之通奉申上候

乍恐口上書

元文五年申八月晦日

柀屋甚右衛門

出羽最上紅花商人惣代

青柳喜惣二
煩二付

伯父 藤四郎

鈴木屋 忠助

一、紅花売買之儀、私共御願申上候処ニ、当十七日被召出、先達而拾四軒問屋共召出シ、願人共江対談可仕旨被仰渡候ニ付、私共罷越一応相對仕、其上可申上旨被仰付奉畏、則問屋共方へ右之趣申遣候へ者、商売筋並私用共ニ取込候間、右対談日ヲ延候様、兩度迄下代を

以申越候得共、被仰付重ク奉存候故、急ニ立会申度段達而申遣シ、則十九日ニ私共罷越対談仕候処ニ問屋共申候者、仲ケ間拾四軒と相定候儀、並京都紅花染屋商人方直買相止候儀、共ニ相定置申儀ニ無之、御上様を被仰付候義ニ御座候間、何れ茂方如何様被相願候共、差而対談可仕儀無之と申、一切取あへ不申候、然ル上者御慈悲を以先達而奉願上候通、被為仰付被下置候ハ、難有可奉存候、以上

元文五年申九月廿日

願人 六 人印

御奉行様

右之通九月廿日奉願上候所、十月三日ニ双方被召出、先

達而差上候書付ニ、紅花代金と切手引替之訳有之候間、其趣を以可為相済対談申付候所、得心不仕候ハ、商人共願之趣相認直シ、差上様と被為仰付候間、左之通奉願上候

紅花売買之儀、先達而再応奉願上候処、願之訳相知レ兼候間、相認直シ指上候様被為仰付候間、乍恐口上書

一、羽州最上紅花売買之儀、前々商人共京都江紅花荷物為指登候処、先年者右荷物問屋方江請取置、相払候節ハ問屋立会、紅花買人右荷主方へ曳合相對致させ、

直段取組売買仕候所、近年問屋拾四軒ニ相究候、以後商人共荷物請込ニ而、売所荷主共方江者一切相知ラセ不申、直段もいかゞ取組候哉、拾四軒限り売買仕儀ニ御座候へ者、中間申合先何程ニ相払候哉難斗、畢竟問屋共買売候様ニ相見へ、不分明ニ奉存候事

一、紅花売買口錢之儀も、先年紅花毛駄ニ付古銀三拾匁、文銀ニ而ハ五拾匁ツ、商人方相渡候処、近年ハ花毛駄代銀高之内方、三分通ニ引上ケ取之商売相立、其上濱ヲ申立商人共江多分損銀相懸リ候段、不得其意奉

存候事

一、問屋拾四軒ニ相究候已後、紅花売買之儀ニ付、稻荷講と申定書をいたし置、紅花相捌候由及承候、然上者紅染屋方問屋江損失相掛申儀、有之間敷様ニ奉存候、然所卯ノ年方五ヶ年之内ニ、若山屋勘右衛門・紙屋勘兵衛・若山屋喜右衛門・伊勢屋理右衛門合四人潰ヲ申立、最上商人共江損失相懸儀金高、凡七千兩余之処相違無御座、然所当三日双方被召出御吟味被遊候節、問屋共口上ニ申上候者、潰ニ而者無之、内証相對を以商人共江損銀相掛候と申上候、此儀不得其意奉存候、最上商人共遠路之海上為差登候荷物、相對を以損銀引請可申儀無御坐候、奉察候処、御公儀様江者御訴茂不申上、偽を以潰と申立、商人共へ押而損銀相懸り候段、不届キニ奉存候、元來問屋之儀者、売人・買人引合相對之上、荷物取捌口錢ヲ取、商売相立申ものニ御座候へハ縦無捌筋ニ而身上相潰候共、商人共へ多分損銀相掛可申筋ニ無之候筈奉存候処、遠国商人江達而潰ヲ申立、損銀相掛候段、畢竟問屋商売ニ而御坐候哉、紅花

商人ニ御坐候哉、紛敷奉存候事

右申上候通、是迄問屋共勝手過成ル致方御座候間、此後紅花荷物為指登候而も、取捌諸色疑ヶ敷奉存候、向後紅花売買之儀、売人・買人問屋立会相對之上、直段取組商事為致度奉存候、猶又問屋共是迄相潰候儀も、若紅花売先紅染屋共杯無筋事ニ潰ヲ申立、問屋共江損失相掛ケ申ものも有之故か、問屋共度々潰ヲ申立候、縦紅染屋之内ニ而、身上立兼潰申もの有之候共、問屋方紅花売先之紅染屋一統ニ相潰申儀も有之間敷、彼是遠察疑ヶ敷奉存候、依之此已後紅花一色売買見届ヶ之為、最上商人共方御当地江出店相立置、商事日々ニ見届、売買諸指引不埒無之様ニ吟味仕、白地取捌為致度奉存候、只今迄問屋共、売先之紅染屋不吟味致シ商事取捌、紅屋潰レ之損銀杯引請、無捌商人江茂損失相掛ヶ候儀茂有之候哉、此度出店相立候上者、左様之儀も御座候ハ、能々見届ヶ双方吟味致紅染屋問屋不埒成潰無之様ニ仕度候、然上者自然と紅染屋潰も無之、問屋へ損銀相懸ヶ申儀も有之間敷候間、問屋も勝手たるへく、畢竟商人共も損失仕間敷様ニ奉存候、

万一紅染屋無扱筋ニ而潰ヲ申出シ、是非問屋江多分損銀相かけ申分ニ御坐候ハ、其訳相改吟味仕、筋相立候潰ニ候ハ、右損銀荷主方へ為引請候か、品ニ而問屋潰レ相立させ、商人共ニ損銀致させ候か、問屋共わけ相立候様ニ可仕候、勿論問屋之儀茂先達而奉願上候通、拾四軒ニ不限、此已後相届候もの御座候ハ、商壳体ニ御坐候間、是又勝手次第第二相立させ候様ニ、被為仰付被下置度奉願上候、尤口錢之儀、右申上候通、先年ハ紅花芫駄ニ付古銀三拾匁宛相渡候間、向後先年之通、古銀三拾匁之割を以相渡し、問屋相立させ度奉存候、尤其年紅花直段ニ而、三分通りノ口錢よりハ、右三拾匁割之口錢ハ問屋共不足ニ可存儀も可有之候得共、其余分ヲ以最上出店之雜用ニ仕、諸色見届候間、品ニ而紅花芫先紅屋潰之損失、問屋へ相かけ不申儀も可有之候間、其年ニ而少分之不足ニ御坐候共、苦ケ間敷様ニ奉存候、猶又先年ハ紅染屋、最上江罷下り商人共相頼、紅花直買仕候得共、近年御停止ニ被仰付候由ニ而相下り不申、此末右之訳奉願上候、罷下り候共、最上表ニ而紅屋共直々買入申儀ニも無御座

候、商人共江注文相渡シ、相調させ申儀ニ御座候、此度最上商人共、御当地へ出店相立候上者、若紅染屋共勝手を以最上直買仕度候ハ、右出店ニ而勝手之商人と申合、買入候様ニ致させ度奉存候、左候得ハ、紅染屋共直々最上罷下り候も同様之訳ニ御坐候間、是又御吟味之上、いか様とも被為仰付被下置度存候

右之趣乍恐被為聞召分、被仰付被下置候ハ、最上郡中惣商人百性一統ニ難有可奉存候、以上

元文五年申十月七日

願人六人

御奉行様

右之通十月七日ニ奉願上候、並同月十三日ニ左之通奉追訴仕候

乍恐口上書

一、当月七日書付を以奉申上候通、紅花芫買之儀御吟味之上、被為仰付被下置度奉願上候、尤例年紅花相捌候時節罷成候得共、当年此節之儀ニ而未取捌不申、国本に罷登候商人共迷惑ニ奉存候、右奉願上候趣、被為仰付被下置候ハ、荷物も急ニ相捌可申候間、乍恐追訴

仕度旨一統ニ奉願上候、遠国商人共数日逗留仕候茂、別而迷惑ニ奉存候間、御憐愍を以先達而奉願上候通、被為仰付被下置候ハ、難有可奉存候、以上

元文五年申十月三日

願人六人

御奉行様

右之通十月十三日奉追訴仕候、並同廿一日ニ左之通又々

奉追訴仕候

羽州最上紅花商人惣代之者乍恐奉追訴仕候口上書

一、当月十三日書付を以奉申上候通、例年紅花荷物過半

相払候時節ニ御坐候へ共、当年此節之儀ニ御座候間、

未相捌不申、遠国商人共数日逗留仕候儀迷惑ニ奉存候、

何卒奉願上候趣、御慈悲を以被為仰付被下置候ハ、

荷物も急ニ相捌可申奉存、此度上京之商人共、先達而

一統之追訴奉願上候、並私共遠国方罷登、段々逗留仕

候間、雜用等不足仕、尤商人共荷物相払不申候間、才

覚も仕兼迷惑ニ奉存候、重々恐多奉存候得共、右之仕

合ニ御座候間、無処又々奉申上候、御憐愍を以当月七

日書付を以、奉願上候通被為仰付被下置候ハ、難有可奉存候、以上

元文五年申十一月廿一日

願人

六人 印

御奉行様

右之通十月七日ニ奉願上候所、十一月八日ニ御前江為召

出、向後紅花現銀売ニ仕候ハ、商人勝手ニ可相成哉之

旨、被為仰付候間、左之通奉申上候、並問屋共紅花売買

之訳、いなり講定書之写相添候而差上申候

乍恐奉願口上書

紅花売買之儀ニ付御願申上候、段々御吟味被成下、

猶又当月八日御前江被為召出、被仰聞候御趣難有奉

存候、依之重而書付を以御願申上候御事

一、向後紅花現銀売と相定候ハ、商人共勝手ニ可被成

哉之旨被仰聞候、此儀延売之儀、是迄商人共相望候而

取捌申儀者無御坐候、現來現銀売之ものニ御坐候得共、

現銀と計限り候而者売口狭、商人共不勝手ニ御座候間、

延売現銀両用ニ而売買仕候、尤紅花上物之分を、現銀と計も相捌可申候得共、中已下之紅花を望人無少、自然と売残罷成、指問罷成候間、代銀日ヲ延候得者、其勝手を以買取候儀も有之候間、頭方勝手を以延売ニも仕候、殊ニ紅染屋有徳のものハ格別、中已下之商売人、現銀と計ハ調兼申ものも御座候、左様之方江者紅花上中下ニ不限、直段等之品ニ由、一月二月哉三四ヶ月迄、相對を以代銀延置申儀ニ御座候、依之延売現銀両用ニ而売買仕、此末現銀売一色ニ相定候ハ、中已下之紅屋共、現銀売一色相定候間、自然与商売相止申義も可有御坐候間、左候而者弥売口狭ク罷成、商人共迷惑ニ奉存候、其上商売人不足ニ罷成候ハ、おのつから紅染物茂高直ニ罷成、一統之不勝手殊更染出シ所々御座候間、別而御当地之不勝手ニも可罷成様ニ、乍恐奉存候、何分売口狭罷成候而ハ、商人共不勝手ニ御座候間、現銀売一色之儀御請仕兼候、乍恐延売之儀買人・売人勝手次第ニ（現銀斗者調兼申候間―貼紙）相對を以売買仕候様ニ、被仰付被下置度願上候事

一、紅花売買直段書付、年々問屋共由指上候由、問屋拾四軒ニ相定候以後、別而紅花直段下直ニ候様ニ、若相認差上候儀可有御坐候、先達而も稻荷講之儀問屋共申上候者、仲ヶ間共寄合捧神酒昔より有来候通、商売体之祝義迄ニ御坐候由申上候、此儀も相違仕候、稻荷講と申名目ニ而紅花売買之訳、問屋とも勝手之申合書と奉存候、則去ル丑年七月改置候由、いなり講之定書之うつし指上申候、乍恐御吟味被成下度奉存候、紅花之儀相場ものニ御座候間、十四軒ニ限取捌仕候而も、直段格別之高下無御座候、結局買人・売人引合不申、問屋共計之心任ニ取捌仕候故、紅染屋共買口せわく及難儀候間、紅染ものも高直ニ相当り可申と奉存候、此儀故論^{（敬也）}ニ被為召置候ハ、御当地紅染屋共被召出、御吟味被成下度奉願上候、尤近年問屋十四軒ニ相究候已後者、買人・売人引合不申、殊直段何程ニ何ヶ月延ニ而誰レ方へ売払候与申儀も、荷主方へハ為相知不申、問屋共心之儘ニ取捌、商人共江下直ニ勘定仕切相渡、紅染屋共江高直ニ売渡、剩問屋潰と申出シ候節も、紅

花売先之紅屋誰と申もの、何印之紅花代銀何程相滞候
共不申出、自分之身上不如意を申立ニ仕、商人共へ理
不尽ニ損失相かけ、其上問屋共勝手儘成儀多ク、商人
共ハ不及上ル、^{印號之}紅花作出候村々御百性共迄、必至と困
窮仕及難義候ニ付、前々之通広売買仕度、委細先達而
段々書付ヲ以奉願上候儀御座候、且又紅花売買明白ニ
取捌キ仕候ため、出店指出度旨奉願上候得共、又々遠
国^ノ御当地へ出店相立度旨奉願上候段、恐多奉存候間、
此儀相止申度候間、御下ヲ被成下度奉願上候、然ル処
ニ当月八日ニ被召出被為仰付候趣、乍恐至極奉存、此
上御訴訟奉仕候趣左ニ奉申上候

一、一統奉願上候儀ハ、問屋拾四軒ニ相定リ候以後、紅
花売払候節、買入・売入引合不申、問屋共心之儘ニ取
捌キ仕、買入・売入共ニ不勝手ニ御座候間、此以後紅
花相払候節者、買入・売入直々相對致させ、白地ニ売
買仕候様被仰付被下置度奉願上候

一、紅花売買口錢之義茂、前々者古銀三拾匁ツ、相渡し
候間、先年之通右三拾匁之割を以相渡し候様ニ仕度候、

此已後共ニ不相替問屋江荷物指出シ、口錢右之通勘定
ヲ以相渡し、売買可仕候間、紅花相払候節者買入方へ
對談仕、相對之上取捌キ仕候様ニ、被仰付被下置度奉
願上候

右之通被為聞召分、御慈悲ヲ以被仰付被下置候ハ、羽
州郡中惣商人御百性一統之御救と、難有仕合奉存候、已
上

文元五年申ノ十一月十三日

願人

六人 印

御奉行様

定丑七月改

一、紅花講外之新紅屋方へ弥商事不仕、勿論直かへ方へ
も堅売申間鋪事

一、問屋講外之荷物御買候紅屋方ハ、講中^ニ已來商事仕
間敷事

一、売掛銀不持之方ハ、相互ニ中間江申合掛り合、埒明
キ不申内者商事仕間敷事

但中間江者不持と申置、内証ニ而勝手成商事被致

方相聞候ハ、申合候法式ニ可仕事

一、売先身上不持之断有之方ハ、掛り合之もの早速申合、委細遂吟味相済申内者、中間方商事ハ不及申、紅屋之取次を以も、商事被致候方相聞候ハ、中間を差除可申候、勿論取次之紅屋方へも商事無用ニ可仕事事

一、法外之仕掛有之方ハ、右同前たるへき事

一、相対之上売渡候荷物、程過被相返方、又ハ代物ニ難渋を申かけ、定置候直段を押し而被引不実成筋、中ケ間へ届有之候ハ、向後商事仕間敷候事

一、惣而埒明方之品悪敷候ハ、縦家名相改候共、已来商事堅仕間敷候事

一、問屋中間可相守申合候事、違背之方者早速中ケ間差除キ、上下京紅屋方へ其届可仕事事

右之通堅相守可申候、此外連中帳簿ニ認置候通、弥堅可相守候、以上

享保拾八年丑七月

稻荷講

紅屋問屋中



右之通十一月十三日奉願上候処、十二月二日双方被召出、

紅花取捌之わけ、商人共疑不申様ニ明白ニ売買可仕由、

問屋共江被仰付、商壳体取引白地之わけ、問屋共江示談可仕旨、双方へ被仰聞候、尤左之通御書付を以被仰渡候

申渡

羽州最上紅花商人惣代

柘屋甚右衛門

青柳屋喜惣治代

藤 四 郎

此外 四 人

右六人之者共願之筋、先達而紅花問屋行事共与召合吟味之上、畢竟紅花現銀ニ致売買候得共、荷主之損銀有之間

敷事ニ候段、願人共江申聞候処、今一応了簡仕可相願旨
ニ而追付書指出、京都出店之儀ハ願相止メ、拾四軒之外
ニ手広致売買、紅屋とも国元へ罷下り、直買いたし候様
ニ仕度由、尤現銀売買之儀ハ、軽キ紅屋共不勝手ニ付、
双方相對仕度候荷主と買人と直段仕、口錢前々相渡候古
銀三拾匁之割合を以、相渡候様ニ仕度由申立候、此旨紅
屋・問屋・行事共江相尋候処、現銀売買指支候儀者、荷
主と相對ニ而取引仕候得者、滞儀者是迄無御坐候、口錢
之儀前々ハ荷物尅駄ニ付、銀三拾匁宛取來申候得共、近
年者荷主と相對之上相極候、銀尅買匁ニ付、三拾匁ツ、
取來候由申候得ハ、押而取候儀とは不相聞候、六年以前
吟味之上、紅屋共国元江下り直買之儀停止ニ申付、問屋
拾四軒相極候事ニ而、此度六人之者申越ニハ難成候、売
人・買人直相對口錢等之儀茂、荷主と問屋相對之事ニ候、
都而商売取引口錢等之儀、奉行所方申付候筋ニ而者無之
候条、問屋共ト幾重にも可致示談事

申十二月

右御奉行所方御申渡也

右之趣被仰渡候間、私共翌三日方度々問屋行事方江罷越、
向後紅花荷物被取捌候節者、買人・売人引合、白地ニ直
段取組売買被致候様ニと、色々申聞候所ニ、行事共申候
者問屋拾四軒ニ相定候已後、商賈体取捌之筋、共ニ御公
儀様方被仰渡之品を以取引致儀候間、此已後相改買人・
売人引合、或売先誰方江売払候与申儀ニ而も、荷主衆江
相為知申儀、一切不罷成候由申立、曾而相對不仕拙者共
迷惑奉存候、無勘左之通御訴奉申上候

乍恐口上書

一、紅花売買之儀、是迄段々御訴訟奉仕候処、問屋拾四
軒之外広売買仕候義、紅染屋羽州江罷下り申儀、共ニ
難被為仰付由、御書付を以被仰渡候奉承知候、問屋拾
四軒ニ相定候已後、商手狭惣商人至極及迷惑、数日奉
願上候処相叶不申、乍恐千万迷惑ニ奉存候、併売人・
買人直相對口錢等之儀者、商人と問屋相對之事ニ候間、
幾重にも示談可仕候旨、双方江被仰渡候、難有奉存候、
依之私共問屋・行事方江罷越、向後羽州方為指登候荷
物被取捌候節者、買人・売人引合對談致候上ニ而、白

地二直段取組、商事被致候様ニと度々申談候処へ、行事共申候者、問屋拾四軒相立候已後、商売体取捌之筋、共ニ御公儀様方被仰付之品を以、売買仕儀ニ候間、売人・買人引合申儀、勿論売先誰レと申儀ニ而も、荷主中江一切為相知申儀、不罷成由申立、曾而相對不仕候、畢竟買人・売人引合不申、売先之紅屋へ取組候直段、荷主方へ為相知不申候而者、何分問屋共後くらぎ致方ニ御坐候故、商人とも幾重ニも疑ケ敷奉存候、先達而被為仰渡候御趣ニも、商人共疑不申ため、明白ニ売買可仕由被仰付候処、御前ニ而者御請仕、内証ニ而者勝手を申、売買明白之証相對不仕候段、迷惑ニ奉存候、依之無扱右之趣御訴奉申上候、以上

元文五年申十二月十日

願人六人 ㊦

御奉行様

馬場謙岐守様

嶋 長門守様

申ノ十二月十五日江戸
へ御下り江戸御所奉行

御勤被成候

右之書付十二月十日御訴申上候処ニ、則番所方石黒三十郎殿訴状御返シ被成候

依之相談相極メ御諸司様へ箱訴いたし候

右之趣是迄段々御訴訟奉仕候処、十四軒ニ不限広売買仕候義、難成旨被仰渡候、尤先達而御奉行様江被召出、紅花売買白地之訳、幾重ニも示談仕候様ニ被仰聞、双方御請仕、夫方行事方へ再応、紅花売買白地之わけ相對仕候得共、売人・買人引合白地ニ売買為致候義、曾而不罷成由申候、此趣御奉行様へ御訴申上候へ共、御取上無御坐候、依之国元商人烈印を以相頼候書付之写別紙差上、乍恐御訴訟奉仕候趣左ニ奉申上候

乍恐奉願上口上書

一、拾四軒問屋年々相潰レ、最上商人江多分損失相掛候儀、先達而御奉行様へ御願奉申上候処ニ、十四軒問屋共方申上候ニハ、紅屋方問屋へ損失相重り候故、商人共江も損失相懸候様ニ申上候、此儀いなり講と申定書を仕、問屋共荷物売買仕候上者、売先之紅屋より問

屋損銀相かけ申儀、無之様ニ奉存候、則稻荷講之写所持仕候間指上申候、御当地紅染屋共被召出、問屋へ是迄損銀相懸候哉、乍恐此旨御吟味被成下度奉願上候事

一、拾四軒問屋之儀、六年以前御奉行様御吟味之上、被為仰付候御儀御坐候、今又御改被遊候儀、難成旨被仰聞候、並拾四軒と相定候已後、紅花売口手狭、殊二問屋共勝手多我儘取捌仕、商人紅屋之難義ニ相構不申候故、双方至極迷惑仕候ニ付、乍恐再応奉願上候、併右拾四軒問屋方ニ而、紅屋売買不仕候得ハ、对御公儀様へ何様之御指聞御座候哉、難計奉存候、拾四軒相定候而者、問屋之勝手計ニ而、商人・百性・紅染屋一統之難義ニ御坐候間、御慈悲ニ御吟味被成下度奉願上候御事

一、紅花売買口銭之儀、先年者紅花売駄ニ付、古銀三拾匁宛相渡候処、六年已来紅花売駄代銀高井之内、三歩通ニ取引売買仕候、困窮之商人迷惑ニ奉存候間、奉願上候御事

一、御当地紅染屋中、前々者羽州表へ直々罷下り紅花相

調候処ニ、六年已来問屋拾四軒ニ相極候而、罷下り候義御留メ被遊候間、買人無少時ニより紅花相捨り候事有之、御百性至極迷惑仕候、元来紅花直仕入之儀糸荷物ニ紛、御留メ被遊候様ニ奉承知候、然ル処ニ、糸会所之儀相止候上ハ、糸荷物紛候儀も有之間敷様奉存候間、乍恐御願奉申上候御事

一、売人・買人引合白地売買仕候事、双方御召出之上被仰聞候、殊ニ以書付を幾重ニも示談仕候様ニ被仰付候間、問屋行事方へ参度々对談仕候へ共、白地之訳曾而相成不申由申候、夫故右之訳書付を以、当月十日ニ御訴奉仕候処、当年上京之商人共、荷物相払罷下候上者一統ニ有之間敷哉之旨被仰聞、書付御返シ被遊候、併当年ニ不限、為差登候紅花荷物之儀、殊ニ私とも奉願上候儀、未落着不仕、他所ニ而相捌不申代物ニ御座候へハ、商人之儀金子ニ手詰、乍不勝手無抛売払申候、乍恐右之訳御吟味被成下度奉願上候御事

右之通是迄段々書付を以御願奉申上候処、双方被召出候吟味被成候得共、一応対決不仰付候、殊拾四軒問屋共何

之御用承候哉、上訴仕我儘成返答申上候、此上乍恐問屋
共被召出、右之趣候対決被為仰付被下置候様ニ奉願上候、
此度差上候烈印写、御料所黒沢直右衛門殿御代官所商人
共ニ紛無御坐候、右御料所寒河江村・谷地村方為指登候
紅花荷物之儀、商人共烈印を以相頼候趣、御慈悲を以被
為仰付被下置候ハ、難有仕合奉存候、以上

羽州最上紅花商人

惣代 柘屋甚右衛門

喜惣二代

元文五年申十二月廿一日 藤四郎

御諸司様へ差上ケ候写 中村屋六郎兵衛

御奉行様 近江屋 又兵衛

此者罷下り 鈴木屋 忠 助

此者病氣ニテ 荒木屋 与兵衛
罷下り

右之通極月廿一日ニ御箱訟仕候処ニ、同廿六日御番所へ
被召出被仰渡候、当年間も無之儀ニ候間、年明早々御吟
味被遊候儀ニ候間、罷下り不申候様ニ可仕旨被仰付候、

若相下候者御座候ハ、訴出相下り可申様ニ被仰付候

右石黒三重郎様御番所へ被召出被仰付候

正月廿二日ニ御番所へ被召出、子年已来紅花直段之訳相
認候而、指上候様ニ被仰付候、吟味致候儀有之由被仰候
右石黒様御吟味

乍恐口上書

去極月廿六日ニ被召出奉願候趣、御吟味被成下候様被仰
付、難有仕合ニ奉存候、然ル所当廿六日ニ被召出、子ノ
年已来紅花直段、並荷高書付指上候様被仰付、乍恐左之
通奉申上候

一、子ノ年已来羽州表方為差登候紅花荷高書付、差上候

様被仰付候処、最上郡中と申候も在々所々数多、殊

ニ奥州紅花入込候故、駄数之儀難相知御事ニ御坐候

一、子ノ年已来売付候紅花直段之儀、申上候様ニ被仰付

候処、元来紅花之儀其品多御坐候得ハ、多分之高下御

坐候、何ノ年之紅花直段、何拾何兩と相究可申様も無

御坐候、尤売付紅花直段、或何ノ年ニハ上花四十兩、

中花三拾両、下花式拾両と申上候而も、右上中下之内
ニ又々高下御座候へハ、何ノ年ニ何程と申儀難相知レ
奉存候、猶又相場物ニ御座候へハ、一ヶ月二ヶ月之内
直段相違仕、其品多キ事ニ御座候間、商人之内ニも得
理分申ものも有之、又ハ其年之内ニも損失仕候商人も
御坐候得ハ、直段之儀難申上候、殊現金売延売多用ニ
而売付申候へハ、商人ハ数人之儀相知レ兼候、右申上
候通相場もの故直段相違、殊更紅花之出来ニ高下御座
候へハ、書付差上可申様無御座候、何分寒河江・谷地
商人、烈印を以御願申上候通、御吟味被成下候ハ、
難有可奉存候、以上

元文六年酉正月廿八日

最上願人

六人

御奉行様

右之通正月廿八日書付指上候へ共、紅花直段書付、荒増
ニも書上候様被仰付、御返被遊候

乍恐口上書

一、正月廿二日ニ被召出、紅花直段書付指上ケ候様被為
仰付候故、紅花直段書付難指上旨、同廿八日ニ書付を
以奉申上候処ニ、子年以来年々売払候紅花直段、上中
下ならし書付、追而指上候様被為仰付候へ共、此間も
奉申上候通、紅花と申もの其品多、縦者五百駄之紅花
直段、五百品ニも四百品ニも御座候、然者五百駄之荷
物ならハ、五百駄之代銀壹駄之高下書付、ならし可申
より無御坐候、猶又羽州方為差登候紅花荷物、多キ年
八百駄位、中分之年七百駄位、無少年六百駄位ニも御
坐候、或中分之年之ならし直段書付差上候ニも、七百
品ヲ書付ならし不申候得ハ、相知申事無御坐候、国元
江籠下り吟味仕候而も、最上郡中在々所々入組之場所、
或者式里・三里・五里・拾里隔候へハ、何之年之紅花
何程、何屋之誰ハ問屋誰方ニ而、何拾何両替ニ相払候
被申候哉と申儀、是迄聞合候事茂無御坐候、殊二年久
敷品多キ紅花事ニ御坐候得ハ、委細ニ不存筈ニ御座候、
国元江籠下候而も、紅花ならし直段書付差出可申様無
之、併被為仰付候儀ニ御座候得ハ、私共売渡候紅花直

段之儀、存覚候分左ニ書付差上申候

紅花直段付

子ノとし
尖印紅花考駄

但五百匁入六拾四袋ニテ
實め三拾貳貫匁
貳箇付考駄ニ御坐候
代現銀手取古金三拾考兩かへ
若山屋助右衛門

同とし
尖印同考駄

代現金手取古金貳拾九兩かへ

子ノ年
土印同考駄

代現金手取古金廿八兩替

丑ノ年
△印同考駄

代現金手取古金三拾兩替

同とし
土印同考駄

代現金手取古金貳拾八兩替

同のとし
尖印同考駄

代延売古銀考貫五百匁替

△印同考駄

代延うり古銀考貫六百五十匁替

同とし
△印同考駄

代現金手取三十六兩替

同年
△印同考駄

代現金手取古金五拾考兩替

卯ノとし
尖印同考駄

代現金手取古金拾八兩貳分替

卯ノとし
土印同考駄

代延売古銀貳貫貳百匁替

同とし
□印同考駄

代延売古銀貳貫 匁替

辰ノとし
◎印同考駄

代延売文銀貳貫四百七十匁かへ

右同断

右同断

右同断

右同断

右同断

右同断
若山屋勘右衛門仕切

右同断

④印同考駄

右同断

乍恐口上書

代現金手取古金貳拾四兩考分替 右同断

近江屋八郎兵衛仕切

巳年 覚不申候

午とし

天印同考駄

但五百匁入六十四袋ニて
但買め三十式買匁
貳箇付考駄也

代延売文銀三貫六百七拾匁替

松沢屋増之助仕切

未とし

天印考駄

右同断

代現金手取文金六十五兩替

いせ屋利右衛門仕切

天印同考駄

右同断

代現金手取文金四十九兩かへ 松沢屋増之助仕切

右之通売渡候分、委細ニ者相知不申候得共、覚候分書付

候様被為仰付候間書上仕候、已上

元文六年酉二月四日

願人六人 ④

御奉行様

一、先達而御箱江御訴訟奉仕候通、最上さかへ・谷地商人共烈印之写、指上奉願上候儀御坐候、御箱江御訴訟奉仕候通り、御吟味被成被為仰付候下置候ハ、難有可奉存候

紅花売買之儀ニ付、段々御吟味之上、猶又当月二日ニ御前江被召出、紅花売買御吟味被成下難有奉存候、其節白地之訳書付指上候様被為仰付奉畏候

一、紅花売買白地と申儀者、紅花売払候節、荷物者問屋へ指出し口銭之儀ハ先年之通、古銀三拾匁割を以問屋へ相渡し、直段取引之儀者、買人・売人直々直段取引申上候へハ、白地ニ奉存候、殊ニ現金売延売両用共、紅染屋と商人相对次第二仕度候、猶又荷物計為差登候而、問屋を相頼売買仕候節者、問屋より荷主へ相渡候仕切帳ニ、紅屋誰方へ相払候と申、書付相渡候様ニ被為仰付候被下置候ハ、紅花売買取引白地ニ奉存候
一、問屋共是迄相潰レ、商人共江損失相掛ケ候儀、先達而書付を以申上候通、いなり講と申定書仕候而、致売

買候上者、売先紅染屋より問屋へ損銀相かけ候儀、無
之様ニ奉存候、是迄之通問屋共順番之様ニ相漬、損銀
相掛被申候而者、此末商人相続成兼候間、自今以後十
四軒仲ケ間ニ而問屋相勤候ハ、相漬候而も仲間とし
て弁、商人江損銀相掛不申様ニ仲ケ間請合、証文仕相
渡候様奉願上候

右段々之趣御吟味被成下、御慈悲ニいか様とも被為仰付
被下置候ハ、難有可奉存候、已上

元文六年酉二月五日

願人六人

印

御奉行様

追訴

二月晦日御前江被召出

紅花問屋

行司貳人

最上願人

五人

右之通被召出讚岐守様被仰出候者、段々御吟味、此上紅
屋方聞届ケ勝手之筋申候ハ、願之趣可被仰付由被仰出
候而、御前罷立申候、以上

二月晦日

御公儀様へ紅屋百五拾九軒不残被召出、勝手不勝手之筋
申上候様被仰付候、

此間江戸表と禁タンノ筋申参候而、三十日鬮箱上ケ無之
候

一、上下紅屋共仲間色々にて、寄合之上御公儀様へ書上
ケ、此間廿日余りかかり、忠助・又兵衛上京へ、藤屋
弥兵衛へ参り候而、段々願之筋物語致シ、御公儀様へ
上下紅屋書付一統ニ為致候

写

一、紅花之儀、是迄問屋と相對を以直段組仕買銀来候処、
羽州最上紅花主惣代之もの、此度御願書差上、向後於
問屋売人と買人直相對、売買致候様ニ仕度旨御願申上
候ニ付、右之通仕候而私共差支無之哉、現銀売買仕候
而も相障候儀無之哉、存知寄申上候様ニと被仰聞候、
右之趣被為遊御尋候ニ付、乍恐書付を以御答申上候
一、紅花之儀、於問屋売人・買人と直対売買致候得者明
白ニ相成、紅屋共勝手宜難有奉存候、尤職人之儀ニ御
坐候へハ、度々問屋へ参候事も、無暇節も御坐候へハ、

銘々宅二而も売人・買人直相對も相成候様、被為仰付

被下候得ハ、弥以勝手宜奉存候、然上者直段組相濟候

ハ、早速問屋江通達致させ候様仕度奉存候、左候得

ハ、問屋共も無滞相働、紅花も下直二相成候様ニ奉存

候

一、問屋方へ紅花送り荷物、並問屋へ相仕セ置候荷物之

儀ハ、問屋共と直段組仕相調、荷主方へ直段之通達可

仕候、然ル上者買口広ク相成勝手宜奉存候

一、現銀売買之儀、現銀買ニ仕候ハ、下直ニも可有御坐

候得共、紅染屋家職之儀、得意先二季掛り多御座候へ

ハ、現銀ニ相究候ハ、難儀ニ奉存候、此儀ハ是迄之通

相成候様ニ奉願上候

右之通被為仰付被下候ハ、難有可奉存候、以上

面ニ写させ

是へ下京おノ写 紅花屋百五拾九軒書上ケ

京七十八間

紅屋共也

下八十一間

酉四月十七日

御奉行様

乍恐追訴奉仕口上書

一、先達書付ヲ以御願奉申上候紅花売買之儀、段々御吟

味被成下、直相對之義売先紅屋得心ニ候ハ、被為仰

付可被下置旨、二月晦日ニ御前江被召出候節被仰聞、

至極難有仕合奉存候、先達も奉申上候通、私共遠国も

の数日逗留仕、殊之外及困窮難義仕候、猶又国元紅花

も出来仕候時節ニ罷成申候間、又々乍恐追訴仕、御慈

悲之上急ニ被為仰付被下置候ハ、難有可奉存候、以

上

寛保元酉四月廿六日

羽州最上商人

御奉行様

惣名代五人

又五月十一日追訴仕候処ニ、同十五日ニ紅屋上下合

廿人余、問屋行事兩人、我等五人御前江被召出、讚

岐守被仰出候ニ者、問屋共書付之通於問屋ニ紅屋引付、相對売買致候様ニ被仰候、御答申上候ニ者、於問屋と限り申候而者売口手狭、書付ヲ以奉願候通り、紅屋方へも直々參候而直對相抔申度旨、御答御願申上候得者以之外御腹立、付上り候ものとも白地之訳直對其上之事、又々申出事不届キ千万、此上御老中様迄も願出可申候、我等合手ニ可罷成等御申被遊候、然共御請不申暫御願申上候所、相立之御事故御前罷立申候、我々此上何分御諸司様江箱訴仕、其上江戸迄罷下り御訴訟可仕と申合居候前ニ、旅宿へ又々御役所へ罷出候様御差紙故、五兵衛・忠助罷出候、然所ニ石黒殿被仰候ニ者、殿様御腹立被成候段、我共呑込無之故と御申ニ成、紅屋ニ而も直對売買度段、今明日中書上候様ニ被仰付候故罷歸り、則翌十六日

二
乍恐奉願上口上書

一、先達而御願申上候紅花売買白地之訳、段々御吟味被成下至極難有奉存候、猶又当十五日御前江被召出、向

後於問屋売人・買人直對仕候様ニ問屋共差上候書付之趣、私共ニ御説為聞被下置奉承知候、紅花売口之儀、於問屋限り候而者、売口手狭迷惑ニ奉存候、此訳書付を以申上候様被為仰付奉畏候、先達而段々以書付奉願上候通被為仰付奉畏候、先達而段々以書付奉願上候通、荷物者問屋江差出シ、口錢之儀ハ先年之通、古銀三拾匁之割を以問屋方へ相渡シ、直段取引之儀ハ於問屋茂買人・売人直對之上直組仕、又者紅染屋方へも売人直々參候而も、直組相極メ申度奉願上候、左候而も口錢之儀者問屋へ相渡可申上候、然上者売口手広勝手宜敷奉存候、殊荷物計為指登、任問屋ニ相抔候節ハ、問屋方と相渡仕切状ニ、売先紅染屋誰方へ何ヶ月延ニ、代銀何程現銀売ニ何程ニ相抔申候と書付仕、相渡候様仕度候、右之趣御慈悲之上被為聞召、右被為仰付被下置候ハ、千万難有奉存候、已上

寛保元酉五月十六日

羽州最上願人

御奉行様

五人判

同廿五日ニ御番所へ被召出石黒殿被仰渡候

我等共遠国者共、嘸永逗留難儀ニ可存候、兼而可及聞と御奉行様御取込故、被仰付も無之候間、夫故呼出シ申渡也、此間相待候様ニ被仰付候故、差扣罷有候

乍恐奉願上候口上書

一、紅花売買之儀、去夏中^方御訴訟奉願上候処ニ、段々御吟味被成下難有奉存候、然ル所当月廿五日ニ被召出、御役所表御多用ニ付、暫差扣候様ニ被仰聞奉畏候、国元紅花も専仕入時節ニ罷成、猶又私共永逗留至極難義仕候間、乍恐追訴奉仕候、此上之御慈悲ニ御坐候間、五月十六日ニ差上申候書付之通ニ、忽々ニ被仰付被下置候ハ、商人・百姓一統之御救と難有奉存候、以上

寛保元酉五月十日

願人五人判

御奉行様

乍恐奉願口上書

一、当日書付を以奉申上候通り、国元紅花等出来之時

節ニ罷成、追付荷物上着国仕と奉存候処ニ、奉願上候儀未落着不仕、乍恐迷惑ニ奉存候、猶亦当二月晦日被

召出候節、売先紅染屋願之趣得心仕候ハ、被為仰付可被下置旨、則御前ニ而被仰聞難有奉存候、然所ニ、紅染屋中書付差上候様ニ奉承知候、然者紅染屋得心不得心之訳可申上と奉存候所ニ、今以被仰付不被成下、千万難計迷惑ニ奉存候、殊ニ問屋之儀者、口錢を以渡世仕候者ニ御座候得者、先年之通古銀三拾匁割之口錢者、縦紅染屋江売人参り、直対仕候共相渡し可申旨、御願奉申上候得共、問屋方ニ而指支ニ可罷成儀、無御坐候様奉存候、私共遠国^方罷登り、御公儀様へ御苦勞奉掛、其上再応追訴奉仕候儀、千万恐多奉存候得共、遠国もの永逗留ニ而、当時可致様無之仕合御座候間、御慈悲ニ奉願上候趣、忽々被為仰付被下置候ハ、一統ニ御救と難有奉存候、已上

寛保元酉六月十八日

願人

五人

御奉行様

右御役所江差上候処、石黒殿番所へ御呼被成候而被仰候ハ、段々御差支故延々ニ成ル、此方共今日西御役所へ右願書上、明十九日ニ差上候様被仰候間、兩人罷出候五兵衛・忠助御請申、則御添状東御役所へ御渡候而、西御役所三井下総守様・讃岐守様御立会ニ而、十九日西奉行所へ罷出候処ニ、讃岐守様被仰出候二者、丹後守殿へも御窺可申付候へ共、此間相待候様ニ被仰出候故、□旅宿旅宿へ罷帰居候

乍恐奉願口上書

一、当月十九日追訴奉仕候節、御前江被召出願趣、御諸司様江御窺被成下、被仰付可被下置旨被仰聞、至極難有奉存候、其已後被仰付候茂、被成下候哉と存候処、今以無其儀乍恐難儀ニ奉存候、私共儀是迄段々奉申上候通り、去夏中より永逗留仕、路用・雜用等ニも手詰り遠国者故、才覚等も不罷成、此上永引ニ而ハもはや取続成兼、奉願上候義相止メ、罷下り候様ニ相成り候、元來御公儀様江御苦勞……………(以下欠)……………

三 京都紅花問屋相手取、紅花売買吟味方願

乍恐以書付御願奉申上候御事

一、羽州最上御代官所百姓惣為名代、私共上京仕御願奉申上候趣意者、紅花・青苧之儀、土地相応之作付と申、殊ニ六月ニ至り候而ハ、夫食一切無御座、困窮之百姓至極難儀之時節、紅花出来売買仕候而、盆前後迄ハ漸渡世仕候処、近年京都紅花問屋拾四軒ニ相定候以後、紅花取捌悪敷商人共損金仕、紅花商相止メ候商人數多御座候ニ付、自然と摘出之紅花も直段以之外下直仕、郡中一統之難儀ニ罷成、至極迷惑仕候、以前紅花売附之儀、京着之分九月頃ニハ、過半売附商人共相仕廻罷下り候故、畑方仕付之実取万物共ニ商人進ミ直段宜敷買取候間、從御公儀様被為仰付候御年貢金納御触出之御日限、無遅滞上納仕候処、近年京都問屋拾四軒之仲間売口不分明之品多ク、紅花荷物年内金子ニ相成不申候様ニ罷成、商人共損金仕、其上永々逗留仕、諸雜

用多分ニ相掛り候儀、商人無手廻故、百姓共仕附之作物等下直ニ売払候故、御年貢上納金不足ニ相成、年毎差残りニ迷惑仕候、畢竟以前と違、問屋拾四軒之仕業不宜敷存候、子細ハ紅染屋方江売渡候紅花直段ハ高直ニ而、商人方江相渡候、売仕切直段ハ甚下直ニ而、多分相違有之由承知仕候、然者問屋中口錢之外過分之売金取之候故、取メリ、宜敷直段も出兼、売手・売先之間柄相掠メ候間、はか／＼敷売買も無之故、年中之金子ニ相成不申商人ハ不及申、商人ハ不及申郡中之百姓一統之語りニ罷成迷惑仕候、依之右之段御願奉申上度、数年申合居候得共、遠園之儀、猶又御公儀様御苦勞之筋奉申上候義、恐多奉存差扣罷有候得共、問屋中弥増之我儘相募り候故、無抛奉御願上候、

右申上候通、少茂相違之儀、御訴不奉申上候、依之問屋拾四軒之致方甚不分明ニ付、此度奉御願上候義ハ、紅花売買口錢者、先規之通問屋方江相渡シ、紅屋・問屋双方を売買吟味場所相立候得ハ、明白ニ相成申候間、右之段紅屋・問屋御召出シ御吟味被成下、紅花商人方江売買改

被仰付被下度奉御願上候、左候ハ、自然と売買速ニ罷成、商人方之荷物も年内之金子ニ相成候故、百姓方之勝手宜敷、御年貢米金早速上納御手問ニも相成不申、悉ク郡中百姓共御救ニ罷成候義ニ御座候間、御慈悲之以御堅慮、右之趣被為召訳、御赦免被成下度奉願上候

前書之通、羽州御公料御百姓中一統御願有之候ニ付、紅花商人一烈仕、左之通御願奉申上候意趣

一、先年国元方願人罷登り、紅花直対之義御願申上候処、問屋江御尋被遊候得ハ、以書付申上候訳ハ、前々之通附紅花屋方へ相廻置、直段之儀、於問屋売人・買人立会売買仕候得者明白ニ御座候段奉申上候ニ付、其趣双方江被仰付御請仕候、

然ル処其後紅屋方江附花売袋も相廻シ不申、於問屋致目利候ニ付、先格とハ相違仕候故、月々問屋江立会申候得共、紅屋方直附不仕一向売買無之、双方及難儀候ニ付、直対之儀願下仕候、御公儀様江差上候書付とハ甚相違仕候、尤上京之荷主共罷有吟味仕候得ハ、指當而持參之荷物突廻候ニ付願下仕候

一、紅花売掛仕切状代金請取候節、売先損益有之候而も少も申分無之段、商人共一札ヲ取金子相渡申候、

右一札不仕候得ハ金子相渡不申、ケ様之仕義外諸問屋ニ而ハ格式無之儀ニ御座候、遠国ハ罷登リ候商人之儀、無掬一札仕金子請取罷下り候

右体之書付取置候上者、問屋何程売金取罷有候而も難致吟味迷惑仕候、

右之訳共全非分之致方ニ奉存候得共、遠国之商人共相抽而御願も相成兼延引仕候

一、拾四軒之紅花問屋紅花売先キ直段之儀、商人共ニハ一切為相知不申、売附候紅屋名前ハ勿論、売渡候荷物荷印莖菰相掛持運、隱物同前之致方不得其意奉存候

一、去ル未五月問屋方江指出置候紅花直段下直ニ相附候間、荷物相返シ候様ニ度々催促仕候得共、荷物相返シ不申候ニ付、無是非荷物相返シ候様ニ被為仰付被下度旨御願奉申上候得ハ、問屋方江其段被仰付候処、問屋方申上候ハ、荷物何程ニ売附候間、代金ニ而相渡申度由奉申上候、其節御公儀様江売附書上申候直段と、商

人共ニ為聞申候直段、式割余り高値ニ書上仕候、然ハ売金取候證処明白ニ御座候故、商人共宜敷致了簡内々ニ而相對ヲも仕様ニ被仰付、其上問屋行事再三相願候ニ付、売附以代金相濟申候荷物売渡候、相對斗ニ遠国方荷主共罷登、逗留仕候ものハ相對ヲも不仕、勝手我儘取捌仕候義千万疑敷奉存候

一、去ル未ノ秋、問屋共ハ紅花紅屋方江売渡候得共、一向商人江ハ其沙汰不仕候ニ付商人共寄会之場ニ問屋呼寄セ、新花売附候哉之旨相尋候得ハ、紅屋方直附無之故少も売附不申段返答仕候、然者此上疾致吟味御願為申上由、問屋共江申達候得ハ、則其座ニ而問屋行事申候ハ、紅屋江三四拾駄者売附候、此義商人中江不申達不届之義再三相詫候ニ付、内々ニ而相濟申候、然共御公儀様江問屋共如何様之申訳仕候哉、不得其意奉存候

右申上候通、毛頭相違之儀少も御訴不奉申上候、弥百姓中御願之通、商人共も一烈仕候、畢竟問屋致方年重不分明有之ニ付、此度奉御願上候義ハ、紅花売買口錢ハ不及

申、商人ともより相定之通問屋共江相渡売先キ紅花荷物
 紅屋・問屋双方売買直段、私共江通達仕、附花荷物紅屋
 問屋と立会見せ申度奉存候、依之右之趣、紅屋・問屋江
 被為仰付被下置候様ニ奉願上候、左候ハ、拙者共紅花売
 買場所相定、於其場紅屋・荷主・問屋立会候ハ、売買
 明白ニ相成申儀ニ御座候間、御慈悲之以御堅慮右之趣被
 為聞召訳御赦免被成下候ハ、一統之御救と難有可奉存
 候、以上

御奉行所様

宝曆三年酉二月

羽州村山郡尾花沢御役所附谷地村

惣百姓名代

久 兵衛 印

羽州村山郡寒河江御役所附谷地村

惣百姓名代

儀 兵衛 印

同国同郡尾花沢御役所附羽入村

名主 伝 兵衛 印

組頭 伊 兵衛 印

百姓代 茂右衛門 印

右同断郡山村

名主 藤左衛門 印

組頭 武 助 印

百姓代 弥五兵衛 印

右同断谷地荒町村

名主 藤右衛門 印

名主 忠 兵衛 印

組頭 伊右衛門 印

組頭 善 十郎 印

百姓代 惣 助 印

百姓代 庄 兵衛 印

右同断藤助新田

名主 藤 助 印

組頭 甚 七 印

百姓代 権 四郎 印

右同断天童北目

名主 武右衛門 印

組頭 窓 内印

百姓代 彦 作印

右同断天童老野森

名主 権兵衛印

組頭 九兵衛印

百姓代 九右衛門印

右同断天童原町

名主 兵衛印

与頭 八太郎印

百姓代 喜右衛門印

右同断大町村

名主 六右衛門印

組頭 伝吉印

百姓代 庄三郎印

四 紅花代金支払之事

一札之事

一、拙者儀於當地ニ最上紅花問屋相立度旨御国許江申遣候処ニ早速貴殿方御登被成下及御相談ニ商仕法書付最上商人衆中江指下シ申候、勿論為御登被成候荷物拂方之儀ハ京都直段之加相応ニ相拂可申候

定

一、藏敷売口錢共 銀高二付六ト口錢

此外一切掛り物無御座候、尤仕切表売先
名前書付可申候

一、藏銀利足之儀ハ正月と九月迄之儀ハ月考歩三厘

十月と極月迄ハ月考歩五厘

一、御荷物之儀ハ大坂着次第代物代金相応ニ内為替可

仕候、尤其時之相庭次第御拙被成ハ、早速仕切代
金拙者方も指出可申候、

五 京都紅花問屋並びに仕方書写

右書付仕法之通相違有之候ハ、何様ニ茂可被仰付候、為其

一札仍而如件

京都紅花問屋並ニ仕方書写
乍恐以書付奉願上候

宝曆五年

大坂安次川富嶋町

亥四月

上手屋万右エ門

羽州村山郡漆山

半左エ門殿

同州同郡谷地

久兵衛殿

同州同郡同村

長之助殿

一、江戸神田錦町次左エ門日本橋通り四丁目吉左エ門奉願上候ハ、羽州最上御百姓中並ニ紅花作出京都問屋共江相送り売拂、右代金ヲ以テ御年貢諸役共御上納仕来り候処、近年京都表問屋仕切甚下直、其上諸掛り物等夥敷相掛り難義至極仕候、羽州表之儀ハ去ル亥年より凶作打続、至而困窮仕候処、從御上廣太之御救ヲ以取続候得共、今以右紅花直段下直ニ付、其年之相場ニ而無是悲奉存候得共、何程ニ中売江遣候与申寄も不相知、問屋存寄次第之仕切遣其上色々諸掛り物等夥敷相掛り、手取之金子も不足ニ而、弥々困窮仕候間、羽州一統奉願上度奉存候得共、羽州最上之義ハ御料並私領分郷等有之、御願之義難申上候間、私共被相頼御願申上候者、京都之紅花問屋八軒並ニ当時相休罷有候問屋六軒都合

拾四軒有之候処、此度右拾四軒江私共差加リ相動候様被仰付被下度奉願上候、然ル上者左ニ申上候仕方書之通り少も無相違、急度相動可申候、左候得者私共義ハ不及申上ル、羽州表之者共御年貢等無差支上納仕、足直之御救も相願申猶々相続可仕与奉存候間、以御慈悲ヲ願之通り被仰付被下候ハハ難有奉存候、以上

右仕方

一、紅花荷主方相送り候ハハ、中買江直段為相付荷主江相談仕實拂候ニ証文ハ見合候ニ茂、荷主存寄次第可仕候事

一、紅花實代金尅両ニ付口錢何程と相定、屋敷其外少々掛り物等引落、右代金問屋方相立替、早速荷主出立為致候得者、荷主共儀者不及申上ニ中売之者儀も明白ニ売買仕、至而勝手ニ相成儀ニ御座候得者、是迄之間屋共江も差而障リニも相成不申相続可仕与奉存候事

一、紅花問屋拾四軒ニ不相構昨前者京都紅屋共、羽州江年相下り直仕入仕候ニ付、紅花直段宜キ□^々百姓方勝手罷成御年貢米金□^々納方差支無之御事ニ御座候間、此度

御願申上候ハ、何卒先年通り京都紅屋共羽州作出御所之最寄之市場江罷下り、直仕入仕候様被仰付被下置候様奉願上候、左候得ハ直仕入之者共分勝手宜敷奉存候事

右者此度各様江御対談ニ及候者、近年京都紅花問屋荷物取捌方宣候ニ付、目値段下直仕、紅花商人甚不勝手有之候ニ付、羽州村々御百姓衆中尚以御不勝手之筋と奉存候、依之拙者共及御熟談ニ各様御連印被下候得者、早速京都表江御願申上、拙者共新問屋相立右仕方之通り急度相動可申候、其上京都紅屋共明年方羽州へ罷下り最寄之市場ニ而紅花直仕入仕候様、是又達而御願申上へ候間、此節及御対談ニ候上村々御役人様方御連印申請度奉存候、以上

京都鳥羽鮮屋

又三郎

江戸神田錦丁堺屋

次工門

同日本橋小田屋

庄左エ門

村々名主組頭百姓代連印之写

一札之事

一、羽州最上之義ハ、月山湯殿山獄下ニ而田畑共ニ実入薄キ寒国ニ而、夏夫食甚難義仕候得共、右地相応之作付ニ而紅花売買を以テ夫食取統御百姓相統、並ニ右ニ准シ商人共も渡世仕来り候処、近年京都紅花問屋拾四軒ニ相定而以來、紅花取捌方不分明之様ニ罷成り、剩先年者京都方直買或ハ下り金等も有之候得共、右以來一向相止自然と売買手狭ク相成申、至而不通用ニ付、国元一統困窮之基ニ罷成り、其上先年九十月をハ、過半売拂商人共京都被仕廻罷下り米穀買入候ニ付、御年貢御上納金共ニ無差支皆済仕来り候処、近年ハ合体之義ニ付、紅花荷物年内ニ捌兼、商人及長逗留ニ諸失物相増候ニ付、国元御百姓ハ穀物等相拂不申御上納方次々差詰り候ゆへ諸穀類下直ニ罷成り、一国一統困窮

之基と罷成候ニ付各方へ御対談之上、意味左ニ申入候是迄有来り候京都紅屋問屋拾四軒之義ハ相定り居候義右之外江為加問屋ト各方へ老軒御願被下度候、子細ハ前書之通り遠国方罷登り不分明之体ニ而ハ、万事売方疑敷罷成候ニ付、各方に御熟談之上ニ而、諸事明白ニ売買取捌申度事

一、御願被成候ハハ京都紅屋中ハ先年ハ拾四軒と不相極以前之通り最上最寄之方江勝手次第直買仕入御免被成下罷下り候処ニ致度候、子細ハ前段之通り、紅花商人廻り不宜故、自然与下直仕御上納方差詰り難義至極奉存候事

右御対談之通り少茂相違無之候、去ル亥年以來凶作ニ付百姓相統難相成候処、從御公儀様廣太之御手当被下置漸是迄取統罷有候ニ付、右御願被御付被下置候得ハ自然と当国之御救ニ罷成り候間、御願被下候得共、最上紅花之義ハ当国第一之助成ニ罷成候処、年毎ケ様之不景夏ニ而甚及迷惑ニ候間、右対談之通り御願被下度候、以上

(十一年)
宝曆巳十一月

村々

名主

組頭

百姓代

内巻俵式斗 種扱引

九拾五俵 引 貢米

残米四拾俵

三十三俵壹斗

大豆 拾貳俵

小豆 貳俵

粟 貳斗

なたね 六叭

生花 四拾メ目

川弓 貳拾メ目

あへ 拾メ目

たね綿 四メ目

たばこ 三十つる

(味噌)

三そ 三俵 大麦五俵

しやうゆ壹斗五升 荏 四斗
大こん

大麦貳俵

六 当村産物取調帳

〔明治五年〕

当村産物取調帳

壬申四月

立附米七拾五俵

一、米百三拾俵 久助

内

一、畑米貳拾俵 引

權三郎

一、米百貳拾五俵 惣出高

同 七拾五俵 年貢

同 貳拾俵 畑年貢

同 壹俵七升五勺 種粳引

一、殘米貳拾八俵貳斗五升五合

外

大豆 八俵

小豆 貳俵

菜種 壹石六斗

粟 貳斗

茶 五斗

紅花 三拾五メ匁

煙草 十つる

あへ 五メ目

種綿 三メ目

味噌 貳俵

桑 貳百五拾メ目

種紙 十枚

まい 壹石五斗

ひる 壹斗五升

荏 三斗

麦 五俵

太七

一、田米七十六俵貳斗

外

畑米拾壹俵 貢米

米三十六俵 殘廿九俵貳斗

内米壹俵 種粳

殘米廿八俵貳斗

大豆 七俵

小豆 壹俵

菜種 壹吹半

紅花 二十三メ目

藍 五メ目

粟 五升

種綿 三×目

煙草 廿連

大麦 三俵

味噌 貳俵

醬油 貳斗

新吉

一、田米百八俵

外

畑米拾俵

内

米七十五俵 貢米

同壹俵五升 種粃

殘米四拾壹俵貳斗五升

三拾壹俵貳斗五升

外

大豆 三俵

小豆 壹俵

煙草 三十

藍 二十×目

菜種 貳叭

紅花 廿×目

桑 十×目

味噌 三俵

醬油 壹斗五升

繭 五斗

蛹 五升

種綿 五×目

与四兵衛

一、田米三十壹俵

内

米拾八俵 貢米

同壹斗五升 種粃

殘十貳俵壹斗五升

外

種綿 式×目

味噌 壹俵壹斗

清四郎

一、田米九拾七俵

畑米貳拾俵

米百十七俵

内

米七拾八俵 買米

同壹俵 種粳

殘米貳十八俵

大豆 十俵

小豆 三俵

大麦 七俵

粟 壹斗

蕎麥 三俵

稗 三斗

藍 十×目

種綿 三×目

煙草 三十葛

荏 貳斗

茶 壹×目

種紙 十五枚

繭 七斗五升

蛹 七升五勺

味噌 三俵

醬油 貳斗

桑 百貫目

菜種 四叭

生花 三拾×目

藤次郎

一、田米廿三俵壹斗

残り畑米壹俵

殘米廿四俵壹斗

内

米十七俵 貢米

同 八升 種粃米

殘米七俵式升

外

大麦 壹俵

粟 三升

生花 壹×目

善太郎

一、田米七拾壹俵式斗

畑米十式俵

ノ米八十三俵式斗

内

米五拾五俵 四十三俵 貢米

同壹俵 種粃米

殘米廿七俵式斗

十五俵式斗

外

大豆 五俵

小豆 壹俵

大麦 五俵

粟 五升

胡麻 五升

荏 壹斗

味噌 貳俵

醬油 壹斗

菜種 貳叭

生花 廿×目

煙草 五連

川芎 八貫目

藍 十×目

栄助

一、田米三拾三俵壹斗

畑米五俵

米三拾八俵壹斗

内

米廿五俵 貢米

同 貳斗 種粃米

殘米十貳俵貳斗

七俵貳斗

外

小豆 壹斗

大麦 壹俵

粟 五升

味噌 壹俵

生花 八メ目

煙草 五連

庄 蔵

一、田米九拾壹俵貳斗

畑十五俵

米百六俵貳斗

内

米七拾俵 貢米

同壹俵五升 種粃米

殘米三十五俵壹斗五升

廿俵壹斗貳升

外

大豆 七俵

小豆 壹俵

大麦 三俵

粟 壹斗五升

黍 壹斗

荏 壹斗

味噌 三俵

醬油 壹斗貳升

生花 廿メ目

川芎 六貫目

菜種 三叭

煙草 十連

たくしや三貫目

桑 八十貫目

市兵衛

一、田米七拾五俵

畑米九俵

米八十四俵

内

米五十四俵

貢米

同 壹俵

種粃米

残米廿九俵

外

大豆 六俵

小豆 壹俵

粟 五升

大麦 三俵

胡麻 五升

味噌 貳俵

醬油 壹斗

生花 廿三又目

菜種 貳叭

藍 五又目

種綿 貳貫目

煙草 五連

大麦 貳俵

伝兵衛

一、田米四拾四俵壹斗五升

畑米三俵

米四拾七俵壹斗五升

内

米廿九俵貳斗五升 貢米

同壹斗五升 種粃米

残米拾七俵貳斗

外

大豆 貳俵

小豆 壹俵

大豆 貳俵

生花 五貫目

種綿 貳貫目

内

味噌 壹俵

醬油 壹斗

喜助

一、田米八拾四俵

畑米七俵

米九拾壹俵

内

米五十七俵 貢米

同壹俵壹斗 種粳米

殘米三拾貳俵貳斗

外二

大豆 六俵

内味噌 貳俵

醬油 壹斗

小豆 壹俵

菜種 貳叭

生花 十五×目

大麥 貳俵

藍 十×目

種綿 貳貫目

文次郎

一、田米拾六俵貳斗

畑米三俵貳斗五升

米廿俵貳斗五升

内

米十三俵貳斗五升 貢米

同壹斗三升 種粳米

殘米六俵貳斗五升

貳俵壹斗貳升

大豆 貳斗

是ハ味噌二相成

生花 貳貫目

大麦 壹俵

甚兵衛

一、田米九拾八俵

畑 十三俵

刈米百十壹俵

内

米六十八俵

同 壹俵

貢米
種粳米

殘米四拾貳俵

廿九俵

外

大豆 七俵

内

貳俵壹斗 味噌

小豆 貳俵

大麦 三俵

菜種 貳貫目

川芎 壹又目

粟 壹斗

生花 廿又目

種綿 貳貫目

桑 五十貫目

蚕種紙 五枚

繭 七斗五升

蛹 八升

新藏

一、田米百拾六俵貳斗

畑米拾俵

刈米百廿六俵

内

八拾俵 年貢米

外 壹俵 種粃米

殘米三拾六俵

廿五俵

外

大豆 八俵

味噌 三俵

小豆 三俵

大麦 三俵

菜種 五叭

桑 五メ目

あへ 十メ目

生花 式十八メ目

粟 五升

太吉

一、田米五拾俵

畑 四俵壹斗五升

米五拾四俵壹斗五升

内

三拾六俵壹斗五升 年貢

壹斗五升 種粃米

殘米拾七俵壹斗五升

十三俵

外

大豆 五俵

紅花 六メ目

大麦 式俵

味噌 壹俵壹斗

しやうゆ壹斗

善四郎

一、田米五拾俵

畑 三俵式斗

米五拾三俵式斗

内

三拾三俵貳斗 年貢米

外 壹斗五升 種籾米

殘米拾九俵壹斗五升

十貳俵五升

大豆 壹俵壹斗

大麦 貳俵

煙草 四拾つる

種綿 三メ目

生花 貳拾メ目

味噌 貳俵

善 八

一、田米五拾壹俵壹斗五升

外 畑米四俵貳斗

メ 米五拾六俵五升

内

三拾九俵 年貢米

外 貳斗 種籾米

殘米拾六俵壹斗五升

十三俵貳斗五升

外

大豆 三俵

小豆 貳斗

大麦 貳俵

味噌 壹俵壹斗

しやうゆ壹斗

紅花 九メ目

菜種 壹叭

たばこ 十八つる

種綿 三メ目

メ

重助

一、田米三拾八俵

外 畑米三俵

メ 米四拾壹俵

内

米貳拾九俵

貢米

同 壹斗五升 種粃米

殘米拾壹俵壹斗五升

八俵壹斗五升

外

大豆 貳俵

小豆 五升

味噌 壹俵

大麦 貳斗

なたね 壹叭

煙草 七連

生花 八ヶ月

荏 五升

そは 五升

ノ

七兵衛

一、田米四拾五俵壹斗五升

外 畑米三俵

ノ 米四拾八俵壹斗五升

内

米三拾貳俵 貢米

同 壹斗五升 種粃米

殘米拾五俵壹斗五升

十三俵

外

大豆 四俵

小豆 貳斗

大麦 四俵

粟 五升

そは 貳斗

煙草 十連

生花 拾ヶ月

桑 五拾ヶ月

味噌 貳俵

種紙 五枚

繭 五斗
蛹 五升

善兵衛

一、田米五拾八俵

外 畑米八俵

米六拾六俵

内

米四拾三俵

同 貳斗

残米貳拾貳俵

十四俵壹斗

外

大豆 三俵

小豆 貳斗

大麦 三俵

粟 五升

貢米

種粃米

そは 貳斗

荏 壹斗

菜種 壹斗

生花 拾メめ

煙草 五ツ

あへ 三メめ

種綿 貳メめ

子兵衛

一、田米九拾五俵

外畑米拾貳俵

米百七俵

内

米六拾九俵

同 壹俵

残米三拾七俵

廿五俵

貢米

種粃米

外
大豆 四俵
小豆 壹俵
大麦 貳俵
あわ 壹斗
そは 壹俵
荳 貳斗
将油しょうゆ 壹斗
味噌 貳俵
種綿 三メめ
煙草 十五
あへ 拾メめ
種紙 壹枚
繭 貳斗五升
蠶 貳斗五合

直次

一、田米三拾壹俵

外 畑米六俵

ノ 米三拾七俵

内

米貳拾四俵壹斗五升 貢米

同 壹斗五升 種粳米

殘米拾貳俵

六俵壹斗五升

外

大豆 三俵

小豆 壹俵

菜種 二叭

生花 拾メめ

あい 五メめ

種綿 貳メめ

煙草 五め

きみきみ 貳斗

ノ

長八

一、田米六拾七俵

外 畑米六俵

ノ米七拾三俵

内

米四拾六俵 貢米

種粃米 貳斗五升

殘米廿六俵五升

廿俵五升

外

大豆 三俵

小豆 壹斗

大麦 三俵

藍 十又目

生花 八貫目

喜助

一、田米五拾俵

畑米六俵

ノ米五拾六俵

内

米三十六俵 貢米

同貳斗五升 種粃米

殘米貳拾俵

十三俵壹斗五升

大豆 壹俵

小豆 壹斗

大麦 貳俵

生花 八又目

川 權 藏

一、田米十五俵

畑米壹俵壹斗五升

ノ米十六俵壹斗五升

内

米拾俵壹斗五升 貢米

同 三斗七升 種粳米

殘米六俵三斗五升

四俵壹斗五升

大麦 壹俵

大豆 壹俵

生花 四又目

淺治

一、田米三拾俵壹斗五升

粳米 貳俵

〆米三拾貳俵壹斗五升

内

米二十俵 貢米

同 壹斗 種粳米

殘米十二俵五升

十俵五升

外

大豆 壹俵

菜種 壹吹

小豆 五升

蕎麥 壹斗

生花 四又目

伝五郎

一、田米拾俵

粳米壹斗七升

〆米拾俵壹斗七升

内

米六俵壹斗七升

同 三升

種粳米

殘米四俵

三俵壹斗

外

生花 五又目

大豆 壹斗五升

小豆 壹斗五升

大麦 壹俵

煙草 五ツ

権太郎

佐六

一、田米五拾五俵

一、田米六拾壹俵

外 畑米七俵壹斗

外 畑米九俵

米六拾貳俵壹斗

米七拾俵

内

内

米四拾俵壹斗 貢米

米五拾壹俵 貢米

同 壹俵 種粃米

同 壹俵 種粃米

殘米貳拾壹俵

殘米拾八俵

十三俵貳斗

九俵

外

外

大豆 三俵

大豆 貳俵

小豆 壹斗

小豆 壹斗

そば 壹斗

大麦 壹俵

菜種 壹叭

そば 貳斗

生花 拾メ目

粟 五升

大麦 壹俵

菜種 壹叭

生花 八メ目

荏 貳斗

煙草 五ツ

種綿 壹メ五百目

平七

一、田米六拾六俵

外 畑米九俵

メ米七拾五俵

内

米四拾俵 貢米

同 壹俵 種粃米

殘米三拾四俵

廿五俵

外

大豆 五俵

小豆 壹俵

粟 壹斗

菜種 四叭

味噌 貳俵

將油 貳斗

煙草 十

生花 十五メめ

大麦 四俵

そは 壹俵

權藏

一、田米五拾八俵

畑米 壹俵

内

米四拾俵 貢米

同貳斗五升 種粃米

殘米拾八俵五升

七俵壹斗五升

外

菜種 五升

桑 七メ目

大豆 壹俵

粟 壹斗

味噌 壹俵

庄治郎

一、田米貳拾四俵貳斗

外 畑米貳俵

米貳拾六俵貳斗

内

米拾六俵 貢米

同 壹斗 種粃米

殘米拾俵壹斗

八俵壹斗

外

大豆 三俵

小豆 貳斗

粟 四升

菜種 貳斗

桑 四拾メ目

新助

一、田米五拾俵

外 畑米貳俵

米五拾貳俵

内

米三拾貳俵 貢米

同 壹斗五升 種粃米

殘米拾九俵壹斗五升

七俵壹斗五升

外

大豆 壹俵

大麦 壹俵

生花 八メめ

外

米百廿俵

内米六拾俵 貢米

殘米六拾俵

煙草 二十

長太郎

金藏

一、田米百壹俵式斗

外 畑米七俵六升

ノ米百八俵式斗六升

内

米六拾八俵六升 貢米

同 壹俵 種粃米

殘米三拾九俵式斗

拾俵壹斗四升

外

大豆 三俵

小豆 壹斗

大麦 壹斗

菜種 壹叭

生花 拾式ノ目

一、田米貳拾六俵式斗

内

米拾六俵 貢米

同 壹斗 種粃米

殘米拾俵壹斗

定七

一、田米五拾三俵壹斗

畑米五俵

ノ米五拾八俵壹斗

内

米三拾七俵 貢米

同 壹斗八升 種粃米

殘米貳拾俵式斗貳升

十式俵式斗貳升

外

大豆 三俵

小豆 壹斗

大麦 壹俵

そば 壹斗

粟 五升

菜種 一六斗

生花 拾六メ目

せんきう巻メ目

煙草 七ツ

胡麻 四升

勘助

一、田米六俵式斗

畑米壹斗

メ米七俵

内

米四俵壹斗 貢米

同 三升 種粳米

殘米貳俵壹斗七升

七斗

外

大豆 壹斗

三四郎

一、田米百拾俵

畑米拾五俵

メ米百廿五俵

内

米九拾俵 貢米

同 壹俵壹斗

殘米三拾三俵式斗

十八俵式斗

外

大豆 六俵

小豆 壹俵壹斗五升

粟 壹斗

きみ 壹斗

大麦 五俵

そば 貳俵

荏 三斗

菜種 三俵

生花 三十メ目

あへ 拾メ目

せんきう 貳メ目

煙草 五メ目

味噌 三俵

将油 壹斗五升

定七

一、田米九俵貳斗五升

内

五俵貳斗五升 貢米

五斗 種粃米

残米九俵壹斗五升

丈助

一、田米貳拾五俵

外 粃米壹俵壹斗

米貳拾六俵壹斗

内

米拾六俵壹斗 貢米

同 八升 種粃米

残米九俵貳斗貳升

壹斗

佐五兵衛

一、田米貳拾壹俵貳斗

外 粃米貳俵

米貳拾三俵貳斗

内

米拾五俵 貢米

同 七升 種粃米

残米八俵壹斗三升

六俵壹斗三升

外

大豆 壹俵壹斗五升

大麦 壹俵

菜種 壹斗

太右衛門

一、田米百四拾三俵壹斗

畑米七俵

ノ米百五拾俵壹斗

内

米九拾三俵 貢米

同壹俵壹斗五升 種粃米

殘米五拾五俵式斗五升

四十八俵式斗五升

大豆 三俵

小豆 壹俵壹斗五升

大麦 壹俵壹斗五升

あへ 貳拾メめ

川芎 七メ目

菜種 壹叭半

生花 拾五メ目

大根 千五百本

作治郎

一、田米四拾四俵

畑米六俵

ノ米五拾俵

内

米三拾俵 貢米

同壹俵 種粃米

殘米拾三俵

外

大豆 貳俵

小豆 壹斗

生花 三メ目

菜種 六斗
味噌 四斗

一、田米六拾五俵

粃米拾俵

ノ米七拾五俵

内

米四拾五俵

同壹俵壹斗五升

殘米拾八俵壹斗五升

大豆 六俵

小豆 貳斗

川弓 三ノ目

生花 拾五ノ目

菜種 八斗

味噌 貳俵

五郎藏

一、田米百廿五俵

才平

粃米貳拾五俵壹斗八升五合

ノ米百五拾俵壹斗八升五合

内

米四拾三俵

貢米

同 壹俵貳斗

種粃米

殘米百五俵貳斗八升五合

八十俵壹斗

外

大豆 拾三俵

小豆 五俵

大麦 五俵

粟 壹斗五升

蕎麥 八斗

川芎 拾ノ目

藍 三拾ノ目

菜種 八叭

荏 五斗

生花 四拾五升メ目

煙草 五拾連

種綿 三メ目

桑 拾メ目

重次郎

一、田米拾七俵

畑米六俵

メ米貳拾三俵

内

米拾四俵壹斗 貢米

同 七升 種粳米

殘米八俵壹斗三升

貳俵三斗壹升

桑 貳拾メ目

七郎平

一、田米五拾五俵

畑米拾俵

メ米六拾五俵

外二

米七拾三俵 作徳米

合テ米百三拾八俵

内

米五拾俵 貢米

同壹斗八升 種粳米

殘米八拾七俵壹斗貳升

外

大豆 貳俵

小豆 壹斗

大麦 壹俵

菜種 四斗

生花 三メ目

煙草 七連

粟 四升

胡麻 五升

荏 壹斗

種綿 四メ目

桑 貳百メ目

藍 貳メ目

小左衛門

一、田米七拾五俵

畑米拾壹俵

ノ米八拾六俵

内

米五拾五俵 貢米

同貳斗貳升五合 種粃米

殘米三拾俵七升五合

十九俵五斗

外

大豆 七俵

小豆 貳俵

大麦 貳俵

菜種 六叭

荏 貳斗

粟 貳斗

きみ 壹斗

川芎 八メ目

生花 廿七メ目

藍 八メめ

煙草 十五

桑 三十メ目

勘三郎

一、米六拾四俵

畑米五俵

ノ米六拾九俵

内

米三拾五俵 貢米

同壹斗七升五合 種粃米

殘米三拾三俵壹斗貳升五合

廿八俵壹斗貳升五合

大豆 貳俵

小豆 壹斗

大麦 三俵

種綿 壹メめ

藍 五メめ

生花 八メめ

煙草 五連

粟 五升

利七

一、田米五拾四俵貳斗

畑米五俵貳斗

米六拾俵壹斗

内

米四拾三俵貳斗 貢米

同壹斗九升 種粳米

殘米拾六俵壹斗

大豆 三俵

小豆 壹斗貳升

大麦 四俵

菜種 三叭

粟 七升

生花 十三メめ

藍 貳メめ

種綿 五百目

煙草 十三連

桑 廿メ目

章

一、田米五拾八俵壹斗

内

米拾貳俵壹斗 貢米

殘米四拾六俵

外

桑 四拾貫目

米合三千三百七拾貳俵壹斗

内

米貳千九拾四俵貳斗六升

貢米

同三拾九俵貳升三合

種粳米

同千七百七拾壹俵壹斗四升

作德米

千貳百拾五俵壹斗六升三合

外

大豆 百七拾八俵五升

小豆 三拾八俵壹斗貳升

粟 貳石四斗貳升

菜種 六十八呎三斗五升

生花 六百八拾七貫目

川芎 六十五貫目

藍 百九拾貳貫目

煙草 三百九拾九連

種綿 百十六貫目

桑 八百七十貳貫目

繭 四石

蛹 四十五匁

種紙 三十六枚

荏 貳石貳斗五升

大麦 九十貳俵五升

蕎麥 七俵三斗

黍 四斗

決瀉 四斗

七 書簡 (紅花売買に付)

紅花一件

(封書上書)

「紅花問屋一件願人百姓惣代

漆山年番名主

久兵衛殿

片桐善左衛門

右同断

尾花沢年番名主

儀兵衛殿

植松傳兵衛

(封書裏書)

一、

二月八日出無事

從羽州村山郡最上

荒町村石川藤右衛門殿百姓仲間為惣代此度為差登候二付一書致啓上候、新春之御慶賀千里同風可有尽期日出度申納候、先以御兩人無御別条御越年可被成候奉珍重候、拙者共無為相勤罷在候、可被安治、然者紅花一件御願之儀去六月中方末段々追訴被成候処、否之儀ニ為仰付も無御坐候御氣之毒千万ニ奉存候、依之郡中百姓為惣代藤右衛門為指登申候間、尚又追訴被差上可然哉二候、尤是迄之通ニ而不事濟儀被存候ハ、願下ケか御下り可被成候、此上ハ又 江戸表御願ニか又者江戸表方御添翰申請候而御願申上候ニ成共、手替御願可申上候、依之御兩人之内御忝人御下り其御表品々可被仰聞候、百姓方も去年惣作出

来方不宜敷殊ニ以青米多難御廻米ニ成、惣金納願差出置候ニ付打続テ村之儀ニ而ハ別而紅花作仕付重作之様奉存候得ハ、尚又此度之御願之儀難打捨奉存候、去年中京都紅花之直段等相応之儀ハ此度貴様方為惣代紅花一件御願差上置候故之儀者皆々奉存在候処、百姓心持強御座候間御工面之上御忝人御下り御相談可被成候、夫共御手相扱候、御答ハ決而被成間敷候、言を以跡々ニ御願之筋御懸置御尤二候、

一、桶岡衆と当四月出之右願ニ付喜兵衛伊右衛門登候、是者於江戸表ニ御添状御代官方申請相願候積りニ而罷登申候、併御代官方御添書ハ決而出來申間敷候、其子細は当国之儀ハ四代官所ニ御座候所尾花沢長瀨漆山先達而貴様方願書写差上置候所何連共右願之趣不申上内又候添書と申儀出來間敷推量仕候、事延候得ハケ様成儀共御座候間何分も御忝人御下り疾御相談ノ上別段手立仕候ハ、可然様奉存候、乍操事御願筋相懸リ之内ハ御忝人御留リ可否か御挨拶被仰上可然様奉存候一、無申迄候得共口上誤等無御座候様御氣付御尤二候、

諸事之儀藤右衛門殿疾と申述遣候、恐惶謹言

二月八日

片桐善左衛門
植松伝兵衛

百姓方惣代

久兵衛様

同

源兵衛様

まいる

八 覚 (当村産物取調)

覚

三十俵場

一、米六拾俵

一、豆三俵

桑老両分

与兵衛

一、菜種老叭

拾五メ目

十九俵場

一、米三十五俵

五郎兵衛

一、菜種半叭

一、大豆老俵半

一、桃代金貳兩位

一、桑三拾メ目

吉重郎

一、米二十四俵

貳拾八俵場

舟渡

一、米四拾俵

権八

三十俵場

一、大豆貳拾五俵

一、菜種八叭

一、紅花六貫五百匁

代金三十五兩

一、小豆八俵

一、大麦拾俵

一、小麦壹俵 一、きみ三吠

此石壹石貳斗

一、にんちん貳拾五束

代壹両貳分壹朱

一、午房貳拾四束

代拾九匁百文

覚

三拾六俵場

一、米六拾俵菜種壹吠 与次兵衛

十九俵場

一、米三拾五俵 五郎兵衛

権八

一、五升いも拾俵

代貳分貳朱

ノ

与兵衛

十俵場

一、米拾六俵 一、大豆七俵

一、小豆四俵 一、麦四俵

五俵場

一、紅花代金七両 一、菜種貳吠代

(朱筆) 壹匁貳百九十五匁

一、にんちん八束 一、午房拾束

代

ノ

庄七

一、紅花^(朱筆) 壹匁四百八十匁 一、菜種五俵

代金八両

一、菜種三吠 一、大豆拾俵

一、小豆四俵 一、きみ貳吠

一、五升いも五俵 一、にんちん拾束

一、午房八束

ノ

倉吉

九俵場

一、米拾五俵 一、菜種三吠

一、大豆八俵 一、大麦四俵

一、小豆三俵 一、にんちん五束

一、午房五束 一、きみ忝吠

一、五升いも忝俵 一、紅花(朱筆)又三百匁

代金七兩

八 蔵

一、紅花(朱筆) 五百五十五匁 一、菜種忝吠

代金三兩

一、麦忝俵 一、大豆四俵

一、小豆忝俵 一、五升いも忝俵

一、きみ忝吠

清 助

一、米拾俵 一、麦忝俵

一、小豆忝俵 一、大豆六俵

一、菜種忝吠 一、紅花(朱筆) 九百二十五匁

一、午房五束 代金五兩

一、にんちん五束 一、五升いも三俵

喜 作

四拾俵場
一、米六拾俵 一、午房(にんちん十束) 十束

代金三兩位

一、大豆拾俵 一、小豆忝俵

一、菜種三吠 一、紅花(朱筆) 七百四十匁

代金四兩

一、麦三俵 一、きみ忝吠

一、大根五百本 一、五升いも拾俵

勘 兵 衛

二十五俵場
一、米三十八俵 一、大豆三俵

一、菜種忝吠

一、小豆半俵 一、紅花(朱筆) 三百七十匁

一、麦貳俵

代貳両

にんちん午房七八

一、拾五束

一、五升いも貳俵

一、きみ壹吠

一、大根貳百本

清 蔵

二十俵場

一、米三拾俵

一、麦壹俵

一、菜種壹吠半

一、大豆三俵

一、小豆壹俵

一、午房にんちん

(朱筆)

貳十束

一、紅花

三百七十匁

一、きみ三吠

代金貳両

一、五升いも五俵

善兵衛

三十俵場

一、米五拾三俵

一、菜種壹吠

(朱筆) 壹貫五百匁目

一、生紅花拾貫匁

一、五所いも壹俵

一、大豆貳俵

一、きみ壹斗五升

一、にんちん

(朱筆) 七束八

午房 拾五束

徳之助

十七俵場

一、米廿七俵

嘉左工門

九俵半場

一、米拾五俵

大麦

壹斗五升

元升

一、大根三百本

桑 三分

拾貫目位

源太郎

廿八俵場

一、米三拾八俵

菜種壹吠半

一、にんちん

七

壹両貳分

午房八

藤吉

九俵場
一、米拾六俵

友治郎

廿九俵場
一、米五拾俵 大豆壹俵半

一、小豆壹斗 菜たね壹叭

一、干紅花五百匁 五
にんぢん

代卷両三分 午房五

半兵衛

四俵処
一、米七俵

長藏

廿二俵場
一、米三拾六俵 菜種壹叭半

拾束

一、五所いも八俵 きみ卷叭半

一、にん志ん^二 五束 大根貳百本

午房三

一、大豆七俵 小豆壹俵半

一、干紅花二而 九百二十五匁
(朱筆)

五兩分

菜種三拾壹叭

大豆九拾壹俵

小豆貳拾七俵壹斗

重次郎

一、五升いも五俵 一、大豆拾俵

一、菜種貳叭 一、麦貳俵

一、小豆壹俵 一、にんぢん拾束

一、午房拾束

真木長

- 一、桑貳百貫目
- 一、味噌貳百五十

榎藤左衛門

- 一、桑七拾貫目
- 一、茶五斤位
- 一、繭三十三貫目
- 一、薄種紙半紙
- 一、糸貳百四十匁
- 一、鷄四疋
- 一、楮五貫目

石垣源七

- 一、大豆壹俵
- 一、菜種半叭
- 一、大根貳百本

佐藤伝兵衛

- 一、味噌貳百五拾メ匁

源二郎

- 桑七拾メ目
- 醬油三拾石

惣

麥三拾俵

此石拾壹石壹斗

小麦貳俵

七斗七升

大豆百壹俵

此石三十七石三斗七升

小豆貳拾八俵壹斗

拾石四斗六升

菜種三十三叭半

此石拾七石七斗五升

黍拾叭半

四石六斗五升

(以下朱筆)

一、桑三百八十五メ目

干紅花拾六メ四百六十匁

にんちん壹万八百本

午房壹万千四百本

拾五石
九斗

壹石

┌

宇野常義家文書

(河北町沢畑)

一 萬店下覚帳 (横帳)

(表紙)

〔天明四歳〕

萬店下覚帳

辰七月吉日改

覚

辰七月十二日改

一、錢三拾五メ文

有錢

一、金拾両者

勘左衛門かし金有

一、金拾五両者

大久保村かし金有

メ金式拾五両ト

錢三拾五メ文

此所払方

一、金三両者

藤左衛門ばかり金有

一、金三両者

与左衛門ばかり金有

一、金四両者

四郎兵衛ばかり金有

メ金拾両也

指引残而

一、金拾五両ト

錢三拾五メ文

外二

一、金三両也

手前時分金

一、金五両也

持參金

一、田地五拾疇

徳兵衛田地

メ金式拾三両錢三拾五メ文 有金

外二

造酒 なし

仕入物一切無御座候、以上

巳年分

一、錢百五拾毫メ八百拾四文 小遣小払

一、錢七メ五百文 目木代

一、錢六メ百廿七文 日用払

百六拾五メ四百四拾文

是ら有物

一、錢七拾メ八百文

酒仕入也

一、金六兩

六田權藏たはこ仕入相渡置

一、金七兩三分

六田市五郎たはこ仕入相渡置

一、金三拾四兩

嶋村又吉たはこ仕入相渡置

拾メ六百三拾文

一、錢八メ文

合羽残

一、金四兩斗

干か代

一、金三拾兩斗

大豆有

一、金八兩斗

たはこ有

一、金拾兩斗

たはこ有

一、金壹兩者

かし金有

百兩三分

錢九拾壹メ四百三拾文

一、金五兩八

藤左衛門

一、金五兩八

慈眼寺

一、金壹兩

七兵衛

一、金貳兩貳分

酒田叶屋次郎兵衛

一、金貳兩貳分

酒田長浜五郎兵衛

一、金貳拾五兩八

酒田本間清右衛門

一、金壹兩三百文

四郎兵衛

百四拾貳兩ト三百文

かり金

指引残而

金五拾八兩三分

錢九拾三メ百三十文

外二

糶入

壹つ

白米

七表

下米

四表

大小つ

小遣当〇〇

右之通御座候、以上

此所かり金

巳年分、午年文ニケ年分

未正月改申候

一、金拾兩ハ

酒田根上兵助

一、金三拾貳兩貳歩

酒田長浜五郎兵衛

未年店下

指引残而

一、錢百五拾貳メ文

小遣

一、錢九メ三百文

目木代

一、錢拾三メ文

日用払

メ百七拾四メ三百文

外二

八表

有物

一、錢百六メ文

酒仕入

一、金九拾五兩貳歩

酒田仕入

一、金壹兩者

荷口巳之助相渡し置分

一、金五拾七兩三歩

又吉方たはこ仕入渡し

メ金百七拾壹兩三歩

右之通相改申候、以上

壹メ文

未年分

申二月九日改

此内払方

申年店下

一、金貳拾兩ハ

金谷庵

一、錢百四拾九メ貳百文 小遣、目木、日用

此金貳拾五兩三步也

有物寛

一、錢百三拾四メ八百文 酒仕入

一、錢貳百拾メ百文 大豆仕入

一、錢貳百貫文 小豆仕入

一、金三拾九兩壹歩 たはこ仕入勝太郎分方

九百文

一、金貳拾兩 伊七方たはこ仕入

一、金拾兩 青芋仕入、酒田根上

一、金拾兩 酒田根上太助

一、金五拾八兩 貸金

一、金貳兩三步 有金

メ金百三拾九兩ト

錢五百四拾七メ文

此金九拾壹兩ト卷メ文

二口合

金貳百三拾兩ト卷メ文

此払方

一、金貳拾兩ハ 金谷庵

一、金貳拾兩ハ 稲下利兵衛

一、金貳拾兩ハ 藤次郎

一、金貳拾兩ハ 酒田より

メ金七拾貳兩

指引而

金百五拾八兩ト

卷メ文

外二

一、白米 貳表

一、下米 八表

一、粳入 壹つ

一、粳表 貳拾壹表

一、大小豆 小遣当

メ

右之通当申店下如此ニ御座候

酉二月九日改

酉年店下

一、金三拾兩貳歩

小遣

一、金拾九兩壹歩

与藏參宮小遣

一、金壹兩三歩

日用

一、金貳兩者

目木代

↗金五拾三兩貳歩

小遣繰相成申候

有物

一、金拾兩

御藏米

一、金貳兩三歩

白米有

一、錢拾貳メ文

大豆代

一、錢四拾貳メ文

米四十貳表

一、錢貳拾八メ文

大小豆代

一、金壹兩ハ

粃代

一、錢三拾五メ文

粃三拾七表

一、金拾貳兩ハ

六田兵藏

一、金貳拾兩ハ

野川久四郎たはこ代

一、金壹兩三歩

花菟代

一、金拾五兩貳歩

伊七方たはこ代

一、金貳兩貳歩

塩引代

一、金拾兩ハ

干か、数子代

一、金拾貳兩ハ

京初仕入

一、金六拾三兩

酒仕入

↗金百七拾四兩

仕入物代

此所払金

一、金三拾兩ハ

金谷庵

一、金五兩者

太蔵

一、金貳拾六兩ハ

藤次郎

一、金七兩ハ

四郎兵衛

一、金三兩者

酒田五郎兵衛

↗金七拾壹兩也

指引而

金百三兩也

一、金拾八兩貳步 酒仕入

一、金壹兩貳步ト壹メ文 有金

一、金百拾三兩貳步 貸金也

惣

ノ金貳百三拾六兩壹步五メ文

右之通去西店下如此ニ御座候

戌二月六日改

此金四拾五兩壹步

一、金拾貳兩ハ 酒田仕入

一、金貳拾貳兩ハ 京有紅花仕入

一、金拾四兩ハ 造酒仕入

ノ金九拾三兩壹步

内かり金

一、金三拾六兩 金谷庵

一、金拾壹兩壹步 八兵衛

一、金五兩ハ 仁左衛門

一、金貳拾兩 藤左衛門

一、金五兩三歩 おりね

壹メ三百文

ノ金七拾八兩壹メ三百文

指引而殘金

金拾五兩百文

一、金百拾八兩 質地貸

一、金七拾壹兩 手形かし

戌年店下

仕入物覚

一、錢拾メ文 白米十表

一、錢五メ文 持扱拾壹表

一、錢六メ三百文 小豆七表

一、錢六拾貳メ文 大豆七拾三表

一、錢六拾四メ文 粃代

一、錢百拾壹メ文 米百貳拾四表

ノ錢貳百五拾八メ九百文

一、金貳拾貳兩

当座かし

↗金貳百拾壹兩

貸金有

惣

↗金貳百貳拾六兩ト百文

右之通去戌店下如此御座候

亥二月九日改

一、錢八拾五メ文 造酒仕入
 一、錢四メ八百文 米四表代
 一、金八兩者 下人式人分
 ↗金百貳拾六兩三步
 錢貳百四拾貳メ七百文
 此金四十三兩壹歩

↗金百七拾兩也

亥年店下

仕入物覚

一、錢拾六メ九百文

古米拾四表

一、錢百貳拾メ文

新米百俵

一、錢拾壹メ七百分

大豆拾三表

一、錢貳メ八百文

持米貳表

一、錢壹メ五百分

むき壹俵

一、金壹歩

小豆壹表

一、金百五兩者

紅花貳駄

一、金拾三兩貳歩

たはこ三拾固

かし方

一、錢四十メ百文

米三十四表勘五郎

一、錢四拾メ八百文

米三拾四表三五郎

一、錢七メ貳百文

米六表弥五郎

一、金三拾壹兩ハ

米仕入勘五郎方

↗金四拾六兩三步六百分

二口

↗金貳百拾六兩三步六百分

此内払方

一、金十八兩

金谷庵

一、金拾壹兩壹歩

八兵衛

一、金七兩貳歩

利足滞

一、金拾兩

藤左衛門

×金貳百貳拾兩貳歩

かし

一、金壹兩貳歩

小四郎

内金貳拾兩

右不足引

一、金九兩

おりね

指引残而

一、金拾兩

七兵衛

金貳百兩貳歩

一、金拾貳兩

おりね

金拾兩分

田地取

一、金百六拾四兩

清水村五左衛門

五拾兩斗

新家仕候

×金貳百三拾六兩三歩

右之通亥店下如此御座候

指引而

子二月十六日改

金貳拾兩者

不足

かし方

一、金百貳拾五兩三歩

質地かし

丑老年小遣

一、金五拾五兩三歩

手形かし

一、錢百四メ百文

小遣

一、金貳兩貳歩

手形かし

一、錢貳メ文

蠟足

一、金七兩貳歩

米ニ而かし

一、錢五メ文

塩引

一、金拾九兩

当座かし

一、錢壹メ文

干か代

一、金貳兩貳歩

米拾壹表

一、錢貳百文

やね代

一、錢五メ文 小間物

一、金壹兩貳步 小遣嘉吉

一、金三歩 同嘉吉

一、錢拾壹メ文 目木代

一、錢拾メ文 日用払

一、錢貳メ文 染や払

メ 錢百五拾貳メ百文 小遣払相成

有物

一、金百壹兩壹步 質地かし

一、金貳拾三兩者 当座かし

一、金貳兩三歩 利足滞

一、金四兩者 久助かし

一、金七兩者 買物掛かし

メ 金百三拾八兩

此内金三拾五兩壹步 かり有

指引而

金百貳兩三歩

一、金拾貳兩壹步 酒田下物有

一、金貳拾七兩 造酒仕入

一、金拾兩壹步 粃代有

一、金壹兩壹步 干か代

一、金壹兩三歩 村上茶代

メ 金五拾貳兩貳步 仕入物有

一、金拾兩 有金

一、金四兩貳步斗 錢貳十五メ文

一、金七兩者 下人三人かし

メ 金貳拾壹兩貳步

惣指引残而

金百七拾六兩貳步

右之通子丑店下如此改申候

寅二月四日改

一、大豆 六表

一、小豆 考表

一、むき 三表

一、もち糰子 五表

一、金四兩 午考疋

一、金八十八兩 御田地取

寅年店下

一、考メ八百七十文 御年始遣

一、四メ百八十文 正月小遣

一、六メ百六十文 二月遣

一、九メ四百文 三月遣

一、七メ三百文 四月遣

一、六メ貳百文 四月嘉吉遣

一、四メ三分 五月遣

一、六メ五百五十文 五月嘉吉二遣

一、六メ七百十文 六月遣

一、九メ七百五十文 七月遣

一、拾四メ百四十文 八月小遣

一、五メ百拾文 九月遣

一、拾三メ文 十月小遣

一、十式メ四百文 定金成

一、三拾考メ百文 十一月二ヶ月遣

此間祝儀有

一、拾六メ六百三十文 十二月遣

メ百五拾四メ八百拾文

右之通小遣相成申候

寅年店下覚

一、錢百五拾四メ八百拾文

右小遣

一、錢拾考メ六百五十文

目木代

一、錢八メ三百文 日用払

一、錢三拾式メ文 桂蔵・清之助・万蔵

弘方

錢貳百六貫七百六拾文

一、金貳拾三兩卜

藏米九拾貳表

錢八拾貳兩壹步

錢貳拾貳メ百五拾文

此金三兩貳步四百五十文

仕入物

一、金貳拾貳兩壹步 柴百七表、壹メ三百文かへ

壹メ百五拾文 造酒仕入

此弘方

一、金壹兩三步 やね七箇

一、金貳拾兩

郷藏方代納請取置

一、金拾兩貳步 村上茶貳拾壹本

一、金拾兩

おらく分

貳拾壹メ文

一、金壹兩貳步

小四郎

一、金貳兩三步 大豆拾壹表

一、金拾兩ハ

四郎兵衛

一、金壹步 小豆壹表

一、金三拾兩ハ

定林寺

一、金壹步 野間代

一、金九兩斗

おりね分

一、金壹步 大奉紙代

一、金貳兩壹步

水荷屋源兵衛分

一、金三步 持米三表卜 粃有

一、金四兩壹步

富屋弥次郎分

一、金拾貳兩貳步 粃三拾三表此米五拾表有

一、金拾八兩貳步

弥之助分

一、金四兩貳步 粃入壹つ此米拾八表

一、金貳兩

七兵衛分

一、金壹兩壹步 下米五表

錢百七拾兩貳分

一、金貳兩壹步 白米九表

指引而

金貳拾毫兩三歩

不足

卯御年始小遣

有

一、金七拾兩

京都有紅花代金

一、金五兩者

造塩仕入

一、金八拾八兩貳歩

質地貸

一、金四拾兩壹歩

小取替かし

一、金四兩分

錢貳拾四メ八百分

メ金貳百七兩三歩

指引而

金百八拾六兩也

外二

金三拾三兩貳歩

御田地取

右之通去寅年店下如此ニ御座候

卯二月九日改

一、貳メ百拾文

卯御年始

一、七メ百七拾六文

正月小遣

一、七メ貳百七拾五文

二月小遣

一、七メ貳百七拾五文

三月小遣

一、五メ百六拾五文

三月小遣

一、六メ三百拾八文

四月小遣

一、三メ八百七拾三文

五月小遣

一、七メ六百四拾三文

六月小遣

一、貳拾五メ三百文

七月小遣

一、六メ四百文

八月小遣

一、三メ六百拾文

九月小遣

一、拾メ九百五十文

十月小遣

一、八メ三百四十文

十一月小遣

一、拾毫メ三百四十三文

十二月小遣

メ百拾貳メ七百七拾八文

外二

一、貳メ百文

やね代

一、五メ文 蠟足代

一、三メ文 えこま油代

一、金三步 塩引代

ノ 金三步ト拾メ百文

一、沓メ文 木目紙代

一、七メ九百文 日用払

一、金四両式歩 絵金払

万蔵、清之助、おけき

一、金沓両式歩斗 与次郎分

ノ 金六兩ト八メ九百文

都合百五拾三メ六百式拾八文

右之通小遣如此ニ御座候、以上

有物

一、金沓分 やね沓面

一、金三分 村上茶沓本

一、金沓分六百文 塩引沓本

一、金式歩 こぬか拾式表

一、金沓分 大奉紙代

一、五メ文 むき五表

沓分式朱かへ

一、金式両沓分 くち八表、米六表

沓分五百文かへ

一、金拾沓両 糶大表式十式表

沓メ五百文 米三拾四表

沓分五百文かへ

一、金六兩沓分 糶入沓つ

沓メ百五拾文 米拾八表

沓メ百五十文かへ

一、拾沓メ五百文 大豆拾表

三メ四百文かへ

一、拾沓メ式百文 小豆八表

沓分式朱かへ

一、金式両沓分 白米六表

一、金沓両 年春通

一、金四兩壹分 龜之助

一、金貳兩貳分 源助

一、金拾兩ト貳メ文 有金

一、金三拾三兩貳分 造酒仕入

ノ金七拾五兩ト

三拾貳メ九百六十文

此金五兩壹分四百拾文

合金八拾兩壹分四百拾文

右之内かり金払方

一、金拾兩 [わ]おりね分

一、金八兩 存おりね分

一、金五兩 定林寺分

一、金壹兩 小四郎分

一、金三兩 清之助分

一、金貳兩貳分 酒田本清分

一、金拾四兩 長とろ村権蔵米買金分入

一、金五兩 七兵衛分

右ハ新七矢衛江かしの内

ノ金四拾八兩貳分

指引而

金三拾壹兩三分四百拾文

一、金貳百六拾三兩貳分 かし

一、金貳拾三兩貳分 右利足殘金

一、金六兩 又かし

ノ金貳百九拾三兩

都合金三百貳拾四兩三歩ト四百拾文

ノ

外二

一、金拾兩余も 向屋敷江新家仕候

相掛申候

外二足茂小々相掛申候

一、 本家造掛申候

去卯九月山取仕候

右之通去卯年分店下仕、如此ニ御座候

辰正月十日

一、錢五拾貫斗 前年造酒代

古かし相残申候

一、金拾兩余 古かし御座候

一、金四兩 錢三拾メ分

メ金九拾五兩也

内借用金

一、金貳拾兩 七兵衛殿

一、金四拾兩 権内殿

一、金拾兩 一やおりね分

一、金五兩 金谷庵

一、金五兩 定林寺より

一、金貳兩 一ひおりね

一、金三兩 藤次郎殿

一、金三兩 谷地権内殿

メ八拾八兩

外

一、金六兩 宝屋弥三郎殿貸切入

合金九拾四兩

指引残而

金壹兩 有金

辰年店下覚

一、金拾貳兩 酒田仕入

一、金貳拾五兩 造酒仕入

一、金貳拾兩 粃七拾表分

一、金壹兩三歩 白米六表

一、金拾兩 下米三拾五表

一、金壹兩壹歩 大豆六表

一、金三兩 古手中綿残り

一、金五兩 漆山仕入

一、金五兩 午壹疋

一、金八兩 下人貳人前

かし方

一、金六拾三両 岩木村方

一、金六両三歩 吉田村方

一、金貳拾六両貳歩 谷地村方

一、金貳両貳歩 西里村方

一、金三両三歩 根岸村方

一、金三両貳分 みのわ村方

一、金三両 大清水村方

一、金三両貳分 大石田村方

一、金七両 水押村方

一、金六両貳分 弥勒寺方

一、金拾六両 村方

拾メ文

一、金六両壹歩 久助方

老メ四百八十文

一、金壹両貳分 おたよ方

一、金貳拾五両 越後長吉方

一、金拾四両 仁左衛門方

一、金四両 藤兵衛方

百九拾五両壹歩

一、金拾六両壹分 古手かし

一、金七拾兩貳歩 伊藤五右衛門

一、金八両壹歩 大石田高桑喜助

九拾五両

合金貳百九拾壹両

外二

金六拾兩分 御田地購請

右之通去辰年店下如此御座候、以上

巳四月十五日

本家立替

酒代共諸出指引なし

右之通本家立替附諸指引無出入如此御座候、已上

巳四月十五日改

戌年分店下相改

辰年の中七ヶ年之内、店下無之、

此度相改申処、如此御座候

かし方

一、金七拾八兩 岩木村

一、金六兩三分 弥勒寺

一、金貳拾兩 大久保村

一、金貳兩貳分 荒小屋

一、金五拾三兩 谷地の上郷迄

一、金五拾兩者 越中高岡

一、金貳拾兩者 大石田高桑

一、金貳拾四兩貳分 当村方

ノ金貳百五拾五兩也

此所江

一、金三拾六兩 預金有

一、金四拾兩 藤左衛門

一、金拾兩者 勇助

ノ金八拾六兩入金

残金百六拾九兩也

外二

一、金三拾壹兩壹分貳朱

一、錢貳拾四メ六百文

一、米六表

大福帳かし

一、金貳拾五兩貳分 藍代金

三百七拾壹文

一、金貳兩貳分貳朱 利足滞

老メ八百文

米貳拾七表

一、米貳拾貳表 御年貢滞

ノ金五拾九兩貳分

錢貳拾六メ八百文

米五拾五表

外仕入物

一、金四拾五兩斗 大坂仕入金

一、金三拾五兩斗 京綿仕入金

金八拾兩也

小以金三百八兩貳分

錢貳拾六メ八百文

此金四兩卷メ百文

米五拾五表 卷メ四百文かへ

此金拾貳兩位

合金三百貳拾四兩貳分

卷百文

外二

一、 粳入卷つ 五拾表迄

一、 米三拾貳表 御蔵米

一、 米拾表 粳有

一、 米拾表 旧米有

米百貳表 卷メ四百文かへ

此金拾貳兩壹分

四百文

一、 大豆五表 卷メ貳百文

此金三分卷メ貳百文

一、 金三兩也 有金

都合金三百四拾兩三分

右之通去戌年店下相改相見申候、以上

亥四月七日改写置候

戌年

一、 金拾貳兩 田地三七方戌年分購請申候

亥年

一、 金三兩分 養助方畑購請金

酉年

一、 金貳拾三兩 兵蔵方北口分購請

酉年

土蔵卷つ 相立申候

亥年分店下相改

亥年分店下相改

亥年分店下相改

一、 金七拾三兩貳分 岩木、吉田質地かし

一、 金六兩貳分 弥勒寺

一、金六兩三分

生花仕入

一、米貳拾七表

御蔵米

米五表

手形かし

一、米拾表

白米也

一、金貳拾九兩貳分

谷地質地

一、米拾表

岩木郷蔵

一、金拾三兩者

当村質地

一、米五拾五表

糴入二而有

ノ金百貳拾九兩壹分

手形かし

ノ米百貳表

四拾六表かへ

米五表

代金貳拾貳兩分

一、金四拾七兩貳分

大福帳手形なしかし

一、豆

蔵入大つ

一、金四兩貳朱ト

利足滞

代金四兩

米六表 此金壹兩壹分四文

一、七固

やね

貳メ四百文

代金壹兩貳分

一、金三拾六兩壹分貳朱

商方かし

一、三本

村上茶代

一、米拾八表

御年貢米滞分

代金壹兩貳分

此金四兩位

一、貳固

石灰

ノ金貳百貳拾貳兩貳分

代金貳分

貳メ八百文

ノ金七兩貳分

都合金貳百五拾貳兩貳分

有物

外二

金貳拾兩斗 大坂、京都仕入物代

合金貳百七拾貳兩貳分

此所江

一、金拾兩

おりね分入

小以 \times 金貳百貳兩貳步貳朱也

外仕入方

一、金拾兩斗

京都残り

一、金拾六兩

南都残

一、金拾兩

酒田小豆代残り有

一、金貳拾兩

荏草仕入

一、金拾七兩

大小つ代、大久保有

小以 \times 金七拾三兩也

丑二月十二日改

子年店下寛

一、金七拾壹兩貳步

岩木村

一、金拾兩者

白鳥村

一、金拾五兩

大久保村

一、金七兩者

稲下村

一、金六兩貳步

弥勒寺村

一、金四拾七兩

谷地合

一、金八兩者

越中

一、金貳拾七兩

大福帳

一、金貳兩貳分半

同錢二而

一、金八兩斗

利足滞

一、米四拾五俵

糶入 \times つ

一、米三拾五俵

糶俵廿表

一、米貳拾五表

かし米

一、米貳拾五表

蔵入

\times 米百三拾俵

四拾五表かへ

代金三拾八兩永八拾八匁

一、金貳兩貳步

大つ拾表

一、金壹兩貳步

やね六匁

一、金貳步

大奉紙有

小以、金四拾三兩永三拾八匁

合金三百拾九兩ト

永五文

丑二月十一日改

子年分

預金覚

丑年店下覚

一、金六拾兩 藤左衛門殿

一、金拾三兩三歩 ⑦印おりね

一、金五兩者 けおりね

一、金五兩斗 弥次郎様返し金

、金八拾三兩三歩

指引而

一、金貳百三拾五兩壹歩

永五文

外

金百兩 無尽金兵太郎様方

合金三百三拾五兩壹歩

永五文

右之通相改申所如此ニ御座候、以上

一、金百四拾七兩三分 手形かし

一、金拾六兩 米代金

一、金壹兩者 大豆代金

一、金四拾兩ハ 宝屋かし

一、金六兩貳分 水落屋かし

一、金四拾五兩ハ 京都

一、金百六拾五兩貳分 南都

一、金廿兩 大福長（大福）

一、金四兩三分 利足滞

一、金六拾三兩 紅花指金

、金五百九兩貳分

内

金六拾兩

阿部

式拾兩ハ

小野

三拾貳兩

槇藤

百五拾兩ハ

いせり

〆式百六拾貳兩

指引而

金貳百四拾七兩貳分

寅二月十二日改候分

一、金七拾六兩

青芋八駄代

一、金五拾兩ハ

青芋六駄代

〆金四百九拾三兩貳分

右之内

金百貳拾三兩

南金

金百四拾兩

⊕金

金八兩

定林金

金四兩

谷おりね

金拾五兩

かねやおりね

〆金貳百九拾兩也

指引而

寅年分店下覚

一、金六拾六兩貳分

大福帳かし

一、金貳兩貳分

御年貢米十三表半滞代

一、金百五拾七兩

手形かし

一、金拾七兩

伊勢源紅花代

一、金貳兩

市村屋紅花代

一、金貳兩壹分

同五年紅花代

一、金廿五兩壹分

いせり殿方式丸代

一、金九拾五兩ハ

仙台紅花兵太郎中間仕入金

金貳百三兩貳分也

外ニ

一、金三分

みの六本

一、金三兩

白木綿三十六反

一、金壹兩

村上式本

一、金壹兩

大つ六表

一、金壹兩

白米六表

一、金五兩

御蔵米三十表

八メ四百文

大福帳面

一、金拾五兩

籾入沓つ、大麦十六表

一、金八兩ト

商内かし帳の方

四斗入十表

拾三メ四百文

一、金壹兩貳分

米かし九表代

一、金三兩壹分

米かし指上表代

一、金拾兩斗

利足滞

一、金貳兩壹分

御年貢不納之分

ノ金三拾八兩壹分

一、金六兩ハ

利足之滞

合金貳百四拾壹兩三分也

一、金五兩

下男平七郎かし

右之通寅年分相改上候、相違も無御座候

小以ノ金百六拾九兩貳分

卯二月九日

錢廿壹メ八百文

此金三兩ト永廿匁六分

卯辰貳ケ年店下覚

一、金三拾兩

青芋三駄

一、金百六兩

手形かし

一、金三拾壹兩

京都為登紅花売残

一、金拾貳兩

宝屋弥右エ門殿

永四拾貳匁

紅花買金不足

一、金貳拾五兩

割たはこ十式固

一、金貳兩三分

同人方大小つ代

永拾貳匁五分

一、金壹兩ハ

弥之助殿

小以ノ金八拾六兩貳分

一、金貳拾三兩壹分

当座かし

永四匁五分

一、金貳兩

古塩引六匁

小以ノ金三拾壹兩三分

合金貳百六拾壹兩壹分

入金之改

一、金七拾兩八

南権内殿

一、金拾三兩八

新町藤左衛門殿

一、金五拾兩八

最上院様無尽金預り

一、金拾兩八

金やおりね分

一、金貳兩八

大久保村おりね分

一、金四兩八

当村卯助殿

一、金八拾兩斗

兵太郎殿指引ニ相見申候

一、金四兩八

京都竹内右門

小以ノ金貳百三拾三兩

指引而

金貳拾八兩壹分

文化六年

巳年店下し覚

外二

金貳兩貳分

有金

金壹兩分

錢有

一、粗貳拾八表

四斗入

一、粗拾六表

三斗入

一、粗貳拾壹表

五斗入

一、粗入壹つ

壹間貳拾石見

小以ノ粗四拾六石五斗

此米九拾表 見

代金廿三兩三分位

合金五拾五兩貳分

右之通卯辰貳ヶ年分店下相改申所、如此ニ御座候、以上

文化六年巳四月三日改

一、金拾五兩壹分

利足滞

一、金七拾七兩壹分

質地かし

銀拾壹匁壹分

一、金四兩 与右衛門、久五郎

銀四匁九分

金五郎

一、金三兩壹分貳朱 書表殘

三メ三百文

一、金拾五兩貳分 商内かし

錢拾八メ文

一、金五兩ハ 仙ふく弥之助殿

一、金四兩貳分貳朱 極月かし付

一、金七兩者 名主藤兵衛様方手形かし

一、金四兩ト 商内方かし

銀拾三匁貳分

一、金貳兩貳分 よかい村喜八殿

一、金貳分ト 藤助新田村源内殿

錢三メ四百六拾反

一、金四拾五兩ハ 宝屋弥次兵衛殿

一、金四兩者 岩木村万吉殿

一、金五兩者 重藏殿、重内殿

一、金四兩者 仁左衛門殿、三吉殿、

久助殿

銀百九拾七兩ト

銀廿九匁貳分

錢廿四メ七百六拾文

外二

一、金廿六兩 漆仕入

壹メ貳百文

一、金貳兩貳分 花染廿反

一、金三拾壹兩 茶屋五右衛門殿青亭仕入

一、金貳拾三兩 木綿代、百八十八匁代

一、金拾五兩ハ たはこ仕入重郎兵衛方

一、金貳兩分 近江表五拾枚

一、金五兩者 七嶋十六枚

一、金四兩ハ 仁左衛門方奉公かし

一、金貳兩者 平七方立金不足

銀百拾壹兩 当金

壹ノ式百文

合金三百八兩ト

銀廿九匁二分

銀廿五ノ九百六拾文

此金四兩ト永五匁六分

かり金

一、金八拾兩

兵太郎殿

一、金貳拾兩

藤左衛門殿

一、金百三拾六兩

権内殿

一、金貳拾七兩

定林寺様

一、金三兩貳分

卯助殿

一、金五兩者

かねやおりね

一、金壹兩貳分

ひおりね

一、金拾兩者

おほる方

一、金五拾兩ハ

無尽金

ノ金三百三拾三兩入

指引而不足分

金貳拾兩壹分

永廿匁八分

一、米百壹俵

御蔵米

此金貳拾兩ト見当金

一、米三石

造酒仕入

代金貳兩ト見当金

一、粃入壹ツ

外ニ

もぢ粃

代金拾兩見当

ノ金三拾貳兩也

指引而 金拾壹兩貳分

永四匁貳分

外ニ

一、金貳拾五兩

京大坂紅花仕入残り金也

巳年分改

合金三拾六兩貳分

永四匁貳分

米拾五表

右之通巳年分、午正月廿四日相改申所、相違無御座候

外二米五表

東次郎殿滞

文化七年午正月廿四日改

一、米五表

御年貢米滞

一、金拾五兩壹分仁朱

商内かし

錢壹メ四百文

切帳面方

(貼紙)
「去巳」店下し相改申所

一、金三拾六兩壹分仁朱

大福帳かし

金三拾六兩貳分

錢拾四メ三百文

永四匁貳分

米拾壹表

此所江

一、金四兩壹分

弥之助殿かし

上方紅花売仕切損金五拾兩余參候而、甚々米惑仕候、

一、金貳兩貳朱

茶屋五右衛門殿かし

各々様御頼、金百兩無尽相企、外二金六拾兩分、田地權

一、金拾六兩貳分

弥惣右衛門殿かし

内殿講借用方あて候て相片付申候所、如此二御座候

小以メ金百拾四兩三分仁朱

午四月

錢貳拾五メ七百元

米三拾壹表 壹表二付壹メ五百文

文化六午年

代四拾六メ五百文

店下覚

錢メ七拾貳メ貳百元 両かへ六メ九百元

一、金四拾兩壹分

証文かし

此金拾兩ト

永四拾六匁三分

合金百貳拾五兩ト

永三拾三匁八分

外二

一、金七兩壹分

紅花売仕切金兵太郎殿方有

一、金壹兩分

村上茶式本

内入方

一、金貳分

まわた代

一、金拾兩

南権内殿

一、金壹兩

たはこ代

一、金三兩

かねやおりね方

一、金壹兩

米五表代

一、金四兩

鶴岡半右衛門江

一、金三分

錢五メ文

塩引代可相渡ス

一、金拾兩

綴入壹つ代

一、金拾四兩

⊕兵太郎殿

小以ノ金貳拾壹兩貳分

指引不足分相見申候

合金八拾六兩貳分

一、金拾兩

念おはる方

永三拾三匁八分

一、金九兩

弥三郎殿傘残り代

外二

一、金拾兩

藤左衛門殿方

金三拾五兩分

白鳥越石田地

指引不足分相見申候

四拾表所購請申候

小以ノ金六拾兩入

金拾兩ト

岩木分田地、吉田分畑

指引而

取替二付指金

残金六拾五兩ト

右之通去年分店下し相改申候所、相違無御座候

永三拾三匁八分

文化八未ノ四月十七日

外二

一、三分 与助リ

一、壹兩 久五郎元リ

十四匁式分

一、三分壹メ文 与右衛門元リ

一、四兩 弥久助元リ

一、壹分 留之助リ

一、貳兩式分 仁兵衛元リ

一、貳兩 金五郎元金

ノ金十一兩貳分壹メ文

外二 商内滞金

一、壹メ貳百文 万蔵

一、壹メ四百五文 万五郎

一、金壹兩百七拾文 仁右衛門

一、金三兩 藤五郎

一、金四兩 七之助

一、金貳兩仁朱 万吉

一、金四兩 重蔵

一、金貳兩三分 藤兵衛

一、金貳分七メ百六文 熊蔵

ノ金貳拾壹兩壹分

九メ九百六文

一 金四兩三分仁朱 村方

壹メ六文

文化八年

南村

未申ノ二ヶ年店下改

未十二月分

酉三月十一日

一、金壹兩仁朱 長兵衛

一、金貳兩三分仁朱 三吉

無尽出金 長吉

一、金壹両貳匁壹分 庄三郎

一、金壹両三百拾文 太兵衛

一、三百五拾文 伝兵衛

一、貳朱三百五十五文 庄蔵

×金三兩壹分

壹×貳百四十五文

上郷

一、三百四十文 勘兵衛

一、銀七匁 伊之助

一、六百文 小助

一、銀十七匁六分 与平次

一、金五兩 平吉

一、金壹両三分仁朱 清水寺

七百七十文

一、金壹両百四十五文 長福寺

×金八兩壹分

貳×八十五文

一、金三分 惣次郎、与助

一、金壹両貳分 重郎左衛門

×金貳兩壹分

一、金貳兩卜 笹元長蔵

永拾壹匁五分

一、金貳分 慈眼院

×

×一、金三分仁朱 向郷

×

一、金四拾六兩壹分仁朱 商内方切帳かし

錢拾四×六百廿文

×

手形かし

手形かし

一、金貳兩貳分 文吉

一、米五表 清五郎

一、金六兩壹分 与助

一、金三分 与右衛門

一、金老兩壹分 留之助

一、金三分 久助

米四表八升

一、金貳兩 与平次

一、金貳兩貳分 左平次

一、金壹兩 五郎助

一、金拾七兩 林次郎

一、金三十拾四兩

米九表八升

代十壹メ七百文

一、金百三兩壹分 宝屋弥惣右衛門

小以

一、金貳百貳拾六兩三分仁朱

錢四拾メ七百四拾文

此金五兩貳步 永拾叵五分

合金貳百貳拾貳兩壹步仁朱

永拾叵五分

入金

小豆買金過

一、金壹兩 印様方

壹メ百十五文

一、金拾兩 同

一、金拾兩 同

一、金貳兩 蠟代入

一、金四兩 長谷寺無尽金

内壹兩三分 無尽出金立替かし

一、金廿五兩壹分

壹メ拾五文

一、金貳拾兩 権内

一、金六兩斗 利足入

一、金廿六兩 土生田

一、金貳拾兩

一、金拾兩

おはる

ノ

一、金貳兩

七兵衛

小以

ノ金八拾三兩壹分

壹ノ拾五文

永十四匁五分

指引而

金百四拾九兩下

永八匁五分

入金九兩貳分斗

宝屋殿傘売代入

残金百三拾九兩貳分

永八匁五分

外二

蔵入有物

一、米三拾七表

蔵米

一、米八表

下米

一、米三拾貳表

白鳥米

ノ米七拾七表

内

米拾八表

弥之助方へ可相返ス分

米三拾表

重郎右衛門方へ可相返ス分

ノ四拾八表

残而米貳拾九表

代金五兩貳分見

大坂仕入残物

一、金拾七兩三分

貨物

永拾九匁

一、金壹兩貳分

酒田仕入残物

永廿貳匁八分

三口ノ金廿五兩

永拾六匁八分

惣指引

残金百六拾四兩貳分

永拾五匁三分

外二

一、 糶入巻つ

商内かし分

一、 大豆八表

一、 金拾両

与七

右之通去申ノ年分店下し相改申候所、如此ニ御座候、以

一、 金四両

太次郎

上

一、 金七両卜

喜代八

酉三月十一日

一、 金四両三分
永十六匁六分五厘

一、 金四両三分
小三郎

永十六匁三分五厘

文化十年

一、 金貳両
重蔵

酉店下し改

一、 錢五メ文
仙北久保村弥之助

戌三月十三日

一、 同五百拾文
六太郎

一、 金拾両貳分仁朱
当村かし金

一、 金貳両
重郎兵衛

一、 金拾八両壹分
手形、与左衛門、東治郎

一、 金貳分
彦八

与助、文吉、清五郎、藤之助

一、 金壹分仁朱
次年子源八

一、 金拾両
熊蔵

一、 金壹分
弥勒寺弥之助

一、 金貳拾四両壹分仁朱
喜八

一、 錢貳メ五百文
留場村与平次

一、 金貳拾三両
弥惣右衛門

一、 仁朱卜
南村庄蔵

一、 金八拾六両壹分

一、 仁朱卜五メ五百文
久蔵

一、三メ六拾文 熊藏

一、金三兩 七之助

一、金壹分六百七十七文 長福寺

一、金貳兩 三郎

一、金壹分四百文 藤助

一、金壹兩 かねや藤吉

一、金五兩 卯七

ノ 金四拾四兩貳分

永三拾貳匁九分

錢拾五メ四百五十七文

此永貳百廿五匁壹分

合金四拾七兩永八匁

仕入残り物

一、金拾貳兩壹分 木綿九拾五反

一、金貳兩 たたみ繩五速

一、金三兩貳分 からかさ百五拾本

一、金三分 村上壹本

一、金五兩壹分 蠟

一、金三分仁朱 やね

一、金貳分 真綿

ノ 金貳拾五兩仁朱

青葙為登

茶屋五右衛門殿方

一、金拾壹兩貳分 五右衛門殿かし

永貳拾八匁五分六厘

一、金四拾八兩貳分 同人仕入

永廿六匁六分八厘

ノ 金六拾兩貳分

永五匁貳分四厘

南都為登仕入

一、金七拾貳兩 青葙七駄片馬

永六匁四分七厘

ノ

小以

ノ金貳百九拾壹兩

永七匁貳分壹厘

為登紅花

五丸

一、金百貳拾貳兩三分仁朱分

市村屋、村山屋、伊勢理

壹人分十五丸

一、金百五拾兩卜

若花組方中間仕入之分

永五匁九分七厘

三十丸

ノ金貳百七拾貳兩卜

仕入

永九拾三匁四分七厘

此処へ内

金貳拾九兩

願善寺為替

金貳百兩

山形屋弥助殿方受取り

金五拾兩

忠藏上京二而

ノ金貳百七拾九兩入

極月二月下し金

指引而

金六兩卜

過金相成申候

永六匁五分四厘

入金改

一入 金六兩

紅花過金

永六匁五分六厘

一入 金八兩

六田佐七殿方

一入 金四拾兩斗

⊕様方大積り

ノ金五拾四兩

永六匁貳分六厘

惣指引而

金貳百參拾七兩卜

永六分九厘

外二

一、 籾入巻つ

一、 白米

一、 大豆

一、 御年賣方無勘定、多分之

出入有之間敷奉存候

右之通相改申所、如此ニ御座候、以上

酉年分

戌正月十三日

文化拾三年

亥年分店下し改

子二月九日勘定

一、金百貳拾八両壹歩仁朱 商人衆滞かし

一、金拾八両壹歩仁朱 大福帳面かし

一、金拾貳両壹歩 手形かし

一、金貳拾貳両三步 越中御客様方五右衛門、

小以ノ金百八拾壹兩三步

壹メ五百貳拾壹文

外二

一、金三兩分

一、金貳兩貳歩

一、金七兩貳歩

一、金三步

一、金壹兩壹歩

一、金貳分余

小以ノ金拾五兩貳歩

半四郎、吉太郎様御三人

様、差引不足

古手黒束貳束代

夜着ふとん五荷代

白木綿九拾六反代

染布四反代

千草三反、鳴物七反

村上壹本有

四拾五表かへ

一、金六兩ト

御年賣米滞

壹メ五百拾文

貳拾八表代

四拾五表かへ

一、金四兩三步仁朱

御藏米拾貳表

百文

有米

四拾六表かへ

一、金壹両ト

下米有米

六百拾文

小以ノ金拾壹両三歩仁朱

式ノ三百文

一、金三両式歩仁朱

野こ切卅枚

式百八拾七文

合金式百拾式両三歩

六百八文

外二

一、金六拾両

北口与左衛門殿と

浦拾八表所購請候分

一、金拾両分

藤兵衛様と川欠請

都合金式百八拾式両三歩

六百八文

外二

一、粳入

壹つ

一、大豆

七表

一、むぎ

式表

一、入金五両

根善様と

一、金五両

金蔵米代、出入なし

右之通相改申所、如此ニ御座候

文化十三年

子二月九日

去亥年分

又々

一、金三両

有金

一、錢五メ文

有錢

ノ金三兩ト五メ文

右之通り御座候、以上

二月九日 与蔵

太神宮様

(裏表紙)

〔※最上浜畑村〕

宇野 三吉

五大力菩薩

代金八兩三分

一、貳分五厘

金谷原買

代金九兩壹分

一、六分三厘

九郎兵衛方

代金廿八兩三分仁朱

一、貳メ八百匁

山寺買

代金三兩三分

一、五分五厘

小太郎方

代金廿三兩也

ノ金七拾三兩貳分仁朱

小以

ノ金百六拾八兩卜

永拾貳匁五分

紅花買仕切

一、又考駄四袋

金四拾貳兩替

又次郎

代金四拾四兩貳分仁朱

金四拾貳兩替

一、又考駄拾貳袋 又右衛門

代金四拾九兩三分仁朱

二口

ノ 貳駄貳分五厘

金四拾貳兩替

代金九拾四兩貳分

一、七メ匁

留場買

四貳かへ

一、貳百廿匁

又二郎殿

代永廿八匁八分七厘

四貳かへ

一、三百匁 又右衛門殿

代永三拾八匁三分六厘

一、四拾匁 又右衛門殿分

貳百拾匁 又二郎殿分

代金壹分百文

此永壹匁四分三厘

小以

ノ永九拾三匁六分六厘

合金百六拾九匁卜

永六匁壹分六厘

弘方

一、金七拾八匁 中村七兵衛殿へ相濟分

永廿一匁七分五厘

小太郎殿分

一、金貳拾貳匁卜

永四拾九匁八分七厘

一、金三拾五匁 石川

安達又三郎殿相濟

一、金四両者 又右衛門江

吉次郎殿方相濟

ノ金百三拾九兩貳分

永廿一匁六分貳厘

指引而

殘金貳拾九兩卜

永三拾四匁五分四厘

かし分

四月十一日

一、金貳兩卜

からかさ代

永廿一匁四分

同日

一、金壹兩壹分

しほり拾壹反

永拾貳匁五分

五月廿六日

一、金拾壹兩壹分

木綿九拾五反

永拾六匁三分三厘

一、金壹兩貳分 からかさ

永廿三匁七分六厘

永五分五厘

外に

一、金壹分 紅の立まき壹反

一、入 花染十八反代入

一、永拾八匁五分 本帯六筋

一、金拾五兩 五右衛門殿出し

永九匁 木綿百三拾九反

右之造り 壹袋二付六五六貳五

金三拾貳兩壹分

四十貳兩かへ 十八入又二部殿仕入

永壹匁四分九厘

三 紅又 六十八 四丸

内

代金四拾四兩貳分仁朱

金壹兩 越中相続分受取

四拾貳兩かへ 十八入又右衛門殿仕入

金壹兩壹分 楯岡殘金受取

同 雨又 七十六 四丸

永五匁

代金四拾九兩三分仁朱

金三步貳朱 清八殿方為替受取

二口

指引而

金九拾四兩貳分

殘金貳拾九兩 かし

永八匁五分九厘

双方指引而

四十三兩かへ 十八入、五郎兵衛、小太郎

過上金壹分ト 入と成ル

三 雨 七十貳 四丸

代金四拾八兩壹分仁朱

四十兩三分仁朱

永貳匁三分五厘

廿八、留場、金谷原

同 紅雨 四十

貳丸

代金貳拾六兩下

永拾八匁六分六厘

合金百六拾九兩下

永六匁壹分六厘

一、金貳分仁朱

百廿貳文

袋百四十一代

一、貳メ八百文

三駄片馬造り入用

一、貳メ拾七文

寒河江方六田迄たちん

一、四百八拾文

才料ちん、日用共

一、壹メ七百廿五文

六田方大石田迄

×金貳分仁朱ト

七メ百拾四文

此金壹兩永貳匁四分八厘

一、金貳分

大石田御役永、藏敷

永三十一匁七分貳厘

川船運ちん

一、金壹兩貳分

海舟運ちん

永四拾匁五分

一、銀八匁九分

敦賀方京都迄

六匁貳分

五匁八分

×銀廿匁九分

小以

×金五兩三分

永壹匁五分三厘

ならし壹駄ニ付金四拾三兩貳分

永廿匁六分七厘

惣

合金百七拾四兩下

永八拾貳匁六分九厘

宇野与蔵

文化十一年

白岩中町

又次郎殿

四 紅花引当金滯一件

乍恐以書付奉御訴訟候

池田仙九郎御代官所

三 覚 (金子受取手形)

覚

一、金拾三兩

右之通、髓ニ受取申候、為念之金子受取手形、仍而如件

安達又三郎

文化十四年

丑十一月七日

宇野与蔵様

古手代横帳表
一、金拾壹兩錢拾九文

松橋村百姓

訴訟人 与 蔵

内

金壹兩貳朱 去寅九月十三日手附金受取

金三分 当卯二月廿三日受取

残金九兩貳朱錢拾九文 滯

木綿代横帳表

一、金貳兩貳朱錢八百拾壹文

内

金貳兩 去寅十一月朔日受取

残金貳朱錢八百拾壹文 滯

滯金合九兩壹分錢八百三拾文

当御領分

左沢内町

相手 名右衛門

右訴訟人と藏奉申上候、私儀松橋村百姓ニ御座候処、村内困窮之小前御年貢金御上納ニ差支、紅花引当として金子貸付擡取候、紅花仕入年々京都江為差登候処、京都商人共は紅花代金を替として、木綿古手差下候ニ付、尚又木綿古手売捌渡世仕、代金取立、年々困窮之小前、御年貢金ニ融通為致、百姓相続仕候処、相手名右衛門儀、去寅九月十三日私宅江罷越、古手相調度趣達而相頼候ニ付、名右衛門儀者身元も相応之儀、兼而承り及、同人任頼金子拾壹兩錢拾九分売付、此分江手附金壹兩貳朱相立、殘金之分同十月卅日限勘定致度旨頼ニ付、任其意代呂物相渡申候処、限月ニ相成候而も相濟不申、外木綿代濟殘共前書之通差滞候ニ付、内々ニ而度度及催促ニ候処、右金高之内江金三分相濟候而已ニ而、其後者何様催促仕候而も、一向相濟不申、当惑至極ニ奉存候、乍去、御上様江掛御苦勞候茂甚恐入奉存候ニ付、松橋村名主藤兵衛方は左沢内町役元左兵衛方江文通を以、掛合濟方相頼候処、

其後名右衛門、左兵衛方は返書を持參、藤兵衛方江罷越候処、同人留主中ニ而不致對談、藤兵衛帰宅之上致披見候処、去寅十一月中非常之災難ニ而、仕入之諸品者勿論所持之手道具迄不致致焼失、仮小屋も相建兼候仕合ニ付、右滞金速々取入呉候様申立候様申立候得共、私儀去寅十一月左沢町火災ニ而、名右衛門家居致焼失候趣承り及驚入、見舞旁早速罷越候処、居宅者致焼失候得共、土蔵も所持罷在候ニ付、私方は仕入之諸品壹品ニ而も、不致焼失趣、名右衛門申聞候ニ付、安心致居候処、此節ニ至り、仕入之諸品迄も致焼失、仮小屋も相建兼候様申立候段、何共難心得奉存候、猶又藤兵衛は左兵衛方江再庇掛合濟方相頼候処、一向取敢不申、尤此節ニ至り候而も、居宅も土蔵掛りニ、誠ニ結構成致普請、名右衛門身上弥増致繁昌罷在、私方は滞金等閉ニ被致候而者、当御領分左沢町方商人共、並所々江売付候木綿古手代金江も相響き、其上年々村内困窮之小前江、御年貢金融通之差支ニも相成、難儀至極ニ奉存候ニ付、無規今般御訴詔奉申上候間、何卒御威光を以、相手名右衛門御召出、御糺明被成下、

早速相濟候様被仰付被下置度、奉願上候、猶御尋之儀茂
御座候ハ、口上を以可奉申上候、以上

御役所

右訴訟人

文政二年卯五月

与 蔵

差添人

前書之通、酒井大学頭様御役場江、御添翰奉願上候二
付、奥印仕奉差上候、以上

組頭 仁左衛門

松橋村

名主 藤兵衛

名主 藤兵衛 ㊦

酒井大学頭様

御役場

五 (品代金滯一件) 濟口証文

前書之通、酒井大学頭様御役場江御訴訟奉申上度奉存候
二付、格別之御慈悲を以、御添翰被下置度奉願上候、以
上

(包紙)「卯ノ十二月二日

左沢

左沢濟口

名右衛門」

卯五月

右訴訟人

与 蔵 ㊦

奉差上濟口証文之事

名主

藤兵衛

寒河江

寒河江御支配所松橋村与蔵方、当町名右衛門江木綿古手
貸渡候処、代金滯候二付、寒河江御役所方御添翰を以奉
御訴訟候所、早速濟方被仰付候、然ル処、宿米次郎取扱

を以、金貳兩五月中相濟、殘金八月当月兩度相濟候様利
解申聞候、双方得心之上内濟仕、弥此度以御威光殘金不
殘相濟、難有仕合奉存候、依之双方連印濟口証文奉差上
候、以上

覚

八十式

一、金五拾六兩貳步

兩緋印

永六匁

五丸

寒河江御預所松橋村

一、金貳兩

三つ
さし花 三袋

訴訟人 与 蔵

七十五

当町相手

一、金五拾貳兩貳朱

兩揃印

名右衛門

永廿三匁四分

四丸

同町宿取扱人

八十一

一、金五拾三兩

雨光印

永拾五匁三分

四丸

左派

御 役 所

一、金四拾六兩

七十
雨天印

永四拾匁

四丸

三百拾壹袋

×金貳百拾兩貳步

永三拾五匁

六 為登紅花代金覺

卯年為登紅花代金

卯年駄下調申候

覚

一、金貳百拾兩貳歩

為登紅花

永三拾五匁

三百拾壹袋

一、金貳拾兩三步仁朱

林兵衛殿へ

引当かし

一、金四拾七兩卜

九藏殿へ

永拾七匁

引当かし

一、金三拾八兩

与右衛門殿へ

引当かし

一、金三歩卜

同人江

永貳匁六分

一、金貳百七拾四兩五歩

庄六殿へ

永八匁三分四厘

一、金廿一兩壹歩

半四郎殿へ

一、金廿四兩壹歩

五右衛門殿へ

永廿一匁九分壹厘

一、金拾貳兩

卯藏殿へ

為登仕入

ノ金六百五拾兩也

中間仕入

上方下り請金相払方

六月十二月迄

一、金百兩

若喜殿と

一、金拾兩者

同人と

同永七拾匁

勘助かり分

一、金百兩

伊勢理殿と

同七兩

一、金百兩

村七殿と

同金三兩

一、金百兩

市弥殿と

同金三兩

一、金四兩貳歩

宝鐘寺様と

一、金貳歩 小泉村庄六殿と

大坂下り物代銀

一、金壹兩壹分仁朱

長福寺様と

一、銀九メ三百九拾四匁 小橋屋と

一、金壹歩

永昌寺様と

八分九厘

一、金拾六兩

小刀屋へ届ケ金

一、銀九拾壹匁 同 蔵と

卯太郎と入

四分

一、金壹兩貳歩

岩木村円蔵殿と受取

一、銀四メ百拾壹匁 堺永太殿へ

一、金壹兩壹歩

下敷佐蔵殿と受取

三分七厘

一、金壹兩貳歩

水押太兵衛殿

銀メ拾三メ五百九拾七匁

吉田吉郎次殿

六分六厘

改村左七殿

此金貳百貳拾六兩貳歩仁朱

一、金五兩

天神太右衛殿と

合金六百九拾九兩ト

久蔵殿と

永貳拾匁

一、金拾兩

小橋屋届ケ金

此分へ

勲助殿と入

金六百五拾兩 右之為登

メ金四百七拾貳兩貳歩

指引而 不足

永七匁五分

金四拾九兩ト

永九拾匁

此分かし方

一、金三両仁朱 三吉殿へ

三百拾六文

一、金貳両貳歩 伝兵衛殿へ

一、金三歩 仁左衛門殿へ

一、金貳両貳歩 藤兵衛様へ

三メ七百六十四文

一、金壹両仁朱 藤左衛門様へ

五十文

一、金八両壹分 又三郎様へ

一、金壹歩 重内殿へ

一、銀廿四匁四分 八助殿へ

ノ金拾九兩貳歩

三百三拾文

一、金六両壹歩 村方取替

三メ七百八十八文

一、金壹両壹歩 南村方

一、金九両壹分 下郷取替

米四表

一、金壹両三歩 上郷取替

貳メ八百拾文

一、金壹両三歩 向郷取替

ノ金三拾九兩三歩

六メ九百三拾三文

米四表

左沢名右衛門殿と東根万次郎殿迄

一、金八拾八兩貳歩仁朱 商人衆中

五メ百貳拾四文 相滞候分

下印

一、金三拾七兩貳歩仁朱 小泉重次郎殿と

六田与七かと迄

此分皆無同用之もの也

ノ金百六拾六兩

七メ四百五拾七文

内金四拾九兩 右上方勘定

永廿匁 不足引

索引

金百拾七兩三步

永九匁六分五厘

右之通り索引勘定正ミ金

左二

一、金百拾七兩三步

索引勘定過

永九匁六分六厘

一、金貳兩貳歩

勘兵衛殿方
米拾貳表半

一、金百五拾八兩

勘兵衛殿方買米九百八表半
御書替手形

一、金貳百六兩壹分

手形取替

百廿四文 かし金也

米五表

此金壹兩

永貳匁

一、金廿貳兩貳歩

蔵入米百拾三表代

一、金三兩貳歩

白米拾八表代

一、金壹兩ト

大つ九表代

永四拾匁六分

一、金五兩

白木綿六拾反

一、金貳歩

村上茶壹本

一、金四兩

小作身代

一、金五兩

南塗有合

一、金貳兩

人浅糸代

一、金壹兩

太物残り品々

金五百三拾兩三步

永貳匁貳分六厘

内

金四兩

おぎんと預り金

金五兩

権三郎殿と預り金

残而相改

正ミ

金五百貳拾壹兩三步

永貳匁貳分六厘

一、粗入 壹つ

右之通り相改勘定相調申所、如此御座候、以上

文政貳卯年分

宇野与藏

文政三年辰三月廿一日

太神宮様

一、入金百兩 阿部氏と桑川方被遣分

此分ハ無尽金充当仕候間

算用入不申候事

七 借用金証文

借用申金子証文之事

一、金貳百兩也 但し文字判也

右者度紅花仕入代金ニ達而御頼申入、書面之金子只今髓
ニ請取、借用申候処、実正明白ニ御座候、返済之儀者当

新花売代金ヲ以、元利共急度返済可仕候、若相滞候儀も

御座候得ハ、請人引受無相違急度弁済可仕候、右之表少

も相違無御座候、為後日金子借用申証文、仍而如件

文政三年

辰八月朔日

羽州最上サカエ

金子借用人

安達又三郎

印

同 請人

同 右兵衛

印

京都

若山屋喜右衛門殿

弥 助殿

八 紅花代金借用書

借用申金子之事

一、金七拾七兩貳歩仁朱

銀壹匁三分式厘

此引当 紅花式駄也 相渡置

右之通、樋二借用仕申処、寒正二御座候、尤返濟之儀ハ、

右引当二相渡申置候紅花壳払代金、元利共御引取可申

候、為其一札仍而如件

〔文政五年午正月 榎藤左衛門印〕

諸差引書出し帳

宇野與藏殿

覚

羽州最上沢畑

一、金三兩

戌年己丑年迄ノ高

文政三年

宇野与藏

貳ノ四百八拾九文

辰八月九日

代忠藏 印

永貳拾九匁七分六厘

京都

此金壹歩下

若山屋喜右衛門殿

貳百九拾五文

弥助殿

一、三ノ七百九拾七文 寅年立替分

万助殿

銀三匁七分六厘

此錢三百八拾八文

一、三ノ六百四文 卯年立替分

永九匁

此錢五百五拾七文

ノ金三兩壹歩下

拾壹ノ百三拾分

九 諸差引書出帳 (横帳)

(表紙)

内

金巻兩ト

木ノ実代ニ而請取

巻メ七百文

残金貳兩壹歩ト

九メ四百三拾文

辰年分

一、五百九拾三文

∴印紅花巻駄

六田方大石田迄駄賃

一、貳百八拾文

同印紅花谷地方

六田迄駄賃

卯十二月廿九日

一、三百文

代かし

三月五日

一、貳百三拾五文

木綿巻固、古手貳固

傘七丸太賃共ニ

五月二日

一、百六拾七文

古手貳固、小間物巻つ

羽釜巻つ、酒田まし共ニ

五月廿六日

一、貳百七拾五文

木綿貳固、六田方

駄賃不足相渡し

六月十二日

一、三百五拾巻文

くりわた四本

古手包からかさ九つ

廿一日

一、六百拾八文

くりわた八本

古手からかさ水上

七月二日

一、百文

古手三固水上

七日

一、百文

忠藏代かし

八日

一、貳百六拾八文

古手八固買

十二日

一、六拾七文

古手巻固水上

一、三拾三文

木綿巻固水上

八月八日

一、百文

古手三固水上

十二日

一、五百卅六文

古手拾六水上

十三日
一、貳百三拾五文

古手六、綿六本水上

廿日
一、貳百三拾五文

古手七水上

四貫五百八拾八文

十二月廿八日
一、貳百五拾文

にしん巻本
山村屋茂八方へ書状立替

十二月卅日
一、三百文

⑤の荷造なわ代立替

五月十二日
一、三拾四文

古手壹固水上

巳年分

同日
一、三拾文

まし運賃

辰十二月十二日
一、百文

与蔵殿代かし

廿五日
一、六拾七文

木綿貳固水上

九月十九日分
一、百文

古手三水上

六月十一日
一、三拾五文

古手巻水上

同六日分
一、百拾文

茶五本水上

一、百拾三文

古手巻つ半水上

廿三日
一、百六拾七文

古手五水上

六月十九日
一、百文

古手巻つ半水上

廿七日
一、三百拾三文

くり綿拾三水上

七月六日分
一、百六拾七文

古手貳丸、布段貳丸

十月七日
一、貳百壹文

古手三水上質

箱三つ

十一月七日
一、百八拾四文

塩引六つ、ほしか五本

廿二日
一、四百拾貳文

大石田と木綿貳固

駄賃不足相渡し

からかさ共二

八月六日
一、百巻文

古手巻駄片馬水上

八月廿一日
一、六百三拾七文

塩拾九表水上

九月
一、三百四拾巻文

太物古手、布段三箇

十月十日
一、式百文

古手三駄水上

まし共に

十一月廿日
一、百八拾七文

古手式丸、こんぶ巻本

十日
一、七百三拾七文

塩式拾式駄水上

十二月十九日
一、三百文

ほしか五本、かつのこ共二

廿日
一、式百式拾巻文

古手式丸、布団巻駄水上

十二月十九日
一、三百文

塩引拾八箇

九月朔日
一、四拾文

木綿巻丸水上

一、式百廿巻文

塩三駄分、砂物巻団

十五日
一、三百文

古手四駄半水上

十二月廿六日
一、五百文

山村屋茂八状ちん

六日
一、五百式拾六文

塩拾六表水上

午正月十四日
一、六拾文

酒田方村継状質

七月六日分
一、百三拾四文

古手四水上

一、式百四拾五文

大石田清次郎殿江相渡し

五メ八拾三文

惣メ 金式両巻歩ト

四月廿七日
一、四拾文

箱荷巻つ

式拾巻メ式百四拾六文

此金三兩壹歩

百貳拾壹文

合金五兩貳歩

百貳拾壹文

百六拾文

殘金貳拾七兩貳朱

六百六拾文

内

金拾兩

請取

差引而

金拾七兩貳朱卜

不足

六百六拾文

卯八月

一、金拾八兩壹歩貳朱

弥次兵衛殿分流物代

五百八拾文

辰八月

一、金拾三兩貳歩貳朱

流物代

三百五拾五文

一、金拾三兩三步貳朱

九蔵殿分同断

四百六拾五文

金貳拾七兩貳歩

八百貳拾文

右之内

金壹歩貳朱

惣高方式人分引

同十五日

一、金七兩貳歩

九蔵分夜着布段

流物代

辰五月

一、金五兩壹歩

夏流代不足

金四拾八兩壹歩卜

三メ式百四拾文

寅正月十九日

一、貳百三拾文

さかな代取替

寅年

一、金貳朱卜

最上院無尽出金

六拾文

取替分

寅五月廿四日
一、金四兩

夫忠藏殿

此利金貳兩ト

但寅年七ヶ月、卯辰巳年

永拾五匁

メ四拾三ヶ月分

同七月
一、錢貳拾貫文

かし

六九

此金貳兩

永八拾九匁九分

此利金壹兩ト

寅年五ヶ月、卯辰巳年

永五拾三匁七分
メ四十一ヶ月分

同六月
一、金貳歩

仕替金返し分

同十二月
一、金拾兩

当座かし

足利金壹歩ト

貳ヶ月半

永六匁貳分五厘

元金拾兩

卯二月十四日請取

卯四月十二日

一、四百拾貳文

京都差引不足

卯十二月十六日

一、金壹歩ト

酒田大沼平八目録表

八拾七文

不足取替

同十二月廿六日

一、金貳兩

直かし

此利金貳歩貳朱

但卯年と巳年まで廿五ヶ月

巳六月
一、金壹歩

酒田表二而

出立之砌かし

六月

一、金貳拾八兩壹歩貳朱

庄内紅花代金取替

利足

金三兩ト

但五七月迄六ヶ月分

永拾三匁叁分三厘

元利

合金三拾壹兩貳歩ト

永四匁九分八厘

宇野与藏殿

内

金貳拾兩

八月四日請取

此利金壹兩壹步 但八月与十二月迄五ヶ月

差引而

金拾兩壹步

永四匁九分八厘

此方へ此方之書出し相改差引、差引目録相改、殘金七拾貳兩相渡し、百九十文返り請取、本金出入無之相極メ申候、為其請取書取置申候

文政五年

午ノ閏正月十三日

右十一口

金貳拾四兩

永九拾四匁八分三厘

(貼紙)

覚

錢七百九拾九文

一、金七拾貳兩也

右惣

金七拾八兩貳步

内百九拾壹文返り

永拾九匁八分三厘

右之通、惣差引表金髓請取申候、以上

錢貳ノ百六拾文

榎 藤左衛門

印

右之通ニ御座候、若間違等有之候ハ、被仰聞候、已上

榎 藤左衛門

宇野与藏殿

閏正月十三日

一〇 引合勘定帳 (横帳)

(表紙)
「文政五年

午閏正月十二日改

⊕ 金 銀 指

取極メ相濟ニ申候以上
出被下、引合勘定
五ヶ年分相調御書
戌ノ年6月正月迄
宇野与蔵Ⓜ

榎 藤左衛門様

覚

子三月十五日

一、百五拾文

同十二月廿一日
一、金三歩ト

銀三匁

丑ノ三月五日
一、金壹歩ト

四百五拾文

根上へ立替

さらさ木綿式反半

上七戸拾枚

同四月

一、銀貳拾三匁八分

金泊四拾枚

一、七拾文

木ノみ代不足

九月廿五日

一、四百五拾文

上白干芋貳百匁代

一、銀六匁五分

矢立壹丁

六月八日

一、銀貳拾式匁

白木綿四反

メ 金壹兩

銀五拾五匁三分

銀壹メ百廿文

此処へ

丑十一月廿四日

入式メ四百文

流物代不足

戌年6卯年迄六ヶ年、荷物水上小差引御書出

入金三兩壹歩

錢拾壹メ三拾文

亥年

一、金壹兩壹歩

峯吉殿から塩や半四郎殿へ

銀四匁

立替相渡ヌ

差引而
錢拾貳メ五拾文 入

永六匁七分八厘
此処へ

寅正月十九日
一入 貳百三拾文 肴代

寅十二月
一、金四兩仁朱 伊作殿へ古手代

一入 金仁朱 最上院損

卯二月十四日
一、金拾兩 当座金へ返済

六拾文 無尽出金

除ク

寅五月廿四日
一入 金四兩 忠藏かり

差引而
金三兩ト 入
永四拾四匁式分八厘

此り

永四拾四匁式分八厘

同七月十一日
一入 金貳兩ト 錢廿メ文代

永八拾九匁九分

卯四月八日
一、銀六拾四匁九分 浜ちりめん羽おり地代

此り

同五月十日
一、同九匁 喜撰茶、山吹茶

同
一入 金貳歩 仕替金入

小十路はん

同十二月
一入 金拾兩 当座かり

此り 除ク

同九月十一日
一、金拾六兩貳歩 仙台紅花売勘定違

メ 金拾七兩貳歩

銀式匁 〔匁立会改

同五月卅日

一、銀三拾三匁

白木綿六反

同六月十五日

山形二而金米糖

一、錢貳百文

同六月廿日

つほ石運賃

一、銀六拾匁

藥荷物運賃

同
一、銀拾壹匁四分

小刀□□運賃

同
一、銀六匁八分五厘

唐紙

七月二日
一、銀貳拾八匁五分

唐紙

金拾六兩貳步

銀貳百廿壹匁分四厘

此金三兩貳步仁朱

銀三匁六分四厘

合金貳拾兩二朱

永六匁六厘

此処へ

八月三日

入金貳拾兩

与蔵請取、仙台へ向

差引而

金仁朱ト

不足

永六匁六厘

卯ノ秋

一、金壹兩

権内殿分木ノ実代

老メ七拾入

此永拾六匁貳分壹厘

卯ノ九月

一、金三拾八兩三步

造塩百四拾表代

永四匁壹分六厘

金三拾九兩三步

永貳十匁三分七厘

此処へ

極月廿九日

入金貳拾兩

与蔵請取

塩代へ向

極月廿二日

入金貳兩者 権内ばかり之内

塩代へ向

入金拾八両 流物代、弥次兵衛分

五百八拾文

卯四月 入四百拾貳文 京都差引不足

同十二月

入金壹歩 酒田大沼平八方

八拾七文

入金四拾兩壹歩

錢壹メ七拾九文

此永拾六匁三分五厘

差引而

金壹歩

永廿匁九分八厘

入

権内殿方

卯十月十七日

一、金三拾兩 夫又次郎

此り 銀百八匁

同十一月五日 一、金貳拾兩

夫宗吉

此り 五拾四匁

元利

入金五拾兩

銀百六拾貳匁

此処へ

辰二月八日

入金貳拾兩

長泉寺様ら請取

同二月十三日

入金拾兩

旦那直受取

同二月十七日

入金貳拾兩

夫只次郎ら受取

入金五拾兩

差引

残而銀百六拾貳匁

不足

此金貳兩貳歩二朱

永七匁五分

卯ノ年分辰ノ春勘定
一、入金五拾四兩 上方勘定

三步仁朱

銀壹匁三分三厘

正月廿一日
一、入金拾五兩貳步 流物代

除ク

メ金七拾兩壹步仁朱

銀壹匁三分三厘

此〇百四拾六文

此処へ

六月廿一日
一、金拾兩 流物代ニ相渡

除ク

同十七日
一、金拾貳兩 同儀藏殿へ相渡

同廿六日
一、金壹步ト 下金百兩相渡ス

三百文 太寶取替

八月九日

一、金仁朱ト からかさ代

五百文

八月十三日
一、金貳拾兩 紅花勘定の内

八月十六日
一、八百文 むしろ代

メ金四拾貳兩壹步仁朱

壹メ六百元

差引而

金貳拾七兩三步 入

百九拾六文

辰八月十六日
一、入金拾三兩貳步仁朱 九藏殿分流物代

七百九拾五文

同日
一、入金拾三兩方壹步仁朱 弥二兵衛分流物代

六百八拾五文

同日
一、入金七兩壹步仁朱 夜着ふとん代

金三拾四兩老歩仁朱

老×四百八拾文

此処へ

一、金拾兩

忠藏ヲ以相渡

五月廿八日

一、金五拾五兩老歩

青亭八駄目録表

一、銀三匁五分

ほたる火

九月廿五日

一、金貳歩

藤七殿方義藏殿へ相渡ル

六百文

一、銀拾老匁五分九厘

葉荷運賃、根上へ相渡

差引而

金四拾五兩三步

銀拾五匁九厘

錢六百元

又差引而

金拾老兩老歩二朱

錢七百八拾文

かし

権内殿分

已正月十二日

一、金五拾兩

内

藤四郎殿へ相渡ス

銀拾五匁九厘

此処へ

入金貳拾兩

為替金相渡ル

兵右衛門殿へ

金四拾五兩三步

銀拾五匁九厘

錢六百元

又差引而

金拾老兩老歩二朱

錢七百八拾文

かし

権内殿分

已正月十二日

一、金五拾兩

内

藤四郎殿へ相渡ス

銀拾五匁九厘

此処へ

入金貳拾兩

為替金相渡ル

兵右衛門殿へ

正月廿六日

金三拾兩

殘金貳拾兩

藤四郎ヲ以請取

不足

かし

辰年分三月勘定

一、入金拾兩三步

銀四匁六分三厘

京都紅花売勘定不足入

銀四拾三匁
錢五百文

一、入金五兩壹步

夏流代不足

かし

金拾六兩

銀四匁六分三厘

此永七匁七分

庄内紅花

一、入金廿八兩壹步仁朱

庄内紅花仕入金

巳四月三日

一、貳百文

旦那天神行相渡ス

八月四日

一、金廿兩

相渡

五月七日
一、金壹兩

あさ羽おり

差引而

銀五匁

残金八兩壹步仁朱

入

同日

一、銀貳五五分

同ひぼ

九月朔日

一、金五兩

除ク

流代相渡

三百文

金下賃

八月廿五日

一、金三步仁朱

唐紙代

六月廿二日

一、銀三拾五匁五分

白木綿五反

九月十八日

一、金壹兩と

青苧五メ五百三拾匁代

金壹兩仁朱

五百四拾文

十月廿日
一、銀八匁

葉荷物運賃

此永六拾三匁三分

銀六百六拾九文

かし

同
一、同三拾匁

青石運賃

入方

一、錢貳百五拾文

同酒田丁持

金五拾六匁

金六兩三步二朱

永拾匁四分六厘

銀三拾八匁

錢拾貳メ貳百四拾六文

錢七百九拾文

渡方

一、入金老歩

酒田出立之砌かり

金三拾七匁と

午正月書出表

永八拾六匁貳厘

一、入金五兩貳歩

辰年ノ午正月迄

錢老メ九百四拾九文

百廿文

水上諸懸物ノ高

差引而

金五兩三步

金拾八匁

百廿壹文

永貳拾四匁四分四厘

差引而

錢拾メ貳百九拾七分

金老兩二朱と

此金老兩貳歩

銀三拾八匁

永六匁老厘五

両替六六

合金拾九兩三步

永五匁四分五厘五

可相渡分

右之通御座候、若算用違も御座候ハ、追而被仰付可被下候、以上

文政五年

午閏正月

榎藤左衛門様

宇野与蔵

(裏表紙)

〔此差引ハ文政四年之大福帳ニ而引合有之候間、左様御承知可被成候儀兵衛、義蔵立会

宇野與蔵

午ノ正月迄勘定之内、不残相済、出入無之相極メ申候、以上
尚又未ノ五月十九日調査シ相済ス

一一 莊内紅花買帳 (横帳)

(表紙)

一 文政五年

小出新田村
宿治右衛門

莊内 紅花 買帳

午六月吉日

覚

一、式メ三百拾め

宿 治右衛門

一、九百め

長内

一、五百七拾匁

名右衛門

一、壹メ三拾匁

三右衛門

一、壹メ百め

惣右衛門

一、壹メ百六拾匁

清右衛門

一、壹メ百三拾匁

勘左衛門

一、式メ百貳拾匁

金助

一、七百め	喜右衛門	一、三百式拾匁	又吉
一、六百式拾匁	源八	一、八拾五匁	長七
一、八百七拾め	奥右衛門	一、八百匁	幸右衛門
一、百式拾匁	源八	一、八百匁	作兵衛
一、老×四百三拾匁	加右衛門	一、三百七拾匁	与七
一、老實九拾め	勘右衛門	一、式百式拾匁	留右衛門
一、老×三百匁	与次右衛門	一、式百五拾匁	喜代二
一、九百五拾め	又治郎	一、式百六拾め	治郎右衛門
一、七百式拾匁	与右衛門	一、三百七拾匁	喜惣兵衛
一、老×式百四拾め	又十郎	一、五百九拾匁	市郎兵衛
一、四百式拾匁	太郎右衛門	一、百三拾匁	源八
一、三百拾め	久左衛門	一、六百拾匁	治郎右衛門
一、五百四拾匁	弥右衛門	一、三拾匁	与治右衛門
一、四百六拾め	善右衛門	一、老×三百六拾匁	助五郎
一、三百六拾五匁		一、式拾匁	亦治郎
一、三百三拾匁	茂右衛門	惣ノ式拾八×八百三拾五匁	
一、四百め	同人	但拾老匁八分かへ	
一、五百匁	長七		

此代

式百四拾四メ三百六拾四文

兩替六メ八百五拾かへ

此金三拾五兩式步式朱

永四匁八分五厘

外二

一、金三百匁

惣右衛門

此代式メ五百四拾七文

此金壹歩卜拾式匁壹分

合式拾九メ百三拾五匁

代金三拾六兩卜

永四匁四分五厘

此錢三百五文

(貼紙)

寛

一、紅花式拾九メ百三拾五匁

代金三拾六兩永四匁四分五厘

但拾壹匁八分かへ

兩替六メ八百五十文

外二

一、四百五十文

七戸三枚、わら縄代

一、六百文

馬式疋賃

一、六百文

兩替損四回分

一、六百文

酒壹樽、小走江

一、壹メ三百文

宿踏立八人賄

一、永三拾六匁四分

取次

一、金式步

壹駄分口錢

小以メ永八拾六匁四分

錢メ三貫五百五十文

此永五拾式匁九分八厘

惣メ金三拾七兩

永四拾三匁八分三厘

内金三拾六兩壹歩 請取

指引

最上金壹兩五朱卜

錢七百廿八文

(後記)

「六月十九日

内金老歩与葦様を請取

六月廿六日

又老阿藤左衛門様を請取

おつり百七文

右之通ニ御座候、以上

午六月

成沢新左衛門

榎藤左衛門殿

宇野 与葦殿

一、老メ八百文

草六遣袋代

此永廿六匁四分六厘

一、金貳両

酒田大浪へ、跡かゝり

永廿八匁九分四厘

敦賀運賃

(貼紙)

酒田掛り物

一、紅矢庄内花

十六入 貳丸

十七入 貳丸

此袋數六拾袋也

此駄老駄三厘貳五

三拾兩替

一、金壹兩

御役上納

拾六匁老分六厘

一、同貳分

敦賀迄運賃

一、同貳分

買口錢

一、八百式拾文

丁持作り、繩むしろ

諸掛り

一、三拾六文

海船江積酒

手丁持蔵入ちん

錢ノ八百五拾六文

此永拾貳匁七分貳厘

ノ金貳両貳拾八匁九分四厘

一、六百文 あまるめり酒田迄

此永八匁六分四厘 うんちん

惣ノ金四拾兩

永七匁八分七厘

此造六拾六袋

六〇七式五三

六四

京着金四拾兩

永六匁四分貳厘

⊙⊙紅天印庄内 拾六入

四丸

貳袋

京都 伊勢屋理右衛門殿行

永六匁四分貳厘

貳つ割金廿兩 永三匁貳分壹厘

⊙分内 金拾八兩 請取

金壹分 清川成沢渡し

ノ

差引金壹兩三步 不足也

永三匁貳分壹厘

⊙分 金廿兩永三匁貳分六厘

跡買

一、七拾貳メ三拾匁

代金七拾五兩壹分

永四拾貳匁壹厘

一、金五兩 大沼平八殿諸か、り物

永七拾六匁貳分貳厘 敦賀包質等迄

一、金貳分 袋百五拾五包

金差引

一、四拾兩 紅天印

永拾五匁式分

糸代共

金八拾式匁

金四拾壹兩

永四匁式分式厘

永八匁四分三厘

此造百五拾五袋

五式九五八

六四京着

金三拾三兩三步

永拾四匁三分壹厘

◎⊕吉印庄内

拾九八

五丸

廿八 三丸

京 伊勢屋理右衛門殿行

右之通都合金庄内紅花代金之内、隨に受取申候、為念請
取如斯二御座候、以上

文政五年七月十七日

新町 藤左衛門

⊕

沢畑

与 藏 殿

金差引

覚

一、金八拾式兩

吉印

永八匁四分三厘

一、金貳拾兩也

右者庄内紅花代金之内、隨に請取申候、以上

高割壹人前

谷地

〔貼紙〕

覚

一、金貳十兩也

内金壹歩貳朱 目かる当

文政四年巳八月四日

榎藤左衛門

印

沢畑

宇野与蔵殿

右之所へ

七月十日

一、金廿兩

忠蔵殿相渡ス

七月十七日

一、金廿兩

政吉殿相渡ス

覚

一、金卷兩三分

紅天印不足

永三匁式分卷厘

一二 諸指引帳 (横帳)

一、金四拾卷兩

吉印代

永四匁式分式厘

(表紙)

一、文政六末五月方

榎藤左衛門

二口

×金四拾式兩三步

永七匁四分三厘

同 十一子五月迄

諸指引帳

右之通庄内紅花勘定高、如斯御座候、以上

榎 藤左衛門

覚

⊕方貸方

午七月二日

宇野与蔵殿

未五月十九日
一、金式兩式步

当座かし

同日
一、金貳步

同断

一、金四兩壹步貳朱

最上一印紅花代割

申七月十五日
一、金貳拾兩

同断

永六匁貳分五厘

山形状ちん取替

同八月廿四日
一、金五拾八兩

秋流物代

酉十二月廿一日
一、永廿四匁四分

当座かし

永拾四匁六分貳厘

同十二月廿三日
一、金貳兩

当座かし

同六月廿七日
一、金壹步

同断

戌六月四日
一、金拾三兩貳步貳朱

夏流物代

同六月四日
一、永壹匁

清水五右衛門無尽
伊兵衛方差引不足

同六月八日
一、金拾兩

当座かし

戌八月
一、金拾兩

直七方二而

同八月十二日
一、金拾兩

政吉殿江相渡し

干花壳代不足

戌八月十五日
一、金七拾五兩

秋流物代

亥八月
一、金六拾貳兩貳步

秋流物代

永四匁分壹厘

永拾匁四分貳厘

亥五月四日
一、金拾三兩

夏流物代

子正月
一、金拾九兩

亥年紅花壳代

永拾壹匁貳分五厘

永拾壹匁三分三厘

林兵衛差引残

同五月

同五月

一、金八両三步

夏流物代

永六分三厘

午年の冬年迄

一、三拾九メ式百式文

大福帳かし

荷物水上ちん

此金五両三步式朱

永六匁四分六厘

一、永拾八匁七分

むしろ代、代かし

亥六月

一、永五匁

半切紙代

金三百四拾八両式朱

永壹匁八厘

同廿四日

一、金式拾兩

流物代ニ請取

閏八月六日

一、金式拾兩

同断

同廿七日

一、金式拾壹兩壹歩式朱

金式百兩權内のかり

取金濟、利足取替

酉正月廿五日

一、金壹兩

未廣濟金之御取替

戊正月四日

一、金拾兩

流物代請取

同六月八日

一、金式兩

同断請取

永拾式匁

無尽出金不足

同六月十四日

一、金四兩

庄内紅花注文金受取

同九月七日

一、金式拾兩

流物代請取

同八月廿一日

一、金三拾兩

同断請取、青字代共

同八月六日

一、金拾兩

請取

此所江の請取方

兵太郎方江かし請取

同九月十九日

一、金式兩式歩

同断請取

戌十二月廿四日
一、金五兩貳朱

横山美五郎濟金取替

元金返済、リ足取替

亥七月六日
一、金貳拾兩

最上一印紅花

戌七月十八日分
一、金三拾兩

当座かり入

乗合金受取

金貳百八拾九兩三步貳朱

同八月七日
一、金拾兩

同断

永拾貳匁

同五月廿六日分
一、金六兩

流物代請取

同八月廿三日
一、金拾兩

同断請取

又(三)と請取分

亥八月廿四日
一、金拾兩

流物代請取

一、金貳步貳朱

白木綿六反代

同九月三日
一、金貳拾兩

同断請取

永貳匁五分

すげ笠貳つ代

同廿二日
一、金拾兩

同断請取

一、金貳步貳朱

権内方木の実代

同廿七日
一、金拾兩

同断請取

一、金貳步ト

ひしき竹代

子二月廿日
一、金壹兩

清川ニ而かり、信十郎分

永拾匁四分七厘

根上分取替

子五月廿六日
一、金六兩三步貳朱

戌十二月権内五五十兩かり

永貳匁五分

白木綿六反代

一、永拾五匁八分三厘

同壹反代

一、永三匁三厘

荷繩貳束代

一、永三拾貳匁五分

玉砂糖代

一、金壹兩貳步

◎印塩代清兵衛ち入ル

一、永拾四匁

中風薬運ちん取替

永四匁五分四厘

一、金貳步

梅花油代取替

一、金壹兩壹步

塩引三箇要助ち入

永拾匁

永六匁貳分四厘

一、金拾壹匁三分六厘

はね苧かしら結繩

一、金壹步

流物之内請取分

金八兩貳步

永拾匁三分

縞袴代

永四分壹厘

一、永拾四匁三分三厘

中風薬運ちん取替

一、永九匁五分八厘

右同断根上方取替

一、金五兩

戌年分紅花代

一、金壹步貳朱

戌年羽入紅花代

売支配料林兵衛渡ス

永四匁六分貳厘

差引過

外二

後

一、金壹步

◎印塩壹表代内遣

金貳兩八

市弥掛リ、伊勢利掛リ

永貳匁貳分七厘

花荷物大石田掛リ

一、金五兩

濟口林兵衛ニ礼金

一、永八匁四分三厘

砂糖生ろ五斤代

金拾貳兩

亥年分紅苧売支配料

一、永三拾三匁三分

砂糖生ろ五斤代

林兵衛ニ相渡ス

前

三口

〆金三百拾兩貳歩ト

永三匁六分

指引残而

金三拾七兩貳歩ト

不足

永九匁九分八厘

改メかし

右之通指引相違無御座候、若算用違等御座候ハ、重而

御指引可被下候、以上

文政十一子六月七日

榎 藤左衛門



宇野与蔵殿

前書

一、金三拾七兩貳歩

永九匁九分八厘

内

六月五日

金拾五兩

相渡し

八月

金三兩壹歩貳朱

●塩代金

〆金拾八兩壹歩貳朱

差引而

残金拾九兩貳朱

相渡し

文政十一子九月四日

相済

一三 紅花仕切

仕切

一、金百五兩

金七拾五兩替

拾八入

壹歩貳朱と

⑦野田

紅花

五丸

銀五匁六分貳厘

〆壹駄廿六袋

右之内

一、金壹兩貳歩

右金之内

銀四匁九分貳厘

壹歩半引

伊勢屋源助 ㊦

一、金壹歩と

嶋印御手板不足

宇野与蔵殿

銀拾貳匁七分七厘

ツルカ払

一、銀七匁貳分と

同 塩津

又七匁貳分

大津払

一、金貳歩と

野田印同

一四 紅花仕切

銀三匁七分六厘

敦賀払

一、銀拾匁と

同 塩津

仕切

又九匁

大津払

金貳兩壹歩と

十二月晦日切
一、金四拾一兩ト

金七拾三兩替
㊦吉田拾八入式丸

銀五拾四匁八分五厘

三匁七分五厘

差引残り

内金貳歩ト

歩引

金百貳兩壹歩と

六匁九分五厘

銀三匁貳分七厘

引而金四拾兩壹歩式朱ト
四匁三分

右之通り、相對を以買請、則代金差引残り此度相渡し、此

表無出入相済申候、万一抜袋違箇又者算違等有之候ハ、

重而差引可仕候、為後日仍而如件

内金壹歩式朱ト

壹ヶ月利足

壹匁七分貳厘

指引

嘉永四亥年十一月三十日

金四拾兩ト

式匁五分八厘

右之通、相對ヲ以亮渡代金、此度不殘相渡、此表無出入相濟申候、万一箇荷之内、抜管違花又者算用違等之義有之候ハ、重而御指引可仕候、為後日之仍而如件

嘉永四年

亥十一月廿日

最上屋喜八 ㊦

宇野 与 藏 殿

九分三厘

金壹歩ト

手板取かへ

拾九匁九分六厘

七匁三分

駄賃取かへ

ㄨ 壹兩貳歩ト

廿八匁九厘

指引

金八拾貳兩貳歩ト

九匁四分壹厘

一五 紅花仕切

仕切

一、金八拾四兩

七五がへ

壹歩貳朱也

㊦ 嶋印十八人 四丸

ㄨ 七十式

内 金壹兩壹歩

一半引

右之通、此表無出入相濟申候、万一箇荷之内抜袋違算等有之候ハ、重而御指引算用可致候、為後日依而如件

嘉永四年

美濃屋

亥十一月晦日

忠左衛門 ㊦

宇野 与 藏 殿

一六 紅花仕切

仕切

一、金百八兩壹歩ト

六十六兩替

壹匁八分七厘

⑤日の出十七入三九分

十八入三丸

一、金壹兩貳分ト

壹半歩引

七匁四分五厘

一、金壹兩ト

手板不足取かへ

三匁四分八厘

一、金壹兩ト

壹ケ月利足

三匁三分五厘

引

メ金百四兩貳分ト

貳匁五分九厘

右之通御相對ヲ以買請、書面之金高不殘相渡、此表出入

無相濟申候、万一箇荷物之内、拔袋違花濡痛有、算用違等茂有之候ハ、重而差引可被成候、其為紅花仕切状、仍而如件

嘉永四年

西村屋清九郎 ⑥

亥十一月晦日

宇野与藏 殿

一七 為登紅花覺

為登紅花

八十式

手さし

一、金五十六兩貳歩

雨緋仕入

永六匁

五丸

三つ

一、金貳兩

さし花三袋

八十一

一、金五拾三兩

雨光仕入

永拾五匁六分 勘七

七十五
一、金五拾貳兩貳步 雨揃仕入

永廿三匁四分 かにさわ

七十
一、金四十六兩 雨天仕入

永四十匁 田代賈

三百十一
一、金貳百拾兩

永八拾五匁

紅花引当
一、金拾三兩三步仁朱 林兵衛

永三匁五分

リ金壹兩永廿一匁七分

古手代
一、金五兩貳步 同人

一、金廿兩貳步仁朱

拾貳分

外二

金壹步入ル

紅花仕入引当
一、金三拾三兩貳步仁朱 九歳

永三匁七分

リ金三兩貳步

永三匁四分

一、金拾壹兩 同人

永九十七匁四分

一、金四拾七兩

永拾七匁

二口

一、金六拾八兩ト

永八匁五分

紅花引当

一、金三拾八兩

一、金貳百七拾兩

与右衛門

庄六

上方仕入

一、金貳百拾兩 紅花

永八拾六匁 三百拾壹匁

一、金廿兩三歩仁朱 林兵衛殿へ

一、金四拾七兩 九藏殿へ

永拾七匁

一、金三十八兩 与右衛門殿へ

一、金三歩 同人江

永貳匁六分

一、金貳百七拾四兩貳歩 庄六殿へ

永八匁三分四厘

一、金廿一兩壹分 半四郎殿へ

一、金廿四兩壹分 五右衛門殿へ

永廿一匁九分壹厘

一、金拾貳兩 卯蔵殿へ

中間仕入紅花

小以

金六百五拾兩也

上方請金払方

六月 一、金百兩 若喜殿と

此り金七兩也 下り金

同月 一、金拾兩 同人と

同月 一、金拾兩 勘助殿分

此り金七匁

六月 一、金百兩 伊勢理殿と

此り金七兩也

十月廿日 一、金百兩 村七殿と

同月 一、金百兩 此り金三兩

同日 一、金百兩 市弥殿と

九月中 一、金四兩貳分 大久保村

此り金三兩 宝鏡寺様と

リ金三兩 小泉村

九月十日 一、金貳歩 庄六殿と

一、金壹兩三分 谷沢

一、金壹兩三分

一、金壹兩三分

仁朱

長福寺様と

金四百七拾貳兩貳歩

永七匁五分

とら登
一、金壹歩

永昌寺様と

一、金拾六兩

小刀屋屈ケ金

卯吉様と入

大坂下り物残銀払方

一、金壹兩貳歩

岩木村

円藏殿と

一、銀九メ三百九十四匁

小橋屋様と入

八分九厘

永次郎殿

吉太郎殿

一、銀九拾壹匁

同人様と入

一、金壹兩壹歩

下敷

佐藏殿と

一、銀四メ百拾壹匁

永太様と入

三分七厘

一、金壹兩貳歩

水押太兵衛殿

銀拾三メ五百九拾七匁六分六厘

出銀

此金貳百廿六兩貳歩仁朱

一、金五兩

天神太右衛門殿

久藏殿

合金六百九拾九兩卜

永貳拾匁

一、金拾兩

小橋屋へ届ケ金

指引不足

勘助殿と入

金四拾九兩永貳拾目

かし方

一、金三兩仁朱

三吉殿へ

三百拾六文

一、金貳兩貳步

伝兵衛殿へ

一、金三歩

仁左衛門殿へ

一、金貳兩貳步

藤兵衛様へ

三メ七百六十式文

一、金壹兩仁朱

藤左衛門様へ

五拾壹文

一、金八兩壹步

又三郎様へ

一、金壹歩

重内殿へ

一、銀廿四匁四分

八助殿へ

ノ金拾九兩貳步

三百三拾文

一、金六兩壹分

村方取替

三メ七百八十八文

一、金壹兩壹分

南村方へ

一、金九兩壹歩

下郷取替

米四表

一、金壹兩三歩

上郷取替

式メ八百拾五文

一、金壹兩三分

向郷取替

小以

ノ金三拾九兩三歩

六メ九百三拾三文

米四表

左沢名右衛門方東根万次郎殿迄

一、金八拾八兩貳歩仁朱

商人衆中

五メ百廿四文

相滞之分

小泉重次郎と
六供与七迄

一、金三拾七兩

廿六人

貳歩仁朱

皆無日用もの

小以

ノ金百六拾六兩

七メ四百五拾七文

内金四拾九兩

右上方勘定

永貳拾匁

不足引

指引而

金百拾七兩

永八拾九匁六分六厘

一、米百拾三表

蔵入有米

代金廿貳兩貳步

永拾匁

一、白米拾八表

蔵入有米

代金三兩貳步

永拾匁

一、大豆九表

蔵入有物

代金壹兩下

永四拾匁七分

一、金貳百六兩壹分

手形

百廿四文

かし付

米五表

金壹兩

永貳匁

一、金五兩

白綿六拾反

一、金貳步

村上茶壹本

一、蔵米拾貳表半

升川

代金貳兩貳分

勘兵衛殿

一、金五兩

南繚有金

二月廿日と相渡し分

代金五百貳拾七兩三歩

一、金百五拾八兩

勘兵衛殿

永貳匁貳分六厘

御納米御書替買請代金

内預り

代金

金四兩

おきんと

金五兩

権三郎殿

金九兩引

残而金五百拾八兩三步

永式匁式分六厘

外二

一、粗入

壹箱

一、金貳兩

くつ糸有

一、金壹兩

木綿残り物品々

金五百貳拾壹兩三步

永式匁式分六厘

右之通相互勘定相調申上、如此ニ御座候、以上

文政三卯年方

辰三月改

一八 紅花目録

紅花目録

七月四日

◎

紅天 四丸 十六入

いせ理行

同

紅天 四丸 十八入 三卷

市弥行

同

雨天 四丸 十七入 三卷

山形や行

合

拾貳丸 松田喜八殿出

此懸り物

永三拾四匁六分四厘

運賃

永八匁四分六厘

水不足まし

永五目

蔵しき

永四拾八匁壹分

同

雨上 貳丸 十六入 三卷

平山喜七殿出

永四匁壹分五厘

御役永

錢拾文

出判料

永五匁七分四厘

運賃

永壹匁六分三厘

水不足まし

永八分三厘

藏しき

永拾貳匁三分五厘

時金

四丸 十八入

永いせ源行

錢拾文

合五丸

同 緋雨

四丸 十八入

御役

永いせり行

永拾壹匁四分

運賃

同 緋稀

八丸 十八入

永三匁八分三厘

水不足まし

永いせ理行

永貳匁八厘

藏しき

同 緋極

六丸 十八入

永三拾貳匁六分

永若喜行

七月廿二日

合拾八丸

同 稀天

五丸 十八入

永四拾匁七分五厘

御役

松田喜八殿出

永五拾六匁四分

運賃

永拾五匁六分七厘

運賃

永拾四匁八分七厘

水不足まし

永四匁八厘

水不足まし

藏しき

永七匁五分

七月十二日

倉

紅丸 十七入

永市弥行

永式匁八厘

藏敷

錢百廿五文

出御判差印付

天童へ飛脚ちん

永廿壹匁八分三厘

錢百廿五文

荷数ノ四拾式丸

懸り物ノ永式百三拾四匁四分

此金貳兩壹歩下

永九匁四分

錢百三拾五文

右之通御座候、若算違御座候ハ、追而被仰聞可被下候、

以上

富樫久兵衛 印

丑十月十四日

宇野與藏殿

右之所へ

十一月十九日

弥吉受取

金貳兩壹分

七十六文

与藏殿

一九 輕荷目録

輕荷目録

三月廿九日

木綿式箇

根上出陸附分

式百九拾六匁

酒田と添錢不足差盛

六百文

当所と先添錢

銀老匁

藏敷

同日

同 木綿老箇

御内出

伊藤幸右衛門殿行

三百文 舟形迄駄ちん差盛方

銀壹匁 蔵しき

一、錢五拾貳メ五百文

松屋茂三郎殿方

此私

五拾メ文 舟頭与惣兵衛舟為登分

六拾文 尾花沢ち当所へ駄ちん

貳百文 上郷迄運賃

貳百文 貴家様迄送りちん舟頭へ相私

百文 世話料

〆五拾貫五百六拾文

残卷〆九百四拾文 預り置ク

懸り物〆丁銀貳匁五分

此錢三百文

錢壹メ八百四文

合テ貳メ百四文

差引

錢百六拾四文 不足かし

外二

金貳兩壹分 紅花懸リ〆

永九匁四分

錢百三拾五文

右之通御座候、以上

丑十月十四日 富樫久兵衛

宇野与蔵殿

二〇 書簡(代金渡方依頼)

一筆啓上仕候、寒冷相成候得共、御家内様御揃弥御勇健被遊御座、珍重御義奉存候、此方無異罷在申候、乍憚御安意可被成下候、隨而此度御荷物目方、別紙之通認差上ケ申候、御引合可被成下候、毎度不相替御用向被仰付、千万忝仕合奉存候、右懸りもの金貳兩壹分仁朱と、錢七

拾六文此者へ、無御氣遣御渡被下候様奉頼上候、先者御
礼旁如此御座候、恐惶謹言

丑十月十四日

富樫久兵衛 印

宇野 与 蔵 様

同 忠 蔵 様

二三 覚 (紅花代金受取書)

覚

一、金貳拾貳兩壹歩貳朱

⑤ 紅花代

右之通り、忠蔵殿より髓ニ受取申上候、為念如斯ニ御座
候、以上

寅四月十六日

榎 兵太郎 印

二二 覚 (受取書)

覚

一、金三拾七兩

右者請取金之内、髓ニ受取申候、為念如此御座候、以上

さかへ

丑霜月五日

又三郎 印

沢畑

与 蔵 殿

二三 覚 (紅花代金受取書)

覚

一、金拾八兩也

卯十月廿三日

島屋

右者紅花代金之内、髓受取申候、為念之如此ニ御座候、

佐右衛門 ㊦

以上

宇野 與 蔵 様

卯

寒河江

九月十七日

安達又三郎 ㊦

沢畑

宇野 与 蔵 殿

二五 覚 (送り金預り証)

覚

一、金五兩也 但し小判金也

二四 覚 (駄賃受取書)

右者越中高岡塩屋半四郎殿より送り金、髓ニ預り申所実
正ニ御座候、為後念依而如件

覚

辰ノ

山形四日町

一、金考分式朱卜

村山屋七兵衛殿と
金百兩也
市村屋弥三郎殿と
金百兩也

四月卅日

大瀧市之丞

三百文

沢畑

ㄨ

宇野 与 蔵 様

ㄨ式口之御届ちん

御使衆中

右之通髓ニ受取申上候、已上

二六 覚 (駄賃受取書)

覚

一、式朱ト いせや理右衛門殿

三百文 金百両入

式丸

右之通髓受取申候、以上

辰六月十四日 嶋屋佐右衛門

印

宇野 與 蔵 様

右の通此ものへ御氣遣なく、御渡し被下度、偏ニ御頼申上候、為念之如此御座候、以上

辰六月十七日

宇野 与 蔵 殿

山口屋勘兵衛 印

二八 紅花代金を替証文

荷物為替証文之事

舍

●玉紅印紅花 拾八袋入 六丸

此内差花六袋有り

此引当金四拾五両也 但文字金二而

右之荷物京都近江や佐助殿江向為差登、書面之金を引当金、髓ニ請取申所実正也、然ル上ハ、右荷物貴殿の方ニ而売方御支配可被下候、当十一月限り右老払代金之内也、

二七 覚 (駄賃渡方願)

覚

一、金老歩ト 江戸

三百文 金百兩之駄賃

御引取可被下候、若限月壳延引ニ相成候ハ、壬十一月

巳利足相加可申候、為其荷為替約定証文、依而如件

辰九月

谷地内楯

大場三吉

印

宇野与蔵殿

同 政吉殿

沢畑村

宇野与蔵殿

二藤部兵太郎

三〇 書簡 (為登金外諸連絡)

(封書上書)

小橋屋

四郎右衛門

二九 覚 (紅花役永外預証)

覚

一、金三分

紅花九丸御役永之内

一、金壹両

同運賃金之内

舟頭藤蔵へ可相渡分

右之通髓預申候、以上

未七月十一日

大石田

羽州最上沢畑

宇野与蔵様方江

急要用

一筆啓上仕候、春寒に御座候所、御全家様御揃益御壮栄可被遊御座、珍重之御義ニ奉存候、随而当方無異儀罷在候、乍憚御安慮可被下候、然り、下店佐竹惣七、去冬中

推參仕候所、不相變御懇情御添心被成下、忝御段御札奉

申上候、主人共会津表へ再度出張仕候二付、未夕榻坂不

仕候、乍去無程無事帰店可仕候へハ、乍憚御安慮可被成

下候、然者旧年中差引候所へ、為御登金桜井源兵衛殿と

御渡も可被下候所、為登紅花荷不捌ケ、旁御渡し方延引

二相成候条、右御同人様と御断り御座候、旧冬中ハ最上

紅花御仕入御方々御一統、御同前御困りに御座候、乍去

追々御片付二可相成候半と奉存候、左候へハ、追々御入

金二可相成候半と、折角相待罷在候

一番渡し之義も旧冬と諸色不捌ケ故哉、何品となく下落

仕候、操綿杯存外之大高下ニ御座候、追々諸品下直ニ出

来可申候半と、相樂ミ罷在候、古手義も元来品不足ニ御

座候間、引下ケ兼候へとも、諸色ニ連レ次第第二下直ニ可

相成哉と奉存候、尚又、当年之所御堅考不相變、御用向

被仰聞可被下候、当年八年号も相變、世上も立直り可申

候半と、相樂ミ罷在候、追々御賑々敷御取引可被遊候半

と、御互ニ目出度奉存候、先ハ右而得貴意如此御座候、

恐惶謹言

正月廿四日

小橋屋

四郎右衛門

印

五兵衛

十兵衛

宇野与蔵様

政吉様

三 覚 (紅花指引殘金受取書)

覚

一、金三拾九兩貳歩貳朱

紅花指引殘金受取

右之通髓ニ請取申候、以上

四月十六日

不店

銀蔵

印

宇野忠蔵殿

三二 覚（紅花代金受取書）

七月十四日

大久保

外塚 藤助 ㊦

同 弥惣治

覚

沢畑

一、金七拾兩

宇野与藏殿

右之通ニ紅花代金、慥ニ請取申候、為念之如此ニ御座候、以上

六月十二日

山のへ

心川儀四郎 ㊦

三四 書簡（送金等諸連絡）

安達 又三郎 殿

三三 覚（受取書）

一筆啓上仕候、先以残暑之節、御家内様御揃益御壯健ニ可被遊御座奉賀候、隨而当方無異罷在候、乍憚貴意思召可被下候

覚

一、貴地五月廿三日、六月十三日兩度御書状、順達忝拝

一、金六拾兩也

見仕候、早速御報可申上候所、彼是取紛御無沙汰仕候、御免可被下候

右之通、御使三吉殿方慥ニ請取申候、為念仍而如件

一、㊦御印差引残金一入手被下、御達し被下候由、忝奉

存候

一、六月朔日出ヲ以、御逗留中被仰出候新花、前引当金百両にて田屋飛脚指下し申上候、着ハ入手可被下奉存候

一、輕部氏御組合之御荷物殘金之義被仰下、承知仕候、右者則戌ノ年加印紅花壹駄、穴印紅花壹駄御指向被下候処、引当金加御印之分へ三拾兩、飛脚便にて指下し申上候、其後御両名ニ而金五拾兩、佐治吉左エ門殿江為替被仰下候処、右金高過分ニ有之候間、内金三拾兩相渡し置申候、依之貳拾兩残りニ相成有之候、尚又去年御指向被下候加印ニ而、輕部氏八矢四兵衛様御組合之分、引当之三拾五兩、佐治吉左衛門殿へ為替ニ御取組被成候、右金高も過分ニ御座候ニ付、内金貳拾五兩相渡し置申候、是も拾兩殘金有之候、都合三拾兩為替金不足ニ相成御座候間、右之通取計仕候間、御三人様へ宜鋪御申達し可被下奉頼上候、尤右ノ兩様為替御取組被成候節、御借書之壳代金ニ而為替残り金、相渡し可申趣申上置候、左様思召可被下候

一、当所紅花之儀、いまた殘暑強旁相始り不申候、早庭

水戸追々当着仕候得とも、右之仕合故へ、試ミ商内は無之候、出来方之儀、定而御承知と可有之候得者、早場上物之向、昨年よりお登り申候、其代リニ下方者去年程ニも有之間鋪と奉存候、水戸者一流ニ不宜相見得申候、扱御地新花町蔵漸く昨日入舟仕候間、当着披見いたし候、左候処、去年之代呂ものよりはあしく六ヶ鋪被存候、何れ多少氣配立直り、取引相成候様希居候、尚相始り候ハ、様子合追々可申上候、先者右之段申上度、如此御座候、恐惶謹言

伊勢屋理右衛門 ㊦

八月四日

和七

嘉七

兵七

宇野 与 蔵 様

忠 蔵 様

三五 覚 (千花代金請取書)

覚

七月
一、金五拾兩 千花代

此利金壹兩

内

九月廿二日

金拾兩

弥惣治

同月廿六日

金廿兩

をつか

金廿兩

三吉

金五拾壹兩

右之通請取相濟申候

十月七日

大久保

外塚 藤助



沢畑

宇野 与 蔵 殿

三六 覚 (紅花代金請取書)

覚

一、金三拾五兩

紅花代

右之通、京都村山屋半四郎殿より下金、随二請取、為念仍
而如件

十一月晦日

外塚藤助



宇野 与 蔵 殿

三七 書簡 (紅花不捌困惑之事)

追 啓

然り、十一月限り為御登金貳百八十三兩金、桜井源兵衛
様より受取被申様被仰聞、御同人様へ御引合申上候所、紅
花不捌にて、十二月卅日迄延引致呉可申、日延事御座候

所、又今日桜井様方紅花不捌ケニ付、実ハ国元へ尋御遣

し御座候、国元方案内無之、内々支配之事故、売払候事

も相成不申、当卅日金子相渡不申候而、下拙義も大二義

理相立不申、甚心配仕居申候、且又下拙義、金子ニ而も

相廻り候ハ、ふり替御渡し可上候得とも、下拙義紅花

も不捌、ケ様ノ振替之義も相成兼、何共申訳無之候へと

も、春の事とあきらめ可被下候、迺も当卅日二者出来候

当而も無之候間、不悪御承引可被下旨申参り、誠ニ大二

心配仕候、下店ニ而ハ七月限り取引、冬迄ニ入銀ニ相成

候へハ、主人方へ申訳相成候へ共、冬中皆済不相成、来

正月の新帳之掛銀付出しニ相成候而、主人共思惑も不直

候、紅花不捌ケ共無扱候へ共、種々工夫を以御取引仕候

処、初取引より後勿々出来候而、跡は何とも入り入候御

事に御座候、何分御堅考御含可被下候、先ハ右而得貴意

度早々頓首

十兵衛

卯野要蔵様

政吉様

三八 紅花売勘定覚 (横帳)

(表紙)

寅年分

「久印紅花売勘定

覚

若喜殿方

一、金廿七両貳歩

「十四丸

近佐殿方

一、金貳一両貳分貳朱

「四丸

銀四匁壹分九厘

十二月十四日

四郎右衛門

五兵衛

小橋屋

同家方

一、金拾九兩卜 一、 貳丸

銀三匁四分五厘

山茂殿方

一、金四拾四兩 一、 四丸

三匁三分

市弥殿方

一、金拾兩仁朱 一、 貳丸

六匁壹分六厘

若喜殿方

一、金四拾四兩貳分仁朱 一、 四丸

五匁八分壹厘

一、金四拾五兩三步仁朱 一、 印仙台

永拾匁九分九厘

此銀六匁五分九厘

一、金百六拾九兩 一、 印仙台

永四拾貳匁三分五厘

此銀廿五匁四分壹厘

一、金三拾四兩壹步 一、 印青芋

銀六匁五分貳厘 三駄

此永拾匁貳分五厘

外二

一、金貳朱卜 一、 印青芋

永四匁六分壹厘 新金田實分

此銀貳匁七分六厘

小以

一、金四百拾七兩壹步

永拾九匁六分七厘

内引

若喜殿方へ

一、金百兩 一、 印分

銀壹匁五分

此永貳匁五分

一、金七兩 右利足

一、銀拾四匁八分貳厘 下しちん

此永貳拾四匁七分

一、銀九匁三分六厘 仁朱打金

此永拾五匁六分

伊勢理殿方へ

此所へ

一、金百八拾兩

御直相渡ス

一、金百兩

忠藏ヲ以相渡ス

一、金拾三兩

〔匁〕印壳不足金

又指引而

銀四匁貳分貳厘

返ル

金拾六兩貳朱

此永七匁三厘

永壹匁四分八厘

一、金壹歩

板屋幸次郎船

雜永入用

一、金貳歩

青芋たちん

寅四月三日勘定調

永五匁八分六厘 敦賀塩津大津

一、金七兩三步仁朱

丑紅花勘定不足

ノ金百貳拾兩三步

永貳匁三分八厘

永五拾五匁六分九厘

一、金壹兩貳歩

㊦受取

此金貳歩五匁六分九厘

永九匁七分五厘

可相渡ス分

合金百貳拾壹兩壹歩ト

一、永八百匁三分三厘

半助掛手板

五匁六分九厘

一、永五匁

しい竹

指引而

一、金貳歩

廿兩之利足

金貳百九拾五兩三步壹歩マツ

一、金貳兩三步仁朱

仙台紅花指引不足

永拾三匁九分八厘

永貳匁三分九厘

八月廿五日

一、金百五拾兩

手形かり

此金七匁貳歩

一、金三歩

ゆみつる十本

永八匁三分三厘

一、金貳歩

きせる

永六匁六分六厘

〆金百七拾壹兩貳歩

永五拾七匁八分四厘

此所へ

一、金廿八兩三歩

〆印青苧三駄分

永貳匁七分三厘

九月三日

一、金五拾兩

上金

此り金壹兩三歩仁朱

十一月二日

一、金五拾兩

上金

三月七日

一、金三拾兩

上金

一、金三歩仁朱

貳百八十兩之

永壹匁六分五厘

下しちんわり

一、金貳歩

麦負代

一、金壹兩ト

京〆福嶋迄下しちん

永四拾四匁六分六厘

若喜殿へ

〆金百六拾三兩壹歩仁朱

永九拾五匁六分

此金三歩仁朱

八匁壹分

合金百六拾四兩壹歩

永八匁壹分

指引而不足

金七兩貳歩仁朱

永拾貳匁貳分四厘

内

金壹兩壹分仁朱

永六匁三分三厘

右青等代共八兩引

又指引残

金六兩壹分

永五匁九分壹厘

詰金貳兩壹分四朱

錢七拾六文也

三九 差引覺

さし引覺

金貳兩壹分

永九匁六分

此錢六百七十七文

錢百三十五文

錢百六拾四文

金貳兩壹分

九百七拾六文

此貳朱七拾六文

紅花方

輕荷方

四〇 紅花買・荷造控（横帳）

〔表紙〕

〔紅花買口・荷造控〕

〔匁様方〕

一、入金百拾五兩

中村様方

一、入金貳兩壹分

又右衛門江濟金

一、入金拾八兩壹分

小太郎方

永三匁

一 入金四兩仁朱卜 同人

六百四拾五文

此永九匁三分七厘五

貳十貳兩

永四十九匁八分七厘五

一、入金巻分

指引過受取

永巻分式厘五

七月廿八日、九月廿八日[㊦]にて
合金百四拾兩かり

此分相済

外二

一、金式分仁朱ト 数百四十一袋代

百廿式文 袋百拾式代

又入替袋

一、

一、式メ八百文 造り諸掛物

一、式メ四十七文六厘 大石田迄たちん

巻メ七百廿五文 御役永

一、四百八十文 日用小遣

メ 七メ五十式文

此外巻分式百七斤程

都合金巻両式分仁朱

式百四十四文

大石田迄

外二大石田払有之

残り物

一、百拾匁 残花

代

一、 千同

代

メ

買口

四十式両かへ
一、巻駄六袋 又次郎

代金四拾五兩

永九拾三匁七分

六十八袋

金四十四両式分式朱

四十式両かへ
一、巻駄ト拾四袋 又右衛門

代金五拾壹兩

七十六袋

代金四十九兩三分貳朱

一、七メ匁

代金八兩三分

留場

一、貳分五厘

代金九兩壹分

金谷原

一、六分三厘

代金貳拾八兩三分仁朱

九郎兵衛

一、貳メ八百匁

代金三兩三分

山寺

一、五分五厘

代金貳拾三兩

小太郎

代金百七拾兩下

永七拾四匁九分五厘

貳百廿匁入

又二郎

三百匁入

又右衛門

外二十四匁

又右衛門分入

貳百十匁

又二郎分入

壹分百文

同分

内

一、金七拾八兩

中村江相濟

永廿一匁七分五厘

小太郎分

一、金貳拾貳兩

一匁へ相濟分

永四十九匁八分七厘五

一、金三拾五兩

吉次郎殿へ

相渡ス分

一、金四兩

同人私

又右衛門殿江相渡ス

残花百拾文

又二郎二有

小以

代金百三拾九兩下

永七拾壹匁六分貳厘五

指引而

金三拾三兩卜

永三匁三分壹厘五

此造り

又三郎 中下 村山屋十二郎殿

三 紅又 六十八 十八入 四丸

代金

又右衛門 中上 同人行

同 雨又 七十式 十八入 四丸

内四袋又紅花造入拵

九郎兵衛、小太郎

同 雨 上々 村山屋半四郎行

十八入 四丸

留場、金谷原買合

同 紅雨 中 同人行

廿入 貳丸

四一 上方仕入紅花

上方仕入紅花

六百四拾四袋代

一、金四百五拾八兩壹分

永壹匁

外二

一、金五拾八兩

中間仕入

永拾七匁

金五百拾六兩

仕入

永四拾三匁

同

六百四十四袋代

一、金四百廿八兩

永拾五匁六分九厘

一、金五十八兩

中間仕入

永拾七匁

銀四百八十六兩

銀四匁五分

永三拾貳匁六分九厘

一、百四十八兩三分仁朱 若喜殿

此売金

三十八匁五分

一、金五百拾八兩壹分仁朱

一、四十七兩貳步 永太殿

銀十六匁貳分貳厘

三匁

一、百三十貳兩壹分仁朱 小橋四郎殿

一、金六十六兩三步

三匁

永十九匁九分

一、百六十兩 同人江

合金五百八拾五兩貳步

一、三步 近安殿

永九匁四分三厘

四匁六分

残而九十九兩三分

一、三步 兩所へ

残

一、貳步 柴田屋

金五百八十五兩貳步

一、十四兩 小刀屋

永九匁四分四厘

一、三兩 古長殿

外二廿七兩壹分 五右衛門方

一、壹兩 竹田殿

一、五十兩貳步 高野山

此 払

銀六百七拾兩壹分仁朱

一、百十兩壹分

いせり殿

永貳匁八分

残而金五十七兩貳分

永八匁六分

四二 覚 (紅花代金受取)

覚

⊕鳳凰

老

↗ 一匁大雨

老

右之通髓ニ受取申候、

高蔵屋

子十月十五日

弥兵衛

⊕

宇野興蔵様

四三 覚 (紅花荷造)

覚

柳

兪

七夕ムク

百廿四把入
拾四丸

月

同

七夕ムク

百廿四把入
拾丸

↗ 拾貳駄

右之通荷造仕候、以上

寅

沢畑

九月十三日

与蔵

兪 御印様

四四 書簡(紅花取引之事)

追啓上仕候、然者旧冬勝手向御越被申等、御都合よく御啓納可被遊御迎來御仕、珍重御儀奉存候、当方義御預り上ハ、相応相仕舞越年仕候、乍憚責意易思召可被下候、去年中ハ紅花御荷物御差送被下、其方忝奉存候、尚又當年も不相替御積送可被下候願上候

一、今印紅花御為差下、覚切うり払申上候間、御承知可被下奉存候、右仕切御為差上候、御護手可被下奉存候
 一、吉雨印儀、先状申上候通、見合居候間、 \times 後ニハ追々商内も相始候得者、其節うり払可申上候、左様思召可被下候

一、伊勢利殿渡し金儀、追々申上候通御承知可被下奉存候

一、前書紅花代金、追々申上候通、榎藤殿へ為替ニ仕候間、御同人方御請取可被下候

一、当地米之儀、旧冬之内御中より引合、本紙通取引仕候、

此後諸方様子出捌方持様而、高下可仕と奉存候、大豆入用ニ相捌申候、小豆不追御座候、菜種荏草ハ入用相望申候、其外相替儀無御座候、御考弁御懸引可被遊候、御引合品々御多分御積送可被下候、奉願上先ハ右之段申上度御願候、御礼旁如此御座候、尚永日追々可申上候、以上

肥前屋

正月四日

武兵衛

印

宇野与藏様

御中

四五 書簡(紅花相場)

追啓申上候、旧冬当地紅花様子承知被下、縮緬緋類直段高直、紅屋衆不引合之趣ニ而つくし方無數、依之宜敷相庭何れも下落、貴地とは不釣、御金有増相庭右ニ

奥仙 上四十八九兩

南部 中四十貳兩

下三十七八兩

南仙 上六十七八兩

中六十貳兩

下五十八兩

最上 上四十八兩

中四十貳兩

下卅八兩

上七十兩

水戸 中六十四兩

下五十貳三兩

上総 上六十五兩

中五十八兩

下五十兩

下度奉願上候、已上

正月五日

越後や 新七

四六 諸相場

相場

一、金

一、銭

一、[㊦]大入江戸向

五×二百目

一、[㊦]大入同

五×八百目

一、[㊦]大入北目向

五×三百目

一、[㊦]丹州同

五×七百目

一、[㊦]大入同

五×八百五拾目

一、[㊦]大入同

五×九百五拾目

一、西国錦六×目入

百拾貳匁

右之通御座候、仙台御荷物大延着二而、不捌分残花六百五十駄余、例年ニは余分、何卒早春と追々相捌キ、御都合能御引合候処奉願候、尚又不相変御出荷支配被仰付被

一、新篠卷 三貫八百目

一、肥後米 五拾九匁二分

一、筑前米 五拾七匁六分

一、加賀米 四拾八匁二分

一、南部大豆 三拾五匁

一、岡大豆 五拾壹匁

一、水油 二百二十四五匁

一、会津蠟一斤 二匁五分

一、佐らし蠟 一匁三分九厘

大阪

小橋屋店

相場

最上 上々 四拾四五兩

中 三拾七八兩

下 三拾貳三兩

南仙 極上々 品拂応之

中 四拾貳三兩

下 三拾七八兩

四拾兩迄

奥仙 上々 品拂応之

南部 中 四拾貳三兩

郡山 下 三拾五七兩

庄内 上々 四拾三五兩

下 三拾八九兩

武州 中 卅壹貳兩

古河 上々 貳拾三五兩

水戸 極上々 品拂応之

下 四拾兩前後

中 三拾五六兩

下 五拾兩位

下 四拾三五兩

下 三拾七八兩

残花 凡四百駄程
右之通御坐候、以上
治兵衛

正月五日

新五郎

増井新六郎

四七 書簡(紅花相場)

追啓上仕候、然者旧冬□□□□思召之儘ニ御都合克御□

□舞可被御座、目出度□□奉存候

一、当所紅花相庭之儀、□夏諸方新花古来□□駄不足ニ

付、目覚敷直段ニ引立、御荷主様御一統御利運ニ相成、

大悦至極奉存候、乍併当所紅花衆、存外不引合、旁以

勝手之三部一ならて潰方出来不申、依而際商内淋敷御

仕舞□□、乍去右多登高御座候故、越年残花凡四百五

拾駄位と相見得申候、未夕早春之儀故、商内相始り不

申候得とも、来月ニも相成候ハハ、一花気配克相捌可

申候哉と奉存候、旧冬太略直段則左ニ

最上 上々 七拾兩

中 五拾八兩

下 五拾兩

南仙 上々 八拾兩

中 七拾兩

下 六拾四兩

奥仙 上々 六拾四兩

中 五拾七兩

下 五拾兩

庄内 上々 五拾五兩

中 五拾兩

下 四拾七兩

郡山 上々 六拾五兩

中 五拾五兩

下 五拾兩

武州 上々 七拾五兩

中 六拾五兩

下 五拾兩

水戸 上々 八拾兩

中 七拾兩

下 六拾兩

右之通ニ御座候間、御勘考可被下候、何卒御仕入御荷物等、不相変私宅へ御出荷被成下候様、奉願上候、壳庭之義無油断相働キ、早々御吉左右可奉申上候、先者右年頭添状旁申上度、如斯御座候、恐惶謹言

吉文字屋

彦市義助 ㊦

正月五日

榎 藤左衛門様

御店家中様

四八 書簡(紅花等取引之事)

追啓申上候、旧冬者方端御都合克御取納被遊候半と、目

出度奉存候、隨而當方御蔭ヲ以、相応ニ取仕舞仕候間、乍憚御安意可被下候

一、旧獵三日御出し貴礼相達し、忝拜見仕候、且又其御林兵衛様行御状卷通入成、為御登被遊、早速相届ケ申候間、此段宜御承引可被下候、尚又御同人様御儀も、

此節者播州表へ御下向被遊候間、定而近々二者御機嫌克御帰京可被遊候半、此段御安意可被下候、

一、御印御荷物之儀も、旧冬中二者大体御片付ケ被遊様御座候へ者、定而林兵衛様も可被仰上、宜御承引可被下候

一、爰元紅花之様子者、乍略儀年始状裏書ヲ以申上候間、宜御披見御承知可被下候、先者右之段申上度如此二御座候、以上

正月五日

若山屋喜右エ門 ㊦

宇野与蔵様

忠蔵様

貴下

四九 書簡（紅花相場等之事）

成可申と、乍憚奉存候、猶相替義者追便可申上候、先
者御年始御祝詞添状、旁如此御座候、恐惶謹言

近江屋佐助

正月五日

清介

伊助

一筆啓上仕候、先以来余寒強御座候得共、其御地御家内
様御揃益御勇健ニ可被成御座、珍重之御義奉存候、随テ

宇野 与蔵様

当方無意義罷在候、乍憚御休意思召可被下候、然者旧冬

忠蔵様

御商内諸事万端、御都合能御取仕舞被遊候半、大悦奉存

御家内中様

候、下拙方御かけヲ以相応仕舞仕候、乍憚御休意可被下

候

一、昨年者不相替御差荷被成下候、林兵衛様方御承合被

成下、忝猶当年も不相替御取引之程奉希上候、当地相

五〇 書簡（紅花取引之事）

庭之義、追々御承知被成下候半、誠案外之下落相庭ニ

而、御荷主様御一統御損金相成候、氣之毒仕候、則旧

追而啓上仕候、然者旧冬万端思召之儘、御都合能御取調

冬押詰取引相庭平積状浦書ヲ以申上候、御護可被下候、

可被遊、目出度御儀奉存候、随而当方以御蔭取仕舞仕候、

存外之成行ニ乍不捌ケ、旁殘荷多相残り当惑仕候、当

乍憚御休意被思召可被下候

春者一花引メ取引仕度奉願居候、且亦林兵衛様御都合

一、爰元紅花相之儀、去ル夏以来段々不氣配之所、早庭

能、あらあら御仕舞被遊候得者、無程当地御出立ニ相

水戸近来珍數駄数出来、新花登り込候所、目先キ荷物

夥敷相上り申候へ共、其後奥羽欠作之段、追々相聞江

申候ニ付、立而一花引立可候哉与相楽罷在候処、元来

当地紅屋衆不氣配之上、江戸表諸店向仕入染地無数、

諸国仕入等も是順し、紅染屋引合、旁以次第二下落仕

候、旧冬押詰際、商内も甚淋敷相仕舞申候、依之越年

残花も凡千駄計ニも相見江申候、未早春之儀故、商内

相始り不申候得とも、来月ニも相成候へハ、一花引立

取引相始り可申候哉と奉存候、尚又当新花御仕入御荷

物、不相交下店方江多分御出荷被仰付、可被下候様、

偏ニ奉御願申上候、尤売込之儀抽而相働キ早々御□□

□可申上候、先者右之段御願奉申上度、年始添書旁如

此御座候、尚書余永日緩々可奉申上候、恐惶謹言

吉文字屋

正月五日

彦市

儀助 ㊦

忠助

宇野与蔵様

忠蔵様

店人中

五一 書簡 (紅花取引之事)

——(前欠)——

望人無之所、無扱引下ケ売買相成、御一統様不軽御損失

出来、何とも氣の毒ニ奉存候、兎角地庭奈印珍敷荷捌薄

く、多分之出替ニも無之、荷物残花近年無御座、多分是

ニ而先人氣立不申、其上染方等も仕入向三ヶ一位と申唱

候、此様子ニ而者紅花商内、思案ものに御座候、御勘考

可被下候、御互ニケ様之成行ニ而者、当方商売ニ不相成、

宜御工夫御教示可被成下候、奉願上候、何卒当春順克商

内成候様希居候而、相替儀候ハ、早速可申上候、先者

右之段申上度如此御座候、恐々謹言

正月五日

伊勢屋理右工門

兵七 ㊦

宇野与蔵様

五二 書簡(諸相場之事)

一筆啓上仕候、未春□□□御家内様御勝弥勇健□□弥
重奉存候、当方無□□貴意易思召可下候、然者当□□御
用向被仰付被下度奉願上候、当地米之義先状後有米沢山
□旁緩ニ右之通取引仕、此後諸次に出揃方二而高下可仕
候、大豆□入用□相揃申小豆不進之□□荏原駢と相届申
相替無御座候、何相庭

- 一、筑前米 六拾七匁
- 一、同 古米 六十三匁
- 一、肥後米 七拾匁
- 一、同 古米 六十七匁三分
- 一、中国米 五十七匁
- 一、広嶋米 六十四匁三分

- 一、肥前米 六十三匁四分
- 一、加州米 五十八匁
- 一、岡大豆 五拾六匁
- 一、筑前米 六十七匁式分
- 一、庄内米 □□□□
- 一、同大豆 □□□□
- 一、同小麦 三十八九匁
- 一、同菜種 七十三四匁
- 一、最上大豆 四十式三匁
- 一、同 小豆 四十匁
- 一、同 荏草 七十三四匁
- 一、金錢 六十六匁三文
- 九匁壹分

右之通御座候、御勘弁御引合品多少御積送り可被下奉頼
候、先左様残事度如期御座候、恐惶謹言

二月五日

肥前屋武兵衛

宇野興蔵様

御中

五三 書簡(紅花相場之事)

(端書) 田宮五郎右工門様

一筆啓上仕候、薄暑ニ御座候所、先以貴御地弥御勇健ニ可被遊御座、珍重奉賀候、然者貴地紅花時附草生之義、是迄順雨追々見事ニ出来可仕と奉察候

当地紅花取引之義、春□□□其上金相庭不同、諸仕入物弥々払底ニ御座候間、斤掛と紅屋衆染職等無數、先々直段と不引合趣、依之去冬も相庭追々下落、當時取引相庭有増も二

中廿兩

庄内 下廿四五兩
貳拾兩

土総 上四拾三兩
中三拾八兩

下三拾貳兩

水戸 上卅七兩
中卅貳兩

下廿八兩

右之通ニ御座候へ共、何分取引無數ニ御座候、去冬と八五兩方下落、貴地之思召とハ不釣り合ニ御座候間、能々御深考之上、当新花御仕入可被遊候、為之御買入にてハ亦々御損金物乍憚御賢慮を以様々利口御買口可被遊、不相替御出荷支配被仰付被下度奉願上候、先ハ右得貴意様子為御知、御願旁々如此ニ御座候、恐惶謹言

四月廿二日 越後や 新七 ㊦

田宮五郎右衛門様

上四拾兩

南仙 中三拾五兩

下三拾兩

南仙 上四拾五兩

中四拾兩

下三拾五兩

最上 上三拾五兩

御店家中様 貴下

五月十七日

伊勢屋理右工門 ⑩

利七

兵七

宇野与蔵様

忠蔵様

五四 書簡(紅花取引之事)

追啓

其後御無沙汰御免可被下候、扨早春者御着状被下、忝
拝見仕候、且又芦野又作殿一件之儀、其後追々御掛合被
遊候而、無滞御入手可被成候義と奉存候、乍併、昨年方
之御引合候事ニ御座候故 奉存候

五五 書簡(紅花成育相庭之事)

書簡

宜鋪年柄御座候、早庭水戸者荷不足、当初氣配も先宜敷、
持合能存候得共、買人等達而可申、左候而者思通ニ御手
ニ入申間鋪、思案仕候、乍併、場合ニ方高下直立向可有
之奉存候、此所乍憚御油断なく、御都合克御買入被遊度
奉存候、何れ事直高者御利潤無覺束奉存候、何卒順克出
来候様希申候、先者右之段申上度如此ニ御座候、恐々謹
言

一筆啓上仕候、向暑之節ニ御座候処、先以貴御地御家内
様被成御揃、弥御安全可被遊御座、珍重御儀ニ奉存候、
次ニ当方無異儀罷在候、乍憚御安意思召可被下候、
一、御地紅花御様子草生見事ニ御座候由、承知仕候、追々
順雨ニて此節專御仕入最中にて、嗚々御繁多可罷為入
奉察上候、当地之儀ハ春登無數ニて、望人も御座候得
共、拘不体ニ御座候、新花登り込候ハ、相心ニ望出

可申と奉存候、何分御仕入御荷物不相替數多為御登被成下、支配被仰付可被下候、奉希上候、売庭之儀ハ随分と無油断入情仕候間、早速売捌御左右可申上候条、何分宜奉希上候、

一、当地諸相庭別紙ニ御讒可被下候、繰綿^⑤困ニて當時五メ匁位ニ御座候、其外差而相替儀も無御座候、猶又相応之御用向等、被仰付可被下候様奉希上候、先ハ右之段御願申上度、如此ニ御座候、恐惶謹言

五月廿八日

鳴屋清兵衛

嘉兵衛

兵助

宇野 与藏様

忠藏様

五六 書簡〔紅花注文書〕

〔端裏書〕

〔六月七日〕

市村弥三郎様^〆

〔紅花注文書〕

一筆啓上仕候、先以大暑ニ相向候へ共、御全家様御無異御壯健可被遊御座、珍重之御義ニ御座候、随而当方無異儀罷在申候、乍憚御休意可被下候

一、先月中御心添被下、忝拜見仕候、然者竹田右衛門小刀屋殿行、無相違早々御送申上候、宜御承引被遊可被下候、且又先達而高福寺様^〆受取金御座候間、為替ニ御願申上候、定而御受取可被下与奉存候、且又正金五両也差上申、是又參着御入帳可被下与奉存候、少金ニて甚御氣之毒ニ奉存候へ共、其節御願申上候紅花、何卒三拾五六両之処、御買入被下度奉願上候、尤金不足

二御座候間、何卒為替二御取組被下度奉願上候、元金不足仕候て、是又為替二御願申上候、何卒可然様被成下度、奉願上候、爰元事先書何様相替儀無御座候、隨□□□□宜御座候へ共、未夕早庭も着不任候而、其上紅屋仕業も相休居申候間、大キニ急々仕候尚相替儀も御座候ハ、早々可申上候、先者右奉申上度、如此二御座候、尚期後音之時候、恐惶謹言

六月十七日 市河屋 弥三郎 宗林 印

宇野興蔵様 忠蔵様

五七 紅花積附覚

積附覚

七月廿八日船

◎仙 紅花 十七入 五丸
 緋 十八入 三丸

佐州深浦

菊地弥十郎船

同 雨 十八入 四丸
 同 緋 同

同 造 同 雨緋 拾七者 壹丸
 差替 三ノ八百匁入

ノ五丸

能州輪嶋

同 金 酒屋彦太郎船
 同 同 十七入 四丸
 同 同 十八入 壹丸

ノ五丸

越中水橋

鳴屋太郎兵衛船

同 本 十九入 壹丸 十八入 三丸
 同 同 同

ノ四丸

加州堀切

小納屋窓右衛門船

合廿式丸

右之通積入申候間、御健意被遊可被下候、
以上

八月二日

根上 善平 ㊦

宇野与葦様

五八 書簡(紅花為替登候事)

飛脚便り一筆啓上仕候、秋冷ニ御座候得共、先以□□御
家内様御勇健ニ罷□□御座、奉珍重、次ニ当方無別条罷
有申候、乍憚御安意思召可被下候、然ハ当新花貴家様向
為差登申候、左ニ

㊦ 金時印 廿入 式丸

同 錦 廿入 式丸

四丸

和久井伊兵衛様分

右之通 [] 向為差登申候、 [] 尤買場

[] 場所ニ而相調、為差登申候、当年ハ何卒利
運ニ相成候様願ヒ罷有申候、尚御面倒ニ有之候得共、右
荷物敦賀着仕候ハ、御案内被仰聞可被下候、尤壳方之
儀ハ、来月柔順為致出立、林兵衛上京久砌ハ、不相替御
添心被下度、奉願上候、外ニ相替儀無之、右之段申上度、
出荷案内迄如此御座候、余者期後便時候、恐惶謹言

宇野与葦

政吉

林兵衛

八月十三日

近江屋佐助殿

五九 書簡(紅花等取引之事)

一筆啓上仕候、先以冷氣ニ御座候処、御家内様御揃御勇

健被遊御座、珍重奉存候、当方無異罷在候、乍憚貴意易
思召可被下候、然ハ先状追御渡申上候条、御承知可被下
奉存候

一、先達而御積付被仰下候紅花之内、此度左之通

◎吉紅印 十七入 三丸

右之通無事着、慥ニ請取り申、御安氣可被下候、売方
儀未相手無之義、相手次第うり払可申上候

一、御仕入被下候紅花儀も、先達御渡申上候通、御承知
被遊可被下奉存候

一、綿作ハ弥欠作相成り申候

一、当地米之儀、先状後□□數ニ向、諸方作劣候趣相聞
専次第二景氣よく、両三御待合別紙通読取引仕候、此
後続方様子取入模様ニ而、高下可仕奉存候、大豆立直
り、小豆御同事、茶肝・荳草も立ち直り申候、其外相
替儀無御座候、御常弁御盆引可被給候

一、紅花儀も御出立後、追々御出立御客様方にうり組入
被遊候而又々不促仕、此節ニ而者紅屋衆も、新花着不
仕候内ハ買兼候趣、相察申候、夫故商内も耽々無御座

候、乍去、御地新花登し出駄数模様ニ而、高下可有御
座奉存候

一、天災之儀、雨天勝候得共、風紅無之、品々申分無御
座候

一、当地米之儀、先状後普通品々追々無御座候、申分無
之候ハ、方うり組の米有之次第、不促別紙通請引仕
候、此後何方様の次第、高下可仕存候、大豆不促、小
豆新小豆類ハ、入用迄相捌申候、茶肝度々、荳草同事、
入用相捌申候、其外相替儀無御座候、御常弁御引合御
座候ハ、御積送り可被下候、奉頼上候、これにて右
得責報貴々、請事申上度、如此御座候、恐惶謹言

八月十七日

肥前屋

武兵衛 ㊦

宇野与蔵様

忠蔵様

六〇 書簡(紅花入船之事)

一筆啓上仕候、先以秋冬之砌、貴御地御家内様御揃、益御勇健ニ可被遊御座、珍賀奉存候、随而当方無異儀罷在候、乍憚貴意思召可被下候、此度印御荷物、不相替御指向被成下、外聞旁難有奉存候、則敦賀入船申参り候間、別紙ニ申上候、御安堵可被遊候、当壳方之儀者御指図に随ひ、無如在御取計可申上候、当地景気合、御荷物着之節、万々可奉申上候、先者右之段申上度如此御座候、恐々謹言

九月四日

宇野与蔵様

伊勢屋理右工門

兵七

印

六一 書簡(紅花荷到着之事)

一筆啓上仕候、秋冷御座候へ共、御全家様御揃益御壯健ニ可被遊御座、珍重之御儀ニ御座候、随而当方無異儀罷在申候、乍憚御休意思召可被下候
一、御印様御荷物此度左之通

五大紅花 四丸

右之通此度無事入舟申参候、定而近々無事当着可仕与存候、御同悦被遊可被下候、大方の御厚情難有仕合ニ御座候、当年御多少利分ニ相成可申、大悦ニ御座候、乍去、爰元紅花も先書同様不相替候へ共、紅染やも未夕仕業相休居申候間、買遣不申候へ共、追々相望可申哉、何分商内者□□可申御座候、尚追々様子可申上候、先者右奉申上度、御案内旁如此ニ御座候、恐惶弁言

市村や

十月四日

弥三郎

宗介

印

宇野与葎様

忠蔵様

六二 書簡(紅花売付之事)

.....(前文欠).....

之砌ニ御座候得共、貴御地御家内様御揃御勇健ニ被遊御座、珍重ニ奉存候、私義も別条なく逗留罷在申候、乍憚御安意思召可被下候、衆々爰元様子之儀も度々申上候通、引合様子一向相見へ不申、追々不景氣之様子ニ而、当年中ニ差引メ高様子も相見へ不申候間、此度大損御座候得共、残らず見切売付申候、誠ニ売□□差上候も、甚延引ニ御座候得共、抛なく売付申候、何卒御用捨御勘弁ヲ以而御覽可被下候、売付左ニ

◎天雨 三拾三兩貳分 四丸
同金時 三拾八兩也 四丸

同飛雀 三十三兩手取 四丸

同雨飛 貳十八兩 手取 三丸

同丸紅 同断 貳丸

同雨緋 四十八兩 貳丸

欠大紅 四十兩 手取 三丸

同極緋 三十三兩 手取 貳丸

同玉紅 三十三兩 手取 貳丸

同緋枕 三十三兩貳分 分引 貳丸

同雨綿 四十貳兩 分引 貳丸

傘雨錦 四十三兩 分引 四丸

同雨紅 三十三兩 分引 貳丸

傘雨天 三十四兩 分引 四丸

右之通り売付申候、思召ニ御叶不申候儀と察入申候得共、当年□事□抛なく売付申候間、何卒御勘弁御承知可被下卒、委細之義者早々取片付返回之砌得貴顔、万々□□可申立候、私義も□□早々返回可仕候間、左様思召可被下候、外ニ残り紅花傘印七丸有之候得共、此儀ハ

一箇日中に壳片付、早々北国通越中用向取調へ相成とけ、
当年中返国いたし度□□御座候、左様思召被下、猶申上
度、如此御座候、委細之儀ハ返国節可申上候、恐々□□

同林□□

十一月廿三日

宇野与蔵様

忠蔵様

御家内衆中

伊勢屋理右衛門 ㊦

宇野与蔵様

六四 書簡（紅花相庭之事）

追啓上仕候、然者旧冬者万端思召之儘、御都合克御取仕
舞可被遊御座、目出度御儀奉存候、

一、当所紅花相庭之義、去夏諸方新花古来珍敷駄不足二

付、目覚敷直□□、御荷主様御一統御利運ニ相成、

大悦至極奉存候、乍併当所紅屋衆、存外不引合、旁以

例年之三分一ならず、潰方出□□不申義ニ而、際商内淋

敷相仕舞申上、乍去、不多登高御座候故、越年残花凡

四□□駄位と相見得申候、未夕早春之義故、商内相

始り不申候得とも、来月にも相成候ハ、一花気配克

相捌ケ可申哉と奉存候、旧冬右略直段則左二

最上 上々 七拾両

六三 覚（紅花荷敦賀到着之事）

覚

◎金紅 五丸

同合 壹丸

右之敦賀無事着候間、御案内申上候、以上

水戸	古河	武州	郡山	庄内	奥仙	南仙
上々	下	中	上々	上々	上々	上々
八拾両	五拾両	六拾五両	五拾両	五拾五両	六拾四両	八拾両
		七拾五両	四拾七両	五拾両	五拾七両	七拾両
		五拾五両	六拾五両	四拾七両	六拾四両	六拾四両
		五拾五両	五拾五両	五拾五両	五拾七両	五拾両
		八拾両	五拾両	五拾五両	六拾四両	七拾両

中 七拾両
 下 六拾両
 右之通御座候間、御勤定可被下候、何卒御仕入御荷物等
 不相麥、私宅へ御出荷被成下候様、奉願上候、壳庭之義
 無油断相働き、早々御志左右可奉申上候、先者右年頭添
 状

六五 紅花送状

封印
 右之通差送申候間、貴地着御請取、早々先キ御送届ケ可
 被下候、尤駄賃之義者、才料之者御請取可被下候、奉
 願上候、以上

西
 沢畑
 宇野興蔵 印

七月十二日

一、巻メ廿六文 六駄式丸

六田村 六田ちたて岡へ

藤四郎

御問屋所

一、巻メ式百六十巻文 六駄式丸 袋まし

たて岡ち土生田へ

長兵衛 ㊦

楯岡町

御問屋所

土生田村

御問屋所

一、九百七十四文 六六式丸

袋まし共

土生田ち大石田迄

同日

源助 ㊦

大石田

富樫久兵衛殿 行

六六 書簡（紅花取引之事）

（その一）

……（前文欠）……

珍重奉存候、当方無異罷在候、乍憚實意易思召可被下候、然ハ先月廿三日出し貴礼、当十八日相達、忝拝見仕候、貴家様にも御道中御無儀帰国被遊候段、乍憚御同慶奉存候、誠に逗留中為差仕も無御座候処、恐々謹言御挨拶被下、痛入奉存候

一、御仕入品々御銀、兵太郎様へ差引ニ而御請取申候、

右品積付申上候処、古手三つ固着仕候而、残り者未着

不仕候由、何れ無程無事着可仕奉存候

一、当新花五丸手板式通ニ而、差為登被下候段、尤内式固

ハ札方印御付御為登被下候段、承知仕候、則左之通

全丸 紅 十七入 式丸

手板 壱通

吉 紅印 十七入 三丸

但し右内袴袋別花有候由

手板 壹通

〆五丸

手板 壹枚

右の通御差送被下段、忝承知仕候、参着早束御案内可申上候

(その二)

.....(前文欠).....

宜割合下直二付、御注文不申上候得共、御荷割被下候段、御厚情千万忝奉存候得共、私方何人之儀候杯、時分老等ハ一切不仕候、右式丸之分、御断可申上候筈候処、折角御荷割被下儀候故、荷物着ノ上代呂物一覽之上、利口成品候ハ、申請可申候、此段宜御承知成置可被下候

一、右壳方之儀も、当所相場模様ニ而御任被下段、出情うり拂可申上候様、委細承知仕候、近年御損続由之処、代呂物御吟味御為登被遊候段、何れ着の上、随分相賀出情うり拂可申上候、左様思召可被下候

一、貴家様紅花代金内、うり荷着之上、京伊勢屋利右衛

門殿へ、金貳拾兩御渡し可申上候様被仰下、承知仕候、

京着早束相渡可申上候、

一、御買物内金儀、前書紅花代金差引仕候、不足処ハ為

替可申上候様、被仰下候、承知仕候得共、右者前書に

も申上候通、ⓐ様へ差引相成り罷申候故、違金候ハ、

ⓑ様差引へ相加へ置可申候、

(その三)

一、紅花儀未着不仕候、無程無事着可仕と奉存候、右代

金ⓐ様へ差引、相加候、此度又々御積下候由、此段左

様思召可被下候

御米之儀、其外共本紙通取引仕候、右外相替儀無御座候、

先右段申上度如此座候、以上

九月五日

肥前屋

武兵衛 ㊦

宇野与藏様

御中

六七 書簡(紅花取引之事)

宇野忠蔵様

端午之御祝儀目出度馳走仕、□□□□泊り御座候得とも、
貴地御家内様御揃倍御勇健可被遊御座、珍重御儀奉存候、
随而下拙無異儀罷在候、乍憚御安意可被成下候、然者先
月廿四日出しヲ以御出荷御願上候得ハ、近日相達御披見
可被成下与忝奉存候

六八 紅花荷物送状

紅花荷物送状

- 一、貴地新花之儀、此せつ追々咲出可申奉存候、何之□
- ニ兩都合能御取入ニ相成候様奉祈候、且又只々御願
- 上候通、新花利好□沢山ニ御仕入不相變、御ニ□被
- 下度奉希上候、情々相働キ早売御仕切可申上候、且御
- 当地之儀ハ其後不相變靜謐ニ御座候、此後底固□□
- より大高下可仕奉存候

一、青綿之儀順氣能、人氣□□相見へ申候得とも、友の
下直ニ□□□□、是又此後□□□□大飛直も、可相成
奉存候、御□考可被下候、先ハ右御願申上度、早々如
此候、以上、恐々謹言

外まし袋 三拾五袋 此駄片馬三袋
 駄直 合七駄卜三袋也

六九 紅花積附覽

積附覽

◎紅本 紅花 十六入 壹丸
十七入 三丸

↗四丸 若壹行

越中岩瀬 藤村屋吉次郎船

七月十日出帆

同紅金 同 十七入 三丸
十八入 弐丸

↗五丸 伊勢刺行

上野屋与忠兵衛船

七月十日出帆

右之通出帆仕候間御安慮可被成候

七〇 紅花積附送状

忠藏様：(前欠).....

外二今日無事着左之通

◎紅錦 同 十八入 五丸

↗佐州深浦

菊地庄兵衛船

同飛雨 同 十七入 四丸

↗加州堀切

細屋半右衛門船

同飛雨 同 十七入 壹丸
十六入 三丸

↗越前宿浦

新屋彦兵衛船

同紅丸 十七入 壹丸
十八入 壹丸

↗越中東岩瀬

上野屋仁三郎船

合拾五丸

七一 紅花送状

紅花送状

◎紅花 拾九入 六丸

□同 廿入 三丸

□同 十八入 壹丸

㊦同 十八入 壹丸

ㄨ拾壹丸

まし袋 三拾四袋

此駄片馬式袋

合三駄壹丸式袋也

右之通り御座候、駄賃之義、才料ものゝ御受取可被下候、
毎度乍御世話様……(以下欠)……

七二 紅花送状

紅花送状

◎紅花 十七入 五丸
十八入 三丸

同 同

ㄨ式駄卜拾壹袋

右之通差送候間、其着御改、先々御送届可被下候、尤駄
賃之儀ハ、才料のものゝ御請取可被下候、以上

逸見彦次家文書

(河北町西里)

一 天保九年 大福帳 (横帳)

(表紙)
一、天保九戌年

大 福 帳

正月吉日

(注) これは一二三枚綴の横帳から、紅花に關係ある部

分だけ抜き書きしたものである。

十二月廿二日

一、七十五文 花び巻つ 久左殿

十二月大晦日

一、百九拾文 大ろうそく十 久左殿

同日

一、七十五文 花び巻つ 同人

正月二日

一、百七拾五文 花び箱巻つ 久左殿

同日

一、百九拾文 ろうそく十 同人

同十一日

一、七十五文 花貫巻つ

塩之渚
三平殿
おつる

正月廿四日

一、七十五文 花ぬき巻つ

塩之渚
久治
おふみ

二月廿日

一、七拾五文 花ぬき

塩之渚
久治娘

庄内大山

喜次郎殿

六月五日

一、壹人 ち、貳百五拾文

花染ちん

其四郎殿

四月一日

一、半人 昼前 同日 一、壹人 くらぬり、畑うない

同日

一、壹人 たねかせ、田代こしらひ

同五日

一、半人 昼前計り 同六日 一、壹人 畑うない

同七日

一、壹人 畑うない 一、半人 昼後花まき

同十三日 一、耆人 昼前くろぬり、昼後ハ田ほり

久七

四月十日 一、耆人 畑うない 同十一日 一、耆人 同

四月十二日 一、耆人 畑うない、花まき

同十三日 一、耆人 くろぬり、田ほり

同十四日 一、耆人 くろぬり

同廿七日 一、耆人 田うない、切花さくり

四月晦日 一、半人 花畑 同四月一日 一、耆人 内ぬりくれ切初り

二 天保十一年 大福帳(横帳)

(表紙)

「天保十一年

大福帳

正月吉日

(注) これは二六九枚綴の横帳から、紅花に関係ある部
分だけ抜き書きしたものである。

伊助殿内

四月十八日 一、耆人 花畑こしらひ おなつ

ち、五拾文 五月十九日相払

五月六日 一、耆人 花畑初り 甚四郎殿 おきのどの

同七日 一、耆人 同 同八日 一、耆人 同切り

此分千草地ニ而相払

おもしろの

五月廿日 一、耆人 花畑 同廿一日 一、耆人 同

ち、百文相払

五月廿九日

六月二日

一、卷人 むき打 一、卷人 むきつき

同三日 一、卷人 田の草

ち、式百文相払

六月四日 一、卷人 田の草取り

七月廿四日 一、卷人 花から引 同廿五日 同

同廿六日 一、卷人 花から打

ち、百五拾文 八月五日相払

おきのとの

五月廿日 一、卷人 花畑 同廿一日 此分相払

同廿五日 一、卷人 米つき 同廿六日 (卷人 田の草かけはなし)

ち、三拾文 廿二日相渡ス

ち、廿四文 松やに四丁相渡ス

ち、百文 五月廿六日相渡ス

中嶋ノおきのとの

六月十二日 一、卷人 米つきやとへ 同十二日 同

同十三日 一、卷人 同

ち、百十五文 六月十二日

餅米壹升五合

同十六日 一、卷人 式番ノかけはなし田の草

同十七日 一、卷人 同 同十八日 同

ち、百文 六月十七日正錢渡し

ち、三拾五文 みそ二而相渡ス

同十九日 一、卷人 同 同廿一日 同

ち、壹貫文 六月廿一日

但しわら代相渡ス

同廿二日 一、卷人 同 同廿三日 一、卷人 同 是迄かけはなし

六月廿四日 一、卷人 花摘、田の草やとい

同廿五日
一、耆人 昼前計り田の草 廿六日 一、耆人 田の草米つき

ち、三拾文 六月廿六日みそにて渡し

同廿七日
一、耆人 小豆草とり 同廿八日 一、半人 昼後計り米つき

同廿九日
一、耆人 いろいろ、田の草

同晦日
一、耆人 米つき 七月一日 一、耆人 米つき麦つき

かけはなし十一人

〆耆貫五百貳拾文 やとい 七人

此内耆貫貳百七十五文ハ 前文之かし方引

引残 貳百四拾五文 相渡之分

七月三日相渡ス 相済

裏表紙
一、住吉大明神

油屋

車

庄蔵

三 書簡（紅花外作物景況、相場）

此度山形七日町丹野権右衛門殿、当所十五日に発足にて伊勢参宮被致、連五六人にて御下り被成候ニ、近日追而江戸参道にて詔申上候

一、武兵衛義敦賀へ廿九日着申候而、天氣悪ク十五日之夕方当着仕申候、先船中無恙着、大慶奉存候、壬七月廿六日之尊書武兵衛ニ被下置、難有拝見仕候、万事御指図之趣、謹而奉畏候、先達而愚書慥成ル便ニ計詔申候而指上ケ申候間、相届キ御披見可下置、其後紅花間替青芋共ニ、いよゝ不景氣にて、未相場相立不申、氣毒千万、只遅方ニ斗目ヲ暮罷有申事ニ御座候

一、金子早速武兵衛ニ下シ可申段被仰付、奉得貴意候、先達而も数度被仰下、殊ニ奥ニも被付候間、是非共武兵衛罷登り申節ハ、早々相下シ可申と、朝夕心かけ罷在申候処ニ、此度之事共愚慮ニ究かたく、此度権右衛

門殿ニ此趣申上候、先つ武兵衛ハ当廿五六日ニ、谷地
浅黄次郎右衛門殿杯御下り之節、同道にて金（たぎ）天形三百
両斗も為持、相下し可申と奉存候、金子御用ニ付、不
得止ヲ候ハ、江戸迄飛脚可被下候、此書状来月七日
か八日ニハ御届キ、御披見可被下、左候ハ、十五日
前ニハ江戸迄人ヲ為御登可被成候、江戸ハ四日ニも五
日ニも、爰元へ着申事、何様廿七八日ニハ江戸迄相下
し可申候、霜月上旬之御用金ニハ罷成り可申と、兎角
御指図申請度、先ツ如此ニ申上候、子細ハ只今ハ極月
迄之利足、当年ハ三分半ニ御座候いと、勘右衛門殿
被仰候、銀子かり方ハ紅屋衆ハ借用申候ニ付テ、此不
景氣成ル代物ニ候ヘハ、利も高利可有之と勘右衛門殿
之口上ニ御座候、何共脇々ニかり方も無之キ事として成
ル事

是ハ去年と多クの事も無之候得共、段々此末愚慮之
趣申上候

次ニ、只今小判之義、五拾七両五分くらへニ御座候、
此義日々ニ高下御座候、此十日頃ハ五拾八両五六分迄

上り申候、是ハ江戸にて六拾四五両之由申来り、爰元
も上ケ申候、只今江戸五拾六両五六分之由申来候間、
当地も右之直段、其前五拾五両三四五分くらへにて、
段々五拾両ニも罷なり可申と評判仕申候、只今ニ諸人
弱氣ニ御座候へ共、四ツ宝銀当暮切ノ通用、来寅ノ暮
切ノ御引替えよし、数度御触御座候間、年内ハ此通ニ
も可有之とも申事ニ御座候、此小判来春ニハかならず
四十代にて可有之よしにて、来二月売五拾式両ノ売人
沢山御座候、諸人右日入ハ尤四ツ宝通用無之ニも有間
敷候へとも、乾金之積リニ而考申候ニ、新金ハ位宜キ
物トテモ打賃にて通用致候、只今之四ツ宝新銀壹匁ニ
ハ四ツ宝六匁程にてつり合可申候間、御引替も□□□
埒明申間敷候間、打賃何程にて通用申も難量、道理来
年ハ究メテ新銀之通用と罷なり申候ハ、新金引下ケ
可申存入、殊ニ代物も引下け可申、此小判と右利足と
積り候ハ、小判ヲ五拾式両ニ約束仕置候へ而、只今
ノ小判ハ買申節ハ五拾八両何分と、来二月迄之利兩方
合テ三割もちかへ申義、何共納得仕候、尤此小判い

か様ニ罷なり申も知レ不申候へ共、両かへ屋にて五拾
両ハ髓ニ請合可申、定而四拾何両ト罷なり可申と、年
比成ル衆被申候、ケ様成義ハ未不見へ事、愚慮ニ可仕
事ニ無御座候へ共、先差当り迷惑と奉存候ハ紅花ニ御
座候、只今之通ニ御座候ハ、五駄三駄の義ハ不被存
義、拾駄とも罷なり候得ハ、年内埒明可申とも不存候、
子細ハ只今売候義、問屋衆にて不望様子ニ御座候、此
四ツ宝年暮ニ請取弘方ニ迷惑と被思候様子ニ御座候
ハ、尤買人ハ出来申候ハ、四ツ宝手ばなし申度ハ
人々ニ御座候、問屋衆にてハ暮ニ請取難義と被思候
ハ、払かね申も難量奉存候、ケ様ニ候節ハ、只今高
利之借金相下し候へ而も、無覺束次第と奉存候、何と
そ只今 手はなし度とて、宜き望人も出
候ハ、早速金子ニ仕、私持参仕ニも、先此度下し之
義、御指図之上可任慮リニ、延引仕事ニ御座候、此四
ツ宝銀ノ事、忝度ハ有之候ハ、私人共ニ心かけ之事、
前々推量之程ニても無之事、諸人も安堵ニ可有之と奉
存候

一、諸国耕作之事、只今髓成ル事ハ無之候へとも、大坂
方之考書状米屋源兵工方にて披見申候ニ、西国筋悪ク
北国筋能ク、中にも羽州満作之由、東国中分、仙台上
作近国水損之趣

備前・備中・備後・伊予・土佐、右大高水にて弐分
残り、八分ノ水損と申事、是ハ余リ多ク候ハんに、
四分六分とも

近江・美濃・丹波・但馬・河内・和泉・大和・山城
是も高水四分掛リ、六分損、尤御公儀へハケ様ニも
候ハんに、中ニも江州ハ水海ノ事、其外ハ川辺斗にて
難心得事

何角ト早し世の中、六分半と申事左も候哉

一、大豆之義諸国中分と申事、越後々義水損之作、定而
高水可有之様ニ奉存候、扱穀物諸人強氣ニ御座候由、
大坂相場

一、中国米 只今八斗くらへ

五拾三匁くらへ

一、広嶋 同九斗くらへ

六拾壹匁くらへ

一、津軽 同七斗くらへ

四拾貳匁四五分

一、山形 同九斗くらへ

五拾六匁四五分

一、秋田 斗立石にて

四拾八匁四五分

是ハくさり悪米にて

庄内米相残りくさりにて売買無之よし

一、伊予大豆 壹石三斗くらへ

五拾七匁くらへ

一、明石新米 壹石三四斗

六拾五匁五分

一、加賀子ノ年来 九斗壹貳升

五拾九匁くらへ

一、岡大豆 只今無之

西国荳番ノ上々大豆にて

拾表ヲ三石ト相定メ、

内味ハ壹石壹二斗之由

右之通ニ御座候、只今耽相場無之候、先達而申上候通、大坂御僉議御座候而、北浜立合の者共拾六人、俄ニ立合之場にて搦捕、其外皆ふりはなし、何かとにけ申候由、右拾六人籠へ入、頃日拾人ハ御免にて出籠申候段、残り六人江御聞被遊候ニ、此売買之義、問屋定り居り候上ハ、代物同前之商之由申候ニ付、五拾七人之やりくり問屋被召出候段承候、此商事御座候ニ付テ、穀物高直之由にて、ケ様ニ御僉議被遊候と申候、惣而只今之御触之趣ハ、諸色高直成ルヲ御悪ミ被遊候、穀物といハ、去年中殊の外成ル不作□□、古米大坂ニも残り候由、□□国々ニ存之外古米御座□□評判仕事ノミ、其内大坂へ罷下り申候ハ、委キ様子も可承候間、追々可申上候

一、最上庄内秋田之方満作之由、方々江申来候と承申候、庄内秋田之事ハ左様ニも御座候ハん、最上之義無覚束奉存候、私罷登り申候節、高下御座候と覚申候、定而本不足の方ニも御座候ハん、羽州満作と申ならし候間、

定而江戸上方より買入可有之哉、左候ハ、前々積りより高直之方ニも御座候ハ、尤庄内拾六表ニ相立可申哉、喜三郎十八表の思 [] 無算束次第二御座候、庄内十六表と仕、其両分の勘定大坂へ着、あらまし愚慮ニ申上候、只今爰元之両かへ、銀新高五百兩ニ銀高廿九貫貳百五拾匁、此両かへ切ちん共ニ五拾八兩五分ニ積り

一、新金五百兩ニ庄内俵千六百俵、右之門三百廿表酒田より大坂迄ノ運賃かかり物ニ貳割引、残テ

千貳百八拾表

大坂にて貳表石

売買にて

四十五匁七分

右之金子ニ爰元ノ利足ヲ相加へ、何様壹ヶ月三分半、拾月迄三月ニ三貫目、其外正月より利分加へ申候ハ、

四匁八分六リンと相見へ申候、

然者中国米五拾八両くらへ積り

石廻し之義ハ 中国貳表にて

八斗五六升

庄内貳表にて

九斗五六七升迄

売買ハ中国米より庄内ハ三匁方、大坂にて下直ニ御座候よし

ケ様ニ相積り申候へ而ハ、下直成ル買物ニも無之かと奉存候、しかし、来春中より小判ハ下直可仕候間、右之直段にてハ小判数取可申哉、又小判下直ニ候ハ、爰元ニ差置申候共、以テ同前ニ候哉、又小判下直仕候ハ、代物も穀物も下直ニ罷成り申候哉、何れ愚慮杯のおよび申事ニハ無御座候、まつハ上方頃日新銀斗の通用ニ候ハ、かね払底ニ罷成り申義、殊ニ御公儀の時々之御僉議、穀物過分上り候事も有之間敷候哉、又諸国大名衆分登り高ハ、定而不足ニ御座候ハ、然者存之外成ル直段出申事も候哉、何共穀物杯之儀ハ、私共の存知申事ニ無御座候へとも、爰元之銀高直の高利

にて下し申事無覚東、如此ニ申上候、しかし春中又候
小判高直ニ罷なり申事も御座候はん、尤春為替之義ハ、
有次第ニ御取御尤と奉存候、しかし金子払底ニ可有之、
殊二人々ケ様之心かけも候はん、此方吾人ニハ有之間
敷候間、縦為替御座候共、御手前へ入申事も有之間敷、
只敦賀岐阜屋殿方斗頼母子敷、御あいさつニ候間、い
か、御座候、是も利合之望ハ望人多く御座候間、高利
ニ御座候はん、委細可申上由被仰候間、定而御左右可
有之と奉存候

一、此度武兵衛登リ之節、岐阜殿方勘右工門殿の書状預
リ登リ候間、殊ニ我方へも被下候間、取紛候よしニ可
仕と、勘右工門殿への書状披見申候、返状ニ御座候、
先達而西田殿十月切之為替金埒明かね申義、勘右衛門
殿方被仰遣候ハ、此為替金之義延引申義、限テ不罷
成之返状ニ御座候ヲ見申候而、本之通ニ仕勘右工門殿
方へ相渡申候、然者西田殿方ニも取組可被申、方々ニ
望人可有之と奉存候、当年之義、利足杯之義利兵衛申
候共、埒明申事ニハ有之間敷と奉存候間、高利ニても

御望之買物御座候ハ、御請取御尤と奉存候、三四月
為替金之義ハ、大坂へ罷下り聞合せ、委細可申上候、
何事も被仰付候趣奉畏候、しかし御存知被居候、私思
召之様ニ働かね申義、残念千万此事ニ御座候、只今下
し金之義、ケ様申上候義、定而御腹立ニも可被思召と
推量仕候へ共、右印之通売付候も不仕処へ、高利
申段、去年中と相ちかへ無覚東、以書付ヲ御高
度、如此ニ御座候、誠ニ武兵衛ニ御細書、御事多キ中
ニ御高意ヲ苦メ、何共痛入之到ニ奉存候、被思召附候
通ニも無御座、又候此度ケ様成ル不調千万奉申上候義、
愚慮ながらも口おしき次第ニ奉存候、申上候事沢山ニ
御座候はんも智廻リ不申候間、失念之事斗ニて事たり
不申事共、武兵衛下しニ可□□と、先如此申上候、恐
惶謹言

和田平兵衛

九月十九日ニ相認

兵左衛門様

此書廿日ニ出し候様ニと頼置、廿日ニハ武兵衛同道ニ

て奈良へ罷越申候、何とぞ奈良金子かり下し可申と存
候、奈良ハ小判も下直之由来候、又利足も心安ク御座
候、しかし去年中らハ高利ニ御座候よし、先達申来候、
……………(以下不明)……………

逸見良一家文書

(河北町立中央図書館蔵)

相場書

旧冬相庭

最上極上々 五拾貳兩

中 四拾五兩

下 三拾五兩

性合宜もの

庄内極上々 三拾七兩

下 三拾壹兩

仙台極上々 五拾八兩

五十式三兩

下 四拾五兩

同奥極上々 五拾五兩

中 四拾七兩

下 四拾壹兩

越年荷高

七百三五拾駄

(朱筆)「凡改七百駄」

右之通ニ御座候、此末一花引立取引仕候様に希申上候、以上

正月五日

伊佐衛門様

理右衛門 ㊦

二 書簡(紅花仕切添書)

..... (前欠)

目出度奉存候、随而当方相応取仕舞仕候、乍憚御安意可被下候、

一、臘月二日出書状ヲ以、紅花景気合、御荷物売延引御断申上候、相違御入手可被成下奉存候、其後商内相替義無御座候得共、少しツ、追々望人出来、延商内とも二気味能取引有之候、乍去元来之直段ニ無之候故、御国方思召相違致、一統こまり入候、然ル所御印冬分相

応之望人御座候ニ付、壳捌申上候、則此度別紙仕切書
通指上ケ候、指引残り

歩判金五兩三步

銀九匁式分八厘

右之通嶋屋飛脚ニ指下し申上候、其着御改御受取可被
下候、右直段無如才出情仕候所ニ御座候、しかし御地
思召御相違之程、御察申上候、何分御一統之御振合御
座候得ハ、御用捨可被下候、尚又当秋不相替御指向可
被下、御頼申上候、先者右之段申上度、仕切添書旁、
如斯ニ御座候、尚期永日之時候、恐惶謹言

(正月)

三 書簡(仕切添書・相場)

嶋屋便一筆啓上仕候、先以暖氣之砌、御家内様御揃益御
勇健可被遊御座、奉珍重候、随而当方無異ニ罷在候、乍

憚貴意易思召可被下候

一、御地二月十三日出書状之事、先月十三日相違、忝拜
見仕候、紅花之儀、御早壳御思召ニ、御登せ被下候処、
大二延引相成、御思召ニ難叶候段、早々被仰下、御尤
に承知仕候、夫ニ付、先月十日遣書状を以、景気合不
信□延引奉申上候、重々御思召ニ難御叶、御用捨被下
候、此後無女才取組候処、少々見分宜相手有之、追々
取メ、此度壳払申上候間、別紙仕切書の通、差引金と
も差上候左ニ、

歩判金五兩と

銀式匁六分五厘

右之通ニ嶋屋飛脚ニ指下し申上候、貴着御請取可被下
候、扱相庭之義、春者一花可然取引御座候事ニ奉存候
処、とんと無其義、却而不信ヲまし、此節ニて者少々
相手御座候様相成、扱々引上兼当惑仕候、此度右御仕
切申上候、直段御元方へ御多分ニ相違、殊壳延引一向
御申訳無之、御一統様と申ながら、大二御氣之毒山々
奉存候、全無女才申上候間、御用捨可被下候、是ニヨ

わり不被下、当然花御指向可被下候、急度無相違早壳
相働奉申上候、左様思召被下候、不相替奉頼上候、先々
右々段申上度、仕切金添書旁、如斯御座候、尚期重便
之時候、恐惶謹言

巳四月十二日

伊勢屋

理右エ門㊦

儀七

逸見伊左衛門様

大坂相ば 筑州米

六十四兩

岡大豆

五十九兩

三通りわた 四メ三百五十

金 六十六兩三分

銭 九匁五十分

四 書簡(仕切添書)

追啓申上候

正月五日出書状を以、御印紅花壳捌候故、仕切書差上候、
則指引殘金五兩三步と銀九匁貳分八厘、右嶋屋飛脚二指
下し申上候、御請取被遊可被下候、先書委細御断奉申上
候場場、少々引上ケ相働売付申上候得とも、長持相成思
召之程へ難御叶奉存候、何分無如才罷在候間、宜御聞濟
可被成下候、誠ニ御応志御指向被下、外聞旁忝御儀奉存
候、夫ニ付、今年者何卒急度御利潤ニ可被遊様、早壳出
情可仕候間、乍憚御元方御糺御買入被下、不相替御指送
り可被下候

午五月二日

伊勢屋

理右衛門㊦

弥七

逸見伊左衛門

五 書簡（紅花景況）

（前欠）

有荷高

凡三百五十駄

右之通御座候、去年の所々極上々御出来之分ニ而御引別
御覽可被下候、誠近頃御荷主様御利分無之候処、当地紅
屋方指あい並諸色高直旁不信而已申居候、何卒当秋方振
替商事願申候、扱残荷相応之有高奉存候、此後御地新花
善悪ニ准シ、高下可仕候、

一、西国方例年之通、蒔付生立無事ニ承候、近来荷高不
足ニ相成候而、元高直年々損金相成候、兎角御地仙台
方而已、引別准し罷在候

一、其御地新花蒔付場処ニお、おくれ候由、追々此節無
難生長可仕候、隨而摘取之節、雨順克上々出来願申候、
弥無難ニ候得は、何れ下直ニ上物御買入可被遊候様、
乍憚願上候、尚又御登御荷物、不相替御差向被遊可被

下候、奉願上候、弥々以無如才相働、早速相捌候、有
手申上候、先者右之段申上度、御願旁如此御座候、尚
期後音之時候、恐惶謹言

午五月二日

伊勢屋

理右衛門 ㊦

弥七

逸見伊左衛門様

貴下

六 覚（紅花蔵入）

覚

〆五 四丸 紅花

但し拾七袋

小印取合

一、手板壹枚

一、書判

一、添状 壹通

一、送金 壹両

ノ

右之通り儘ニ請取、蔵入仕候、明日船積可仕候、積附出
船跡、為御知可申上候

紅花下し高共ニ

六月廿日迄下し高

一、七拾七駄片馬

此内三拾壹駄 壹丸十八入

右之通ニ御座候、以上

庄司清次郎 ㊦

子六月廿一日

逸見伊左衛門殿

七 覚 (紅花蔵入)

覚

大玉 上玉 五 四丸 紅花

拾九袋入

外ニ

一、添状 壹封

一、書判 壹枚

一、手板 壹枚

一、送金 壹両

ノ

右之通儘請取蔵入仕候、以上

庄司清次郎 ㊦

辰六月廿九日

逸見伊左衛門殿

八 書簡（紅花敦賀入津）

一筆啓上仕候、先以秋冷相成候処、貴御地御家内様、御
揃弥御壯健可被遊御座、珍重奉存候、随而当方無異ニ罷
在候、乍憚貴意易思召可被下候

一、今般御印紅花、敦賀入津左之通

△五印 △四丸

右之通無事着、案内申来候、御休意可被下候、誠不相
替御厚情ニ、御指向被下候段、外聞旁千万不浅忝奉存
候、尚近々当着之砌、相改委細追便万端可奉申上候、
先御心得之段、御案内申上候、如此御座候、恐惶謹言

伊勢屋理右工門 ㊦

弥七

八月十日

逸見伊左衛門様

貴下

九 書簡（紅花到着）

嶋屋便一筆啓上仕候、先以冷氣之砌、御家内様御揃、弥
御壯健ニ可被御座、珍重御儀奉存候、随而当方無異ニ罷
在候、乍憚貴意易思召可被下候、然者先便書状ヲ以御印
紅花敦賀無事入舟之段、御案内申上候、御承知被成下候、
其後当着仕左之通

△五印 △十六入二
△十七入一

三丸之拾四箇

同 吉紅 卍箇

同 チリ 弍箇

右之通髓ニ受取申候、尚御添書ニ

何分古花より引上無之而者、新花之御為ニも不宜候御事望
候、何れ一花引立、追々取引而已希申候、尚御印紅花壳

方大延引

言

自然引上不数候ハ、御用捨可被下候、先者右之段申上

度、如此ニ御望候、尚期後者之時候、恐惶謹言

伊勢屋理右工門^印

弥七

伊勢屋理右工門^印

弥七

和七

酉八月十八日

逸見伊左衛門様

一一 書簡（紅花景氣外）

一筆啓上仕候、先以甚寒之節、御家内様御揃益御壯健可

被遊御座、珍重奉存候、随而当方無異罷在候、乍憚貴意

易思召可被下候

一、十月十日遣書状を以、紅屋景氣御荷物壳延引、御断

申上候、御落手被下、其後銘々無如才取合仕来候処、

とんと直組宜鋪無之元来下直之処、不商内見込、只下

直之取組ニ有之、御地御思召ニ御相違多可有御座、打

続甚御氣之毒ニ恐入申候、勿論代呂物不悪候ニ、不都

一〇 書簡（商用に付）

御地向未商取入無之候

右相違無之候、御地上々物やうく五三口位有之候、是

も不足仕候、御一統思召之様、品宜斗無御座、甚壳方六

ヶ鋪奉存候、尚追日ニ商内事可有之候、猶曾之儀相働壳

付可申上候、先者右之段申上度、如斯ニ御座候、恐惶謹

合下直ニ奉存候、殊ニ紅屋元ニ一向有荷無之、時送り御送御座候処、何れ一行売場相立可申御事ニ奉存候、是上何分宜相手無之、売延引仕候

若シ弥下直ニ不相手候

得者、無扱春壳可仕候、御意難叶御察申上候得とも、御用捨可被下候、何分無油断相働可申上候、先以右之段申上度、御断旁如此御座候、猶年内無餘日、来陽目出度可申上候、恐惶謹言

伊勢屋理右衛門

弥七

巳十二月二日

逸見伊左衛門様

二 書簡 (紅花景況、相場)

(前欠)

承知仕候、無如才相働、追而仕切書とも指上可申候、誠不相替御厚情ニ御指向被下、不洩忝奉存候

一、当地商内事、御地又者処々荷高不足之趣ニ而者、宜直段相成行可申候処、走り之節見付下直ニ有之、古花も彼是有之候而、旁人氣緩ミ仕候、先是迄水戸古河之方宜出来、下直ニ候間是而已商内事ニ而、最仙ニも与腕相庭難取メ候、尤御地向跡之舟手之分、宜御出来之分有之、不同相見ヘ候

最上飛切 五十三五両 上物不足

次 四十八両

下 四十両 無黒手

仙台南飛切 五十七八両

次 五十二両

下 四十七両位

右之通紅屋方見詰ニも相見ヘ候、何分しかと難究罷在候、追々引メ商内事御座候様、希申候、今年者急度御利分相成不申候而者、難取捌候と申居候

一、右御荷物引当金左二

部判金三拾三兩也

封印

右之通此度嶋屋飛脚ニ指下し……………(以下欠)……………

最上山形御仕花

極上々 四拾六兩

次 四拾兩

中郷下郷同 五十式兩

次 四十三五兩

惣下方 三十六兩

黒手なし

一三 書簡(紅花景況、相場)

嶋御便

一筆啓上仕候、先以向暑之砌、御家内様御揃御壯健可被遊御座、珍重御儀奉存候、隨而当方無異ニ罷在候間、乍憚貴意思召可被下候

庄内上々 吉 四拾兩

下 卅四五兩

仙台南 極上々 希六十式兩

中 五十五兩

下 四十八兩

荷なし

同 同 希五十八兩

中 五十兩

一、当地紅花景気合、追々御承知被成下候、元来人氣弱不信候処、江戸在早場新花生立不宜候趣相聞へ、乍不信去々二月中旬方少々氣配強持合、頃日至早春申上候相庭方、三四兩方取直申候、紅屋方時々入用之分、少々宛追々商事出来、先々少し残花之御為ニ宜候、則相場荒々左ニ

編 集

河北町誌編纂委員会

委員長 榎 清哉

副委員長 北 畠 教爾

委員 鈴木 勲

委員 矢作 春樹

委員 田宮 照夫

編集事務局

河北町企画情報課

河北町谷地戊八一番地

電話 ○三三七(3)二一一

〒 九九九―三五

平成七年三月十五日 印刷
平成七年三月二十三日 発行

最上紅花史料II

河北町誌編纂史料

編纂者 河北町誌編纂委員会

発行者 河 北 町

印刷所 ㈱ 田 宮 印 刷